兵庫県文化財調査報告書　第96－2冊

多紀郡西紀町

板井寺ケ谷遺跡

－縄文時代～中世の調査－

近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書ＸⅣ－２

１９９２年３月

兵庫県教育委員会

兵庫県文化財調査報告書　第96－2冊

多紀郡西紀町

板井寺ケ谷遺跡

－縄文時代～中世の調査－

近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書ＸⅣ－２

１９９２年３月

兵庫県教育委員会

例　　言

1．本書は、兵庫県多紀郡西紀町上板井字寺ケ谷坪に所在する、板井寺ケ谷遺跡の発掘調査報告書（縄文時代～中世編）である。旧石器時代の調査成果は、平成２年度に　兵庫県文化財調査報告書　第96－１冊『板井寺ケ谷遺跡　－旧石器時代の調査－』　近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書ⅩⅣ－１　として刊行している。

2．発掘調査は、近畿自動車道舞鶴線建設に伴い、日本道路公団の委託を受け、昭和57年から昭和59年に兵庫県教育委員会が実施した。縄文時代から中世の遺構の全面調査は、昭和58年から昭和59年にかけて実施した。

3．調査は、古墳時代から中世の遺構面と弥生時代から古墳時代の遺構面に分けて実施した。遺構名称は、それぞれの遺構面ごとに独立して付しているため重複している。

4．遺構名称は、遺構の種類に応じて、土抗・土壙墓＝SK、掘立柱建物＝SB、井戸：SE、溝：SDの記号を冒頭に付し、検出した順に番号をつけた。

5．調査区位置図、グリッド配置図、調査区土層図など、『板井寺ケ谷遺跡　－旧石器時代の調査－』で、すでに掲載しているものは、本書では省略した。

6．標高値は日本道路公団が設置したB.M（TP）を使用した。また、図版等に用いた方位は磁北である。座標北は磁北からN7°30′E（昭和57年現在）である。

7．調査区に設定したグリッドの南北方向の基準線は、磁北から東に3°40′傾いている。

8.　本書の執筆者名については、本文目次の末尾に明記している。

9.　本書に用いた写真は、遺構については調査担当者が撮影した。遺物写真の撮影は、写真家、森昭氏に委託し撮影した。

10. 出土品の整理作業は、調査担当者であった†市橋重喜（平成２年５月死去）が中心となって昭和60年より開始したが、平成元年度より岸本一宏が整理を担当し、図面等の作成にあたった。
　本書の編集は、池田正男・村上泰樹がおこなった。

11. 小林基伸氏（兵庫県立歴史博物館）には、墨書土器・木簡の文字の判読で協力していただいた。文末ではあるが深く感謝したい。

本　文　目　次

例　　言……i
本文目次……iii
表目次……iv
図版目次……iv
写真図版目次……v

第１章　調査の経緯　（池田正男）
　第１節　調査に至る経過……1
　第２節　調査の体制……2

第２章　遺　　構　（村上泰樹）
　第１節　弥生時代後期から古墳時代前期の遺構……7
　第２節　古墳時代後期の遺構……12
　第３節　平安時代から鎌倉時代の遺構……12

第３章　遺　　物
　第１節　弥生時代後期から古墳時代前期の土器……（多賀茂治）19
　第２節　古墳時代の土器……（平田博幸）25
　第３節　律令期の土器……（平　田）27
　第４節　平安時代から鎌倉時代の土器……（村　上）29
　第５節　木製品……（平　田）65
　第６節　金属器……（村　上）72
　第７節　石　器……（久保弘幸）74

表　目　次

表１．整理作業工程表……5
表２．墨書土器他一覧……28
表３．弥生時代～古墳時代の土器観察表……35
表４．古墳時代～律令期の土器観察表……50
表５．平安時代後期～鎌倉時代の土器観察表…53
表６．金属器観察表……73
表７．石器・石製品計測表……75

図　版　目　次

図版１　土坑群配置図
図版２　SK01・02・07
図版３　SK08・09・14
図版４　SK13
図版５　SK16
図版６　SK17
図版７　SK18
図版８　SK19・20・25
図版９　SK26・27・28・36
図版10　SK40・41
図版11　SK42
図版12　SK43・45
図版13　SK46・47
図版14　SK48・49・50
図版15　SK51・52・55・56
図版16　SK57・58
図版17　古墳時代後期～奈良・平安時代の遺構配置図
図版18　SD05
図版19　SB01・02
図版20　平安時代～鎌倉時代遺構配置図
図版21　SD37
図版22　SB03
図版23　SB04
図版24　SB05
図版25　SB05土器出土状況
図版26　SB06
図版27　SB07
図版28　SB06・07
図版29　SB08
図版30　SB08柱穴・雨落溝土器出土状況
図版31　SB09
図版32　SE01
図版33　SE01土層断面図
図版34　SE02・03
図版35　SK06
図版36　SK01・13
図版37　SK16・17
図版38　SK03・14・18・21・24
図版39　SK04・05・26A・26B
図版40　SK07・20・50
図版41　SK12・15
図版42　P158・194・454
図版43　SK01・02・05・07・08・11出土土器
図版44　SK13・14・16・17出土土器
図版45　SK17・18・22・23出土土器
図版46　SK24・25・28出土土器
図版47　SK28・33・34・36・39出土土器
図版40　SK40・41・42出土土器
図版49　SK31・45・46・47・48出土土器
図版50　SK49・50出土土器

図版51　SK50・51・52・55出土土器
図版52　SK56・57・58,SD37出土土器
図版53　SK13・25出土木製品
図版54　SK11・13・18・43出土木製品
図版55　SK41出土木製品
図版56　SK42・45・46・52出土木製品
図版57　SK45・49出土木製品
図版58　SD05・37,SB02出土土器
図版59　SB03・04・05出土土器，鉄製品
図版60　SB06・07・08出土土器
図版61　SE01・02・03,SK01・06・07
　　・11・13・16出土土器，鉄製品
図版62　SE01出土木製品（1）
図版63　SE01出土木製品（2）
図版64　SE01出土木製品（3）
図版65　SE02出土木製品
図版66　SE03出土木製品
図版67　溝出土土器
図版68　溝・柱穴群出土土器，鉄製品
図版69　包含層出土土器（1）
図版70　包含層出土土器（2）
図版71　包含層出土土器（3）
図版72　包含層出土土器（4）
図版73　包含層出土土器（5）
図版74　包含層出土土器（6）
図版75　包含層出土土器（7）
図版76　包含層出土土器（8）
図版77　包含層出土土器（9）
図版78　包含層出土瓦，土製品，金属器
図版79　旧河道出土木製品（1）
図版80　旧河道出土木製品（2）
図版81　旧河道出土木製品（3）
図版82　旧河道出土木製品（4）
図版83　旧河道出土木製品（5）
図版84　旧河道出土木製品（6）
図版85　旧河道出土木製品（7）
図版86　旧河道出土木製品（8）
図版87　旧河道出土木製品（9）
図版88　旧河道出土木製品（10）
図版89　旧河道出土木製品（11）
図版90　旧河道出土木製品（12）
図版91　旧川道出土木製品（13）
図版92　旧川道出土木製品（14）
図版93　旧河道出土木製品（15）
図版94　旧河道出土木製品（16）
図版95　表面採集・出土位置不明の遺物（1）
図版96　表面採集・出土位置不明の遺物（2）
図版97　石　　器

写真図版目次

写真図版1（遺構）
　上）SK01遺物出土状況
　下）SK01土層断面
写真図版2　（遺構）
　上）SK07遺物出土状況
　下）SK07完堀状況
写真図版3　（遺構）
　上）SK08
　下）SK09A・B
写真図版4　（遺構）
　上）SK16A土層断面
　下）SK16A・B
写真図版5　（遺構）
　上）SK17A・B
　下）SK18土層断面

写真図版 6　（遺構）
上）SK18
下）SK16
写真図版 7（遺構）
上）SK20
下）SK25
写真図版 8　（遺構）
上）SK26
下）SK27
写真図版 9　（遺構）
上）SK28遺物出土状況
下）SK28完掘状況
写真図版10（遺構）
上）SK30
下）SK34
写真図版11　（遺構）
上）SK35
下）SK36
写真図版12　（遺構）
上）SK40
下）SK41
写真図版13　（遺構）
上）SK42
下）SK42
写真図版14　（遺構）
上）SK46土層断面
下）SK46
写真図版15　（遺構）
上）SK47土層断面
下）SK47
写真図版16　（遺構）
上）SK49遺物出土状況
下）SK49完掘状況
写真図版17　（遺構）
上）SK50
下）SK51
写真図版18　（遺構）
上）SK52遺物出土状況
下）SK52完堀状況
写真図版19　（遺構）
上）SK55
下）SK56
写真図版20　（遺構）
上）SK57
下）SK58
写真図版21　（遺構）
上）SB01（手前）・02（奥）
下）SD37土器出土状況
写真図版22　（遺構）
上）調査区北半部全景
下）SB03～07全景
写真図版23　（遺構）
上）SB05全景
下）SB01～04全景
写真図版24　（遺構）
上）SB05：P363土器出土状況
下）SB05：P556土器出土状況
写真図版25　（遺構）
上）SB05：P323土器出土状況
下）SB05：P396土器出土状況
写真図版26　（遺構）
上）SB05：P429上層土器出土状況
下）SB05：P429内土器出土状況
写真図版27（遺構）
上）SB06：P400土器出土状況
下）SB07：P392土器出土状況
写真図版28　（遺構）
上）調査区南半部　掘立柱建物群全景
下）SB08全景
写真図版29　（遺構）
上）SB08：P16土器出土状況
下）SB08：雨落溝土器出土状況

写真図版30　（遺構）
上）SE01検出状況
下）SE01上層土器出土状況
写真図版31　（遺構）
上）SE01断割状況 1
下）SE01断割状況 2
写真図版32　（遺構）
上）SE01断割状況 3
下）SE01断割状況 4
写真図版33　（遺構）
上）SE01井側内
下）SE01井側内遺物出土状況
写真図版34　（遺構）
上）SE01南辺井側状況
下）SE01井戸掘方状況
写真図版35　（遺構）
上）SE02
下）SE02
写真図版36　（遺構）
上）SB09全景
下）SE03
写真図版37　（遺構）
上）SK06土層断面
下）SK06
写真図版38　（遺構）
上）SK06
下）SK13
写真図版39　（遺構）
a）SK16
b）SK17
c）SK24
d）SK21
写真図版40　（遺構）
上）SK05
下）SK26
写真図版41　（遺構）
上）SK07
下）SK01
写真図版42　（遺構）
上）P158瓦器出土状況
下）P194瓦器出土状況
写真図版43　（遺構）
上）旧河道全景
下）旧河道南壁断面
写真図版44　（遺構）
上）旧河道土器出土状況
下）旧河道木製品（人形）出土状況
写真図版45　（遺構）
上）旧河道田下駄出土状況
下）旧河道槽出土状況
写真図版46　（遺物）　出土土器 1
写真図版47　（遺物）　出土土器 2
写真図版48　（遺物）　出土土器 3
写真図版49　（遺物）　出土土器 4
写真図版50　（遺物）　出土土器 5
写真図版51　（遺物）　出土土器 6
写真図版52　（遺物）　出土土器 7
写真図版53　（遺物）　出土土器 8
写真図版54　（遺物）　出土土器 9
写真図版55　（遺物）　出土土器10
写真図版56　（遺物）　出土木製品
写真図版57　（遺物）　出土木製品・石器
写真図版58　（遺物）　出土土器11
写真図版59　（遺物）　出土土器12
写真図版60　（遺物）　出土土器13
写真図版61　（遺物）　出土土器14
写真図版62　（遺物）　出土木製品
写真図版63　（遺物）　出土土器15
写真図版64　（遺物）　出土土器16
写真図版65　（遺物）　出土土器17
写真図版66　（遺物）　出土土器18
写真図版67　（遺物）　出土土器19
写真図版68　（遺物）　出土土器20
写真図版69　（遺物）　出土土器21

写真図版70　（遺物）　出土土器22
写真図版71　（遺物）　出土土器23
写真図版72　（遺物）　出土土器24
写真図版73　（遺物）　出土土器25
写真図版74　（遺物）　出土土器26
写真図版75　（遺物）　出土土器27
写真図版76　（遺物）　出土土器28
写真図版77　（遺物）　出土土器29
写真図版78　（遺物）　出土土器30
写真図版79　（遺物）　出土土器31
写真図版80　（遺物）　出土土器32
写真図版81　（遺物）　出土土器33
写真図版82　（遺物）　出土土器34
写真図版83　（遺物）　出土土器・瓦・土製品
写真図版84　（遺物）　出土金属器
写真図版85　（遺物）　出土木製品 4
写真図版86　（遺物）　出土木製品 5
写真図版87　（遺物）　出土木製品 6
写真図版88　（遺物）　出土木製品 7
写真図版89　（遺物）　出土木製品 8
写真図版90　（遺物）　出土木製品 9
写真図版91　（遺物）　出土木製品10
写真図版92　（遺物）　出土木製品11
写真図版93　（遺物）　出土木製品・石器
写真図版94　（遺物）　出土土器35
写真図版95　（遺物）　出土土器・瓦・
土製品・石製品

第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経過

昭和30年代後半に始まる、東海道・山陽新幹線、東名・名神高速道路等の基幹道路の建設、大規模住宅団地の造成・建設、農業基盤整備事業といった国をあげての公共事業は、国土の構造改革を進めた結果、日本は高度経済成長を遂げ、GNPを世界第２位に押し上げることとなった。

そのような背景の中で兵庫県においては、昭和40年代になると、国は、県内を東西に中国山地を縫うように走る中国縦貫自動車道の建設にかかり、昭和49年には神崎郡神崎町まで供用開始を図った。続いて山陽自動車道の建設を進める。一方兵庫県は、昭和50年代前半には三田市青野ダムの建設に着工する。そして、丹波地域の市町においては、農業基盤整備事業が広範囲で展開された。このように摂丹地域においては、国及び地方自治体が、線・点・面を起点として、県土の構造改革に取り組んでいた。

そこに新たに丹波・丹後地方と京阪神地域を結ぶ幹線道路として高速自動車道・近畿自動車道舞鶴線（以下「近舞線」と略称する）が計画された。この近舞線は、中国縦貫自動車道の吉川ジャンクションから京都府舞鶴インターチェンジまで総延長76.5km、日本列島を南北に横断する道路である。このうち福知山市～三田市間（53.8km）は、昭和48年10月に工事施行命令が出された。昭和52年９月に福知山市～丹南町（41.2km）と、同54年３月に丹南町～三田市（12.6km）間の路線決定が行われ、日本道路公団により近畿自動車舞鶴線建設計画が発表された。

兵庫県教育委員会は、道路建設計画に先立ち、昭和48年度、兵庫県内埋蔵文化財分布調査と合わせて日本海太平洋連絡道予定地内・播但自動車道予定地内の埋蔵文化財分布調査を、埋蔵文化財に造詣の深い有識者を遺跡分布調査者に指名して実施した。その成果は、昭和49年３月末日、兵庫県教育委員会発行の『特別地域埋蔵文化財遺跡分布地図及び地名表　第３分冊』に集約された。

昭和53年、近舞線の建設計画が具体化するに至り、日本道路公団から依頼を受けた兵庫県教育委員会は、路線内の遺跡分布調査を昭和53・56年度に実施し、それに伴って遺跡確認調査を実施した。その結果、昭和60年度までに、三田市２地区、多紀郡15地区、氷上郡15地区の新たな遺跡が確認され、多紀郡西紀町内では、本遺跡の他に、沢の浦古墳群、箱塚古墳群、上板井古墳群、板井・寺ケ谷遺跡、内場山墳墓群の発掘調査を行った。

板井寺ケ谷遺跡は、昭和56年度、兵庫県教育委員会が計画路線内の遺跡分布調査を実施したところ、土器の散布が認められ、確認調査が必要と判断された。本遺跡は、№35地点と呼称された。

昭和57年度、第１次確認調査を昭和57年11月26日～12月７日の期間に、調査対象面積26,600㎡に27箇所の坪を設定し実施した。調査結果として弥生時代後期、古墳時代前期・後期の遺物が土層中より出土すること、また№22・23・27の坪内から、ピットや溝状遺構、平安時代前期の須恵器・平安時代から鎌倉時代の瓦器・土師器が出土した。ピットの形状から掘立柱の可能性が高く、建物跡の存在が予想され、集落跡の存在が想定された。

さらに遺跡の範囲と性格を明確にするため、昭和58年度、トレンチによる第２次確認調査を実施したところ、約7,000㎡の範囲に遺物包含層及び遺構面が広がることを確認した。このことにより、北地区

約2,500㎡について昭和58年10月１日から同59年３月31日まで発掘調査を実施した。

昭和59年度は、引き続いて昭和59年４月13日より発掘調査を開始した。まず、当初予定のとおり南地区約3,500㎡を対象として調査を行い、弥生時代後期から古墳時代前期の土壙群を検出した。同年５月初旬、調査区の中央を東西に横切る農道を掘削・撤去し、仮設用水路を掘削した際に中世の遺構面下に火山灰が堆積していることを確認した。次いで、５月中旬、南調査区の中世包含層を掘削中に角錐状石器が出土したことから、上層の調査を終了したのち、下層の旧石器時代の遺構、遺物を対象とした確認調査及び全面調査に変更した。また東地区の約1,000㎡についても同様に中世、弥生時代遺構面、及び全地区に旧石器時代文化層の発掘調査を実施した。

昭和59年12月25日、約２万５千年前の旧石器時代の集落跡を発掘するという最大の成果を得て、無事調査を完了した。

第２節　調査の体制

整理作業は、兵庫県教育委員会が日本道路公団大阪建設局の委託を受け実施した。確認調査から全面発掘調査については、第１節で触れたところである。整理作業は昭和60年度から平成２年度までの６年間を費やした。途中、組織改革に伴い、平成元年度からは兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が実施した。

発掘調査・整理作業については、地元多紀郡内から多くの方々に調査補助員・現場作業員・整理作業員・現場事務員として尽力をいただいた。また、多くの研究者の方々に専門的な立場から調査補助員として参加を願ったり、直接現地においてご指導・ご教示をいただくなど多大なご協力を受けた。

発掘調査と整理作業の体制は以下の通りであり、整理作業の工程は第２表に示した。

なお、本遺跡における旧石器時代の発掘調査に係る整理等については、平成３年度刊行予定の『板井寺ケ谷遺跡－旧石器時代の調査－』に記載することとした。

発掘調査－昭和59年度－

兵庫県教育委員会　社会教育・文化財課

（事務担当）	課　　長	西沢　良之
	参　　事	大西　章夫
	副 課 長	森崎　理一
	課長補佐	和田　富男
埋蔵文化財	調査係長	櫃本　誠一
	技術職員	大平　　茂
（調査担当）	技術職員	水口　富夫
	技術職員	市橋　重喜
	技術職員	岸本　一宏

（調査補助員）　山口卓也、西村　守、森本長成、水嶋正稔、中川　貴、佐藤美和、東浦竜也、畑昭、村岡和夫、岸本宏昭、後藤浩之、杉野和則、畑　智幸、泉本さとみ、大下　明、山口慶一、奥野和宏、赤井利也、村上穣司、古井知克、綿貫俊一、工藤敏久、進藤貴和子、本荘芳成、原田育敏、国井和哉、佐野康雄

（現場作業員）　片山三農、石川捨三郎、谷後嘉斎、西田　強、高見茂雄、秋山　勝、片山夏夫、斎藤礼一郎、秋山忠夫、片山まさゑ、溝端みち子、柳沢重子、石川つた子、谷後幸子、河南和子、若狭松子、酒井笑子、近成みさを、近成きよ子、青木節子、藤本恵美子、畑　和子、和田頼子、赤井とし子、溝畑ふみ子、溝端富子、高橋信雄、井上清次、織田哲男、北川茂雄、阿部　進、細見慶三郎、松原武司、阪下五郎、小林耕一、若狭文子、西田富子、久下富美子、野垣光子、羽馬真知子、池田千代子、平野和夫、谷後忠二

（整理作業員）　青野美香、大前みのり、山田ますゑ、三谷真弓、利根真由美、酒井恵美子、酒井典子、足立佳代子、高橋としゑ、川崎てる子、市嶋真貴子

（現場事務員）　飯田あゆみ、橋本智子

整理作業－昭和60年度－

兵庫県教育委員会　社会教育・文化財課

（事務担当）　課　　長　　北村　幸久
参　　事　　森崎　理一
副 課 長　　黒田　賢一郎
課長補佐　　和田　富男
埋蔵文化財調査係長　　櫃本　誠一
技術職員　　森内　秀造

（整理担当）　技術職員　　市橋　重喜
技術職員　　岸本　一宏

（補助員）　山口　卓也、垣内　千世
勝原　香織、田中　博子
冨士原賢子、松下　智子
本藤　美紀

－昭和61年度－

兵庫県教育委員会　社会教育・文化財課

（事務担当）　課　　長　　北村　幸久
参　　事　　森崎　理一
副 課 長　　黒田　賢一郎
課長補佐　　福田　至　宏
課長補佐兼
埋蔵文化財調査係長　　大村　敬通

主　　査　　小川　良太
技術職員　　渡辺　　昇
（整理担当）　技術職員　　市橋　重喜
技術職員　　岸本　一宏
（補助員）　山口　卓也、大下　　明
石井あゆみ、垣内　千世
勝原　香織、田中　博子
冨士原賢子、松下　智子
本藤　美紀

－昭和62年度－

兵庫県教育委員会　社会教育・文化財課
（事務担当）　課　　長　　北村　幸久
参　　事　　森崎　理一
副 課 長　　黒田　賢一郎
課長補佐　　福田　至　宏
課長補佐兼
埋蔵文化財調査係長　　大村　敬通
主　　査　　小川　良太
主　　任　　岡田　章一
（整理担当）　技術職員　　市橋　重喜
技術職員　　岸本　一宏
（補助員）　山口　卓也、久保　勝正
大下　　明、河田　有子
石井あゆみ、垣内　千世
佐田　千織、瀧川　友子
渡辺　裕子

－昭和63年度－

兵庫県教育委員会　社会教育・文化財課
（事務担当）　課　　長　　中根　孝司
参　　事　　森崎　理一
参　　事　　日野　和広
副 課 長　　高坂　　隆
課長補佐　　福田　至宏
課長補佐　　松下　　勝
主　　査　　小川　良太
主　　任　　岡田　章一

（整理担当）　技術職員　市橋　重喜
技術職員　岸本　一宏
（補助員）　山口　卓也、久保　勝正
来村多加史、河田　有子
戸田　ゆみ、脇田　光子
渡辺　裕子

－平成元年度－

兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所
（事務担当）　所　長　大江　剛
副 所 長　村上　紘揚
総務課長　小池　英隆
整理普及班長　松下　勝
技術職員　岸本　一宏
（整理担当）　技術職員　岸本　一宏
（嘱託職員）　主任技術員　山口　卓也
図化技術員　久保　勝正
日々雇用　渡辺　裕子

－平成２年度－

兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所
（事務担当）　所　長　内田　隆義
副 所 長　村上　紘揚
総務課長　小池　英隆
整理普及班長　松下　勝
技術職員　岸本　一宏
（整理担当）　技術職員　岸本　一宏
（嘱託職員）　主任技術員　山口　卓也
図化技術員　久保　勝正
日々雇用　渡辺　裕子

表１．整理作業工程表

整理年度	水洗	ネーミング	接合	実測	写真	トレース	図面作成	分析・鑑定	レイアウト
昭和60年度	―	―	―					―	
昭和61年度			―	―	―		―		
昭和62年度			―						
昭和63年度									
平成元年度				―					
平成２年度									―

第2章　遺　　構

第1節　弥生時代後期から古墳時代前期の遺構

1．土　坑

土坑は、約100基確認された。いずれも調査区南西部において集中的に検出されている。これら検出した土坑には次のような共通点が見られる。

1.土坑の壁が垂直である。いくつかの土坑では、横方向への掘削（壁をえぐる掘削）が行われている。

2.土坑底部のレベルがほぼ水平である。

3.土坑の深さが1m以内である。

また、いくつかの土坑に当てはまる点として、板状の木製品が出土する、人為的に埋め戻されているといったことが挙げられる。粘土採掘坑の可能性を考えている。

SK01

平面形は不整円形を呈し、検出面での規模は最大幅7m、深さ1.2mを測る。土坑はほぼ垂直に掘削され、底部のレベルはほぼ水平を保つ。また、底部の一部では水平方向への掘削が見られる。土坑東側には数点の板状の木製品が出土した。埋土は砂質土と粘質土が薄く重なり合っている。断面観察から、いくつかの土坑が切り合っていると思われるが、平面での検出は行えなかった。

土坑内遺物としては、弥生土器甕（1）、鉢（2）、壷（3）が得られた。

SK02

切り合った2つの土坑である。西側の土坑は、1×1.2mの楕円形を呈し、深さ0.7mを測る。土坑はほぼ垂直に掘削され、底部のレベルはほぼ水平を保つ。土坑の北側部分は横方向にも掘削が行われ、袋状の土坑となる。東側の土坑は、1.2m×1.4mの東西に長い楕円形を呈し、深さは0.3mを測る。ほぼ垂直に掘削され、底部は東側がやや下がる。埋土はブロック状になっており人為的に埋め戻されたと考えられる。また、東側の土坑底部に近い層には炭化物が多く含まれていた。

土坑内遺物としては、弥生土器甕（4）が得られた。

SK07

平面形は不整円形を呈し、検出面での規模は1.2m×2.1m、深さ0.8mを測る。土坑はほぼ垂直に掘削された後、西側部分では0.2mほど横方向に掘削が行われている。そのため、土坑の壁はえぐられたようになっている。底部のレベルはほぼ水平である。埋土は、砂質土と粘質土が重なりあい、自然に埋没した状況を示している。

土坑内遺物としては、弥生土器甕（7・8）が得られた。

SK08

平面形は南北に長い楕円形を呈し、検出面での規模は1.3m×1.8m、深さ0.9mを測る。土坑は底部に行くほど広がって掘削されており、断面は台形を呈す。底部のレベルはほかの土坑と同じくほぼ水平を保っている。埋土は砂質土と粘質土が薄く重なり合っており、底部付近からは土器片が出土した。

土坑内遺物としては、弥生土器甕（９）と底部破片（10）が得られた。

SK09

ほぼ同じ大きさの土坑２つが切り合った遺構である。西側の土坑の平面形は楕円形を呈し、検出面での規模は1.1m×1.6m、深さ0.75mを測る。土坑はほぼ垂直に掘削された後、南西部分において、0.2mほど横方向に掘削が行われている。東側の土坑の平面形は不整円形を呈し、検出面での規模は１m×1.4m、深さ0.35mを測る。

土坑内遺物は、無かった。

SK13

平面形で溝状に検出された土坑である。検出面での規模は、12m×8.5mを測る。深さは、最大0.8m、最小で0.6mを測る。土坑はほぼ垂直に掘削されており、底部のレベルも水平を保っている。土坑内で一部横方向への掘削が行われている箇所も確認できる。また、底部には板状の木製品が残っている。埋土は砂質土と粘質土が薄く重なり合っており、所々に礫が混じっている。埋土の堆積状況から、数個の土坑が重なり合っていることが確認できた。しかし、北東方向と北西方向に伸びる部分では明確な重なり合いが確認できない。この部分は、他の土坑でも見られた横方向への掘削が行われた結果、二手に分かれた溝状の土坑となった可能性も考えられる。

土坑内遺物としては、弥生土器甕（16・19・20・22～24・26・27）、壷（17・25・28）、鉢（21）が得られた。

SK14

平面形は不整円形を呈し、検出面での規模は2.9m×2.9m、深さ0.6mを測る大きな土坑である。土坑の南東部分が階段状に掘り残されている。底部は中央がややへこむすり鉢状となっている。埋土は砂質土と粘質土が薄く重なり合っている。

土坑内遺物としては、弥生土器甕（30）が得られた。

SK16

２基の土坑（A・B）が切り合った土坑である。土坑Aは不整円形を呈し、検出面での規模は2.4m×3.6m、深さ0.7mを測る。土坑は北東部の一部に段を残しているが、その他の部分は垂直に掘削されており、底部のレベルはほぼ水平を保つ。土坑底部からは、土器壷（32）が出土した。土坑Bは2.2m×4.3mの長方形を呈し、西部に突出部を持つ。突出部の壁は西に向かって横方向の掘削が行われている。土坑底部のレベルはほぼ水平を保つが、若干凹凸が残る。土坑底部からは、長さ1.3m、幅0.2mの板状木製品や甕（31）が出土している。

SK17

２基の土坑（A・B）が切り合った土坑である。両者の明確な切り合いは、平面、断面ともに確認できなかったが、底部のレベル差によって土坑が切り合っていることが判明した。両者合わせて検出面での規模は2.9m×5.3mの不整形な楕円形を呈す。土坑の深さは、Aで0.8m、Bで0.9mを測り、ともに底部のレベルは水平である。土坑Bの東部は一部掘り残されており、西部に向かって緩やかに傾斜している。

土坑内遺物としては、弥生土器甕（35～39）が得られた。

SK18

平面形は不整円形を呈し、検出面での規模は3.8m×4.1m、深さ1.1mを測る。土坑の南部において、

0.2m～0.35mほど横方向の掘削が認められる。底部のレベルはほぼ水平であり、土坑中央付近で長さ0.95m、幅0.2mの板状木製品が出土した。また、土坑の南部で、弥生土器壷（44）が出土している。

SK19

平面形は円形を呈し、検出面での規模は2.3m×2.1m、深さ0.9mを計る。土坑はほぼ垂直に掘削されており、床部では横方向への掘削が認められる。埋土は粘質土と砂質土が重なり合っており、一部にブロック状の塊が混ざるため、人為的に埋め戻されたと考えられる。

土坑内遺物は、無かった。

SK20

平面形は不整円形を呈し、検出面での規模は1.7m×1.2m、深さ1.02mを計る。土坑はほぼ垂直に掘削されており、南東部で横方向への掘削が認められる。埋土は粘質土と粘土が重なり合っており、一部に地山土がブロック状の塊として混ざるため、人為的に埋め戻されたと考えられる。

土坑内遺物は、無かった。

SK25

２基の土坑（A・B）が切り合った土坑である。両者の明確な切り合いは、平面、断面ともに確認できなかったが、底部のレベル差によって土坑が切り合っていることが判明した。２基合わせての検出面での規模は２m×3.9mである。土坑の深さはAで0.98m、Bで0.7mを測り、共に底部のレベルは水平である。A・B共に北東部分に横方向への掘削が行われている。またAでは土坑の北部分が階段状に掘り残されている。

土坑内遺物としては、古墳時代の甕（54）、弥生土器壷（55）・鉢（56）が得られた。

SK26

平面形は円形を呈し、検出面での規模は直径0.9m、深さ0.9mを測る。土坑はほぼ垂直に掘削され、東部において0.1mほど横方向への掘削が行われている。底部のレベルは水平である。埋土は、シルトと砂質土が重なり合っている。

土坑内遺物は、無かった。

SK27

平面形は円形を呈し、検出面での規模は直径0.7m、深さ0.8mを測る。土坑は東部を除いた他の部分は横方向への掘削が行われている。底部のレベルは水平を保たれているため、断面は台形を呈す。

土坑内遺物は、無かった。

SK28

平面形は楕円形を呈し、検出面での規模は2.3m×2.7m、深さ1.2mを測る。土坑はほぼ垂直に掘削され、底部のレベルは水平を保つ。埋土は粘質土が薄く重なりあって堆積しており、13層には炭化物が多量に含まれていた。

土坑内遺物としては、弥生土器甕（57～61・65・66・68）、壷（62・63）が得られた。

SK39

平面形は不整円形を呈し北西部に突出部を持つ。検出面での規模は1.6m×2.8m、深さは0.9mを測る。土坑はほぼ垂直に掘削されており、東部において横方向への掘削が最大0.4mほど行われている。他の土坑と同じく底部のレベルは水平である。埋土は、粘質土とシルトが薄く重なり合って堆積しており、一部に地山土がブロック状に混じる。そのため、人為的に埋め戻された可能性がある。

土坑内遺物としては、古墳時代の壷（77）が得られた。

SK40

平面形は隅丸方形を呈し、検出面での土坑一辺の長さは約2.5mであり、深さ0.9mを測る。土坑底部は、北東部から中央付近に向かって緩やかに下がっており、板状の木製品が並んでいる。また土坑壁際からは、弥生土器甕（78）、壷（79）が出土している。

SK41

平面形は不整円形を呈し、検出面での規模は3.7m×４m、深さ0.9m～1.2mを測る。土坑の底部は南部から中央にかけて緩やかに下がっており、長さ１m前後の板状木製品が置かれている。また、土坑の北部にも数点の板状木製品が出土している。土坑東部は西部に比べて0.1mほど浅い。そのため、SK－41底部のレベルから２つの土坑が切り合っている可能性が高いが、平面や断面の観察では切り合いを確認することはできなかった。

土坑内遺物としては、弥生土器甕（81～90）、壷（80）が得られた。

SK42

平面形はいびつな卵形を呈し、検出面での規模は4.3m×6.1m、深さ最大0.9mを測る。土坑南側は角度をもって掘削されており、南側は垂直および横方向への掘削が行われている。また、土坑底部のレベルは東側が若干下がっているほかはほぼ水平に保たれている。このことから、SK42では掘削を始めた後、何らかの理由があって北側へと掘削が進んでいったと考えられる。

土坑内遺物としては、弥生土器甕（91・94）、壷（92・93）が得られた。

SK43

平面形は楕円形を呈し、検出面での規模は1.5m×２m、深さ１mを測る。土坑は垂直に掘削が行われており、南東部では0.1mほど横方向への掘削が行われている。底部のレベルは若干中央が盛り上がってはいるがほぼ水平となっている。土坑中央には長さ0.9m、幅0.12mの板状木製品が置かれている。土坑内遺物は、無かった。

SK45

いくつかの土坑が切り合ってできた土坑であり、10m四方の範囲で検出した。土坑の深さは0.15m～１mまであり、それぞれの土坑底部と思われる水平部分が何カ所か確認できた。土坑の壁は垂直に掘削が行われている。埋土は砂層とシルトが重なりあっているが、断面観察によっても各土坑の切り合いは明確に区別できなかった。土坑内からは木製品と、弥生～古墳時代前期の甕（95～100・102・103・105）、壷（104）、高杯（101）が出土している。

SK46

平面形は楕円形を呈し、東部に突出する箇所がある。また、土坑内には0.1mほど深く掘り下げられている部分がある。検出面での規模は4.2m×4.5m、深さ0.7m～１mを測る。土坑は垂直に掘削され、北部では横方向への掘削が行われている。深く掘り下げられた部分では、土坑肩口に板状木製品がそれぞれ置かれている。また、東部の突出部でも木製品と古墳時代前期の甕（106）が出土した。

SK47

平面形は楕円形を呈し、検出面での規模は2.2m×3.6m、深さ約１mを測る。土坑は北東部分から北部にかけて横方向への掘削が行われており、一部では斜め下方向への掘削も行われている。埋土は、粘質土とシルトが薄く重なり合って堆積しており、一部に地山土がブロック状に混じる。そのため、SK

47は人為的に埋め戻された可能性がある。土坑東部には板状木製品がほぼ同じレベルで並んで出土した。また弥生土器甕（107）、壷（108）も出土している。

SK48

平面形は不整円形を呈し、検出面での規模は1.4m×1.7m、深さ約0.9mを測る。土坑はほぼ垂直に掘削され、南西部では0.12mほど横方向への掘削が行われている。また、土坑北西部には階段状に掘り残された部分があるが、そのほかの土坑底部のレベルはほぼ水平である。埋土は、シルトと粘質土が重なり合って堆積しており、一部に地山土がブロック状に混じる。

土坑内遺物としては、甕（109）が得られた。

SK49

平面形は不整円形を呈し、検出面での規模は2.3m×2.4m、深さ約0.8mを測る。土坑はほぼ垂直に掘削され、土坑北部では横方向への掘削が若干行われている。土坑底部は中央部分がやや下がるすり鉢状になっている。埋土はシルトと粘質土が重なり合って堆積しており、一部地山土がブロック状に混じる。土坑内からは古墳時代前期の甕（110～116）や木製品が出土している。

SK50

平面形は不整円形を呈し、検出面での規模は1.6m×1.9m、深さ0.8mを測る。土坑はほぼ垂直に掘削された後、北部では0.2mほど横方向への掘削が行われている。土坑の底部はほぼ水平である。土坑内からは弥生土器甕（117～119・121～123）、鉢（120）や木製品が出土している。

SK51

平面形は不整形な楕円形を呈し、検出面での規模は0.5m×0.8m、深さは0.9mを測る。土坑は横方向への掘削が進んでいるため断面が台形を呈す。土坑中央付近から、古墳時代前期の高杯（124・125）が底部に置かれた状態で出土した。

SK52

平面形は不整円形を呈し、検出面での規模は2.2m×2.5m、深さ0.9mを測る。土坑はほぼ垂直に掘削され、底部は水平である。埋土は、粘質土が重なり合って堆積しており、一部地山土がブロック状に混じる。

土坑内遺物としては、弥生土器甕（126～129）が得られた。

SK55

平面形は不整円形を呈し、北部に突出した部分を持つ。検出した規模は２m×２m、深さ0.5m～0.7mを測る。北部の突出部は、土坑が垂直に掘削された後、横方向への掘削によってできた部分と考えられ、ごくわずかではあるが壁がえぐられている。土坑底部は凹凸がはげしく、水平が保たれている部分は少ない。埋土は、粘質土が重なり合って堆積しており、一部地山土がブロック状に混じる。

土坑内遺物としては、古墳時代前期の甕（130～132）が得られた。

SK56

平面形は楕円形を呈し、検出面での規模は0.9m×1.1m、深さ0.6mを測る。土坑西側壁は横方向への掘削が行われている。底部は水平が保たれている。埋土は粘質土が重なり合って堆積しており、底部近く11層には炭化物が含まれていた。

土坑内遺物としては、弥生土器甕（133）が得られた。

SK57

平面形は楕円形を呈し、検出面での規模は1.9m×2.1m、深さ0.7mを測る。断面観察によって切り合った2つの土坑であることが判明した。それぞれの土坑はほぼ垂直に掘削され、底部のレベルは水平である。あとから掘削された土坑の埋土には炭化物が多く含まれていた。それぞれの土坑の埋土は粘質土と粘土が重なり合って堆積し、一部に地山土がブロック状に混じる。

土坑内遺物としては、甕（134～136）、器台（137・138）が得られた。

SK58

平面形は楕円形を呈し、検出面での規模は1m×1.1m、深さ0.6mを測る。土坑はほぼ垂直に掘削され、底部のレベルはほぼ水平である。埋土は粘質土と粘土が重なり合い、6層・9層では炭化物を多量に含んでいる。

土坑内遺物としては弥生土器壷（139）が得られた。

第2節　古墳時代後期の遺構

1．溝

SD05

調査区の南部を東西に走る溝である。検出面での溝の最大幅は2.16m、深さ0.56mである。

2．掘立柱建物

調査区からは2（SB01・02）棟の掘立柱建物を検出した。これら建物は、出土した遺物、建物の規模から古墳時代後期に比定される。

SB01

2×3間（4.2m×5.2m）の側柱建物である。建物の棟方向は南北を向き、N12.5°Wを測る。柱穴は円形のもので、直径は40～60cm前後、柱痕跡から柱の直径は20cm前後であると考えられる。

建物は、南側の棟持ち柱が少し外側に飛び出す特徴的な構造となっている。それぞれの柱間は、梁行きで2.1m、桁行きで1.2～2mを測る。SB01はSB02と並んで検出されており、その建物規模も同じである。また、建物の棟方向もほぼ同じであるため、SB01とSB02は建て替えられたものと考えられる。

SB02

2×3間（3.8m×4.8m）の側柱建物である。建物の棟方向は南北を向き、N12°Wを測る。柱穴は円形のもので、直径は40～60cm前後、柱痕跡から柱の直径は20cm前後であると考えられる。それぞれの柱間は、梁行きで1.8～2m、桁行きで1.4～1.6mを測る。建物は、SB01同様南側の棟持ち柱が外側に飛びだす構造になっている。

第3節　平安時代から鎌倉時代の遺構

1．掘立柱建物跡

7棟の掘立柱建物（SB03～09）と3基の井戸（SE01～03）、および土坑を検出した。

SB03

3×4間（6.6m×9.5m）の総柱建物である。建物の棟方向は南北を向き、N2°Eを測る。柱穴は円形のもので、直径は28～40cm前後、柱痕跡から柱の直径は20cm前後であると考えられる。梁行きの柱間は2.4m、桁行きの柱間は2.1mを測り、それぞれ柱は等間隔に並んでいる。建物の柱通りは良く、一部の柱穴には根石が据えられている。建物の規模、棟方向などからSB03はSB04が建て替えられた建物と考えられる。柱穴内より土師器皿（155）が出土している。

SB04

3×4間（7m×9.6m）の総柱建物である。建物の棟方向は南北を向き、N1°Eを測る。柱穴は円形のもので、直径は28～40cm前後、柱痕跡から柱の直径は20cm前後であると考えられる。梁行き、桁行きともに柱間は2.4mと等間隔であり、建物の柱通りも良い。柱穴の切り合いからSB03に先行する建物と考えられる。

SB05

4×5間（10m×12.5m）の総柱建物である。建物北東部には1間分の飛び出し部分がある。建物の棟方向はほぼ南北を向き、N2°Wを測る。柱穴は円形のもので、直径20～35cm前後、柱痕跡から柱の直径は約20cm前後であると考えられる。それぞれの柱間は2mを超えており、梁行きで2.1～3m、桁行きで2.4mを測る。柱通りは比較的良いが、建物全体の平面形がやや菱形になっている。柱穴からは、須恵器・瓦器・土師器などの遺物が出土している。

P363　直径22cm、深さ14cmの円形の柱穴である。柱穴内からは完形の瓦器椀（165）が出土した。

P556　直径33cm、深さ23cmの楕円形の柱穴である。柱穴の底には根石が入れられている。出土した土器は須恵器椀（157）である。

P323　長径35cm、短径30cm、深さ35cmの楕円形の柱穴である。柱穴内からは捏鉢（164）が出土した。

P396　直径35cm、深さ41cmの円形の柱穴である。柱穴内から重なりあって瓦器椀（166）・土堝（171）などが出土した。

P429　直径36cm、深さ24cmの円形の柱穴である。柱痕部分から、瓦器椀（167）・須恵器椀（158）などが重なりあって出土した。

SB06

3×5間（7.1m×13m）の総柱建物である。建物北東部には3間分（2.3m×7.8m）の飛び出し部分がある。建物の棟方向はほぼ南北を向き、N8.4°Wを測る。柱穴は円形のもので、直径20～50cm前後、柱の直径は約20cmである。柱間は、梁行きで2～3m、桁行きで2.5～3mとばらつきがある。柱通りはあまり良くないが、建物全体としての形は整っている。

P473　直径33cm、深さ21cmの円形の柱穴である。柱穴掘方の部分から土師器托（181）が出土した。

P400　直径47cm、深さ32cmの円形の柱穴である。柱穴の底から12cmほど浮いた部分から検出面までの間で土師器皿（176・177）・瓦器椀（174）などが重なりあって出土した。

SB07

3×3間（8m×8m）の総柱建物である。建物の棟方向はほぼ南北を向き、N7°Wを測る。柱穴は円形のもので、直径20～40cm前後、柱の直径は20～40cmである。柱間は、梁行きで2～3m、桁行きで2.5～2.7mを測る。建物の北側と南側には溝を検出した。

柱穴からは、中国製磁器・須恵器などが出土している。

P392　長径33cm、短径26cm、深さ17cmの楕円形をした柱穴である。柱穴底から須恵器椀（182）・黒

色土器皿（183）などが出土した。

P471　直径22cm、深さ32cmの円形の柱穴である。掘方内より瓦器椀（184）が出土した。

SB08

4×6間（10m×15.3m）の総柱建物である。今回検出した建物の中で、最大の面積をもつ建物である。建物の棟方向はほぼ南北を向き、N3°Wを測る。柱穴は円形を呈し直径30～40cm前後であるが、一部に10cmのものもある。柱間は梁行きで2.2～2.6m、桁行きで2.5～2.6mを測りややばらつきがある。柱通りは比較的良いが、建物全体の平面形がやや菱形となっている。建物の北東部分にSE01、東側には雨落溝（幅0.5m、長さ16.6m）を検出した。

柱穴や雨落溝内からは、瓦器・土師器などが出土している。

P15　長径39cm、短径33cm、深さ20cmの楕円形をした柱穴である。柱穴内からは瓦器椀（187・188）が出土した。

SB09

4×5間（8.8m×13m)の総柱建物である。建物の棟方向はほぼ南北に通る。柱穴は円形のもので、直径20～40cmであるが、30cm前後のものが最も多い。柱間は梁行きで2～2.4m、桁行きで2.5～2.7mを測り、建物の柱通りも良い。

2．井　戸

SE01

SB08内の北東部分で検出された井戸である。掘方の平面形は円形に近いものであり、直径は1.6m、検出面からの深さ0.85mを測る。掘方は検出面から0.45mのところでわずかながら段をもっており、井戸底での直径は約1.2mとなっている。井戸は方形縦板組のものである。井戸枠はすべて中心に向かって倒れ込んで検出された。そこから復原される井戸枠は1m四方のものである。井戸枠の縦板の幅は15cm前後であり、一辺に6～7枚の板材を用いている。縦板を支える横桟は井戸底から0.2mと0.55mの位置にわたされており、一辺5cm前後の角材である。井戸枠の隅柱は一辺8cm前後の角材を用いている。縦板組横桟式の井側をもつ井戸である。埋土の堆積状況から、この井戸は使われなくなった後に自然に埋没したものと考えられる。

井戸底からは完形の瓦器椀（206）や呪符木簡3点、扇の骨材、箸状木製品などが出土している。

SE02

曲物を井側にもつ井戸と理解している。井戸掘方は東西方向に長い楕円形を呈し、1.5×1.2mの大きさで、検出面からの深さは、最深部で0.35mである。井戸底中央部、南寄りに径20cmの円形の穴が穿たれている。穴の底は尖っている。井戸に伴う穴かは不明である。曲物は、径1.05mである。須恵器捏鉢（212）・瓦器椀（213）が出土している。

SE03

調査区の中央あたり、SB06の南東で検出された井戸である。掘方の平面形は隅丸の方形に近く、一辺が1.3mほどである。掘方は北側が一段深くなり、長辺1.1m、短辺0.9mの長方形を呈し、検出面からの深さ0.53cmを測る。この部分から、隅柱や縦板などの井戸枠に使用されたと考えられる木材が出土した。埋土の堆積状況から、この井戸は使われなくなった後、自然に埋没したものと考えられる。

井戸底からは、瓦器椀（211）が出土した。

3．土　坑

土坑は、長さ2～3m前後で平面形が長方形の土坑の一群（SK01・06・16・17）、長さ1.5mで平面形が細長い楕円形を呈する一群（SK13・18）、これらより小規模で平面形が楕円形・隅丸長方形・円形の一群に分けられる。とくに前者の二つの一群には、土器が埋置された状態で検出されるものが多く、木棺の痕跡を確認した土坑はないが、墓の可能性がある土坑である。

SK01

調査区北区の中央部、SB03・04の北側で検出された土坑である。東西に長い隅丸の長方形を呈し、長辺1.72m、短辺0.67mを測る。削平が行われており、土坑の深さは0.1m前後しかない。土坑の底はほぼ平坦に仕上げられている。

SK03

東西辺0.8m、南北辺0.8m以上の土坑である。土坑の南半分は攪乱を受け消滅している。土坑の深さは0.12mをはかり、中央には礫が3点出土した。

SK04

長辺0.8m、短辺0.65mの隅丸長方形を呈した土坑である。検出面からの深さは0.08mを測り、土坑の底部はほぼ平坦である。

SK05

長辺1.25m、短辺0.75mを測る南北に長い隅丸長方形を呈する土坑である。検出面からの深さ0.54mを測り、今回見つかった中世の土坑では最も深い土坑となる。側壁はほぼ垂直に立ち上がり、底部はやや北側が高くなっている。土坑内の南西部で長さ20cm、幅15cmの礫を検出した。

SK06

調査区の西部、SB05内で検出された土坑である。長辺2.3m、短辺1.05mの長方形を呈し、検出面からの深さ0.42mを測る。側壁は垂直に近く立ち上がり、底部のレベルはほぼ水平を保つ。土坑の底から板状の木製品が多数出土している。

SK07

長径1.34m、短径1.15mの楕円形を呈する土坑である。検出面からの深さは0.5mを測り、今回見つかった中世土坑ではSK05に次ぐ深さである。土坑内からは瓦器椀（219）が出土した。

SK12

不整形な楕円形を呈し、長径0.96m、短径0.8m、深さ0.13mを測る。土坑底部は平坦であるが、わずかに西側部分が低くなっている。

SK13

調査区の西部、SB05・06・07内で検出された土坑である。東西に長い隅丸の長方形を呈し、長辺1.45m、短辺0.48m、深さ0.23mを測る。側壁はほぼ垂直に立ち上がり、土坑の底は平坦に仕上げられている。土坑東側からは、土坑底から10cmほど浮いた位置で白磁碗（215）が出土した。

SK14

調査区の西部、SB06内で検出された土坑である。長径1.5m、短径1m前後の南北に長く、やや北側が広い楕円形を呈しており、深さは0.07mを測る。土坑は北側部分が深くなっており、深さは0.18mをはかる。

SK15

長径1.47m、短径1.24mの不整形な楕円形を呈する土坑である。検出面からの深さは、0.27mを測り、土坑の底部はほぼ平坦である。土坑は3基の柱穴と重なりあって検出された。

SK16

調査区の西部、SB05・06・07内で検出された土坑である。東西に長い隅丸の長方形を呈し、長辺2.25m、短辺0.95m、深さ0.14mを測る。土坑東側には直径10～30cmほどの礫が散乱している。土坑内からは、青磁碗（216）・須恵器椀（217）・土師器皿（216）が出土した。

SK17

調査区北西部で検出された土坑である。長辺3.64m、短辺1.34mの不整形な隅丸方形を呈している。検出面からの深さは0.14mを測り、削平がかなり進んでいる。

SK18

不整形な長楕円形を呈し、長径1.63m、短径0.67m、深さ0.18mを測る。土坑南西部には切り合う柱穴が2基ある。

SK20

長辺0.9m、短辺0.62mの隅丸長方形を呈した土坑である。検出面からの深さは0.1mを測る。

SK21

調査区の北西部、SK17の南で検出された土坑である。土坑は、長辺1.76m、短辺0.5～0.9mの隅丸の台形を呈し、深さは0.15mを測る。土坑の西部には、直径10～30cmの礫が固まって検出された。

SK24

調査区の北西部で検出された土坑である。東西に長い隅丸の長方形を呈し、長辺1.45m、短辺0.5m、深さ0.09mを測る。

SK26（A）

調査区東部、SB01内で検出された土坑である。長径1.17m、短径0.83mを測る東西に長い楕円形を呈し、検出面からの深さ0.06～0.08mを測る。土坑底部は、南西部が低くなっており、最大の深さは0.1mを測る。

SK26（B）

長辺1.1m、短辺0.67mを測る東西に長い隅丸長方形を呈する土坑である。検出面からの深さ0.12mを測り、土坑底部はほぼ平坦となっている。

SK50

掘方の平面形は楕円形を呈し、長径1.27m、短径1.2mを測る。土坑内には、井戸の石組みと考えられる石材が大量に埋まっていた。井戸枠などの木材は検出されなかった。

4．柱穴群

P158

長径42cm、短径33cm、深さ15cmの楕円形をした柱穴である。柱穴内からは須恵器椀（270）が出土した。

P194

長径60cm、短径39cm、深さ30cmの楕円形をした柱穴である。柱穴北部に柱痕を検出した。柱の太さは15cm前後であったと考えられる。掘方内より瓦器椀（272）が出土した。

不明

3基の柱穴が切り合った柱穴である。中央の柱穴は直径25cm、深さ15cmを測る。柱穴内からは黒色土器椀（276）が出土した。

P454

直径22cm、深さ9cmの円形の柱穴である。柱穴内には根石が入っており、その隙間から土器片が出土した。

第3章　遺　　物

第1節　弥生時代後期から古墳時代前期の土器

1．土坑出土の土器

SK01出土土器（1～3）

SK01からは甕・鉢・底部（壺）が出土している。1は口縁部を上方に拡張した甕である。外面をハケ、内面をヘラケズリで仕上げる。内面のヘラケズリは口縁部直下にまで及ぶ。口縁部外面はヨコナデで仕上げられ、擬凹線が施される。2は口縁部が上方に立ち上がる鉢である。内面はヘラケズリで仕上げられる。3は壺の底部である。これらの土器は弥生時代終末期（庄内式並行期）の後半のものである。

SK02出土土器（4）

SK02からは甕が出土している。4は口縁部を上方に拡張し、外面に擬凹線を施す甕である。底部は小さな平底であり、タタキで成形される。外面はタタキ目をハケで丁寧にナデ消している。内面は下半部に縦方向のヘラケズリが施される。この土器は弥生時代終末期前半のものである。

SK05出土土器（5・6）

SK05からは甕が出土している。5は口縁部を強く屈曲させてさらに上方に拡張した甕である。口縁部外面には擬凹線が施される。タタキで成形されており、外面はハケでタタキ目を消す。内面は横方向のハケ目で仕上げられる。6は甕の体部である。この土器はSK11Bからも破片が出土しており、接合する。外面はハケで仕上げられる。これらの土器は弥生時代終末期前半のものである。

SK07出土土器（7・8）

SK07からは甕が出土している。7は口縁部である。口縁部は上方に長くのびる。8は体部である。外面はハケ、内面はヘラケズリで仕上げる。これらの土器は弥生時代終末期後半の土器である。

SK08出土土器（9・10）

SK08からは甕が出土している。9は体部上半から口縁部にかけて残存しており、口縁部は水平に強く屈曲したのち、上方に拡張され、外面には擬凹線が施される。体部外面はハケで仕上げられ、内面はヘラケズリで仕上げられる。10は底部である。小さな平底をもち、タタキで成形される。外面はハケでタタキ目を消して仕上げており、内面はヘラケズリで仕上げられる。これらの土器は弥生時代終末期前半のものである。

SK11出土土器（11～15）

SK11からは高杯・壺・甕もしくは鉢が出土している。11は複合口縁をもつ高杯である。口縁部は上方向に拡張され、外面には擬凹線が施される。12は壺の頸部から口縁部である。口縁部はゆるやかに外反する。13は甕もしくは鉢の底部である。タタキで成形される。これらの土器は弥生時代終末期後半のものである。

14は鋭く屈曲した口縁部をもった広口短頸壺である。15は甕の体部である。外面はハケで仕上げられる。これらの土器は弥生時代終末期前半のものである。

SK13出土土器（16～29）

16は甕の底部である。タタキで成形した後に、外面はハケで仕上げられ、内面はヘラケズリで仕上げられる。

17は壺の底部である。外面はヘラミガキ、内面はハケで仕上げられる。18は甕の底部である。外面はハケで仕上げられる。これらの土器は弥生時代終末期のものである。

19は口縁部を上方に拡張する甕である。口縁部外面には擬凹線が施される。20も口縁部を上方に拡張する甕である。外面はヨコナデで仕上げられる。21は口縁部が屈曲する鉢である。22は甕の底部である。外面はハケ、内面はヘラケズリで仕上げられる。これらの土器は弥生時代終末期前半のものである。

23は口縁部を上方に拡張した甕である。外面には擬凹線が施される。24も口縁部を上方に拡張する甕である。口縁部はヨコナデで仕上げられる。25は体部にこぶ状の突起をもつ壺である。底部は突出した平底であり、内面はハケで仕上げられる。これらの土器は弥生時代終末期前半のものである。

26は口縁部端を上下に拡張した甕である。外面はハケで、内面はヘラケズリで仕上げられる。27は口縁部を上方向に大きく拡張する複合口縁の甕である。外面はハケで仕上げられる。28は口縁部が外反する壺である。外面には刺突文が施される。29は甕もしくは鉢の底部である。外面はハケ、内面はヘラケズリで仕上げられる。これらの土器は弥生時代終末期後半のものである。

SK14出土土器（30）

SK14からは甕が出土している。口縁部はやや肥厚する。外面はハケで仕上げられ、内面は縦方向のヘラケズリで仕上げられる。この土器は弥生時代終末期後半のものである。

SK16出土土器（31～34）

32は短い頸部に外反し、上方に拡張する口縁部のつく広口壺である。体部は下ぶくれであり、外面はヘラミガキで仕上げられる。34はタタキ成形された甕もしくは壺の底部である。これらの土器は弥生時代後期後半のものである。

31は球形の体部に長く立ち上がる口縁部がついた甕である。外面はハケで仕上げられ、内面は上半部を横方向のヘラケズリで仕上げられる。33は短く立ち上がる口縁部をもつ壺である。これらの土器は古墳時代前期のものである。

SK17出土土器（35～40）

SK17からは甕が出土している。35は口縁端部を上方に拡張し、端面に擬凹線を施した甕である。外面はハケで、内面はヘラケズリで仕上げられる。36は口縁部を上方に大きく拡張する甕である。外面はハケで仕上げられる。38はタタキ成形され、口縁部を上方に拡張する甕である。

37は口縁部を上方に拡張する甕である。外面はハケ、内面はヘラケズリで仕上げられる。39は口縁部を大きく上方向に拡張する甕である。内面はヘラケズリで仕上げられる。40は小さな平底の底部である。外面はハケで仕上げられる。これらの土器は弥生時代終末期前半のものである。

SK18出土土器（41～45）

SK18からは甕と壺が出土している。41は口縁部をつまみ上げたタタキ成形の甕である。内面はハケで仕上げられる。42はくの字形に屈曲する口縁部をもつタタキ成形の甕である。外面はハケによってタタキ目を消し、内面はハケの後ヘラケズリで仕上げられる。43は上方向に拡張する口縁部をもつ甕である。内外面ともにハケで仕上げられる。44は縦長の体部に直線的に開く口縁部がつくタタキ成形の壺である。45は壺の底部であり、外面はハケで仕上げられる。これらの土器は弥生時代終末期後半のものである。

SK22出土土器（46・47）

SK22からは甕が出土している。46は口縁部端面を拡張し、擬凹線を施す甕である。外面はハケで仕上げられ、内面はヘラケズリで仕上げられる。47も口縁部の端面を拡張し、擬凹線を施す甕である。これらの土器は弥生時代後期末～終末期前半のものである。

SK23出土土器（48～50）

48は口縁部端をやや内側に拡張する甕である。外面はハケ、内面はヘラケズリで仕上げられる。

49は口縁部を上方に拡張する甕である。50は球形の体部に外反する口縁部がついた広口短頸壺である。これらの土器は弥生時代終末期前半のものである。

SK24出土土器（51～53）

SK24からは51の甕が出土している。口縁部を上方に拡張し、外面に擬凹線を施す。体部外面はハケで仕上げ、内面はヘラケズリで仕上げる。この土器は弥生時代終末期前半のものである。

52はタタキ成形の小型の甕である。体部は内外面ともにハケで仕上げられる。53は球形の体部に外反する口縁部がつく広口短頸壺である。これらの土器は弥生時代終末期後半のものである。

SK25出土土器（54～56）

54は口縁部端部を肥厚させた甕である。外面はハケ、内面はヘラケズリで仕上げられる。この土器は古墳時代前期のものである。

55は粗製の直口壺である。弥生時代終末期後半のものである。

56は短く直立する口縁部に片口のつく鉢である。内外面ともにヘラミガキで仕上げられる。弥生時代終末期後半のものである。

SK28出土土器（57～68）

SK28からは甕と壺が出土している。57はくの字形に屈曲する口縁部をもつタタキ成形の甕である。体部内面はハケで仕上げられる。58はやや肩のはった体部をもつ甕である。外面はハケで、内面はヘラケズリで仕上げられる。59は単純なくの字形の口縁部をもつ甕である。外面はハケ、内面はハケの後ヘラケズリで仕上げられる。

60は口縁部をわずかに拡張するタタキ成形の甕である。外面はハケで、内面はハケとヘラケズリで仕上げられる。61は口縁部を上方に拡張する甕である。外面はハケで、内面はヘラケズリで仕上げられる。

62は偏球形の体部に外反する口縁部をもった頸部がつく広口壺である。タタキ成形されており、内外面ともにハケで仕上げられる。63は球形の体部をもつ小型の壺である。内面にヘラケズリが施される。64は壺もしくは鉢の底部である。タタキ成形されており、内外面ともにハケで仕上げられる。

65は口縁部を上方に拡張するタタキ成形の甕である。外面はハケで、内面はヘラケズリで仕上げられる。66はタタキ成形の甕である。口縁部内外面に横方向のハケが施される。67は斜め上方に立ち上がる長い口縁部をもった壺である。体部外面はハケで仕上げられる。

68は大型の甕の底部である。タタキ成形されており、内外面ともにハケで仕上げられる。

これらの土器は弥生時代終末期後半のものである。

SK33出土土器（69～71）

SK33からは壺と甕が出土している。69は短い口縁部をもつ広口短頸壺である。70は上方に拡張した口縁部の外面に擬凹線を施す甕である。71はタタキ成形された甕の底部である。これらの土器は弥生時代終末期前半のものである。

SK34出土土器（72）

72の甕の底部が出土している。タタキ成形のものである。

SK36出土土器（73～76）

73の甕の底部が出土している。タタキ成形のものである。74は口縁部端を肥厚させた古墳時代前期の甕である。

75は口縁部端を肥厚させた甕である。外面はハケで、内面はヘラケズリで仕上げられる。古墳時代前期のものである。　76は口縁部端を肥厚させた古墳時代前期の甕である。

SK39出土土器（77）

77は複合口縁をもつ壺である。古墳時代前期のものである。

SK40出土土器（78・79）

SK40からは甕と壺が出土している。78は口縁部を上方に拡張し外面に擬凹線を施す甕である。79はタタキ成形で、内面をヘラケズリで仕上げる壺の底部である。これらの土器は弥生時代終末期前半のものである。

SK41出土土器（80～90）

SK41からは甕と壺が出土している。80は上方に拡張する口縁部をもったなで肩の壺である。口縁部外面には擬凹線を施す。

81は球形の体部に短く屈曲する口縁部のついた甕である。タタキで成形されており、外面はハケ、内面はヘラケズリで仕上げられる。

82は口縁部を上方に拡張し、外面に擬凹線を施す甕である。体部外面はハケで、内面はヘラケズリで仕上げられる。83は口縁部を上方に拡張する甕である。84は外面をハケで仕上げた甕の底部である。85は口縁が水平近くにまで強く屈曲するタタキ成形の甕である。内外面ともにハケで仕上げるが、底部内面にヘラケズリが認められる。

86はくの字形の口縁をもつタタキ成形の甕である。体部内面はハケで仕上げられる。87は丸みを帯びた体部に上方に拡張した口縁部がつく甕である。口縁部外面には擬凹線が施される。体部は外面をハケで、内面をヘラケズリで仕上げる。88は口縁端部を上方につまみ上げる甕である。

89は口縁端部を上方に拡張し、外面に擬凹線を施した甕である。90はタタキ成形の甕の底部である。外面はハケで、内面はヘラケズリで仕上げられる。

これらの土器は弥生時代終末期後半のものである。

SK42出土土器（91～94）

SK42からは甕と壺が出土している。91はくの字形の口縁のついた甕である。外面はハケで、内面はヘラケズリで仕上げられる。92は口縁部端をつまみあげる壺の口縁部である。93は口縁部を肥厚させた壺の口縁部である。94は口縁部の端を上方に拡張した甕である。体部は内外面ともにハケで仕上げる。

これらは弥生時代終末期前半のものである。

SK45出土土器（95～105）

95～97は球形の体部に端部を肥厚させた口縁部がつく布留甕である。外面はハケで仕上げ、内面はヘラケズリで仕上げる。

98は平底の体部にくの字形の口縁がつく甕である。体部外面上半をヘラケズリし、ハケで仕上げる。99は上方に拡張した口縁部の外面に擬凹線を施す甕である。100は上方に拡張する口縁部をもつ甕であ

り、外面をハケ、内面をヘラケズリで仕上げる。101は高杯の脚部である。

これらの土器は弥生時代終末期後半～古墳時代前期のものである。

102は球形の体部にやや内湾気味に立ち上がる口縁部をもつ布留甕である。外面をハケ、内面をヘラケズリで仕上げる。103は口縁端部を上方につまみ上げる甕である。

これらの土器は古墳時代前期のものである。

104は偏球形の体部に長く外反する口縁部がつく直口壺である。105は上方に拡張する口縁部の外面に擬凹線を施す甕である。

これらの土器は弥生時代終末期前半のものである。

SK46出土土器（106）

SK46からは甕が出土している。106は球形の体部に端部を肥厚させた口縁部がつく布留甕である。外面はハケで、内面はヘラケズリで仕上げる。古墳時代前期のものである。

SK47出土土器（107・108）

SK47からは甕と壺が出土している。107は口縁部を上方に拡張するタタキ成形の甕である。内面はヘラケズリで仕上げる。108は球形の体部をもつ小型の壷である。

これらの土器は弥生時代終末期後半のものである。

SK48出土土器（109）

SK48からは甕が出土している。109は球形の体部に短い口縁部がつく甕である。外面をハケ、内面をヘラケズリで仕上げる。

SK49出土土器（110～116）

SK49からは甕が出土している。110は丸底の体部に直立気味に立ち上がる口縁部がつく甕である。外面をハケ、内面をヘラケズリで仕上げる。111は球形の体部に外反する口縁がつく甕である。内面をヘラケズリで仕上げる。

112は球形の体部に短く直立気味に立ち上がる口縁部がつく甕である。外面はハケで内面はヘラケズリで仕上げる。113はやや長胴の体部に長く立ち上がる口縁がつく甕である。外面をハケで、内面をヘラケズリで仕上げる。114は球形の体部に端部を肥厚させた口縁部がつく甕である。外面をハケで、内面をヘラケズリで仕上げる。

115は球形の体部に短く立ち上がる口縁部をもつ甕である。外面をハケ、内面をヘラケズリで仕上げる。116はやや長胴の体部に短い頸部がつく甕である。外面はハケ、内面は上半をユビナデで、下半をハケで仕上げる。

これらの土器は古墳時代前期のものである。

SK50出土土器（117～123）

SK50からは甕と鉢が出土している。117は口縁部を上方に拡張したタタキ成形の甕である。内面はヘラケズリで仕上げる。118も口縁部を上方に拡張するタタキ成形の甕である。口縁部外面には擬凹線を施す。内面はヘラケズリで仕上げる。119も口縁部を上方に拡張するタタキ成形の甕である。内面はハケで仕上げる。

120はタタキ成形の有孔鉢である。内面をヘラケズリで仕上げる。121は口縁部を上方につまみ上げて拡張したタタキ成形の甕である。口縁部外面に擬凹線を施す。内面はヘラケズリで仕上げる。

122はタタキ成形の甕である。外面はハケでタタキ目をナデ消し、内面は体部上半をハケで、下半を

ヘラケズリで仕上げる。123はタタキ成形の甕である。

これらの土器は弥生時代終末期後半のものである。

SK51出土土器（124・125）

SK51からは高杯が出土している。124は水平方向から強く明瞭に屈曲する杯部をもつ高杯である。125は椀形の杯部をもつ高杯である。

これらは古墳時代前期のものである。

SK52出土土器（126～129）

SK52からは甕が出土している。126は口縁部を上方に拡張するタタキ成形の甕である。内面をハケで仕上げる。127は球形の体部に短く直立気味に立ち上がる口縁部のついたタタキ成形の甕である。128は口縁部をわずかに拡張し、外面に凹線を施すタタキ成形の甕である。内面はヘラケズリで仕上げる。129は口縁部外面に擬凹線を施す甕である。内面はヘラケズリで仕上げる。

これらの土器は弥生時代終末期後半のものである。

SK55出土土器（130～132）

SK55からは甕が出土している。130・131は口縁部端を肥厚させた球形の体部をもつ甕である。外面をハケ、内面をヘラケズリで仕上げる。132は単純なくの字形の口縁部である。これらの土器は古墳時代前期のものである。

SK56出土土器（133）

SK56からは甕が出土している。133は口縁部を上方に拡張する甕である。内面はヘラケズリで仕上げる。弥生時代終末期のものである。

SK57出土土器（134～138）

SK57からは甕と器台が出土している。134は口縁部を上方に拡張して外面に擬凹線を施した甕である。外面をハケで、内面をヘラケズリで仕上げる。135は長くのびる口縁部をもつ甕である。136は甕の底部である。

137・138は鼓形器台である。

これらの土器は弥生時代後期末～古墳時代前期のものである。

SK58出土土器（139）

SK58からは壺が出土している。139は短い頸部に外反し、端部を上方に拡張して擬凹線を施す口縁部がつく広口壺である。内面はハケで仕上げる。

この土器は弥生時代後期末のものである。

2．溝出土の土器

SD37出土土器（140）

SD37からは壺が出土している。斜め上方に直線的に立ち上がり、端面に刻み目を施す直口壺である。弥生時代終末期のものである。

3．包含層出土の土器

包含層からは壺と甕（285～293）が出土している。285は口縁部端部を下方に拡張し、端面に凹線を施し、竹管文を押圧した円形浮文を貼付する壺である。286は直線的に立ち上がる口縁部をもつ壺であ

る。287は斜め上方に立ち上がる口縁部をもつ甕である。288～293は単純なくの字形の口縁部をもつハケ仕上げの甕である。これらの土器は弥生時代後期末～古墳時代前期のものである。

4．小　結

板井寺ヶ谷遺跡出土の弥生時代～古墳時代の土器はいずれも弥生時代後期末～古墳時代前期に属するものである。出土土器の大半は甕が占め、壺・高杯・鉢等の通常の集落遺跡から多量に出土する器種は極めて少ない。

出土遺物は大きく、弥生時代後期末、弥生時代終末期（庄内式並行期）前半、同後半、古墳時代前期（布留式並行期）の4時期に分けられる。以下、特徴的な甕の変遷で各時期の特色を素描しておく。

弥生時代後期末は口縁部端を上方に拡張し擬凹線を施すタタキ甕が主体となる。口縁部の拡張は概して小さく、拡張は口縁部をつまみ上げる程度である。外面のタタキ目は丁寧にナデ消される。

弥生時代終末期前半には口縁部を大きく上方に拡張し、完全な複合口縁をなす山陰・北陸系のものが主体となり、外面には擬凹線が施される。外面のタタキ目は丁寧にナデ消される。弥生時代終末期後半は畿内の伝統的Ⅴ様式系の単純くの字口縁タタキ甕、及びこれと在地の丹波丹後系の複合口縁甕の折衷甕が主体となる。古墳時代前期には完全に在地色は払拭され、畿内系の布留式系の甕が主体となる。

以上のように、擬凹線を多様する丹後丹波系の土器→複合口縁化した山陰北陸系の土器→畿内系の伝統的第Ⅴ様式系の土器→畿内系の布留式系の土器、という変遷をおうことができる。篠山盆地は畿内に地理的に近く、丹波北部や丹後と比較して、タタキ成形が多用されること、畿内系土器の浸透が弥生時代終末期後半から見られることなどが特徴である。

第2節　古墳時代の土器

土器の編年・時期については、田辺昭三氏の「陶邑」に関する編年を援用することとする。なお、各土器の法量・調整等については後述の一覧表を参照頂きたい。

1．遺構出土の土器

SD05出土土器（141～151）

出土土器は6世紀後半代から7世紀代に属するものであり、そのうち図化できたのは12点である。

a．杯（141～146）：図版58のレイアウトは杯蓋と杯身のセット関係を示すものではなく、編年的には144・142・141と145・146の順に並べることができる。143については蓋とするより鉢等他の器種となる可能性がある。144がMT15型式であり、最新となる146がTK217型式に並行する。

b．有蓋高杯（147）：杯蓋であり、TK10型式に編年される。器高は高いが、口縁部は丸くなる。ツマミは低く、中窪みの型式となる。天井部内面に当て台の痕跡（拓影）を残したままである。

c．高杯（148・149）：長脚となる148は、脚部外面に横方向の刷毛目を残す。裾端部が小さく垂下しており、TK43型式となる。149は短脚となるものであり、裾端部は内傾して比較的大きく垂下する。前者より後出のTK209型式である。いずれも杯部を欠損する。

d．土師器鉢（150）：体部が僅かに内湾しながら開き、口縁部は器壁を薄くした後小さく外湾して納まる。平底の底部は少し上げ底となる。内面の下半には縦方向の刷毛目を残す。

e．甕（151）：口縁部はくの字形に外反する。端部は、内傾する狭い平坦面となって納める。体部外面の頸部以下には縦あるいは横方向の刷毛目を施し、頸部内面には横方向の板目調整が残る。

SB02出土土器（153）

図化できたのは、須恵器平瓶（153）1点のみである。

a．平瓶（153）：肩部の一部を欠損するが、膨らみをもつ器高の高い形態になると想定される。小さな平底をもち、肩部には1条の浅い沈線が巡る。頸部は短く、口縁部との間に小さな段を成し、口縁端部は僅かに外湾して納まる。

SD37出土土器（154）

須恵器の大型甕154を図化した。TK43あるいはTK209のいずれかの型式になるものと思われる。

a．甕（154）：外面肩部に櫛書きによる沈線を数条巡らす。口縁部は緩やかに外反しながら開き、端部は上下に肥厚して狭い垂直面をなす。口縁部外面は上段から3条・1条の沈線帯により3分割され、2段目および3段目に狭まれた区画に、櫛書きの波状文が巡る。また、口縁端部の垂直面にも同様の文様を施す。

2．包含層出土の土器（294～303）

包含層内からは6世紀代に属する土器が出土している。ここに報告するのは、主に須恵器である。

a．杯（294～299）：杯蓋の294・295は天井部と口縁部の境の段が丸味をおびているが、口縁端部に段をもつことからMT15型式となる。296・297は両方の段が完全に消滅しているため、TK43型式とすることもできるが、杯身となる可能性もあり、その場合にはTK217型式となるものである。299はTK10（新）型式の杯身の破片であり、298はTK217型式となる杯蓋であるが、杯蓋296・297に伴う杯身とすることもできる。その場合には、TK43型式となる。

b．高杯（300）：短い脚柱部の中央外面に1条の沈線が巡る。裾部は水平に開き、その端部は垂下して外開きの狭い面をなす。TK43型式である。

c．台部（301）：台付き壺・甕の台部あるいは器台の台部と考えられる。裾端部近くの外面に大きな段を成し、裾端部は水平な狭い面となって、内側に小さく肥厚する。

d．𤭯（302）：底部と口縁端部を欠損する。胴部最大径部の外面に櫛目を施し、その直上に1条の沈線を設ける。口縁部中央の外面にも1条の沈線が巡り、口縁端部へは段をもって移行する。

e．甕（303）：口縁部のみである。口縁部は緩やかに外湾しながら大きく開いた後、小さな突帯を境として、端部に向かって内湾しながら立ち上がる。口縁端部は小さな水平面をなし、外側に小さく肥厚する。突帯以下の外面は2条の沈線帯によって二分割され、それぞれに方向の異なる篦書き斜線文を施す。端部外面には垂直方向の篦書き線文が巡る。

3．表面採集・出土地不明の土器（539～543）

a．横瓶（539）：俵形の胴部に、緩やかに外湾しながら開く口縁部が付く。口縁端部は内外に小さく摘むことにより、中央部の窪んだ内傾する端部となる。胴部外面は丁寧にナデられる。

b．甕（540・541）：540の口縁部は外湾しながら、比較的大きく開く。口縁端部は上下に小さく肥厚させ、外傾する垂直面をなす。胴部外面は横方向にナデ、内面には同心円文を留める。頸部以下を欠損する。541も口縁部は外湾しながら開き、口縁端部を摘んで内側に小さく肥厚させる。胴部

外面には平行叩きを、内面には同心円文を残す。胴部以下を欠損する。

c．甕（542）：底部と口縁部は欠損する。肩の張った胴部には2条の沈線を回し、その間にカキ目を施す。口縁部外面には波状文の痕跡を看取できる。

d．短頸壺（543）：胴部は扁平な算盤玉形となり、その肩部に1条の沈線を巡らす。口縁部は直立して、丸く納める。

第3節　律令期の土器

1．旧河道・包含層出土の土器（304～327,340～365,496～507）

8世紀の後半から9世紀代、特にその前半代に属する土器が大勢となる。土器の型式・器種分類および編年については、奈良国立文化財研究所の基準に従うこととし、「平城Ⅰ型式」・「杯A」といった記述方法とする。また、そこに示されていない独自の器種についてはその固有の名称を使用することとする。

なお、各土器の法量・調整等については、古墳時代の土器同様、後述の一覧表を参照いただきたい。また、器高指数を基にした細分をみると、坏Aは平城宮土器型式のⅣ型式の範疇におさまるものであり、ⅢAは329のみがⅡ型式となるが、他はⅠ型式とⅡ型式との中間の指数となる。坏Bは、350・351の2点を除いてすべてがⅣ型式に属するものとなる。このようにみると、本遺跡の土器構成は基本的に一法量からなる土器で形成されていることとなる。例外的にみられる数点に関しては、他地域産の搬入品の可能性を考えるべきかもしれない。ほぼ単一組成の土器様相から推察して、本遺跡は法量の変化を必要としない性格の遺跡であり、非官衙的色彩の強い集落遺跡として捉えることができる。

a．杯A（316～327）：平城Ⅲ型式となるのは、体部の内湾する316と外反気味となる317である。平城Ⅳ型式にも体部に同様の形態差がみられ、前者となるのが319・326であり、後者となるのが318である。前型式よりも体部の開きが若干大きくなる。平城Ⅴ型式になると口縁の開きがさらに大きくなり、器高指数が低下する。形態的には、体部が僅かに内湾した後に外反する320・321・323・324と直線的にのびる325がある。平城Ⅵ型式にもⅤ型式と同様の体部形態の違いがみられ、前者の形態に続くのが322であり、後者が327となる。口径・器高とも前型式より一回り大きくなる。

b．杯B（304～315・340～351）：杯蓋では平城Ⅱ型式となるのは304のみである。天井部は広く、外湾しながら口縁部へと続き、その端部は比較的長く垂下する。平城Ⅲ型式になると、天井部から口縁部への外反がなくなり、口縁端部は断面三角形となって下方に肥厚して納まる305・307～309と、口縁部が大きく屈曲してその端部を肥厚させる314・315の2形態が看取できる。後者の型式は器高が非常に低くなる。平城Ⅴ型式になるとツマミがなくなる。310・311は器高が非常に低く、口縁端部は小さく肥厚して納まる。312は器高が高く、口縁部に大きな段をもつ形態となる。313は口縁端部の肥厚がなくなり、外湾気味に丸く納まる形態となる。一応、平城Ⅵ型式に相当するものとしておきたい。杯身で平城Ⅱ型式に対応するのは342である。底体部境が斜めに削られ、外開きの長い高台が付く。口縁端部は小さく外湾して納まる。平城Ⅲ型式には340・341・343があたる。体部の形態は340が直線的に開き、343がかなり外湾しながら開き、341がその中間の形態となる。次に、344～347が平城Ⅳ型式となる。口縁端部のみが小さく外湾する344、僅かに内湾気味となる345、直線的に開く347といった3形態がみられる。平城Ⅴ型式は349のみであり、体部は直線的に大きく

開く。底部も落ち込む形態となる。348は口縁端部が小さく外湾し、高台底面の中央部が浮き上がり、平城Ⅲ型式となる。350は外湾気味となり、351は直線的に開く。350の体部外面には１条の擬沈線が巡るが、こらは粘土紐の接合に伴う窪みの痕跡と思われる。いずれも、平城Ⅳ型式となる。

d．稜椀（352～354）：353・354が平城Ⅳ型式に属する。体部は湾曲しながら開いた後、明確な稜をなして口縁部が外湾する。354の口縁端部内面には、丹波型稜椀特有の沈線が１条巡る。352は平城Ⅴ型式となる。体部・口縁部の形態は前者と同様であるが、稜が不明確となり、体部全体の開き方が大きくなる。

e．皿C（355・356）：平城宮の器種分類には同器種のものは見あたらないが、最も近い器種ということで、一応「皿C」として報告する。明確に型式決定ができないため、形態の特徴のみ記述する。355は口径が7.1cmの小型品であり。口縁部がくの字に外反する。一方、356は口径10.6cmの大型品であり、口縁部は緩やかなくの字となって開く。

f．壺C（357・358）：口縁部に大きな歪みを持つ。体部は算盤玉形に大きく張り出し、口縁部は外湾気味に直立する。底部外面に「〆」に似た篦記号が記される。358は若干様相が異なるが、本器種の亜式に含まれるものと考える。体部は球形となり、小さな底部を伴う。口縁部はほぼ直線的に立ち上がる。胴部最大径部の直ぐ上に１条の沈線が巡り、それ以下の胴部外面を不定方向のヘラケズリのままとする。

g．壺A（359・360）：所謂薬壺であり、胴部最大径が体部の約１／３の位置にある。口縁部は小さく外湾して丸く納まる。360は体部下半を欠損するが、359は内付きの高台を伴う。

h．甕（361・362）：361は肩が小さく張り、小さく外反する口縁部の端部は狭い水平面をなして内側に肥厚する。362の口縁部は大きく外湾した後、端部が短く直立して外面に垂直面を形成する。いずれも口縁部だけの残存である。

i．円面硯（364・365）：364は下半部を欠損するが、透かしをもたない無透形態の円脚部となる。陸部と海部には大きな段がなく、それに代わって小さな周堤状の帯が廻る。また、土手部の直下外面にも石鍋の鍔のような断面台形の突帯が巡る。365は陸部のみの資料であるが、陸部の周囲が僅かに高まる形態となる。透かしの有無は判断できない。

j．墨書土器（496～507）：杯A・杯B・皿Aそして破片に墨書を確認することができる。その器種・墨書個所・墨書文字等は表２のとおりである。

番号	器種	型　式	墨　書	墨書位置	形態的特徴	備　考
496	椀B	平城Ⅲ型式	「□」	底部外面	全体の約1/8が残存。口縁端部欠損。	墨書
497	杯B	平城Ⅴ型式	「□ □」	底部外面	底部のみ、約1/4が残存。	墨書
498	杯B	平城Ⅴ型式	「井ヵ」	見込み	底部は完在。口縁部を欠損。	ヘラ書き
499	皿A	平城Ⅳ型式以降	「□」	底部外面	底部を約1/8残す。口縁部は全損。	墨書
500	杯A	平城Ⅳ型式以降	「田 □」	底部外面	底部を約1/8残す。口縁部は全損。	墨書
501	皿A	平城Ⅳ型式以降	「田」	見込み	底部を約1/8残す。口縁部は全損。	墨書
503	杯C	平城Ⅲ型式か	「富ヵ」	見込み	底部が約1/4残存。口縁部は全損。	墨書
505	破片	型式不明	「依ヵ永」		底部の小片。	墨書
506	破片	型式不明	「□」		底部の小片。	墨書
507	破片	型式不明	「□」		底部の小片。	墨書

表２．墨書土器他一覧

2．表面採集・出土位置不明の土器（544～549,551～553）

a．杯A（548・549）：548は口縁端部が外湾しながら開く平城Ⅲ型式であり、549はほぼ直線的に開く平城Ⅳ型式となる。

b．杯B蓋（551～553）：552は器高が高く、口縁部は外湾しながら開き、端部は小さく下方に垂下する。553はⅢAとなることも考えられるが、一応蓋として報告する。ツマミの付かない可能性があり、口縁端部が小さく肥厚する。552とともに平城Ⅲ型式となる。551は著しく扁平となり、口縁端部が小さく肥厚する。平城Ⅴ型式である。

c．杯B（545～547）：546は平城Ⅲ型式であり、高台は高く、口縁部は直線的に開く。547の高台は外付きとなり、直線的に開く口縁部となる平城Ⅳ型式である。545は直線的に開く口縁部の直下に高台が付くことから、平城Ⅴ型式となる。

d．鉢F（544）：底部のみであるが、その外面に現状で5箇所の刺突穿孔を確認できる。

第4節　平安時代から鎌倉時代の土器

1．須恵器

須恵器の土器には、椀・杯・皿・捏鉢・壷・甕がある。とくに椀は、周辺の遺跡と比較しても量的には少なく、当遺跡のなかで主体的な位置を占めていたとは考えにくい。

椀（156～162・182・220・235・250～252・270・367～373・504・554・555）

椀は、ヘラキリ手法と回転糸キリ手法の違いによって二つに大別できる。

ヘラキリ手法を採用した椀は、突出した平高台、内底部に強い段差をもつ一群（156・367～368）と369のように内底部の境の段差が弱いもの、554のように退化した平高台をもつ椀に細分できる。器形は、いずれも体部が内湾し口縁部が外反気味に開く特徴を具備している。

回転糸キリ手法の椀は、退化した平高台をもつ一群（157・158・162・182・250～252・555）と高台をもたない一群（159・160・220・235・270・371～373・504）に分かれる。前者の一群は、口径に占める底径の割合が大きなもの（182・251・252）と小さいもの（157・158・162・250・555）に細分が可能である。いずれも内底部の境に弱い段差をもっているが、平高台をもたない一群は段差がないのが特徴である。また371は、平高台・内底部の段差をもたない後者の一群に比定できるが、器形は前者の特徴を引き継いでいる。両群の中間形態として捉えられる。

皿（163・263）

皿は、底部の切り離しに回転糸キリ手法を用いた小皿が2点出土している。163は口縁部が外反する皿で、263は口縁部が肥厚し、端部を丸くおさめた皿である。

捏　鉢（164・374～380・557～559）

いわゆる東播系須恵器の範疇で捉えることの可能な捏鉢は、口縁端部を僅かに摘み上げた一群（164・374・375・377・558）、口縁部を丸くおさめて屈曲気味に立ち上がる一群（380・559）、口縁部を丸くおさめた一群（378・379・557）、口縁端部を上下方向に拡張し、口縁部に面をもつ一群（376）に大別できる。

壷（387・556）

壷は口縁部が大きく外反し、端部が垂直に立ち上がる（556）と、口縁部が外反し肩部が大きく張り

出した（387）がある。胴部外面には格子叩き、内面には同心円の当具痕跡が残る。

甕（244・381・382・384～386）

244・386は外反し、口縁端部を若干上下方向に拡張した甕である。

381・382・385は口縁端部を上方に摘み上げ、端部外面に面をもつ甕である。タタキが頸部付近まで施されているのが特徴である。

384は口縁端部を折り返した二重口縁の甕である。

2．土師器

土師器は、皿・杯・托・堝・羽釜・甕が出土している。

皿（155・176～180・187・199・200・207・210・218・233・267・278～281・391・584～588）

口径7㎝～9㎝前後の小皿と、14㎝前後の大皿が出土している。技法的には、外面底部に回転糸キリ痕跡を残したロクロ成型の皿と、手捏ね成形の皿に分かれる。

ロクロ成形の小皿は、退化した平高台をもち口縁部が外方に開くもの（176・280・281・391）、平底で口縁部が斜め上方に立ち上がるもの（178・267）、平底で口縁部が短く立ち上がるもの（187・218）がある。

手捏ね成形の皿は、外面に指押さえ整形を施すのが特徴で、口縁部が内湾気味に立ち上がるもの（200・278・584・587）と口縁が短く上方に立ち上がるもの（177・179・210・279・585・586）がある。

これら以外に、高台をもつ特殊な器形の皿（155）がある。こうした器形の小皿は、周辺の調査では瓦器のなかに見ることができ、あるいは瓦器の範疇ないしは模倣で捉えることが可能な皿である。

大皿は、外面体部指押さえ調整の皿（180・199・207）が出土している。

杯（168・198・209・389・390）

外底に回転糸キリ痕を残す口径15㎝前後のロクロ成形の杯である。口縁部が外方に大きく開くもの（168・198・209・390）と内湾する389がある。

托（181・197・208・231・232・392）

托は、口径10㎝前後、高さ4.5㎝前後の大きさのものが多い。1点のみ口径17㎝をこえる197のような大型の托が見られる。前者の一群は、底部に焼成前に穿たれた穴をもつのが特徴である。底部の切り離しは回転糸キリ手法である。脚台部が括れて大きく開く器形の托（181・208・231・392）が多いが、232のように脚台部が括れず底部から直接外方に開く托も見られる。

堝（171・246・247・260・262・394～424・589）

土堝の出土量は多いが、その多くが破片で全容の明らかなものは少ない。比較的遺存状況の良好な資料を見ると、以下のように大別できる。

1．丸く張り出した胴部で中位に最大径をもち縦位のタタキを施す。口縁部は外反し、端部下端が拡張し面をもつ。171が該当する。

2．下膨れの胴部で下位に最大径をもち、横位のタタキを施す。「く」字状に屈曲した口縁部をもち、端部が外方に拡張する。246・262・396が該当する。

3．丸く張り出した胴部をもち、口縁部は「く」字状に屈曲する。端部を肥厚させ丸くおさめている。417が該当する。

4．丸く張り出した胴部をもち、上位に最大径をもつ。斜位のタタキを施す。口縁部は直立し、端

部は外反する。397が該当する。

5．張りのない胴部をもつ。口縁部は直立気味に外反し端部は肥厚する。260・398が該当する。

これら以外に、口縁部の特徴から分類が可能なものがあるが、破片であるためここでは言及しない。ただ589は土堝の一群のなかでは時期的に降る資料である。

羽釜（201）

201は羽釜の破片である。

甕（202・590）

202は、口縁部が「く」字状に鋭く屈曲する甕である。590は口縁端部がわずかに肥厚し、面をもつ甕である。

3．黒色土器

椀（264・276・426・439・441）

内黒のA類と内外面黒色のB類の両者がある。

A類は口径12cm前後の椀（439）が出土している。内外面にミガキの痕跡が残る。

B類は椀と皿が出土している。椀は輪高台をもつ441と平高台をもつ一群に大別でき、黒色土器椀の多くが後者の一群に属する。

平高台の椀は底径／口径値の大きな椀（276）と小さな椀（264・426）に細分できる。

前者の口径は15.6cm、後者のそれは14.4cmと前者の椀が大振りである。後者の一群は須恵器椀を模倣したタイプと理解している。

皿（183・245・277・458）

皿は口径10cm前後の平底の小皿が出土している。これも椀と同様に底径／口径値の大きな277と小さい183・458、その中間にあたる245がある。

4．瓦　器

瓦器は、椀と皿が出土している。出土した土器の中でも量的に多く、当遺跡のなかで使用頻度の高い土器といえる。

椀（165～167・172～174・184・188～194・204～206・211・213・221～224・257・258・271～273・427～438・440～445・562～564）

椀は、内外面に暗文を施すものと、外面に暗文を施さないものに大別できる。

内外面に暗文を施す椀は、高台部の断面形が台形状を呈する一群と、三角形を呈する一群がある。前者の一群は口径が14cm～16cm前後と大きさに幅がある。165・174のように口縁部が内湾する椀と直立気味に立ち上がる椀（427）がある。

高台部の断面形が三角形の椀は、166・167・188・204～206・221・258・430・431が該当する。この一群の椀は、口径15cm前後の大きさがほとんどであるが、258・430のように口径が13cm前後のものもある。口縁部は内湾して立ち上がる椀が多いが、221と258は外反する。258は退化した高台をもつ。

外面に暗文を施さない椀は、出土瓦器椀のなかで最も多いタイプの一群である。すべて高台部の断面形が三角形を呈するタイプの椀であるが、高台部が退化した一群も認められる。173・184・189・429・432～435・562・563がしっかりとした断面三角形の高台をもつ椀である。退化した高台の椀は、172・

211・436・437・564が該当する。前者の一群は、口径が12～14cm前後と幅があるが、多くは13～14cm前後の大きさにおさまる。器形からみれば、口縁が外反して立ち上がる173・184・429・433・563と内湾して立ち上がる189・432・434・435・562に細別できる。後者の一群は口径が11～13cm前後と、前者のそれに比べ総じて小振りになる傾向がある。前者と同様口縁部の立ち上がりが内湾するもの（211・437・564）と外反するもの（172・436）がある。

内面底部に施される暗文はジグザク文が圧倒的に多いが、445のように交差させた暗文もみられる。

皿（175・195・196・226～230・238・259・274・275・446～457）

皿は底部が丸底のものと平底状のものに大別できる。

丸底の一群は195・226～230・259・274・446・447・456・457が該当する。口径は8cm前後の大きさである。口縁部の立ち上がりは内湾するものが多いが、229・446・259・274は口縁部を上方もしくは外方に摘み上げている。

平底状の一群は、175・196・238・275・448～455が該当する。口径は9cmを超える皿が多く、丸底の一群よりも大振りである。口縁部の立ち上がりは、前者の一群とは逆で、外反もしくは外傾する皿が多くなる。この範疇には450のように垂直方向に口縁部を摘み上げた皿も含まれる。

5．緑釉陶器

緑釉は椀と皿が16点出土している。内訳は椀が14点、皿が2点である。柱穴内より出土した268の皿を除き、全て包含層から出土している。

椀（508～511・513～521・566）

底部のみの破片が多く全容は明らかではない。高台内に部分的に釉を施すもの（508・509・510・513・521）、高台内無釉の一群（514・515・517・520）、高台内まで釉が及ぶ一群（516・518・519・566）がある。511は輪花椀である。

皿（512・522）

512は、輪花皿である。高台内には部分的に釉が施される。

508・509の椀、512の皿は京都系、また513・514・515の椀は近江系の範疇と考えられる。出土した緑釉の一群は、9世紀後半～10世紀代のものである。

6．国産陶磁器

中世段階の丹波、瀬戸・美濃と近世の肥前磁器が出土している。とくに丹波焼はSD03より中国製磁器（太宰府分類：白磁Ⅳ類）、須恵器甕とともにまとまって出土している。

丹　波（239～243）

壷（240）、甕（241・242）と鉢（243）が出土している。いずれも破片で全容が明らかなものはない。胎土、甕口縁部の形から三本峠段階の製品と理解している。239の土堝は、仕上がりが非常に硬質である。丹波焼三本峠北窯出土の堝と近似しており、同窯ないしは周辺の窯で生産された可能性がある。

瀬戸・美濃系（282・523～532）

椀・皿・壷・鉢が出土している。柱穴内より出土した282の天目茶椀を除き、すべて包含層から出土したものである。

282・523～528は、天目形の椀である。灰釉が施された527を除き、鉄釉が施されている。

529は、内面にヘラ彫りの花文が施された所謂菊皿である。531は格子状の卸目をもつ卸皿である。

530は櫛描きによる4条の条線を胴部に巡らした四耳壷の破片と考えられる。532は、内面体部下半が無釉の鉢である。

肥前磁器（581・582・583）

近世の紅皿（581）と白磁の小杯（582・583）が出土している。

7．中国製磁器

白磁と青磁が出土している。

白磁

白磁は椀と皿がある。

476は口縁部に小さな玉縁をもつ椀である、大宰府分類のⅡ－1類と理解している。477はⅡないしはⅢ類と考えられる。215・484～488はⅣ－1類、478・574はⅣ類の範疇におさまると理解している。481は内面に櫛描き文を施す椀で、Ⅴ－2b類であろうか。490・491・576はⅤ－4類である。482は口縁端部無釉のⅨ類である。

皿は493～495が該当する。493は内面に目跡を残し、494・495は内面を輪状に釉を掻きとっている。

青　磁

青磁は椀と皿が出土している。櫛描き文を特徴とする同安窯系と片彫りの蓮弁文等を特徴とする龍泉窯系がある。

龍泉窯系の椀は、外面に鎬蓮弁文をもつⅠ―5b類（459～461）と内外面に蓮弁文を施す462・467・470のⅠ－2a類がある。これら以外に、236のⅠ－6b類、内面に花文をもつ469・471の椀がある。

同安窯系の椀には468のⅢ－1a類、572のⅢ－1c類がある。皿は473～475のⅠ－1b類が出土している。

9．遺構と遺物

遺構から出土した土器は、掘立柱建物跡の廃絶時もしくはそれ以後に、何らかの理由で柱穴内および雨落ち溝に投棄されたものと、墓壙内に埋置されたものである。ここでは、掘立柱建物跡出土の土器について概観する。

掘立柱建物跡のSB05より出土した156～170の土器群は、P363の柱穴内より単独で埋置されたような出土状況、あるいはP396のようにまとまって投棄された出土状況を呈するものがある。P396出土の159・160の須恵器は、東播系須恵器の分類・編年観によるとⅡ期段階に相当し、12世紀中葉から13世紀初頭の年代が考えられる。166の瓦器椀は、内外面に施された暗文の状況から、須恵器椀よりは多少古い様相を示す。また、P429出土の須恵器椀（158）・瓦器椀（167）もP396の年代観と矛盾しない。また、須恵器椀（156）は、底部の切り離しにヘラキリ手法を用いた円盤高台の椀である。10世紀代まで遡る可能性のある椀である。

SB06柱穴内より出土した172・173の瓦器椀は、外面の暗文が消え、内面の暗文の密度も粗く、SB05出土の瓦器椀よりは新しい様相を示している。

SB08の雨落溝からはまとまって土器が出土している。190～194の瓦器椀が目立つが、摩滅が著しく暗文の状況は不明瞭である。193・194の瓦器椀は、外面の暗文の状況は不明であるが、内面の暗文は、

密度が高い。SB08柱穴内出土の瓦器椀（188）などを考慮すると、SB05出土の瓦器椀の範疇に収まると推定している。また、203の須恵器椀は、椀というよりは杯に近く、SB05出土の椀よりは新しい様相をもつが、東播系須恵器編年のⅡ期段階の範疇におさまる。

掘立柱建物群より出土した土器のうち、同時性の比較的高いと判断される土器を抽出し、概観した。出土した土器の年代は、おおよそ12世紀中葉前後から13世紀前半代におさまると理解している。そして板井寺ケ谷遺跡中世集落の主たる時期は、この年代幅と考えている。

参考文献

森田　稔　1986　「東播系中世須恵器生産の成立と展開－神出古窯址群を中心に－」『神戸市立博物館研究紀要』3　神戸市立博物館

橋本久和　1980　「高槻における中世土器の編年」『上牧遺跡発掘調査報告書』高槻市教育委員会

表３．弥生時代～古墳時代の土器観察表

残存率凡例　A：良好　B：良好な部分が少ない　C：やや不明瞭　D：やや不明瞭な部分が少ない　E：不明瞭　F：全く不明

番号	出土場所	器種	法量	形態	手法	色調	胎土	残存率		備考
								口縁	器表	
1	SK01	甕	口径15.7 体径18.1	口縁部は鋭く屈曲して広がり、さらに直立してのびる。端部は丸い。体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。口縁部外面にかすかに擬凹線文が残る。体部外面は刷毛（5 7条/cm）。体部内面下半は縦方向（下→上）の篦削り、上半は横刷毛（８条/cm）のち横方向（左→右）の篦削り。	外　浅黄橙（10YR8/3）灰黄褐（10YR5/2）内　灰白（10YR8/2）にぶい黄橙（10YR7/3）	石英・長石・チャート・赤色粒を多く含む。	1/2	外D 内D	体部外面に煤付着。
2	SK01	鉢	器高24.0 口径30.7 体径28.8 底径 7.3	口縁部はやや内湾してのびる。端部は平坦。体部は上位に最大径をもつ。底部はやや突出した平底。	口縁部は内外面ともヨコナデ、体部外面は磨きと思われる。体部内面上半は横方向（右→左）の篦削り、下半は縦方向（下→上）の篦削り。	外　浅黄橙（10YR8/3） 内　にぶい黄橙（10YR7/2）	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/2	外E 内D	体部外面中位に黒斑。
3	SK01	底部（壺?）	底径 8.3	底部は平底。体部は直線的に横上方にのびる。	体部外面はタタキ。内面はナデと思われる。	外　にぶい橙（5YR7/4） 内　にぶい橙（5YR7/4）	長石・チャート・赤色粒を多く含む。	－	外F 内F	
4	SK02 下層	甕	器高20.8 口径15.2 体径16.9 底径 3.0	口縁部は鋭く屈曲して広がり、さらに外反してのびる。端部は丸い。体部は長胴形で上半に最大径をもつ。底部は平底。	口縁部は内外面ともヨコナデ。外面に擬凹線４条めぐる。体部外面はタタキ（３条/cm）のち横刷毛、底部付近は縦刷毛（６条/cm）。内面上半は刷毛（８条/cm）のちヨコナデ、下半は縦方向（上→下）の篦削り。底部は刷毛。	外　灰白（10YR8/1） 内　浅黄橙（10YR8/3）	長石・石英を少し含む。	1/4	外B 内C	口縁～体部外面に煤付着。
5	SK05	甕	口径23.4	口縁部は鋭く屈曲して広がり、さらに外上方にたちあがる。端部は丸い。体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。外面に擬凹線２条めぐる。体部外面はタタキ（３条/cm）のち縦刷毛（８条/cm）、内面は横刷毛（８条/cm）。	外　橙（5YR7/6） 内　橙（5YR7/6） 淡黄（2.5Y8/3） 黒（7.5YR1.7/1）	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/3	外C 内D	口縁～体部外面に煤付着。
6	SK05	甕	体径17.3 底径 4.2	体部は長胴形。底部は平底。	体部外面は縦刷毛（７条/cm）、下端はヨコナデ。内面は不明。	外　橙（2.5YR7/6） 灰褐（7.5YR4/2） 内　にぶい黄橙（10YR7/4）	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	－	外D 内E	体部外面に煤付着。 体部下半内面に黒褐色の付着物。
7	SK07 下層	甕	口径16.6	口縁部は外反して広がり、外側から厚みを減じてやや上方にのびる。端部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。	外　浅黄橙（10YR8/3） 内　淡黄（2.5Y8/3）	石英・長石・黄土色粒を少し含む。	1/4	外B 内D	口縁～体部外面に煤付着。
8	SK07 下層	甕	体径19.5 底径 2.8	体部は長胴形。最大径は上位にある。底部は突出ぎみの平底。	体部外面は縦刷毛、斜め方向の刷毛（９条/cm）を密に施す。内面は縦方向、斜め方向（下→上）の篦削り。底部外面は刷毛と思われる。	外　灰黄褐（10YR4/2） にぶい黄橙（10YR7/3） 内　灰黄（2.5Y7/2）	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	－	外C 内C	体部～底部外面に煤付着。 体部下半～底部内面に褐色の有機物。
9	SK08 下層	甕	口径20.0	口縁部は大きく外反して広がり、さらに直立してのびる。端部はやや鋭い。体部は直線的。	口縁部は内外面ともヨコナデ、外面に擬凹線２条めぐる。体部外面は縦刷毛（７条/cm）、内面は横方向（右→左）の篦削り。	外　浅黄橙（10YR8/3） 内　浅黄橙（10YR8/3）	やや粗い石英・長石・チャートを少し含む。	1/7	外C 内D	口縁部外面に煤付着。
10	SK08	底部	底径 4.2	底部は突出しない平底。体部は直線的に上外方にのびる。	体部外面はタタキのち縦刷毛（９条/cm）、内面は縦方向（下→上）の篦削り。	外　灰黄褐（10YR6/2） 内　褐灰（10YR4/1）	石英・長石・チャート・赤色粒を多く含む。	－	外D 内D	体部下位内面にこげ状の黒褐色付着物。

番号	出土場所	器種	法量	形態	手法	色調	胎土	残存率		備考
								口縁	器表	
11	SK11 下層	高杯	口径27.6	口縁部は鋭く外反して広がり、さらに外上方にたちあがる。端部は丸い。杯部は内湾する。	口縁部外面に擬凹線3条めぐる。他は不明。	外　赤橙 (10R6/8) 内　赤橙 (10R6/8)	石英・チャートを少し含む。	1/2	外F 内F	
12	SK11	壺	口径11.5	口頸部は外反して外方に開く。端部は丸い。	内外面とも不明。	外　明黄褐 (10YR7/6) 内　橙 (5YR6/8)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/4	外F 内F	
13	SK11	底部	底径 4.0	底部は平底。	体部外面は右斜め上方のタタキ（3条/cm）、内面はナデと思われる。	外　淡黄 (5Y8/3) 内　淡黄 (5Y8/3)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	－	外D 内E	
14	SK11	壷	口径14.6	口縁部はやや外反して外上方に開く。端部はやや上方にのびてやや尖る。	口縁部は内外面ともヨコナデ。	外　褐 (7.5YR4/3) 内　淡黄 (2.5YR8/3)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/8	外C 内F	口縁部外面に煤付着。
15	SK11	底部 (甕)	底径 3.4	底部はやや丸味をもつ。底部は平底。	体部外面は縦刷毛（7条/cm）、内面は縦刷毛または板ナデ。	外　灰黄褐 (10YR5/2) 内　にぶい黄橙 (10YR7/2)	長石・チャート・赤色粒・黒色粒を少し含む。	－	外C 内D	体部外面中位に煤付着。
16	SK13	底部 (甕)	底径 5.1	底部は突出しない平底。体部は内湾しながら外上方にのびる。	体部外面はタタキ（5条/cm）のち縦刷毛または板ナデ（4条/cm）。内面は縦方向（下→上）の篦削り。底部外面は刷毛（板ナデ）。	外　にぶい黄橙 (10YR6/3) 内　灰白 (5Y8/1)	やや粗い石英・長石・チャート・赤色粒を多く含む。	－	外D 内D	体部下位外面に黒斑。
17	SK13	底部 (壷)	底径 3.8	底部は突出した平底。体部は丸味をもつ。	体部外面は縦方向（下→上）の幅の広い磨き、内面はヨコナデのち横刷毛（4条/cm）。底部は篦削りと思われる。	外　灰黄褐 (10YR4/2) 内　灰白 (5Y8/1) 黒 (10YR1.7/1)	石英・長石を少し含む。	－	外A 内B	体部外面に煤付着。
18	SK13	底部 (甕)	底径 4.0	底部は平底。体部は直線的に外上方にのびる。	体部外面は縦刷毛（8条/cm）、内面は不定方向の板ナデ。	外　灰褐 (7.5YR5/2) 内　灰褐 (7.5YR5/2)	石英・長石・赤色粒を少し含む。	－	外E 内E	
19	SK13	甕	口径17.4	口縁部は鋭く屈曲して外方に広がり、さらに直立してのびる。端部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。外面に擬凹線3条めぐる。	外　灰白 (2.5YR8/2) 内　灰白 (2.5YR8/2)	石英・長石・チャートを少し含む。	1/4	外C 内B	口縁部外面に煤付着。
20	SK13	甕	口径17.0	口縁部はやや内湾して広がり、さらに外反してのびる。端部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。	外　にぶい橙 (5YR7/4) 内　浅黄橙 (7.5YR8/4)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/4	外F 内F	
21	SK13	鉢	口径18.0	体部は内湾し、上半は外反する。口縁端部はやや鋭い。	不明。	外　浅黄橙 (7.5YR8/4) 内　浅黄橙 (7.5YR8/4)	石英・長石・赤色粒を少し含む。	1/6	外F 内F	
22	SK13	底部	底径 3.2	体部は丸味をもつ。底部は平底。薄いつくりである。	体部外面は縦刷毛（8条/cm）、内面は縦方向（下→上）の篦削り、不定方向のナデ。	外　にぶい褐 (7.5YR5/3) 内　浅黄橙 (7.5YR8/3)	石英・長石・チャート・赤色粒を多く含む。	－	外B 内C	体部外面に煤付着。
23	SK13	甕	口径18.8	口縁部は鈍く外反して広がり、さらに直立してのびる。端部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。外面に擬凹線4条めぐる。	外　浅黄橙 (10YR8/3) 内　橙 (2.5YR7/6)	石英・長石・赤色粒を少し含む。	1/4	外E 内F	口縁部外面に煤付着。

番号	出土場所	器種	法量	形態	手法	色調	胎土	残存率		備考
								口縁	器表	
24	SK13	甕	口径16.4	口縁部はやや内湾して広がり、さらに外反してのびる。端部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。	外 にぶい褐 (7.5YR5/3) 内 にぶい褐 (7.5YR6/3)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/4	外D 内D	口縁部外面に煤付着。
25	SK13	壺	体径22.4 底径 4.3	体部上位にこぶ状突起をもつ。1個のみ残存。体部は扁球形。底部は突出した平底で中央部がくぼむ。	体部外面は刷毛と思われる。内面上半はナデ、下半は横刷毛（5条/cm）を丁寧に施す。	外 淡黄 (2.5Y8/3) 内 黄灰 (2.5Y5/1)	やや粗い石英・長石・チャートを多く含む。赤色粒を少し含む。	−	外E 内B	
26	SK13 下層	甕	口径17.2	口縁部は鋭く屈曲して外上方に開く。端部は上下方に拡張し凹面を成す。	口縁部は内外面ともヨコナデ。外面は指オサエ。体部外面は斜め方向の刷毛（7 8条/cm）を密に施す。内面は縦方向（下→上）の篦削りのち頸部付近横方向（右→左）の篦削り。	外 黒 (N2/0) 内 浅黄褐 (10YR8/3) 黒褐 (10YR3/1)	長石・赤色粒を少し含む。	1/4	外B 内C	口縁〜体部外面に煤付着。
27	SK13 下層	甕	口径20.2	口縁部は鋭く屈曲して広がり、さらに上方にたちあがる。端部はやや鋭い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は縦刷毛（8条/cm）、内面は横方向の篦削りと思われる。	外 淡赤橙 (2.5YR7/4) 内 淡橙 (5YR8/3) 褐灰 (10YR6/1)	石英・長石・チャート・赤色粒を多く含む。	1/3	外D 内E	口縁外面に煤付着。
28	SK13 下層	壺	口径14.8	口頸部は屈曲しながら外方へのびる。端部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデで外面に刺突文が5個みられる。頸部外面はヨコナデ、内面は刷毛。	外 淡黄 (2.5Y8/3) 内 淡黄 (2.5Y8/3)	石英・長石・赤色粒を少し含む。	1/5	外B 内D	
29	SK13 下層	底部	底径 3.9	底部は凹面を呈する上げ底。体部は長胴形と思われる。	体部外面は縦刷毛（6条/cm）。内面は縦方向（下→上）の篦削り、下位は指オサエかナデと思われる。底部外面は刷毛。	外 淡橙 (5YR8/4) 内 浅黄橙 (7.5YR8/3)	長石・チャートを多く含む。赤色粒を少し含む。	−	外C 内E	体部中位外面に煤付着。
30	SK14	甕	口径16.2	口縁部は鋭く屈曲して外方に開く。端部は平面を成し、部分的に外面に肥厚する。体部は丸味をもつ。	口縁部外面はヨコナデ、内面は横刷毛（7条/cm）。体部外面はタタキのち縦刷毛(10条/cm)、内面は縦方向（下→上）の篦削り。	外 淡黄 (2.5Y8/3) 内 淡黄 (2.5Y8/3)	石英・長石・チャートを少し含む。	1/2	外B 内C	口縁〜体部外面に煤付着。
31	SK16	甕	器高18.4 口径15.0 体径20.0	口縁部はやや屈曲しながら外方に開く。端部は若干外反し、丸い。体部は球形に近い。底部は丸底。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は横刷毛のち縦刷毛（6 7条/cm）のちナデ。内面上半は横方向（右→左）の篦削り、下半は指オサエのちナデ。	外 淡橙 (5YR8/3) 橙 (2.5YR7/6) 内 灰白 (10YR8/2)	石英・長石・赤色粒を少し含む。	1/3	外D 内C	体部外面に煤付着。
32	SK16	壺	器高21.5 口径15.7 体径21.6 底径 4.6	口縁部は外反しながら広がり、屈曲して外上方へ開く。端部は丸い。体部は扁球形。底部は突出するが、中央がやや凹んでいる。	口縁部は内外面ともヨコナデ。外面に弱い擬凹線4条めぐる。体部外面は篦磨き、底部付近は縦方向の篦磨き。内面は調整不明。	外 淡黄 (2.5Y8/3) 浅黄橙 (10YR8/3) 内 灰白 (2.5Y8/1) 黒 (2.5Y2/1)	石英・長石・チャート・赤色粒を多く含む。	1/12	外D 内E	体部外面下位に黒斑。
33	SK16	壷	口径10.8	口縁部は短く外反し、端部は丸い。体部は扁球形になるものと思われる。	外面は不明。口縁部内面はヨコナデ。体部内面は刷毛と思われる。	外 明黄褐 (2.5Y7/6) 内 灰白 (2.5Y8/2)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/2	外F 内E	

番号	出土場所	器種	法量	形態	手法	色調	胎土	残存率		備考
								口縁	器表	
34	SK16	底部	底径 4.8	底部は平底。	体部外面はタタキ（3条/cm）、内面は縦方向（下→上）の篦削り。	外 浅黄橙 (7.5YR8/4) にぶい赤橙 (10R6/4) 内 淡橙 (5YR8/4)	石英・長石・チャート・赤色粒を多く含む。	−	外D 内F	
35	SK17	甕	口径19.2 体径20.8	口縁部はやや外反して広がり、上方に拡張する。端部は丸い。体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ、外面に擬凹線4～5条めぐる。頸部外面は刷毛のちヨコナデ、内面はヨコナデ。体部外面は縦刷毛（8条/cm）、内面は不定方向の篦削り。	外 浅黄橙 (10YR8/3) 内 灰白 (2.5Y8/2)	石英・長石・チャート・赤色粒を多く含む。	1/4	外C 内E	口縁～体部外面に煤付着。
36	SK17	甕	口径19.6 体径22.1	口縁部はやや内湾して広がり、さらに上外方にたちあがる。端部は丸い。体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。外面に擬凹線4条めぐる。体部外面は横刷毛（6～7条/cm）、内面上半は横方向（左→右）の篦削り、下半は縦方向の篦削りと思われる。	外 橙 (2.5YR6/6) 内 浅橙 (5YR8/3) 橙 (2.5YR6/6) 褐灰 (10YR4/1)	長石・チャート・赤色粒を多く含む。	ほぼ完存	外D 内E	体部中位外面に煤付着。
37	SK17 下層	甕	口径18.0	口縁部は鋭く屈曲して広がり、さらに外方にひきあげるように拡張し、凹面をなす。端部はやや尖る。体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は粗い縦刷毛（5条/cm）、内面は縦方向（下→上）の篦削り。	外 浅黄橙 (7.5YR8/3) 内 灰黄 (2.5Y6/2)	長石・チャートを多く含む。赤色粒を少し含む。	1/6	外C 内C	口縁～体部外面に煤付着。
38	SK17	甕	口径20.4	口縁部はやや外反して広がり、さらに外上方にたちあがる。端部はやや鋭い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。外面に擬凹線2条程微かに認められる。体部外面は太いタタキ（3条/cm）、内面は横方向（右→左）の篦削り。	外 浅黄橙 (7.5YR8/4) 内 浅黄橙 (7.5YR8/4)	長石・チャート・赤色粒を多く含む。	ほぼ完存	外C 内D	頸部、体部中位外面に煤付着。
39	SK17 下層	壺？	口径17.0	口縁部は鋭く屈曲して広がり、稜をもって外反する。端部は平坦。	口縁部は内外面ともヨコナデと思われる。体部外面は板ナデと思われる。内面は横方向（右→左）の篦削り。	外 浅黄橙 (10YR8/3) 橙 (2.5YR7/6) 内 橙 (2.5YR7/6) 淡橙 (5YR8/4)	石英・長石・チャート・赤色粒を多く含む。	1/4	外E 内D	
40	SK17 下層	底部	底径 3.7	体部は丸味をもつ。底部は平底。	体部外面は縦刷毛（5条/cm）、内面は板ナデと思われる。底部は刷毛か。	外 灰黄褐 (10YR5/2) 内 浅黄 (2.5Y8/3)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	−	外B 内D	体部中位外面に煤付着。
41	SK18 下層	甕	口径18.2	口縁部はやや外反して外方に開く。端部は上方にひきのばし、外側に面をもち、先端はやや鋭い。体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。外面にゆるい凹線が1条めぐる。体部外面はタタキ（4条/cm）のち部分的に縦刷毛（10条/cm）、内面は横方向（左→右）の篦削りのち横刷毛（7条/cm）。	外 浅黄橙 (7.5YR8/4) 内 灰 (5Y6/1)	石英・長石・チャート・赤色粒を多く含む。	1/4	外C 内B	
42	SK18	甕	口径18.1 体径20.6	口縁部はやや鈍く屈曲して外方に開く。端部は平坦。体部は丸味をもつ。	口縁部外面はタタキ（4条/cm）のち縦刷毛(12条/cm)、内面は細かい横刷毛(12条/cm)。体部外面上半は不定方向の短く細かい刷毛(12条/cm)、下半は縦刷毛(12条/cm)。内面は横刷毛（12条/cm）のち横方向（右→左）の篦削り。	外 黒 (N1.5/) 内 灰白 (2.5Y8/2)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/11	外C 内B	口縁～体部外面に煤付着。内面に褐色の付着物。傾きやや不正確。

番号	出土場所	器種	法量	形態	手法	色調	胎土	残存率		備考
								口縁	器表	
43	SK18	甕	口径17.4 体径19.6	口縁部は鋭く屈曲して広がり、さらに上方にたちあがる。端部は丸い。体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は縦刷毛（7条/cm）、内面は横刷毛（10条/cm）。	外　浅黄橙 (10YR8/4) 内　淡黄 (2.5Y8/4) 灰黄褐 (10YR4/2)	チャート・赤色粒を少し含む。	1/6	外B 内C	口縁～体部外面に煤付着。
44	SK18 下層	壺	体径20.0	頸部はやや外反してのびる。体部は中位に最大径をもち、算盤玉状を呈する。	頸部外面は指ナデ、内面は横刷毛（6条/cm）のちナデ。体部外面はタタキ（3条/cm）のち縦方向の刷毛（4条/cm、6条/cm）。内面上半は指オサエ、指ナデ、下半は横刷毛（6条/cm）。	外　にぶい橙 (5YR7/4) 内　黄灰 (2.5Y5/1)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	－	外B 内B	体部中位外面に黒斑。
45	SK18	底部	底径 5.2	底部は平底。体部は内湾ぎみに外上方にのび、大形の器形になると思われる。	体部外面は縦刷毛（8条/cm）、内面は板ナデと思われる。	外　浅黄橙 (7.5YR8/4) 内　浅黄橙 (10YR8/4)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	－	外A 内C	
46	SK22 下層	甕	口径18.9	口縁部はやや外反して広がり、さらに上方に肥厚する。体部はやや直線的。	口縁部は内外面ともヨコナデ。外面に擬凹線3条めぐる。体部外面は粗い縦刷毛（4条/cm）、内面は横方向（右→左）の篦削り。	外　灰褐 (7.5YR5/2) 内　浅黄橙 (7.5YR8/3)	石英・チャート・赤色粒を少し含む。	1/9	外C 内B	口縁～体部外面に煤付着。
47	SK22 下層	甕	口径19.4	口縁部は鈍く屈曲して外上方に広がり、さらに直立してのびる。端部はやや鋭い。	口縁部外面はヨコナデ、内面は横刷毛（8条/cm）。外面に擬凹線3条めぐる。	外　にぶい橙 (7.5YR5/3) 内　にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/4	外D 内C	口縁部外面に煤付着。
48	SK23	甕	器高29.0 口径14.4 体径22.0 底径 3.5	口縁部はやや内湾して広がり、さらに上方にたちあがる。端部は丸い。体部は長胴形。最大径は体部上位にある。底部は平底で中央部がくぼむ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は縦刷毛（7条/cm）、内面は縦方向（下→上）の篦削りのち上半部横方向（右→左）の篦削り。	外　淡黄 (2.5Y8/3) 内　灰白 (2.5Y7/1)	長石・チャートを多く含む。赤色粒を少し含む。	1/3	外D 内D	体部中位外面に煤付着。
49	SK23	甕	口径16.0	口縁部はやや外反して広がり、さらに外反してのびる。端部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。	外　浅黄橙 (10YR8/3) 内　浅黄橙 (10YR8/3)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/4	外D 内D	口縁部外面に煤付着。
50	SK23	壺	口径15.8	口縁部は外反して外上方に開く。端部は平面を成す。上端はやや鋭い。	口縁部は内外面ともヨコナデと思われる。	外　浅黄橙 (7.5YR8/4) 内　灰 (N5／0)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/4	外F 内F	
51	SK24	甕	器高26.4 口径18.4 体径21.2 底径 3.8	口縁部は外反ぎみに広がり、さらに上方に外反してたちあがる。端部はやや鋭い。体部は長胴形。体部最大径は上位にある。底部は突出しない平底。	口縁部は内外面ともヨコナデ。外面に擬凹線5条めぐる。体部外面は粗い縦刷毛（4条/cm）、内面は縦方向（下→上）の篦削り。	外　灰白 (7.5YR8/2) 内　灰白 (10YR7/1)	石英・長石・チャートを多く含む。赤色粒を少し含む。	ほぼ完存	外C 内C	体部中位外面に煤付着。
52	SK24	甕	口径13.5 体径13.6	口縁部は体部から「く」の字状に屈曲してやや内湾しながら外上方にのび、端部は丸い。体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は横刷毛のち粗い縦刷毛（4条/cm）。内面は不定方向の刷毛（6条/cm）。	外　にぶい橙 (5YR7/4) オリーブ黒 (5Y3/1) 内　灰オリーブ	石英・長石・チャートを多く含む。赤色粒を少し含む。	1/3	外D 内D	

番号	出土場所	器種	法量	形態	手法	色調	胎土	残存率		備考
								口縁	器表	
53	SK24	壺	器高29.5 口径13.4 体径25.6 底径 5.4	口縁部は外反して外上方に開く。端部は丸い。体部は球形。底部は突出した平底。薄いつくり。	口縁部は内外面ともヨコナデ。頸部外面は指オサエ、内面はヨコナデ。体部外面はタタキのち磨きと思われる。下位は指オサエ。内面上位はナデ、他は刷毛と思われる。	外 浅黄橙 (7.5YR8/3) 灰褐 (7.5YR4/2) 内 灰黄褐 (10YR6/2) 灰 (2.5Y8/2)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	3/4	外E 内E	
54	SK25	甕	口径16.2	口縁部は屈曲しながら外上方に広がる。端部は内傾して内側に肥厚し、断面三角形。体部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は横刷毛（6条/cm）、内面は横方向（左→右）の篦削り。	外 にぶい黄褐 (10YR6/3) 内 にぶい黄褐 (10YR7/3)	石英・長石・チャートを多く含む。	1/8	外C 内B	口縁～体部外面に煤付着。
55	SK25	壺	口径13.4 体径15.8	口頸部はやや外反して上外方に開く。端部は丸い。肩部はやや張る。	口頸部外面は縦刷毛（8条/cm）のちヨコナデ、内面は横刷毛（7 8条／cm）のちヨコナデ。体部外面は横刷毛のち縦刷毛（8条/cm）、内面は横方向（右→左）の篦削り。	外 灰黄 (2.5Y7/2) 内 浅黄 (2.5Y7/3)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/10	外C 内B	口縁～体部外面に煤付着。
56	SK25	鉢	口径22.2	口縁部は片口状。やや外反してのび、端部は平坦。体部は丸味をもつ。最大径は上位にある。	口縁部外面は横方向の磨き。内面ヨコナデ。体部外面は縦刷毛（6条/cm）のち横方向の磨き、内面は横方向（右→左）の篦削り。	外 橙 (2.5YR6/8) 淡橙 (5YR8/3) 内 橙 (2.5YR6/8) にぶい橙 (7.5YR7/4)	長石・チャートを多く含む。赤色粒を少し含む。	3/4	外D 内E	体部内面に黒い付着物。
57	SK28	甕	口径18.5 体径19.6	口縁部はやや内湾して外上方に開く。端部は丸い。体部は丸味をもつ。最大径は中位にある。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面上半は太筋のタタキ（2 3条/cm）のち縦刷毛（10条/cm）、下半は縦のち横方向のタタキ（3条/cm）。内面上半は縦刷毛(11条/cm)、下半は篦削りのち粗い縦刷毛(6条/cm）のち細かい縦刷毛（11条/cm）。	外 にぶい黄橙 (10YR6/3) 内 浅黄 (2.5Y7/3)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/19	外C 内B	口縁～体部外面に煤付着。体部下位内面に黒褐色の付着物。
58	SK28	甕	体径20.5	体部は中位よりやや上に最大径をもつ。底部はわずかに丸味をもつが平坦。厚手のつくり。	体部外面上半は不定方向の刷毛（5 6条/cm）、下半は横刷毛のち縦刷毛（5条/cm）。内面は斜め方向（下→上）、横方向（右→左）の篦削り。底部外面は刷毛。	外 淡橙 (5YR8/4) 内 黒褐 (7.5YR3/2)	チャート・赤色粒を少し含む。		外C 内B	体部外面に煤付着。
59	SK28	甕	口径18.4	口縁部はやや鈍く外方に開く。端部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は縦刷毛（8条/cm）、タタキ。内面は横刷毛（7 8条／cm）、横方向の篦削り（左→右）。	外 淡赤橙 (2.5YR7/4) 内 淡橙 (5YR8/3)	長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/2	外D 内D	口縁部外面に煤付着。
60	SK28	甕	口径18.5 体径22.4	口縁部は鋭く屈曲して外方に開く。端部は上下方に拡張し凹面を成す。口縁部の器壁厚い。体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面はタタキ（5条/cm）、横刷毛（8条/cm）のち縦刷毛（6 7条／cm）。内面は上位に細条の横刷毛（6条/cm）のち縦方向（下→上）の篦削りのち粗い横刷毛（5条/cm）。	外 灰白 (7.5YR8/2) 内 浅黄橙 (7.5YR8/3)	長石・赤色粒を少し含む。	14/15	外C 内B	口縁～体部外面に煤付着。
61	SK28	甕	口径16.4	口縁部は鋭く屈曲して広がり、さらに上方にたちあがる。端部は丸い。体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は縦刷毛（9条/cm）、内面は縦方向（下→上）の篦削りのち横方向（左→右）の篦削り。	外 淡橙 (5YR8/4) 浅黄橙 (10YR8/4) 内 灰白 (10YR8/2) 黄灰 (2.5Y6/1)	長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/4	外C 内C	口縁～体部外面に煤付着。

番号	出土場所	器種	法量	形態	手法	色調	胎土	残存率		備考
								口縁	器表	
62	SK28	壺	器高22.2 口径15.4 体径22.7 底径 4.5	口縁部は体部から屈曲して上方にのびたのち外反して広がり、端部はつまみあげることにより短く直立する。端部は丸い。体部は扁球形。底部は平底。	口縁部は内外面ともヨコナデ。頸部外面はヨコナデのち縦刷毛（7 8条/cm）のち篦描き文。体部外面は不定方向の刷毛(5 8条/cm）のちタタキ（3条/cm)、下位は指オサエ。内面は横刷毛（6 8条／cm)。	外 淡黄 (2.5Y8/3) 灰黄 (2.5Y6/2) 内 灰白 (2.5Y8/2) 暗灰黄 (2.5Y4/2)	石英・長石を少し含む。	1/5	外C 内B	体部中位外面に黒斑。
63	SK28 上層	壺	体径10.4	口縁部は曲折して外方に開く。体部は球形。底部はやや丸味をもつ。厚手のつくり。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面はナデ。内面上半は横方向（右→左）の篦削り、下半はナデ。	外 浅黄橙 (7.5YR8/3) 内 浅黄橙 (7.5YR8/3)	長石・チャートを少し含む。	1/8	外F 内E	
64	SK28	底部	底径 5.8	底部は大きな平底で、やや外側に広がる。体部は外上方に直線的にのびる。	体部外面はタタキ（3条/cm）のち縦刷毛（6条/cm)、内面は横刷毛（7条/cm)。底部は木葉痕。	外 にぶい黄褐 (10YR7/2) 内 褐灰 (10YR6/1)	石英・長石を少し含む。	－	外C 内B	
65	SK28 最下層	甕	器高24.1 口径15.6 体径19.1 底径 5.0	口縁部はやや外反して広がり、さらに外上方にたちあがる。端部は丸い。体部は長胴形。底部は突出ぎみの平底。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面はタタキ（2 3条/cm）のち縦刷毛（8条/cm)。内面上半は横方向（右→左）の篦削り、下半は縦方向（下→上）の篦削り。	外 明褐灰 (5YR7/1) 内 明褐灰 (5YR7/1)	石英・長石・チャートを多く含む。赤色粒を少し含む。	1/3	外C 内C	
66	SK28 最下層	甕	口径18.3 体径21.6	口縁部はやや内湾して外方に開く。端部は丸い。頸～肩部は直線的で、体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデまたは横刷毛（6条/cm)。体部外面はタタキ（3条/cm）のち部分的に縦刷毛（8条/cm)、内面は縦刷毛（10条/cm）を密に施す。頸部内面は刷毛をナデ消している。	外 暗緑灰 (7.5GY4/1) 内 淡黄 (2.5Y8/3)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/2	外B 内B	外面全体に煤付着。
67	SK28 最下層	壺	口径13.3 体径19.8	口縁部は体部から屈曲して外上方に直線的に開く。端部は平坦。体部はやや扁平で丸味をもつ。	口縁部外面はヨコナデ、内面は横刷毛(6 7条/cm)。体部外面は不定方向の刷毛(6 7条/cm)、内面はヨコナデ。	外 オリーブ灰 (5Y3/1) 淡橙 (5YR8/4) 内 黄灰 (2.5Y5/1)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	完存	外C 内C	口縁～体部外面に煤付着。
68	SK28 最下層	底部 (甕)	底径 6.6	底部は平底。大型のものである。	体部外面はタタキ（3条/cm）のち体部下端以外縦刷毛（6・7条/cm)、内面下位は左斜め上方向、上位はほぼ縦方向の刷毛（6条/cm)、内面下位は粗い刷毛（5条/cm)。底部外面はタタキが少し入るが未調整。	外 淡黄 (2.5Y8/3) 内 淡黄 (2.5Y8/3) 灰 (7.5Y4/1)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。		外A 内A	
69	SK33 上層	壷	口径20.4	口縁部は大きく屈曲して外方に開く。端部は上下方に小さく拡張し平面を成す。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面はナデ、内面は細かい横刷毛（10条/cm)。	外 浅黄橙 (10YR8/3) 内 灰白 (10YR8/2)	石英・長石・赤色粒を多く含む。	1/45	外F 内E	
70	SK33 上層	甕	口径24.0	口縁部は外上方に広がり、さらに屈曲してのびる。端部はやや鋭い。	口縁部は内外面ともヨコナデと思われる。外面に擬凹線5条めぐる。	外 褐灰 (10YR4/1) 内 淡黄 (2.5Y8/3)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/8	外D 内F	
71	SK33 上層	底部 (甕)	底径 4.6	底部は平底。	体部外面はタタキ（3条/cm)、内面は不定方向の刷毛（7条/cm)。	外 浅黄橙 (7.5YR8/3) 内 淡橙 (5YR8/4)	石英・長石・チャートを多く含む。	－	外D 内D	
72	SK34 下層	底部 (甕)	底径 3.5	底部は平底。体部は直線的に外上方にのびる。	体部外面は細筋のタタキ（5条/cm)、内面は縦方向（下→上）のナデ、刷毛または篦痕あり。	外 橙 (2.5YR6/8) 赤黒 (2.5YR1.7/1) 内 暗灰 (N3/)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	－	外D 内D	

番号	出土場所	器種	法量	形態	手法	色調	胎土	残存率		備考
								口縁	器表	
73	SK36	底部(甕)	底径 3.8	底部は平底。	体部外面は縦・横方向のタタキ（4条/cm）のちナデ、内面はナデ。	外 赤橙(10R6/8) 浅黄橙(10YR8/3) 内 暗灰黄(2.5Y4/2)	石英・長石・赤色粒を少し含む。	−	外D 内F	底部内面に煤付着。
74	SK36	甕	口径15.2	口縁部はやや鋭く屈曲して外方に開く。端部は丸く内側に肥厚する。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は不明。内面は縦方向の指ナデと思われ、以下は篦削りか。	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 灰黄褐(10YR6/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/2) 灰黄褐(10YR6/2)	石英を多く含む。長石・金雲母・赤色粒を少し含む。	1/6	外D 内D	口縁～体部外面に煤付着。
75	SK36 下層 最下層	甕	口径15.4	口縁部は屈曲しながら外方に広がる。端部はやや内傾して内側に肥厚し、断面三角形。体部は丸味をもつ。	口縁部外面はヨコナデ、内面は横刷毛(10条/cm)。体部外面は縦刷毛（6条/cm）のち肩部に横刷毛（7条/cm）、刺突が2ヶ所にみられる。内面は横方向(左→右)の篦削り。	外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	石英・長石・赤色粒・金雲母を多く含む。	1/3	外C 内B	口縁～体部外面に煤付着。
76	SK36 下層	甕	口径16.6	口縁部はやや鋭く外方に開く。端部は内傾して内側に肥厚し、断面三角形。体部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は横刷毛（8 9条/cm）。肩部に篦描きの記号文？。内面は篦削りと思われる。	外 灰白(2.5Y8/2) 内 にぶい黄褐(10YR5/3)	石英・長石を少し含む。赤色粒を多く含む。	1/4	外C 内C	口縁～体部外面に煤付着。
77	SK39 上中層	壷	口径10.3 体径15.4	口縁部はやや外傾してのび、さらに外反し、そこから外上方に外半しながらのびる二重口縁壺になると思われる。体部はやや扁平な球形。	口縁部内外面、体部外面は不明。体部内面はヨコナデ、または篦削り。	外 橙(7.5YR7/6) 内 橙(7.5YR7/6)	石英・長石・チャート・赤色粒を多く含む。	1/2	外F 内F	
78	SK40	甕	口径20.2	口縁部は鋭く屈曲して広がり、さらに直立して高くのびる。端部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。外面に擬凹線6条めぐる。	外 灰黄褐(10YR4/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	石英・長石を少し含む。	1/4	外C 内D	口縁部外面に煤付着。
79	SK40 下層	底部	底径 5.2	底部は大きなやや上げ底。体部はやや内湾する。	体部外面はタタキ（7条/cm）のち板ナデ、内面は縦方向（下→上）の篦削り。底部篦削り。	外 黒褐(10YR2/2) 内 灰白(2.5Y8/2)	長石・チャート・赤色粒を少し含む。	−	外B 内C	
80	SK41	壷	口径13.2	口縁部は大きく屈曲して広がり、さらに上外方にたちあがる。端部は丸い。体部は「ハ」の字状に直線的に開く。	口縁部外面に擬凹線6条めぐる。他は不明。	外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 にぶい橙(7.5YR7/4) 淡黄(2.5Y8/3)	石英・チャート・赤色粒を少し含む。	1/6	外E 内E	
81	SK41	甕	口径18.0	口縁部はやや鋭く屈曲して上外方に開く。端部は平面をなす。体部は丸味をもつ。	口縁部外面はタタキ（4条/cm）のちヨコナデ、内面は横刷毛のちヨコナデ。体部外面はタタキ（4条/cm）のち縦刷毛（10条/cm）、内面は縦方向（上→下）の篦削り。	外 橙(5YR7/8) 淡赤橙(2.5Y7/4) 外 橙(5YR7/6) にぶい橙(7.5YR7/3)	長石・チャートを多く含む。赤色粒を少し含む。	完存	外D 内D	口縁外面に煤付着。

番号	出土場所	器種	法量	形態	手法	色調	胎土	残存率		備考
								口縁	器表	
82	SK41	甕	口径18.2	口縁部は鋭く屈曲して広がり、さらに外上方にたちあがる。端部は丸い。体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。外面に擬凹線4条めぐる。体部外面は縦刷毛（7条/cm）、内面は横方向（右→左）の篦削りのち横刷毛（7条/cm）。	外 橙 (2.5YR7/8) 内 橙 (5YR7/8)	長石・チャート・赤色粒を多く含む。	1/4	外C 内D	口縁～体部外面に煤付着。
83	SK41	甕	口径17.6	口縁部は鋭く屈曲して広がり、さらに外上方にたちあがる。端部は丸く若干凹面をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。肩部外面は刷毛か？	外 浅黄橙 (7.5YR8/4) 内 橙 (2.5YR7/6)	長石・チャート・赤色粒を多く含む。	1/4	外D 内E	口縁部外面に煤付着。
84	SK41	底部	底径 4.8	底部は平底。	体部外面は縦刷毛（8条/cm）、内面も刷毛と思われる。底部は削りか。	外 浅黄 (2.5Y7/3) 内 灰 (5Y4/1)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	－	外C 内D	
85	SK41	甕	器高30.3 口径20.2 体径24.3 底径 4.4	口縁部は鋭く屈曲して横外方に開く。端部は上下方に肥厚し、凹面を成す。体部は長胴形。体部最大径は上位にある。底部は平底。	口縁端部外面～口縁部内面はヨコナデ。口縁部外面はタタキ。体部外面はタタキ（3条/cm）のち縦刷毛（8条/cm）を長く施す。内面は上端横刷毛（4条/cm）、他は縦刷毛（9条/cm）、下端縦方向（上→下）と横方向（左→右）の篦削り。底部外面はタタキ。	外 浅黄橙 (7.5YR8/3) 橙 (2.5YR7/6) 褐 (7.5YR4/3) 内 橙 (5YR6/6) 褐 (7.5YR4/3)	石英・チャート・赤色粒を少し含む。	2/3	外B 内B	口縁～体部外面に煤付着。
86	SK41 下層	甕	器高22.9 口径18.4 体径19.0 底径 4.8	口縁部は外方に開く。端部は平面を成し、先端は鋭い。体部は上位に最大径をもつ。底部は少し突出した平底。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面はタタキ（3条/cm）、内面は横刷毛（79条/cm）。底部は木葉痕。	外 灰黄褐 (10YR6/2) 内 にぶい橙 (7.5YR7/3) 灰白 (5Y8/2)	長石・チャート・赤色粒を少し含む。	2/3	外B 内B	口縁～体部外面に煤付着。体部内面に黒褐色の付着物。図上復原。
87	SK41	甕	口径18.0 体径19.4	口縁部は外反して広がり、稜を有してさらにのびる。端部は丸い。体部は長胴形。底部は平底。薄手のつくり。	口縁部は内外面ともヨコナデ。端部外面に擬凹線3条めぐる。体部外面は縦刷毛（12条/cm）、内面は上位横方向（右→左）の篦削り。他は縦方向（下→上）の篦削り。	外 淡黄 (2.5Y8/3) 内 淡黄 (2.5Y8/3) にぶい黄褐 (10YR5/3)	チャート・赤色粒を少し含む。	1/2	外C 内C	口縁～体部上半に煤付着。
88	SK41	甕	口径18.4	口縁部は大きく外反して広がり、屈曲して外上方に開く。端部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。	外 淡橙 (5YR8/4) 内 淡橙 (5YR8/4)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/2	外E 内E	
89	SK41	甕	口径18.3	口縁部は外反して広がり、さらに上外方にたちあがる。端部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデ、外面に擬凹線2条めぐる。頸部外面は指オサエ、内面はヨコナデ。体部外面は縦刷毛（9条/cm）のちヨコナデ、内面は横方向（右→左）の篦削り。	外 灰白 (2.5Y8/2) 内 浅黄 (2.5Y8/3)	石英・長石・チャート・赤色粒をやや多く含む。	1/5	外C 内C	口縁部外面に煤付着。
90	SK41	底部	底径 5.2	底部は突出しない平底。体部は横外上方に直線的にのびる。	体部外面はタタキ（6条/cm）のち縦刷毛、内面は縦方向の篦削り。底部は輪台技法か。	外 灰白 (5Y8/2) にぶい橙 (7.5YR7/4) 内 にぶい橙 (7.5YR6/4) 灰黄 (2.5Y7/2)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	－	外D 内D	体部下位内外面に黒斑（体部の約2/5）。

番号	出土場所	器種	法量	形態	手法	色調	胎土	残存率		備考
								口縁	器表	
91	SK42	甕	口径21.0	口縁部は外反して外方に開く。端部は上方にやや拡張して丸くおさめる。体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は縦刷毛（9条/cm）、内面は横方向（右→左）の篦削り。	外 淡橙 (5YR8/4) 浅黄橙 (7.5YR8/4) 内 淡橙 (5YR8/4) 浅黄橙 (7.5YR8/4)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/4	外D 内D	
92	SK42	壷	口径13.2	口縁部は外反して広がる。端部は上方にひきのばし丸くおさめる。	口縁部は内外面ともヨコナデ。端部外面に凹線1条めぐる。	外 にぶい褐 (7.5YR5/3) 内 にぶい橙 (5YR7/4)	石英・長石・チャートを少し含む。	1/8	外C 内D	口縁部外面に煤付着。
93	SK42	壷	口径15.2	口縁部は鋭く屈曲して外方に広がり、端部は上下に大きく拡張する。	口縁部は内外面ともヨコナデ。外面に擬凹線2～3条めぐる。体部外面は刷毛目か？	外 淡橙 (5YR8/4) 内 淡橙 (5YR8/4)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/4	外F 内F	
94	SK42	甕	口径19.0	口縁部は外反して広がり、さらに上方にたちあがる。端部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は細かい縦刷毛（12条/cm）、内面は細かい横刷毛（12条/cm）。	外 にぶい黄橙 (10YR7/3) 内 浅黄 (2.5Y7/3)	石英・長石・チャートを少し含む。	1/11	外B 内C	口縁部外面に煤付着。
95	SK45 下層	甕	口径15.4 体径24.2	口縁部は屈曲しながら外上方に開く。端部は内傾して内側に肥厚し、断面三角形。体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は縦刷毛（8条/cm）、内面は横方向（左→右）の篦削り。	外 にぶい褐 (7.5YR6/3) 内 にぶい橙 (5YR6/3)	石英・長石・チャートを多く含む。赤色粒を少し含む。	3/4	外D 内D	口縁～体部外面に煤付着。
96	SK45	甕	口径20.3	口縁部はやや屈曲しながら外方に開く。端部は平坦で内側に肥厚し、断面三角形。体部は丸味をもつ。厚手のつくり。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は不明、内面は横方向（右→左）の篦削り。	外 灰白 (10YR8/2) 内 灰白 (10YR8/2) 黄橙 (10YR8/8)	石英・長石を多く含む。赤色粒を少し含む。	1/24	外E 内D	
97	SK45	甕	口径15.5	口縁部はやや内湾して外上方に開く。端部は内傾して内側に肥厚し、断面三角形。体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は縦刷毛（8条/cm）、内面は横方向（左→右）の篦削り。	外 にぶい黄褐 (10YR5/4) 内 にぶい黄褐 (10YR5/4)	石英・長石・チャートを多く含む。	1/5	外E 内E	
98	SK45	甕	器高18.6 口径16.0 体径18.2 底径 3.4	口縁部は鋭く屈曲して外上方に開く。端部は下方にやや肥厚して平面をなす。体部は長胴形で上半に最大径をもつ。底部は突出しない平底。	口縁部外面はヨコナデ、内面は横刷毛(78条／cm)。体部外面は板ナデのち縦刷毛（8条/cm）、内面は篦削りのちナデ。	外 淡黄 (2.5Y8/3) 内 灰白 (5Y7/1)	長石・チャート・赤色粒を少し含む。	2/3	外C 内C	口縁～体部上半、下位外面に煤付着。
99	SK45	甕	口径23.8	口縁部は鋭く屈曲して広がり、さらに直立して高くのびる。端部はやや鋭い。	口縁部は内外面ともヨコナデと思われる。外面に擬凹線6条めぐる。	外 淡黄 (2.5Y8/3) 内 灰白 (5Y8/1)	石英・長石・チャートを多く含む。	1/8	外E 内E	口縁部外面に煤付着。
100	SK45	甕	口径16.8	口縁部は外反してのび、さらに外上方にたちあがる。端部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は刷毛、内面は横方向（右→左）の篦削り。	外 橙 (2.5YR7/6) 内 橙 (2.5YR7/6)	石英・長石・チャートを少し含む。	1/4	外E 内D	口縁部外面に煤付着。

番号	出土場所	器種	法量	形態	手法	色調	胎土	残存率		備考
								口縁	器表	
101	SK45	高杯		脚部は下外方に外反してのびる。	脚柱部内面は絞り目。他は不明。	外 明黄褐(10YR7/6) 内 明黄褐(10YR7/6) 断 黒(2.5Y2/1)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	−	外E 内E	
102	SK45	甕	口径14.6 体径20.0	口縁部は体部から大きく屈曲し、内湾して外上方に開く。端部は丸くわずかに内側に肥厚する。体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は不定方向の刷毛（10条/cm）のち上部に横刷毛（5 6条／cm）。内面は上位横方向（左→右）の篦削り、中位縦方向（下→上）の篦削り。	外 灰白(10YR8/2) 橙(2.5YR7/6) 内 淡黄(2.5Y8/3)	石英・長石・赤色粒を多く含む。	1/2	外C 内D	体部外面に煤付着。
103	SK45	甕	口径18.2	口縁部は大きく外反し、上方に拡張する。端部はやや鋭い。	口縁部は内外面ともヨコナデと思われる。体部内面は篦削りと思われる。	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 灰白(5Y7/2)	石英・長石・チャートを多く含む。	1/5	外E 内E	
104	SK45	壺	口径15.0 体径23.5	口頸部はゆるやかに外反して上外方へのびる。端部はやや鋭い。体部は丸味をもち、扁球形になるものと思われる。	口縁部は内外面ともヨコナデ。頸部～体部外面は篦磨き。頸部内面はヨコナデ。体部内面上位は指オサエ、他は刷毛と思われる。	外 浅黄橙(10YR8/3) 内 浅黄橙(10YR8/3) 褐灰(10YR5/1)	長石・チャートを多く含む。赤色粒を少し含む。	1/2	外D 内D	
105	SK45	甕	口径20.7	口縁部はやや外反して広がり、さらに上方に拡張する。端部はやや鋭い。薄手のつくり。	口縁部は内外面ともヨコナデと思われる。外面に擬凹線2条めぐる。体部は不明。	外 にぶい橙(2.5YR6/3) 内 明褐灰(5YR7/2)	石英・チャート・赤色粒を少し含む。	1/6	外D 内E	
106	SK46	甕	口径17.7	口縁部はやや鋭く屈曲して上外方に開く。端部は内傾して内側に肥厚し、断面三角形。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は縦刷毛のち粗い横刷毛（3条/cm）、内面は横方向（左→右）の篦削り。	外 灰黄褐(10YR6/2) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	石英・長石を多く含む。チャート・赤色粒を少し含む。	1/10	外D 内D	
107	SK47	甕	口径17.4	口縁部は大きく屈曲して広がり、さらに上方にたちあがる。薄手のつくり。体部は肩が張らない。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面はタタキ（3条/cm）、内面は縦方向（下→上）の篦削り。	外 灰黄褐(10YR5/2) 内 灰白(2.5Y8/2)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/2	外D 内D	体部外面に煤付着。
108	SK47	甕	体径 8.9	体部は球形。底部は丸底。	体部外面は刷毛、内面はナデと思われる。	外 浅黄橙(10YR8/3) 内 灰白(10Y7/1)	石英・長石・チャートを多く含む。赤色粒を少し含む。		外E 内E	肩部外面に黒斑。
109	SK48	甕	口径 9.4 体径12.6	口縁部はわずかに屈曲しながら外上方に開く。端部は丸い。口縁端部にゆくにつれ器厚を減じる。体部は丸味をもつ。肩部は器壁が厚いが、体部中位から下は薄い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。端部付近外面に小さな段を有する。体部外面はヨコナデのち縦刷毛（6条/cm）、内面は右斜め上方向（左→右）の篦削り。	外 橙(7.5YR7/6) にぶい橙(7.5YR6/4) 内 橙(7.5YR7/6)	石英・長石・チャート・赤色粒を多く含む。	3/4	外D 内D	頸部以外の外面に煤付着。
110	SK49 下層	甕	口径11.3 体径15.4 器高(14.8)	口縁部はやや内湾して上方にのびる。端部は丸く内側に肥厚する。体部は球形。厚手のつくり。丸底になると思われる。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は細かい縦刷毛（9条/cm）。内面上半は指オサエ、横方向（右→左）の篦削り、下半は縦方向（下→上）の篦削り。	外 灰白(7.5Y8/2) 内 灰白(7.5Y8/2)	石英・長石・チャートを多く含む。赤色粒を少し含む。	ほぼ完存	外D 内D	

番号	出土場所	器種	法量	形態	手法	色調	胎土	残存率		備考
								口縁	器表	
111	SK49 下層	甕	口径14.9 体径19.3 器高18.7	口縁部は外反して上外方に開き、端部でさらに外反する。端部は丸くおさめる。体部は球形で、丸底になると思われる。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は板ナデと思われる。内面上半は横方向（左→右、右→左）の篦削り、下半は縦方向（下→上）の篦削り。	外　橙 (2.5YR7/6) 灰褐 (5YR5/2) 内　橙 (2.5YR7/6) 灰褐 (5YR5/2)	長石・チャート・赤色粒を少し含む。	完存	外C 内C	口縁～体部上半外面に煤付着。
112	SK49 下層	甕	口径14.4 体径23.4	口縁部はやや内湾してのびる。端部は丸く内側に肥厚する。体部は球形。底部は丸底。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は不定方向の短い刷毛（5条/cm）、内面は上位指ナデ、下位指オサエ、他は縦方向（下→上）の篦削り。	外　灰白 (10YR8/2) 内　灰白 (10YR8/2) 褐 (7.5YR4/3)	石英・長石・赤色粒を少し含む。	1/4	外B 内B	口縁～底部外面に煤付着。
113	SK49 下層	壷	口径18.9 体径25.4	口縁部はやや内湾して上外方に開く。端部は内傾して内側にやや肥厚し、断面三角形。体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は、縦刷毛、横刷毛（7条/cm）、内面は指ナデのち横方向（左→右）の篦削り、縦刷毛（5条/cm）。	外　浅黄橙 (10YR8/3) 内　灰黄褐 (10YR6/2)	石英・チャートを多く含む。赤色粒を少し含む。	1/4	外C 内C	
114	SK49 下層	甕	器高30.4 口径19.2 体径27.3	口縁部はやや外反して外上方に開く。端部は外側に肥厚して丸くおさめる。体部は球形。底部は丸底。厚手のつくり。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は縦刷毛（7条/cm、12条/cm）のち上位ヨコナデ。内面上半は横方向（右→左）、下半は横方向（右→左）のち縦方向の篦削り（下→上）。	外　浅黄橙 (10YR8/3) 灰白 (2.5Y8/2) にぶい黄褐 (10YR5/3) 内　外面と同じ	石英・長石・チャートを多く含む。赤色粒を少し含む。	ほぼ完存	外B 内B	体部下半外面に煤付着。
115	SK49 下層	甕	器高27.7 口径19.2 体径28.8	口縁部は外反して上外方に開く。端部は丸い。体部は球形。底部は丸底。	口縁部は内外面とも縦刷毛（4条/cm）のちヨコナデ。体部外面は粗い縦刷毛（4条/cm）、内面2/3は横方向（右→左）の細かい篦削り、1/3は縦方向（下→上）の篦削り。	外　灰白 (10YR8/2) にぶい黄橙 (10YR7/3) 灰褐 (7.5YR4/2) 内　浅黄橙 (7.5YR8/3) 暗褐 (7.5YR3/3)	石英・長石・チャートを多く含む。赤色粒を少し含む。	2/3	外B 内C	体部下半外面に煤付着。
116	SK49 下層	甕	口径15.0 体径22.0	口縁部は上外方に開く。端部は平坦。体部は丸味をもつ。最大径は体部上位。内面に粘土紐接合痕が残る。	口縁部は内外面ともヨコナデ、体部外面は長い縦刷毛（8条/cm）、のち上位ヨコナデ、内面は不定方向の刷毛（8条/cm）のち指ナデ（下→上）。	外　灰白 (10YR8/2) 淡橙 (5YR8/4) 内　灰白 (10YR8/2)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	完存	外B 内A	口縁～体部外面に煤付着。
117	SK50	甕	口径20.6	口縁部はやや外反して広がり、さらに外上方にたちあがる。端部は丸い。体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面はタタキ（3条/cm）のち縦刷毛（9条/cm）を疎に施す。内面は横方向(右→左)の篦削りのち斜め方向（下→上）の篦削り。	外　橙 (7.5YR7/6) 内　灰白 (2.5Y8/2)	石英・長石・チャート・赤色粒を多く含む。	1/9	外D 内D	
118	SK50 下層	甕	口径16.2	口縁部は外反して広がり稜を有し、さらに直立してのびる。端部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。外面に擬凹線5条めぐる。体部外面はタタキ（4条/cm）、内面は横方向（左→右）の篦削り。	外　灰黄褐 (10YR6/2) 内　灰黄褐 (10YR6/2)	長石・赤色粒を少し含む。	1/3	外C 内B	口縁外面に煤付着。

番号	出土場所	器種	法量	形態	手法	色調	胎土	残存率		備考
								口縁	器表	
119	SK50 下層	甕	口径16.4	口縁部は鋭く屈曲して広がり、さらに外上方にたちあがる。端部は丸い。体部はあまり張らない。	口縁部は内外面ともヨコナデと思われる。体部外面はタタキ（5条/cm）のち細かい縦刷毛（12条/cm）、内面は横刷毛（9条/cm）。	外　黄灰 (2.5Y5/1) 内　褐灰 (7.5YR5/1) にぶい橙 (7.5YR7/3)	石英・チャート・赤色粒を少し含む。	1/4	外D 内D	頸部～体部外面に煤付着。
120	SK50	有孔鉢	底径 4.0	底部は平底で焼成前に穿孔する。体部は内湾しながら上外方にのびる。	体部外面はタタキ（3条/cm）のち縦方向の板ナデ、内面は縦方向（下→上）、横方向（右→左）の篦削り。	外　淡黄 (2.5Y8/3) 内　黒褐 (10YR3/1)	長石・チャート・赤色粒を少し含む。		外D 内D	内外面に煤付着。 底部外面に黒斑。
121	SK50 上層 下層	甕	器高27.1 口径17.8 体径22.1 底径 3.0	口縁部は大きく屈曲してやや内湾ぎみに広がり、上方に拡張する。端部はやや鋭い。体部は長胴形。最大径は中位にある。底部は平底。	口縁部は内外面ともヨコナデ。外面に弱い擬凹線4条めぐる。体部外面はタタキ（3条/cm）。内面下半は縦方向（下→上）、上半は横方向（左→右）の篦削り。	外　灰褐 (5YR4/2) 内　暗灰黄 (2.5Y5/2) 灰黄 (2.5Y7/2)	石英・チャート・赤色粒を少し含む。	1/5	外C 内C	外面全体に煤付着。 肩部以下内面にこげ状の黒褐色付着物。
122	SK50	甕	体径22.4 底径 4.9	口縁部は鋭く屈曲して外方に開く。上部は欠損により形態不明。体部は長胴形。体部上半に最大径をもつ。底部は突出ぎみの平底。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は右上がりのタタキ（5条/cm）のち間隔をおいた縦刷毛（7条/cm）。内面上半は横刷毛（5 6条/cm）、横方向（左→右）の篦削り、下半は縦方向（上→下）の篦削り、底部内面指オサエ。	外　淡赤橙 (2.5YR7/4) 淡黄 (2.5Y8/4) 内　灰 (7.5Y4/1)	やや粗い長石・チャート・赤色粒を多く含む。		外C 内C	体部中位外面に煤付着。
123	SK50	底部 (甕)	底径 5.2	底部はやや突出した平底。体部は丸味をもち上外方にのびる。	体部外面はタタキ（2.5条/cm）のちナデ、下位は指オサエ、内面は板ナデと思われる。	外　淡黄 (2.5Y8/3) 内　黄灰 (2.5Y6/1)	長石・チャート・赤色粒を少し含む。		外D 内E	体部下位外面に黒斑。
124	SK51	高杯	口径15.0	やや丸味をもつ杯底部から屈曲して外反しながら外方へ広がる口縁部。端部は丸い。杯部はやや深い。	口縁～体部外面は縦方向の磨きと思われる。他はヨコナデ。	外　灰白 (10YR8/2) 内　にぶい黄橙 (10YR8/2)	長石・赤色粒・黒色粒を少し含む。	3/4	外C 内C	
125	SK51	高杯	口径15.0	口縁～体部は杯底部からやや内湾して外上方へ広がる。端部は丸い。	内外面ともヨコナデ。	外　淡橙 (5YR8/3) 内　淡橙 (5YR8/3)	長石・黒色粒を多く含む。赤色粒を少し含む。	完存	外E 内E	
126	SK52	甕	器高28.1 口径18.4 体径20.6 底径 4.2	口縁部は外反して広がり、外面に稜を有してさらに上外方にのびる。端部は丸い。体部は長胴形で、最大径は上位にある。底部は平底。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面上半は右上がりのタタキ（3条/cm）、下半は右上がりのタタキのち縦方向のタタキ（3条/cm）を部分的に施す。内面は横刷毛（7条/cm）。底部はナデ。	外　淡橙 (5YR8/3) にぶい褐 (7.5YR5/3) 内　淡橙 (5YR8/3) にぶい褐 (7.5YR5/3)	長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/2	外B 内B	口縁～体部上半外面に煤付着。 体部下半内面にこげ状の付着物。
127	SK52	甕	口径15.7 体径21.1	口縁部は外反して上外方に開く。端部は上方につまみだし丸くおさめる。体部は丸味をもつ。	口縁部外面はヨコナデのち縦刷毛（8条/cm）、内面はヨコナデ。体部外面はタタキ（3条/cm）、内面は刷毛のちナデ。	外　灰白 (10YR8/2) 黄橙 (10YR7/2) 内　灰白 (10YR8/2)	長石・チャートを多く含む。赤色粒を少し含む。	1/4	外C 内E	口縁～体部外面に煤付着。
128	SK52	甕	口径15.0	口縁部は外反して広がり、やや屈曲してのびる。端部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデ、外面に凹線1条めぐる。体部外面はタタキ（5条/cm）、内面は横方向（右→左）の篦削り。	外　にぶい褐 (7.5YR6/3) 内　明褐灰 (7.5YR7/2)	石英・長石・チャート・赤色粒を多く含む。	1/6	外C 内C	口縁～体部外面に煤付着。

番号	出土場所	器種	法量	形態	手法	色調	胎土	残存率		備考
								口縁	器表	
129	SK52 下層	甕	口径17.6	口縁部は外反して広がり、外面に稜をもってのびる。端部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。外面に擬凹線2条めぐる。体部外面は縦刷毛と思われる。内面は横方向（右→左）の篦削りか刷毛と思われる。	外 淡橙 (5YR8/3) 内 灰白 (5YR8/2)	やや粗い石英・長石・チャート・赤色粒を多く含む。	1/4	外D 内D	口縁部外面に煤付着。
130	SK55	甕	口径14.6 体径22.8	口縁部はやや内湾して上外方に開く。端部は内傾して内側に肥厚し、断面三角形。体部は丸味をもつ。体部最大径は上位にある。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は刷毛（8条/cm、10条/cm）、内面は横方向（左→右）の篦削り、下位指オサエ。	外 橙 (7.5YR7/6) 灰褐 (7.5YR4/2) 内 灰黄 (2.5Y7/2) 灰褐 (7.5YR4/2)	石英・長石を多く含む。赤色粒を少量含む。	1/3	外C 内B	口縁～体部外面に煤付着。
131	SK55	甕	口径15.4	口縁部はやや内湾して外上方に開く。端部はやや内傾して内側に肥厚し、断面は三角形。体部は丸味をもつ。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は刷毛と思われる。内面は横方向（左→右）の篦削り。	外 橙 (7.5YR7/6) 内 にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・チャート・赤色粒を多く含む。	1/4	外C 内B	口縁部外面に煤残存。
132	SK55	甕	口径15.4	口縁部は内湾ぎみに外上方に開く。端部はやや内側に肥厚し、平面を成す。	口縁部は内外面ともヨコナデ。	外 にぶい黄橙 (10YR7/3) 内 浅黄橙 (10YR8/3)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/8	外E 内E	
133	SK56	甕	口径15.8	口縁部は大きく外反して広がり、さらに外方にたちあがる。端部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は縦刷毛、内面は横方向（右→左）の篦削り。	外 淡黄 (2.5Y8/3) 内 灰白 (2.5Y8/2)	石英・長石・チャートを少し含む。	1/4	外C 内D	口縁外面に煤付着。
134	SK57	甕	器高28.7 口径19.8 体径23.5 底径 3.3	口縁部は外反して広がり、さらに直立してのびる。端部は、やや鋭く、内傾した面をもつ。体部は長胴形で、中位に最大径。底部は平底。	口縁部は内外面ともヨコナデ。外面に擬凹線3条めぐる。体部外面はタタキのち縦刷毛（5条/cm）を密に施し、内面は縦方向（下→上）の篦削りのち上部に横方向（左→右）の篦削り。底部外面は篦削り。	外 浅黄橙 (7.5YR8/3) 内 浅黄橙 (10YR8/3)	石英・長石・赤色粒を多く含む。	1/2	外B 内C	口縁～体部外面に煤付着。体部下半内面に黒褐色の付着物。
135	SK57	甕	口径15.2	口縁部はやや内湾して上外方に開く。端部は丸く、内側にやや肥厚する。体部は直線的。	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面はヨコナデ、内面は横方向（左→右）の篦削り。	外 赤 (7.5R4/6) 内 赤 (10R5/6)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。	1/3	外D 内E	
136	SK57	底部（甕）	底径 4.0	底部はやや丸味をもった平底。	体部外面は縦刷毛（7条/cm）、下位は指オサエ、内面は篦削りと思われる。底部外面はタタキ（3条/cm）。	外 橙 (5YR7/6) 内 灰白 (2.5Y8/2)	石英・チャート・赤色粒を少し含む。		外C 内C	体部外面に煤付着。
137	SK57	器台	口径18.4	口縁部は外反してのび、端部はやや肥厚して丸くおさめる。体部はわずかに内湾する。	杯部外面はヨコナデ、内面は磨き。	外 橙 (2.5YR7/6) 内 赤橙 (10R6/8)	石英・長石・黒色粒を少し含む。	1/2	外E 内E	
138	SK57	器台	脚径17.8	脚部は段をもって外方へ広がる。端部は外反し、丸くおさめる。	脚部外面はヨコナデのち篦磨きと思われる。内面は横方向（右→左）の篦削り。	外 にぶい橙 (7.5YR7/4) 内 淡黄 (2.5Y8/3)	石英・長石・チャート・赤色粒を少し含む。		外E 内E	
139	SK58 下層	壺	口径16.1	口頸部は外反して広がり、さらに屈折して上方にたちあがる。端部は丸い。体部は扁球形になるものと思われる。	口頸部は内外面ともヨコナデ。口縁部外面に擬凹線4条めぐる。頸部外面に円形浮文1個貼り付け。体部外面は磨き、内面は指オサエ、横刷毛（14条/cm）。	外 にぶい黄橙 (10YR7/3) 内 灰白 (10YR8/2) 黄灰 (2.5Y4/1)	長石・チャート・赤色粒を少し含む。	2/3	外D 内D	口縁部外面に煤付着。 口縁部内面に黒斑。

番号	出土場所	器種	法量	形態	手法	色調	胎土	残存率		備考
								口縁	器表	
140	SD37	壷	口径16.6	頸部は直線的に立ち上がり口縁部は外反する。	頸部から口縁部外面は縦刷毛を密に施す。内面は密に横刷毛。端部は刺突文を施す。					
285	包含層	壷	口径24.4	口縁部は外反し、端部は下方向に大きく拡張し、面を成す。	端部には4条の細かい凹線文を施し、円形浮文を貼り付けている。					
286	包含層	壷	口径12.2	口縁部は直接的に外方に開く。	内外面とも調整不明					
287	包含層	甕	口径21.2	頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反する。	内外面とも調整不明					
288	包含層	甕	口径17.2	口縁部は「く」の字状に屈曲し、立ち上がる。	胴部外面に縦刷毛の痕跡が残る。					
289	包含層	甕	口径18.8	丸く張り出した胴部をもち、口縁部は短く外反する。	胴部外面に縦刷毛の痕跡が残る。					
290	包含層	甕	口径13.2	「く」の字状に鋭く屈曲する口縁部をもつ。	胴部外面は縦刷毛を施し、内面は斜位・横位（右→左）の篦削り。					
291	包含層	甕		「く」の字状に鋭く屈曲する口縁部をもつ。						
292	包含層	甕		口縁部は内湾気味に立ち上がる。						
293	包含層	甕	口径20.2	口縁部は外反して立ち上がる。	胴部外面に粗い線刷毛の痕跡が残る。					

表４．古墳時代～律令期の土器観察表

番号	遺構	器種	口径	器高	手　法	色　調	焼成	残存率
141	SD05	杯蓋	12.7	3.5	天井部外面はロクロ削り、その他はロクロナデ。ロクロ回転は左。	外：N7/灰白・内：N6/	良好	1/6
142	SD05	杯蓋	15.1	4.6	天井部3/4ロクロ削り、その他はロクロナデ、天井部内面中央に仕上げナデを施す。ロクロ回転は左回り。	外：N7/灰白・内：N6/	良好	1/3
143	SD05	杯蓋	14.8		天井部外面はロクロ削り、その他はロクロナデ。	内外：N1/灰	良好	若干
144	SD05	杯身	10.4	5.2	立ち上がり部受部は内外面ともロクロナデ。底部3/4はロク口削り。ロクロ回転は右回り。底部内面は仕上げナデ。	外：2.5GY6/1オリーブ灰・内：2.5Y6/1黄灰	良好	1/2
145	SD05	杯身	11.8		底部外面のみロクロ削り、他はロクロナデ。	内外：2.5YG7/1明オリーブ灰	良好	1/6
146	SD05	杯身	12.6	3.6	底部外面篦切りか。他はロクロナデと思われる。	内外：5Y8/2灰白	不良	1/3
147	SD05	蓋	14.5	5.7	天井部外面ロクロ削り。内面は同心円叩きをナデ消す。口縁部内外面ともロクロナデ。ロクロ回転は左回り。	内外：5B5/青灰1・断面：5R5/1赤灰	良好	2/3

番号	遺構	器種	脚径	器高	手　法	色　調	焼成	残存率
148	SD05	高杯	13.1		外面はカキ目を施す。端部はロクロナデ、内面はロクロナデ、シボリ目残す。沈線２条施す。	内外：7.5R5/2灰赤・断7.5R5/3にぶい赤褐	良好	1/2
149	SD05	高杯	9.4		杯部外面はロクロ削り。他はロクロナデ。ロクロ回転は右回り。	杯：2.5GY7/1明オリーブ灰・脚10Y7/1灰白	良好	1/2

番号	遺構	器種	口径	器高	手　法	色　調	焼成	残存率
153	SB02	平瓶	6.1	11.8	体部下半2/3ロクロ削り。他はロクロナデ。	7.5Y6/1灰	良好	1/2
154	SD37	甕						
294	包含層	杯蓋			ロクロナデ。	外：N5/灰・内：N6/灰		小片
295	包含層	杯蓋	11.9		天井部約3/4ロクロ削り。他はロクロナデ。	内外：10Y7/1灰白	良好	不明
296	包含層	杯蓋	8.9	(3.3)	天井部約3/4ロクロ削り。他はロクロナデ。天井部内面は仕上げナデ。	内外：10Y7/1灰白	良好	1/3
297	包含層	杯蓋	9.8	4.0	天井部約3/4ロクロ削り。他はロクロナデ。	内外：5Y7/1灰白	良好	1/2
298	包含層	蓋	8.0		天井部約3/4ロクロ削り。他はロクロナデ。	内外：10Y7/1灰白	良好	1/2・
299	包含層	杯身			体部はロクロ削り。他はロクロナデ。	内外：N7/灰白	良好	小片

番号	遺構	器種	脚径	器高	手　法	色　調	焼成	残存率
300	包含層	高杯			内外面ともロクロナデ。	内外：N7/灰白	良好	2/3

番号	遺構	器種	口径	器高	手　法	色　調	焼成	残存率
301	包含層	器台			内外面ともロクロナデ。	外：10Y3/1オリーブ黒内：7.5Y7/1灰白	良好	
302	包含層	甑			体部下半は不定方向の篦削り。その他の部分はロクロナデ。	内外：N6/灰	良好	1/2
303	包含層	甕						
304	包含層	杯蓋	15.3	2.2	天井部外面は篦切り後ロクロナデ。他はロクロナデ。	内外：10Y6/1灰	良好	1/2
305	包含層	杯蓋転用	13.5	2.4	天井端外面は篦切り後ロクロナデ。他はロクロナデ。天井部内面は平滑にする。	内外：2.5GY7/1明オリーブ灰	良好	1/3
306	包含層	杯蓋	18.1		天井部外面は篦切りのちロクロナデ。他はロクロナデ。	内外：10GY6/1緑灰	良好	1/3
307	包含層	杯蓋	17.7	3.1	天井部外面平坦部は篦切りのちロクロナデ。他はロクロナデ。天井部内面には仕上げナデを施す。	内外：5B5/1青灰	良好	1/3
308	包含層	杯蓋	15.8	2.3	天井部外面平坦部は篦切りのちロクロナデ。他はロクロナデ。天井部内面には仕上げナデを施す。	内外：N5/0灰	良好	1/2
309	包含層	杯蓋	14.3		天井部外面平坦部は篦切りのちロクロナデ。他はロクロナデ。天井部内面には仕上げナデを施す。	内外：N7/0灰白	良好	1/2
310	包含層	杯蓋	17.0	(1.5)	天井部外面篦切り。他はロクロナデ。天井部内面に仕上げナデ。	内外：灰青色	良好	
311	包含層	杯蓋	13.4	1.1	天井部外面篦切りのち不定方向のナデ。他はロクロナデ。天井部内面はやや平滑。	内外：7.5Y6/1灰	良好	
312	包含層	杯蓋	13.8	(2.0)	天井部外面篦切りのちロクロナデ。他はロクロナデ。	内外：N7/灰白	良好	1/3
313	包含層	杯蓋	13.9	(1.3)	天井部外面篦切りのちロクロナデ。他はロクロナデ。	内外：10Y3/1オリーブ黒	不良	1/6
314	包含層	杯蓋	13.5		天井部外面篦切りのちロクロナデ。他はロクロナデ。	内外：N5/　灰	良好	1/3
315	包含層	杯蓋	11.0	1.6	天井部外面は篦切りの後ロクロナデ。他はロクロナデ。	内外：H6/ 灰	良好	1/4
316	包含層	杯A	11.9	3.9	底面篦切り。底面外周から口縁部・底部内面はロクロナテ。底部内面には仕上げナデを施す。	内外：N8/　灰白	普通	1/3
317	包含層	杯A	12.8	4.0	底面篦切り後不定方向のナデ。その他はロクロナデ。	内外：N6/0灰	良好	1/2
318	包含層	杯A	12.5	3.3	底面篦切り後不定方向のナデ。その他はロクロナデ。	内外：N8/0灰白	普通	1/2
319	包含層	杯A	13.0	3.3	底面篦切り後不定方向のナデ。その他はロクロナデ。	内外：N8/0灰白	普通	1/2

番号	遺構	器種	脚径	器高	手　法	色　調	焼成	残存率
320	包含層	杯A	14.0	3.5	底面篦切り後不定方向のナデ。その他はロクロナデ。底部内面は不定ナデを施す。	内外：7.5Y8/1灰白	普通	1/2
321	包含層	杯A	13.6	3.4	底面篦切り後不定方向のナデ。その他はロクロナデ。	内外：N7/0灰白	良好	2/3
322	包含層	杯A	14.3	3.9	底面篦切り後不定方向のナデ。その他はロクロナデ。底部内面にカキ目状痕跡あり。	内外：5Y5/1灰	良好	1/2
323	包含層	杯身転用杯A	13.0	3.8	底面は篦切り未調整。その他の部分はロクロナデ。底部内面は平滑に仕上げる。	内外：7.5Y8/1灰白	不良	1/2
324	包含層	杯A	13.2	3.2	底面篦切り後ロクロナデ。その他はロクロナデ。	外：10Y8/1灰白	良好	1/4
325	包含層	杯A	13.9	3.6	底面は篦切り未調整。その他はロクロナデ。	内外：N6/灰	良好	1/2
326	包含層	杯A	12.8	3.5	底面は篦切り未調整。その他はロクロナデ。外面は部分的に黒色化する。	口縁：N3/暗灰・体部10Y8/1灰白	不良	
327	包含層	杯A	14.8	4.0	底面は篦切り後ロクロナデ。他はロクロナデ。底部内面は平滑になる。	内外：5Y4/1灰	良好	1/4
328	包含層	杯A	14.6	4.5	底面は篦切り未調整。他けロクロナデ。外面に2条の細い沈線を施す。	内外：5B6/1青灰	良好	1/4
329	包含層	皿A	13.6	2.5	底面は篦切り後ナデ。他はロクロナデ。	外：10GY4/1・内10GY6/1緑灰	良好	1/13
330	包含層	皿転用硯皿A	14.8	2.6	底面は篦切り後ロクロナデ。他はロクロナデ。口縁端部内面に1条の沈線を施す。底部内面は非常に平滑。	内外：10Y6/1灰	良好	若干
331	包含層	皿A	15.4	2.2	底面は篦切り未調整。他はロクロナデ。口縁端部内面に1条の細い沈線を施す。	内外：10Y6/1灰	良好	1/2
332	包含層	皿A	14.8	2.4	口縁部はロクロナデ。	内外：5GY5/1オリーブ灰	良好	1/3
333	包含層	皿A	15.2	3.0	口縁部はロクロナデ。底部内面は摩滅により調整不明。	内外：2.5GY8/1灰白	不良	1/4
334	包含層	皿A	15.4	2.2	底面は篦切り未調整。他はロクロナデ。	内外：5Y7/1灰白	良好	3/4
335	包含層	皿A	16.0	2.3	底面は篦切り後一部にナデを施す。他はロクロナデ。口縁部外面にロクロ目が残る。	内外：7.5Y7/1灰白	良好	若干
336	包含層	皿A	15.6	2.6	底面は篦切り後ロクロ削り。他はロクロナデ。口縁端部内面に沈線状の僅かな凹みあり。	内外：.5Y7/1灰白	良好	1/15
337	包含層	皿A	15.9	2.1	底面は篦切り後ナデ？他はロクロナデ。底部内面はロクロナデ後不定方向のナデ。	外：5B6/1青灰・内：2.5GY7/1明オリーブ灰	良好	1/5
338	包含層	皿A	16.0	2.9	底面は篦切り後篦削り。他はロクロナデ。	内外：2.5Y7/3浅黄	不良	1/2
339	包含層	皿A	15.8	2.6	底面は篦切り後ロクロナデ。他はロクロナデ。	内外：5Y6/2灰オリーブ	良好	1/2

番号	遺構	器種	口径	器高	手　法	色　調	焼成	残存率
340	包含層	杯B	12.0	4.3	底面は篦切り後ナデ。他はロクロナデ。底部内面に仕上げナデを施す。	内外：5PB7/1明青灰	良好	1/3
341	包含層	杯B	12.2	4.1	底面は篦切り後ロクロナデ。他はロクロナデ。	内外：5GY6/1オリーブ灰	良好	1/2
342	包含層	杯B	13.5	4.2	底面は篦切り後未調整。他はロクロナデ。底部内面は仕上げナデ。	内外：10Y6/1灰	良好	1/2
343	包含層	杯B	12.0	3.9	底面は篦切り後ロクロナデ。他はロクロナデ。	内外：N5/灰'	良好	1/2
344	包含層	杯B	12.6	4.1	底面は篦切り後未調整。他はロクロナデ。底部内面に仕上げナデ。	内外：N6/灰	良好	1/4
345	包含層	杯B						
346	包含層	杯B	12.5	4.3	底面は篦切り後ナデ。他はロクロナデ。底部内面は仕上げナデ。高台貼り付け時に篦を使用した痕跡が外面に残る。	内外：2.5GY8/1灰白	軟	2/3
347	包含層	杯B	12.6	3.7	底面は篦切り後ロクロナテ。他はロクロナデ。	内外：10Y8/1灰白	良好	1/3
348	包含層	杯B	12.1	4.4	底部から口縁部はロクロナデ。底部内面は仕上げナデを施す。底部内面は平滑になっている。	内外：7.5YR7/1灰白	良好	1/4
349	包含層	杯B	12.0	3.7	全面ロクロナデ。	内外：10BE5/1青灰	良好	1/4
350	包含層	杯B	16.2	5.6	底面篦切り後ロクロナデの後篦による不定方向の調整を行う。他はロクロナデ。	内外：10YR6/1灰	良好	1/2
351	包含層	杯B	15.0	6.1	底面篦切り後ロクロナデ、その他はロクロナデ。底部内面は仕上げナデを加える。	内外：7.5Y6/1灰	良好	1/4
352	包含層	稜椀	13.8	4.6	底面篦切り後ロクロナデ。他はロクロナデ。	内外：10Y4/1灰	良好	1/4
353	包含層	稜椀	16.6	6.0	底面篦切り後ロクロナデ。他はロクロナデ。底部内面は仕上げナデを加える。体部下半にロクロ目が認められる。	内外：N7/灰白～2.5GY7/1明オリーブ灰	良好	1/8
354	包含層	稜椀	15.8		内外面ともロクロナデ。外面下一半に弱い指頭圧痕が認められる。	外：5B6/1青灰・内：N7/灰白	良好	1/7
355	包含層	杯	6.8	2.2	底面篦切り後体部中位までロクロゲズリ。後底面以外はロクロナデ。	内外：10Y8/1灰白	良好	1/3
356	包含層	杯	10.1	2.9	底面篦切り。体部下半はロクロケズリ。後底面以外はロクロナデ。	内外：N4/灰	良好	1/4
357	包含層	小壷	6.6	3.8	底面篦切り未調整。底面以外はロクロナデ。	内外：N6/灰	良好	完形
358	包含層	小壷	4.2	6.6	底面から体部下方1/3は静止篦削り。他の部分はロクロナデ。底部内面に指頭圧痕が認められる。	内外：10Y8/1灰白	良好	完形
359	包含層	壷	13.2	16.4	全面ロクロナデ痕跡のみ認められる。	内外：5Y7/1灰白	良好	1/2

番号	遺構	器種	口径	器高	手　　法	色　調	焼成	残存率
360	包含層	壷	11.7		全面ロクロナデ。下半のみロクロケズリの痕跡あり。	内外：7.5Y7/1	良好	1/3
361	包含層	甕	14.2		全面ロクロナデ。			
362	包含層	甕	20.0		ロクロナデ。			
363	包含層	甕			車輪文タタキ			
364	包含層	硯	11.8					
365	包含層	硯						
366	包含層				車輪文			

表５．平安時代後期～鎌倉時代の土器観察表

番号	出土位置	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	備考	分類
155	SB03	土師器	皿	10.6	2.8	6.2	摩滅著しく調整不明	1/3残、灰白10YR8/2	
156	SB05：P784掘方	須恵器	椀	14.7	5	8	底部ヘラキリ→ナデ	1/8残、灰N6/	
157	SB05：P556掘方	須恵器	椀	16.7	5.9	6.8	底部回転糸切り	7/12残、灰白7.5Y8/1	
158	SB05：P429	須恵器	椀	16.4	6.1	6.6	底部回転糸切り	1/3残、灰白10Y7/1	
159	SB05：P396掘方	須恵器	椀	16.4	5.1	5.4	底部回転糸切り	1/3残、灰白10Y7/1	
160	SB05：P396掘方	須恵器	椀	16.8	5.7	5.4	底部回転糸切り	1/5残、灰N6/	
161	SB05：P380	須恵器	椀	16.5	(4.8)			1/2残、青灰5PB6/1	
162	SB05：P396掘方	須恵器	椀		(2.5)	5.4	底部回転糸切り	底部残、青灰5PB6/1	
163	SB05：P429	須恵器	皿	7.5	1.6	4.6	底部回転糸切り	完形、灰色7.5Y8/1	
164	SB05：P323	須恵器	捏鉢	29.8	(11.2)			完形、5Y8/1	
165	SB05：P363掘方	瓦器	椀	15.3	6.0	5.9	内面：口縁部沈線、底部刷毛目→ジグザグ文	完形、灰N4/1	
166	SB05：P396掘方	瓦器	椀	15.1	6.1	6.2	内面：底部刷毛目→ジグザグ文	3/4残、灰N4/1	
167	SB05：P429掘方	瓦器	椀	14.9	5.1	6.2	内面：底部刷毛目→ジグザグ文	5/8残、灰白7.5Y7/1	
168	SB05：P475	土師器	杯	14.5	3.9	7.1	摩滅著しく調整不明	5/8残、浅黄橙7.5YR8/6	
169	SB05：P772	土師器？	椀	12.4	(4.4)		摩滅著しく調整不明	1/4残、灰白7.5Y8/1	
170	SB05：P307 柱穴内	土師器	？		(3.2)		高台内：指押さえ	5/6残、橙5YR7/6	
171	SB05：P396	土師器	塝	24.8	(14.0)		胴部：縦位タタキ目→頸部タタキ目を消す	1/2残、淡黄2.5Y8/3	
172	SB06：P479	瓦器	椀	14.0	4.7	6.6	外面：口縁ヨコナデ、内面：底部ジグザグ文	3/8残、灰N4/	
173	SB06：P598	瓦器	椀	14.2	4.7	6.4	外面：口縁ヨコナデ、内面：底部ジグザグ文	1/2残、灰7.5Y6/1	
174	SB06：P400	瓦器	椀	13.7	5.2	6.6	摩滅著しく調整不明	1/2残、灰7.5Y4/1	
175	SB06：P379	瓦器	皿	9.0	1.8		内外面：ヨコナデ	1/2残、灰N4/	
176	SB06：P400掘方	土師器	皿	7.6	1.5	3.6	底部回転糸切り	3/4残、灰白10YR8/2	
177	SB06：P400掘方	土師器	皿	8.6	1.4		摩滅著しく調整不明	1/3残、灰白2.5Y8/2	
178	SB06：P598	土師器	皿	8.1	(1.3)		摩滅著しく調整不明	1/8残、にぶい橙7.5YR7/4	
179	SB06：P598	土師器	皿	8.6	(1.4)		内外面：ヨコナデ	1/4残、灰白5Y7/2	
180	SB06：P393	土師器	皿	15.2	(2.2)		摩滅著しく調整不明	1/5残、灰N6/にぶい黄橙10YR7/4	
181	SB06：P473	土師器	托	9.4	4.3	4.6	底部回転糸切り、底部焼成前穿孔	完形、淡黄2.5Y8/3	
182	SB07：P392掘方	須恵器	椀	16.0	5.5	6.3	底部回転糸切り	1/3残、明青灰5PB7/1	
183	SB07：P392掘方	黒色土器	皿	9.8	2.3	4.5	底部回転糸切り	1/2残、灰N5/	
184	SB07：P471掘方	瓦器	椀	14.0	5.1	6.4	外面：口縁ヨコナデ、内面：底部ジグザグ文	2/3残、灰N4/	
185	SB07：SD21	白磁	碗	18.0	(5.8)		外面：体部下半無釉、内面：見込み花文（陰刻）	釉色：灰10Y8/2、胎土：灰白7.5Y8/2	
186	SB07：SD21	青磁	碗		(3.0)		内面櫛描文(花文？)	釉色：灰白10Y7/2、胎土：灰白10Y7/1	
187	SB07：SD21	土師器	皿	8.3	(1.3)		摩滅著しく調整不明	1/8残、にぶい橙10YR7/3	
188	SB08：P15	瓦器	椀	15.0	5.8	6.2	外面：口縁暗文、内面：底部ジグザグ文	1/3残、灰N4/	
189	SB08：P16	瓦器	椀	14.4	6.3	5.5	内面：底部平行文	5/8残、暗灰N3/	
190	SB08：雨落溝	瓦器	椀	15.4	5.6	5.9	摩滅著しく調整不明	5/8残、灰N4/	
191	SB08：雨落溝	瓦器	椀	15.0	5.5	6.6	摩滅著しく調整不明	3/4残、灰N5/	
192	SB08：雨落溝	瓦器	椀	15.9	4.8	6.4	摩滅著しく調整不明	1/6残、灰10Y7/1	
193	SB08：雨落溝	瓦器	椀	5.8	(4.6)		外面：暗文あり	1/4残、灰N5/	
194	SB08：雨落溝	瓦器	椀	5.1	(4.5)		摩滅著しく調整不明瞭	1/3残、灰7.5Y5/1	
195	SB08：雨落溝	瓦器	皿	7.8	1.6		摩滅著しく調整不明	1/2残、灰白10Y8/1	
196	SB08：雨落溝	瓦器	皿	9.0	1.8		摩滅著しく調整不明	3/4残、明オリーブ2GY7/1	
197	SB08：雨落溝	土師器	托	17.6	4.7	8.7	底部回転糸切り	1/6残、橙7.5YR7/6	
198	SB08：雨落溝	土師器	杯	15.6	3.6		摩滅著しく調整不明	5/12残、橙7.5YR7/6	

番号	出土位置	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	備考	分類
199	SB08：雨落溝	土師器	皿	14.8	3.7		外面：口縁ヨコナデ、体部指押さえ	完形、にぶい黄橙10YR7/4	
200	SB08：雨落溝	土師器	皿	9.3	1.5		底部ヘラ痕あり	完形、浅黄橙7.5YR8/3	
201	SB08：雨落溝	土師器	羽釜		(3.5)		摩滅著しく調整不明	破片、灰褐5YR5/2	
202	SB08：雨落溝	土師器	甕		(3.6)		摩滅著しく調整不明	破片、にぶい黄橙10YR7/3	
203	SB08：雨落溝	須恵器	椀	15.0	4.1	5.5	底部回転糸切り	灰N6/	
204	SE01：上層	瓦器	椀	14.8	5.6	7.2	内面：底部ジグザク文	2/3残、暗灰N3/	
205	SE01：上層	瓦器	椀	14.8	5.6	5.7	内面：底部ジグザク文	完形、暗灰N3/	
206	SE01：最下層	瓦器	椀	13.8	5.8	5.6	内面：底部ジグザク文	完形、暗灰N3/	
207	SE01：上層	土師器	皿	14.7	2.8	9.3	外面：口縁ヨコナデ、体部指押さえ	4/5残、浅黄2.5Y8/4	
208	SE01：上層	土師器	托	10.4	4.0	5.1	底部回転糸切り、底部焼成前穿孔	完形、浅黄2.5Y8/3	
209	SE01：中層	土師器	杯	16.4	3.9	7.6	底部回転糸切り、体部回転ナデ	1/3残、浅黄橙10YR8/3	
210	SE03	土師器	皿	7.7	1.4		外面：口縁ヨコナデ、体部指押さえ	完形、灰白2.5Y8/2	
211	SE03：下層	瓦器	椀	12.6	4.7	6.2	内面:底部ジグザク文	1/3残、灰N5/	
212	SE02	須恵器	捏鉢		(5.0)		外面：カキ目	破片、オリーブ黒7.5Y3/1	
213	SE02	瓦器	椀		(0.8)	6.0	摩滅著しく調整不明	破片、明オリーブ灰.5GY7/1	
214	SK06	青磁	碗	9.8	(3.5)			破片、釉色：明緑灰7.5GY8/1、胎土：灰白N8/	
215	SK13	白磁	碗	15.5	6.5	6.7	外面：体部下半無釉	完形、釉色：灰白7.5Y7/2、胎土：灰白7.5Y8/2	大宰府椀Ⅳ－1
216	SK16	青磁	碗		(2.1)	6.6	内外面：陰刻文、高台内無釉	1/2残、釉色：緑、胎土：灰白2.5GY8/1	
217	SK16	須恵器	椀		(1.5)	5.6	外面に墨痕(転用硯か)	破片、黄灰2.5Y7/1	
218	SK16	土師器	皿	8.0	1.0	6.0	摩滅著しく調整不明	破片、淡橙5YR8/4	
219	SK07	瓦器	椀	11.9	(3.9)		摩滅著しく調整不明、内面に暗文の痕跡あり	1/5残、灰7.5Y4/1	
220	SK11	須恵器	椀	16.6	4.5	5.1	底部回転糸切り→ナデ	3/4残、青灰5PB6/1	
221	SD16下層	瓦器	椀	14.3	5.5	6.6	内外面：暗文	1/4残、灰7.5Y6/1	
222	SD16下層	瓦器	椀	12.4	(4.1)		内面：暗文	破片、灰10Y6/1	
223	SD16上層	瓦器	椀	15.7	(4.2)		内面：暗文の痕跡	破片、灰7.5Y6/1	
224	SD16下層	瓦器	椀		(1.4)	6.7	摩滅著しく調整不明	破片、灰白2.5Y7/1	
225	SD16下層	不明	椀		(3.3)	7.6		破片、淡黄2.5Y8/4、瓦器か	
226	SD16下層	瓦器	皿	9.0	2.0		外面：口縁ヨコナデ、体部指押さえ	3/4残、灰白5Y7/1	
227	SD16下層	瓦器	皿	8.9	1.7		外面：口縁ヨコナデ、体部指押さえ	1/2残、灰7.5Y5/1	
228	SD16下層	瓦器	皿	8.5	2.2		外面：口縁ヨコナデ、体部指押さえ	完形、灰10Y4/1	
229	SD16下層	瓦器	皿	8.3	1.9		外面：口縁ヨコナデ、体部指押さえ	1/4残、灰N5/	
230	SD16下層	瓦器	皿	6.8	1.5		外面：口縁ヨコナデ、体部指押さえ	1/4残、灰白5Y7/1	
231	SD16下層	土師器	托		(4.0)	5.3	底部回転糸切り、底部焼成前穿孔	2/3残、淡黄2.5Y8/3	
232	SD16下層	土師器	托	10.8	3.1	4.6	底部回転糸切り、底部焼成前穿孔	1/3残、灰白10YR8/2	
233	SD16下層	土師器	皿	8.8	1.5	5.8	外面：口縁部ヨコナデ	1/8残、にぶい橙5YR7/4	
234	SD16下層	土師器	甕？		(3.2)		内外面：ヨコナデ	破片、浅黄2.5Y8/4	
235	南SD16	須恵器	椀		(3.0)	4.8	底部回転糸切り	1/4残、灰7.5Y5/1	
236	南SD03	青磁	椀	12.0	(3.2)		外面：蓮弁文	1/7残、釉色：明緑灰7.5GY8/1、胎土：灰白N8/	大宰府龍泉窯系椀Ⅰ－6b
237	南SD03	白磁	椀	15.0	(2.6)			1/7残、釉色：灰白7.5Y8/2、胎土：灰白7.5Y8/1	

番号	出土位置	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	備考	分類
238	南SD03	瓦器	皿	8.6	1.2		外面：口縁ヨコナデ	破片、灰白2.5GY8/1	
239	南SD03	丹波？	堝		(3.3)		内外面：回転ナデ	破片、灰7.5Y6/1、丹波焼か（陶器質）	
240	南SD03	丹波	壺		(5.0)	16.0	外面：回転ヘラケズリ、内面：回転ナデ	破片、外面：淡橙5YR8/4、内面：灰白7.5Y7/1	
241	北SD03上層	丹波	甕	36.0	(2.0)				
242	北SD03	丹波	甕		(1.5)		内面：口縁部沈線	破片、外面：にぶい赤褐2.5YR4/4、内面：にぶい赤褐5YR5/4	
243	北SD03上層	丹波	鉢		(3.1)		内外面：回転ナデ	破片、内外面：明赤褐2.5YR5/6	
244	北SD03	須恵器	甕		(2.8)		内外面：回転ナデ	破片、灰N6/	
245	北SD03	黒色土器	皿	8.8	1.9		摩滅著しく調整不明	破片、灰5Y4/1	
246	SD36上層	土師器	堝	21.3	(15.0)		外面：口縁ヨコナデ、胴部横位タタキ目、内面：口縁ヨコナデ、胴部横位ナデ	3/4残、淡橙5YR8/4	
247	SD36	土師器	堝		(3.8)		内外面：ヨコナデ	破片、灰白2.5Y8/2	
248	SD36	土師器	椀		(1.1)	7.1	摩滅著しく調整不明	1/4残、淡黄2.5Y8/3	
249	SD36	土師器	托		(1.8)	6.2	底部回転糸切り	破片、灰白5Y8/1	
250	SD36	須恵器	椀		(2.4)	5.5	底部回転糸切り	破片、灰5Y6/1	
251	SD36	須恵器	椀		(1.3)	7.3	底部回転糸切り	1/4残、灰白5Y7/1	
252	SD36	須恵器	椀		(2.4)	7.0	底部回転糸切り	破片、灰白5Y7/1	
253	SD36	瓦器	椀		(1.1)	5.9	内面：底部ジグザク文	1/2残、灰5Y6/1	
254	SD37	須恵器	杯				内面：格子文（ヘラ描き）	破片、明紫灰5RP7/1	
255	SD37	須恵器	不明		(3.7)		内外面：回転ナデ	破片、青灰5PB5/1	
256	SD37	須恵器	捏鉢		(3.0)		内外面：回転ナデ	破片、明青灰5B7/1	
257	SD01	瓦器	椀	14.7	4.5		外面：口縁ヨコナデ→暗文、体部指押さえ 内面：底部ジグザク文	1/4残、灰N4/	
258	SD28	瓦器	椀	12.7	4.5	6.9	外面：口縁ヨコナデ→暗文、体部指押さえ 内面：底部ジグザク文	1/3残、灰10Y6/1	
259	SD28	瓦器	皿	8.1	1.8		内外面：口縁ヨコナデ、体部指押さえ	完形、灰7.5Y6/1	
260	SD05	土師器	堝						
261	SD05	土師器	皿	7.8	1.7		摩滅著しく調整不明	1/2残、淡橙5YR8/4	
262	SD04	土師器	堝		(3.9)		内外面：回転ナデ	破片、灰黄2.5Y6/2	
263	SD22	須恵器	皿	8.1	(2.0)		内外面：回転ナデ	1/5残、灰白5Y8/1	
264	SD17	黒色土器	椀		(1.5)	6.8	底部回転糸切り	1/5残、オリーブ灰10Y4/1	B類
265	SD39	須恵器	皿	13.8	2.2	11.5	内外面：回転ナデ	1/5残、オリーブ灰2.5GY6/1	
266	SD09	土師器	杯		(2.0)	6.0	摩滅著しく調整不明	1/5残、灰白10YR8/2	
267	SD08	土師器	皿	7.9	1.2		内外面：ヨコナデ	1/5残、浅黄橙7.5YR8/4	
268	柱穴内	緑釉	皿	14.2	2.9	6.5	全面施釉	1/2残、胎土：灰白10YR8/1、釉：浅黄2.5Y8/4	
269	柱穴内	須恵器	杯	14.0	3.3		内外面：回転ナデ	5/6残、明紫灰5RP7/1	
270	P158柱穴内	須恵器	椀	15.6	4·5	5·8	底部回転糸切り	2/3残、灰N7/	
271	P402柱穴内	瓦器	椀	14.8	5.3	5.8	摩滅著しく調整不明	1/2残、灰5Y6/1	
272	P194掘方内	瓦器	椀	14.8	5.4	5.4	摩滅著しく調整不明	1/4残、灰7.5Y4/1	
273	P325掘方内	瓦器	椀	13.8	4.5	7·0	摩滅著しく調整不明	1/4残、灰N4/	
274	P226柱穴内	瓦器	皿	8.3	1.9		外面：口縁ヨコナデ、底部指押さえ、内面：口縁ヨコナデ、底部ナデ、	完形、灰白N4/	

番号	出土位置	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	備考	分類
275	柱穴内	瓦器	皿	8.3	1.5		外面：口縁ヨコナデ(上方引き上げ)、底部指押さえ、内面：口縁ヨコナデ、底部ナデ、	完形、灰白N4/	
276	柱穴内	黒色土器	椀	15.8	5.4	7·4	外面：剥離のため調整不明、内面:ミガキ(密)	内黒、1/3残、外：灰白5Y8/1、内：暗灰N3/	A類
277	柱穴内	黒色土器？	皿	10.5	2.0	7.3	外面：口縁ヨコナデ、内面：ヨコナデ(ミガキの痕跡)	内黒、1/2残、外：浅黄橙10YR8/3、内：暗灰N3/	
278	P427柱穴内	土師器	皿	11.2	2.0		外面：口縁指押さえ→ヨコナデ、底部ナデ、内面：口縁ヨコナデ、底部ナデ、	1/2残、浅黄橙7.5YR8/6	
279	柱穴内	土師器	皿	8.5	1.9		摩滅著しく調整不明	1/4残、浅黄橙7.5YR8/6	
280	P777柱穴内	土師器	皿	8.8	1.5		外面：口縁ヨコナデ、底部回転糸キリ、	5/8残、にぶい橙5YR7/4	
281	P383柱穴内	土師器	皿	8.6	1.3		外面：口縁ヨコナデ、底部回転糸キリ→板目圧痕、内面：口縁ヨコナデ、底部ナデ	1/2残、にぶい橙5YR6/3	
282	P416柱穴内	天目茶碗	椀		(4.6)	4.9	外面：底部露胎	釉色：オリーブ黄7.5Y6/3、胎土：灰白5Y8/2	瀬戸・美濃系
283	P781柱穴内	土製品	土錘	3.3	1.8	0.6	摩滅著しく調整不明	完形	
367	M-3区第４層	須恵器	椀	12.9	4·6	6.8	底部ヘラキリ	1/4残、灰白5Y7/1	
368	F-0区包含層	須恵器	椀	14.6	4.6	8.5	底部ヘラキリ	1/2残、灰白5Y7/	
369	M-1区第4層	須恵器	椀	16.4	5.4	7.6	底部ヘラキリ	1/3残、灰白5Y7/1	
370	I-13区第3層	須恵器	椀	15.3	4.5	5·9	底部回転糸キリ	1/4残、灰白N7/	
371	K-3区第4～10層	須恵器	椀	16.7	5.9	5.0	底部調整不明	1/4残、明灰N3/	
372	L-2区第4～8層	須恵器	椀	16.6	4.2	6.8	底部回転糸キリ	1/3残、灰N6/	
373	L-3区第4層	須恵器	椀	16.6	4.2	5.6	底部回転糸キリ	1/2残、明青灰10BG7/1	
374	G·H-2区第4層	須恵器	捏鉢	24.6	9.2	8.0	外面:回転ナデ、内面:回転ナデ→不定方向ナデ	1/8残、灰白7/	
375	L-3区第4·8層	須恵器	捏鉢		(10.8)		外面：回転ナデ、内面：回転ナデ→不定方向ナデ	破片、灰7.5Y6/1	
376	J-0区第4層	須恵器	捏鉢		(10.2)		内外面：回転ナデ	破片、灰5Y6/1	
377	N·G-1区包含層	須恵器	捏鉢		(3.2)		内外面：回転ナデ	破片、灰白10Y7/1	
378	G-1区包含層	須恵器	捏鉢		(2.9)		内外面：回転ナデ	破片、灰白10Y8/1	
379	E-3区第4層	須恵器	捏鉢		(7.0)		内外面：回転ナデ	破片、灰N6/	
380	J-4区包含層	須恵器	捏鉢		(2.3)		内外面：回転ナデ	破片、緑灰10GY6/1	
381	L-6区第3層	須恵器	甕	26.2	(5.2)		外面：口縁回転ナデ、胴部横位タタキ目、内面：口縁回転ナデ	1/4残、灰白10Y8/1	
382	H-1区第4層	須恵器	甕	17.0	(5.0)		外面：口縁タタキ目→ヨコナデ、胴部横位タタキ目、内面：口縁回転ナデ	1/5残、灰白N7/	
383	J.K-8区包含層	須恵器	甕	18.2	(15.9)		外面：口縁回転ナデ、胴部横位タタキ目→回転ナデ、内面：口縁回転ナデ、胴部同心円文	1/4残、灰7.5Y7/1	
384	L-3区第3層	須恵器	甕	20.8	(14.3)		外面：口縁回転ナデ、胴部格子タタキ目、内面：口縁回転ナデ	灰N5/	

番号	出土位置	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	備考	分類
385	G-6区土器群	須恵器	甕	30.8	(12.8)			灰N5/	
386	第4層	須恵器	甕		(8.0)		内外面：回転ナデ	破片、灰N6/	
387	K-2区第4～10層	須恵器	壷	26.4	(47.2)				
388	M･I-区第8･9層	須恵器	壷	10.4	(9.2)				
389	L-2区第4-10層	須恵器	杯	14.6	3.6	6.2	底部回転糸キリ	完形、淡黄2.5Y8/4	
390	F-5区第4層	土師器	杯	15.0	3.9	7.3	底部回転糸キリ	5/4残、淡黄2.5Y8/3	
391	H-8･9区包含層	土師器	皿	8.6	1.5	4.7	底部回転糸キリ	3/4残、浅黄橙7.5YR8/3	
392	L-2区第4～8層	土師器	托	10.2	4.4	4.1	底部回転糸キリ･穿孔	3/4残、浅黄橙7.5YR8/3	
393	G･H-8区礫層	土師器	不明		(2.6)	5.7		1/2残、灰白5Y8/2	
394	J-1区第4層	土師器	堝	20.4	(6.9)		外面：口縁ヨコナデ、胴部横位タタキ目、内面：口縁ヨコナデ、胴部横位ナデ	浅黄橙10YR8/4	
395	J-1区第4～8層	土師器	堝	17.1	(5.0)		外面：口縁ヨコナデ、胴部横位タタキ目、内面：口縁ヨコナデ、胴部横位ナデ	1/3残、浅黄2.5Y8/3	
396	O-1区第4･5層	土師器	堝	23.0	(4.9)		外面：口縁ヨコナデ、胴部横位タタキ目、内面：口縁ヨコナデ、胴部斜位ナデ、当具痕残る	1/6残、淡黄2.5Y8/4	
397	L-1区第2～3層	土師器	堝	19.6	(8.6)		外面：口縁ヨコナデ、胴部横位タタキ目、内面：口縁ヨコナデ、	にぶい黄橙10YR7/3	
398	L-4区第3層	土師器	堝	19.2	(7.5)		外面：口縁ヨコナデ、胴部横位タタキ目、内面：口縁ヨコナデ、胴部横位ナデ	灰白10YR8/2	
399	D-6区第4層	土師器	堝	22.8	(6.3)		外面：口縁ヨコナデ、胴部横位タタキ目、内面：口縁ヨコナデ、胴部斜位ナデ、当具痕残る	淡黄2.5Y8/3	
400	H-7区第3層	土師器	堝		(4.1)		外面：口縁ヨコナデ、胴部横位タタキ目、内面：口縁ヨコナデ	破片、にぶい黄橙10YR7/3黄橙10YR7/3	
401	G-8区第3層	土師器	堝		(6.2)		外面：口縁回転ナデ、胴部横位タタキ目→回転ナデ、内面：口縁回転ナデ、胴部同心円文	破片、淡黄2.5Y8/3	
402	L-2区第4-8層	土師器	堝		(5.2)		外面：口縁ヨコナデ、内面：口縁ヨコナデ、胴部ハケ目	破片、灰黄褐10YR6/2	
403	G-1区第4-2層	土師器	堝		(5.1)		外面：口縁ヨコナデ、胴部横位タタキ目、内面：口縁ヨコナデ、胴部横位ナデ	破片、淡黄2.5Y8/3	
404	E-2区第4層	土師器	堝		(5.2)		内外面：ヨコナデ	破片、にぶい褐7.5YR5/3	
405	J-0区第4層	土師器	堝		(7.5)		外面：口縁ヨコナデ、胴部横位タタキ目、内面：口縁ヨコナデ、胴部横位ナデ	破片、橙5YR7/6	
406	H-1区第4-2層	土師器	堝		(2.7)		内外面：ヨコナデ	破片、浅黄橙8/3	
407	J-2区第4-8･10層	土師器	堝		(4.0)		内外面：ヨコナデ	破片、灰黄6/2	

番号	出土位置	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	備考	分類
408	O-1区第4･5層	土師器	堝		(5.4)		外面：口縁ヨコナデ、胴部横位タタキ目、内面：口縁ヨコナデ、胴部横位ナデ	破片、黄灰2.5Y5/1	
409	E-4区第3層	土師器	堝		(4.1)		外面：口縁ヨコナデ、胴部横位タタキ目、内面：口縁ヨコナデ、胴部横位タタキ目	破片、にぶい橙7.5YR7/4	
410	不明	土師器	堝		(3.4)		内外面：ヨコナデ	破片、浅黄橙7.5YR8/4	
411	G･H-8区礫層	土師器	堝		(4.2)		内外面：ヨコナデ	破片、淡黄5Y8/3	
412	K-1区第3層	土師器	堝		(3.0)		内外面：ヨコナデ	破片、橙7.5YR7/6	
413	E-3区第4-1層	土師器	堝		(6.9)		外面：口縁ヨコナデ、胴部横位タタキ目、内面：口縁ヨコナデ、胴部横位ナデ	破片、橙7.5YR7/6	
414	L-2区第3層	土師器	堝		(3.9)		内外面：ヨコナデ	破片、にぶい黄橙10YR6/3	
415	K-1･2区第3層	土師器	堝		(6.5)		外面：口縁ヨコナデ、胴部横位タタキ目、内面：口縁ヨコナデ、胴部指頭圧痕	破片、淡黄2.5Y8/3	
416	E-4区遺構面上				(3.0)		内外面：ヨコナデ	破片、淡黄橙7.5YR8/6	
417	D-6区第4層	土師器	堝		(10.0)		外面：口縁回転ナデ、胴部横位タタキ目→回転ナデ、内面：口縁回転ナデ、胴部同心円文→ナデ	破片、浅黄橙10YR8/3	
418	G-2区第4-2層	土師器	堝		(2.7)		内外面：ヨコナデ	破片、にぶい黄2.5Y6/3	
419	F-2区第4-4層	土師器	甕		(5.0)		内外面：ヨコナデ	破片、にぶい橙7.5YR6/4	
420	L-8区第2･3層	土師器	甕		(5.5)		内外面：ヨコナデ	破片、にぶい黄橙10YR6/3	
421	I･H-8･9包含層	土師器	甕		(5.1)		外面：胴部縦位タタキ目	破片、にぶい黄色橙10YR7/4	
422	D-2区第4層	土師器	甕		(6.3)		内外面：横位タタキ目	破片、にぶい黄橙10YR7/2	
423	K-1区第3層	土師器	堝		(2.8)		内外面：ヨコナデ	破片、にぶい黄橙10YR7/2	
424	E-7区第4層	土師器	堝		(3.2)		摩滅著しく調整不明	破片、浅黄橙10YR8/4	
425	L-2区第3層		堝	12･8			摩滅著しく調整不明	三足付	
426	L-1区第4-10層	黒色土器	椀	14.4	6.1	6.1	内外面：ヘラミガキ、底部回転糸キリ	1/2残、オリーブ黒7.5Y3/1	B類
427	L-2区第4-10層	瓦器	椀	15.9	5.9	6.0	外面：口縁ヨコナデ、体部指押さえ→暗文、内面底部ジグザグ文	内面端部沈線、3/8残、暗青灰5B3/1	
428	M-1区第2･3層	瓦器	椀	12.1	4.9	6.5	外面：口縁ヨコナデ、体部指頭圧痕→暗文、内面：底部ジグザグ文	外面端部沈線、灰7.5Y4/1	
429	E-6区第3層	瓦器	椀	12.2	4.4	6.0	外面：摩滅、内面：底部ジグザグ文	灰7.5Y4/1	
430	E-2区遺構面	瓦器	椀	13.4	5.3	5.3	外面：摩滅(指頭圧痕→ナデ)、内面：底部ジグザグ文	3/8残、灰N4/	
431	D-1区第2･3層	瓦器	椀	14.2	4.9	6.7	外面：指頭圧痕→暗文、内面底部ジグザグ文	1/2残、暗灰N4/1	
432	L-3区第3層	瓦器	椀	13.2	4.6	5.9	外面：指頭圧痕、内面底部ジグザグ文	2/3残、灰N4/	
433	C-2区第3層	瓦器	椀	12.8	4.3	6.2	外面：指頭圧痕、内面底部ジグザグ文	1/2残、灰10Y5/1	
434	O-1区第3層	瓦器	椀	12.7	4.7	5.9	外面：指頭圧痕、内面底部ジグザグ文	1/3残、灰N5/	
435	O-1区第4･5層	瓦器	椀	13.5	5.0	5.9	外面：指頭圧痕、内面底部ジグザグ文	1/2残、銀化現象	

番号	出土位置	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	備考	分類
436	F-2区第4層	瓦器	椀	13.7	4.9	5.8		灰N4/	
437	O-1区第4･5層	瓦器	椀	11.4	4.3	5.0	外面：指頭圧痕、内面：螺旋状文	1/5残、暗灰3/	
438	L-1区第2･3層	瓦器	椀	14.0	3.8		内面：細かいミガキ(点状)→レコード状文	内面端部沈線、1/8残、灰5/	
439	O-1区第3層	黒色土器	椀	12.3	(4.9)		内外面：ミガキ痕	1/8残、灰黄褐4/2	A類
440	F-5区第4層	瓦器	椀	10.6	(2.8)		外面：指頭圧痕、内面：暗文	1/8残、灰10Y5/1	
441	L-2区第4-2層	黒色土器	椀		(1.0)		内面：底部放射状ミガキ	1/3残、灰N4/	B類
442	O-3区第3層	瓦器	椀		(2.7)	6.0	内面底部ジグザグ文	1/3残、灰N4/	
443	K-4区第4-8層	瓦器	椀		(2.4)	6.4	外面：指頭圧痕→暗文、内面底部ジグザグ文	1/2残、灰4/	
444	G･H-8区第2層	瓦器	椀		(2.2)	5.9	内面：底部ジグザグ文	1/3残、灰10Y5/1	
445	L-1区第2･3層	瓦器	椀		(2.0)	6.5	内面：底部暗文	2/3残、灰白8/1	
446	E-14区包含層	瓦器	皿	8.8	2.1		外面：口縁ヨコナデ、体部指頭圧痕、内面底部ジグザグ文	1/5残、灰N5/	
447	E-14区包含層	瓦器	皿	10.2	2.1		外面：口縁ヨコナデ、体部指頭圧痕、内面底部平行線文	1/4残、灰N4/	
448	F-6区第4層	瓦器	皿	9.7	1.6	8.7	外面：口縁ヨコナデ、体部指頭圧痕、内面底部ジグザグ文	1/3残、灰N5/	
449	K-3区第4-8･10層	瓦器	皿	9.0	1.6		内面：底部ジグザグ文	1/2残、灰7.5Y4/1	
450	不明	瓦器	皿	9.4	1.6		外面：口縁ヨコナデ、体部指頭圧痕、内面：ヨコナデ	1/2残、灰N4/1	
451	L-2区第3層	瓦器	皿	9.9	1.3		外面：口縁ヨコナデ、体部指頭圧痕、内面底部ジグザグ文	1/3残、灰白7.5Y4/	
452	I～K-11～14区第2･3層	瓦器	皿	8.0	1.2		外面：口縁ヨコナデ、体部指頭圧痕、内面：口縁ヨコナデ、底部不定ナデ	1/4残、灰10Y5/1	
453	G･H-13区第4層	瓦器	皿	8.8	1.3		外面：口縁ヨコナデ、体部指頭圧痕、内面底部ジグザグ文	1/3残、暗灰N3/	
454	G-5区第4層	瓦器	皿	8.2	1.6		外面：口縁ヨコナデ、指頭圧痕	完形、灰白7.5Y7/1	
455	P-4区第4層	瓦器	皿	8.1	1.3		外面：口縁ヨコナデ、体部指頭圧痕、内面：口縁ヨコナデ、底部不定ナデ	1/2残、灰N4/	
456	O-1区	瓦器	皿	8.4	1.9		外面：口縁ヨコナデ、体部指頭圧痕、内面：口縁ヨコナデ、底部不定ナデ	完形、オリーブ黒10Y3/1	
457	P-2区第4層	瓦器	皿	7.8	1.5		外面：口縁ヨコナデ、体部指頭圧痕、内面：口縁ヨコナデ、底部不定ナデ	2/3残、灰N6/	
458	E-15区包含層	黒色土器	皿	8.9	9.1	1.9	内外面：ヘラミガキ?、底部回転糸キリ	3/4残、灰N5/	
459	E-2区第4層	青磁	椀		(2.5)		外面：蓮弁文(片彫り)	破片、釉色：淡緑色、胎土：灰白N8/	大宰府：龍泉窯系椀Ⅰ-5b

番号	出土位置	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	備考	分類
460	H-1区第4-1層	青磁	椀		(2.8)		外面：蓮弁文 (片彫り)	破片、釉色：明オリーブ灰 5G7/1、胎土：灰白10Y8/2	大宰府： 龍泉窯系 椀Ⅰ-5b
461	F-5区第4層	青磁	椀		(2.5)		外面：蓮弁文 (片彫り)	破片、釉色：明緑灰 5G7/1、胎土：灰白10Y8/2	大宰府： 龍泉窯系 椀Ⅰ-5b
462	K-5区第3層	青磁	椀		(4.0)		内外面：蓮弁文 (片彫り)	破片、釉色：明緑灰 5G7/1、胎土：灰白10Y8/2	大宰府： 龍泉窯系 椀Ⅰ-2a
463	F-4区第4-3層	青磁	椀		(2.5)		外面：蓮弁文 (片彫り)	破片、釉色：青灰 10BG6/1、胎土：灰白 10Y7/2	大宰府： 龍泉窯系 椀Ⅰ-5？
464	F-5区第4層	青磁	椀		(3.9)		外面：？文(片彫り)	破片、釉色：オリーブ灰 7.5Y6/2、胎土：灰白 7.5Y7/1	
465	I-14区包含層	青磁	椀		(4.7)			破片、釉色：オリーブ灰 10Y6/2、胎土：灰白 7.5Y8/1	
466	K-3区第3層	青磁	椀	14.8	(4.0)			1/8残、釉色：オリーブ黄 7.5Y6/3、胎土：灰10Y6/1	
467	G-3区	青磁	椀		(2.9)		内面：蓮弁文 (片彫り)		大宰府： 龍泉窯系 椀Ⅰ-2a
468	E-7区第4層	青磁	椀		(2.2)	5.2	外面：櫛描き文 (10本/1単位)	破片、釉色：オリーブ黄 7.5Y6/3、胎土：灰白 10Y8/1	大宰府： 同安窯系 椀Ⅲ-1a
469	J-0区第3層	青磁	椀		(1.9)	4.8	内面：底部花文 (ヘラ描き)	破片、釉色：オリーブは 10Y6/2､胎土：灰白10Y7/1	
470	G-1区第4層	青磁	椀		(4.4)	5.8	内面：蓮弁文 (片彫り)	破片(№467と同じ)、釉 色：オリーブ灰10Y6/2、 胎土：灰白7.5Y7/1	大宰府： 龍泉窯系 椀Ⅰ-2a
471	H-1区第4-1層	青磁	椀		(2.3)	5.4	内面：底部花文 (ヘラ描き)	破片、釉色：オリー灰 10Y6/2､胎土：灰白10Y7/1	
472	H-1区第4-1層	青磁	椀		(1.5)	9.0		破片、釉色：オリー灰 10Y5/2､胎土：灰白10Y7/1	
473	6トレンチ第4層	青磁	Ⅲ		(0.9)	5.0	内面：？文(片彫り)、 列点文	1/3残、釉色：灰白 10Y8/1､胎土：灰白10Y7/1	大宰府： 同安窯系 ⅢⅠ-1b
474	G-2区第4-4層	青磁	Ⅲ		(1.4)	5.2	内面：？文(片彫り)、 列点文	1/4残、釉色：オリーブ黄 7.5Y6/3、胎土：灰白 10Y7/1	大宰府： 同安窯系 ⅢⅠ-1b
475	I･J-8区包含層	青磁	Ⅲ	10.2	(2.1)		内面：？文	1/4残、釉色：オリーブ灰 5GY6/1、胎土：灰白 7.5Y6/1	大宰府： 同安窯系 ⅢⅠ-1b
476	G･H-13区包含層	白磁	椀	15.8	(3.3)			1/8残、釉色：淡黄 7.5Y8/3、胎土：灰10Y8/1	大宰府： 椀Ⅱ1
477	G-9～11区包含層	白磁	椀		(3.6)			破片、釉色：灰白10Y8/1、 胎土：灰白7.5Y8/1	大宰府： 椀ⅡorⅢ
478	J-11区第3層	白磁	椀	14.0	(2.3)			1/8残、釉色：灰白 5GY8/1、胎土：明緑灰 10GY8/1	大宰府： 椀Ⅳ
479	L-5区第4-10層	白磁	椀		(3.6)		内面：？文 (ヘラ描き)	破片、釉色：灰白 2.5GY8/1、胎土：灰白 10Y8/1	
480	K-2区第4-10層	白磁	椀	15.8	(5.4)		外面：体部下半無釉、 内面：沈線	1/6残、釉色：明緑灰 7.5GY8/1、胎土：灰白N7/	
481	K-7区第4層	白磁	椀	15.7	(4.1)		内面：櫛描き文	1/5残、釉色：明緑灰 7.5GY8/1、胎土：灰白 10Y8/1	大宰府： 椀Ⅴ-2b?

番号	出土位置	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	備考	分類
482	K-3区第4-8層	白磁	椀		(2.7)		外面：口縁端部無釉(口禿)	破片、釉色：灰白5GY8/1、胎土：灰白7.5Y8/1	大宰府：椀Ⅸ
483	D-7区第4層	白磁	椀		(2.1)			破片、釉色：灰白7.5Y8/2、胎土：灰白7.5Y8/1	
484	G-8区包含層	白磁	椀		(2.8)	7.0	外面：体部下半無釉、内面：沈線	1/4残、釉色：灰白10Y8/1、胎土：灰白7.5Y8/1	大宰府：椀Ⅳ-1
485	L-2区第4-8層	白磁	椀		(2.2)	7.5	外面：体部下半無釉、内面：沈線	1/5残、釉色：明オリーブ灰2.5Y7/1、胎土：灰白7.5Y8/1	大宰府：椀Ⅳ-1
486	第2･3層	白磁	椀		(3.2)	7.4	外面：体部下半無釉	1/5残、釉色：明緑灰7.5GY8/1.胎土：灰白10Y8/1	大宰府：椀Ⅳ-1
487	L-2区第2層	白磁	椀		(1.6)	7.4	外面：体部下半無釉	1/5残、釉色：明緑灰7.5GY8/1.胎土：灰白10Y8/1	大宰府：椀Ⅳ-1
488	L-3区	白磁	椀		(2.5)	8.0	外面：体部下半無釉	1/3残、釉色：灰白7.5Y8/2、胎土：灰白7.5Y8/1	大宰府：椀Ⅳ-1？
489	第2･3層	白磁	椀		(3.2)	7.4	外面：体部下半無釉	1/2残、釉色：灰白10Y8/2、胎土：灰白5Y8/2	
490	I～K-11～14区第2･3層	白磁	椀		(3.6)	7.2	外面：体部下半無釉	1/2残、釉色：灰白5Y8/2、胎土：灰白2.5Y8/1	大宰府：椀Ⅴ-4
491	L-1区第2･3層	白磁	椀		(3.4)	6.0	外面：高台部無釉	釉色：灰白10Y8/1、胎土：明オリーブ灰2.5GY7/1	大宰府：椀Ⅴ-4
492	J～L-9･10区第2･3層	白磁	椀		(2.7)	7.8	外面：高台部無釉	破片、釉色：灰白5Y8/2、胎土：灰白7.5Y8/1	
493	E･F-2区第3層	白磁	皿		(1.2)	4.4	内面：目跡	釉色：灰白7.5Y8/2、浅黄2.5Y8/3	
494	K-14区包含層	白磁	皿		(1.2)	3.5	内面：輪状に釉掻き取り	破片、釉色：灰白10Y8/1、胎土：灰白5Y8/2	
495	F-14区	白磁	皿		(2.6)	3.8	内面：輪状に釉掻き取り	破片、釉色：灰白10Y8/1、胎土：灰白5Y8/2	
504	包含層	須恵器	椀		(2.0)	6.0	底部回転糸切り	1/5残、灰白10Y7/1	外底墨書「円」
508	P787掘方内	緑釉	椀		(1.1)	7.1	内外面：回転ナデ、高台内部分施釉	1/4残、釉色：灰白2.5GY8/1、胎土：淡黄2.5y8･3	京都系
509	F-2区第4-2層	緑釉	椀		(1.5)	6.8	内外面：回転ナデ、高台内部分施釉	3/4残、釉色：濃緑色、胎土：灰褐5YR5/2	京都系
510	H･I-1区第4-5層	緑釉	椀		(1･9)	6.3	外面：高台内回転糸キリ→ナデ→部分施釉、内面：沈線	3/4残、釉色：濃緑色、胎土：浅黄橙10YR8/4	
511	I-4区第4層	緑釉	椀		(3.4)		輪花	破片、釉色：黄緑、胎土：明青灰10GB7/1	
512	G-3区第4-4層	緑釉	皿	10.8	3.0	5.6	輪花、外面：口縁回転ナデ、体部回転ヘラケズリ	1/3残、釉色：緑、胎土：灰白10Y8/1	京都系
513	F･G-1･2区第4-2･3層	緑釉	椀	13.4	4.4	7.0	外面：高台内部分施釉	1/4残、釉色：緑、胎土：にぶい橙7.5YR7/4	近江系
514	G-8区包含層	緑釉	椀		(2.8)	7.8	外面：高台内無釉	1/8残、釉色：緑、胎土：淡黄2.5Y8/3	近江系
515	L-4区第4-10層	緑釉	椀		(1.8)	7.8	外面：高台内無釉	1/5残、釉色：深緑、胎土：青灰5PB6/1	近江系
516	F-2区第4-3層	緑釉	椀		(1.3)	7.2	全面施釉	1/5残、釉色：深緑、胎土：にぶい橙7.5YR7/41	
517	G-3区第4-2層	緑釉	椀		(1.3)	5.9	外面：高台内無釉	1/2残、釉色：淡緑、胎土：灰白7.5Y7/1	京都系

番号	出土位置	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	備考	分類
518	F-2区第4-3層	緑釉	椀		(2.2)	7.6	全面施釉	1/2残、釉色：灰白 10Y7.5/2、胎土：灰白 7.5Y7/1	近江系
519	2トレンチ第2層	緑釉	椀		(1.6)	7.1	全面施釉	1/2残、釉色：オリーブ灰、胎土：灰白7.5Y7/1	
520	第2・3層	緑釉	椀		(1.8)	7.2	外面：高台内無釉	1/5残、釉色：濃緑、胎土：灰白N7/	
521	E-2区第3層	緑釉	椀		(2.2)	5.6	外面：高台内部分施釉	破片、釉色：緑灰 10GY5/1、胎土：10Y7/1	
522	F・G-0～2区第4-3・4層	緑釉	皿	10.2	(1.6)		内外面：回転ナデ	1/8残、釉色：濃緑、胎土：浅黄橙10YR7/1	
523	D-5区第3層	施釉陶器	天目椀	13.8	(3.8)		鉄釉	1/6残、釉色：暗褐 10YR3/4、胎土：灰白 5Y8/1	瀬戸・美濃系
524	H-2区第4-1層	施釉陶器	天目椀		(4.3)		鉄釉	破片、釉色：黒2.5Y2/1、胎土：灰白10Y8/1	瀬戸・美濃系
525	E-5区第4層	施釉陶器	天目椀		(4.8)		鉄釉	破片、釉色：オリーブ黄 7.5y6/3、胎土：灰白10Y8/1	瀬戸・美濃系
526	G～N-2区第2・3層	施釉陶器	天目椀		(2.1)		鉄釉	破片、釉色：オリーブ黄 7.5y6/3、胎土：灰7.5Y6/1	瀬戸・美濃系
527	H-2区第4-2層	施釉陶器	天目椀		(4.1)		灰釉	破片、釉色：浅黄5Y7/3、胎土：灰白5Y8/2	瀬戸・美濃系
528	H-2区第4-2層	施釉陶器	天目椀		(4.8)		鉄釉	破片、釉色：オリーブ黒 5Y3/1、胎土：灰7.5Y6/1	瀬戸・美濃系
529	H-11区第4層	施釉陶器	皿	10.4	(1.7)		内面：菊花文（ヘラ彫り）	1/6残、釉色：オリーブ黄 5Y6/4、胎土：灰白2.5Y7/1	瀬戸・美濃系
530	D-6区第4層	施釉陶器	四耳壺		(3.1)		外面：櫛描き文（4条）	破片、釉色：オリーブ灰 10Y6/2、胎土：灰白N8/	瀬戸・美濃系
531	F-5区第4層	施釉陶器	卸皿		(1.2)		外面：底部回転糸キリ、内面：ヘラ状工具による格子目	破片、釉色：オリーブ灰、胎土：淡黄5Y8/3	瀬戸・美濃系
532	I-0区第4-2層	施釉陶器	鉢	28.4	(5.0)		内面：体部下半無釉	1/10残、釉色：オリーブ灰 7.5Y6/3、胎土：灰白 7.5Y8/1	瀬戸・美濃系
				瓦当径(cm)	瓦当厚(cm)	全長(cm)			
533	L-1区第4-10層	瓦	軒丸	(6.0)	1.4	(1.9)	瓦当面：巴文？	1/3残、灰白2.5Y8/1	
534	L-5区第4層	瓦	軒丸	(6.5)	(1.5)	(1.5)	瓦当面：巴文？	1/3残、灰白2.5Y8/1	
				全長(cm)	厚(cm)	孔径(cm)			
535	I-1区第4-4層	土製品	土錘	2.7	1.7	0.6	摩滅著しく調整不明	完形、橙5YR7/6	
536	G-1区第4-3層	土製品	土錘	(1.8)	1.8	0.6	摩滅著しく調整不明	1/2残、灰白N8/	
537	I-8・9区包含層	土製品	土錘	4.0	2.3	0.9	摩滅著しく調整不明	1/2残、灰白2.5YR6/8	
538	G-3区遺構面	土製品	土錘	(2.9)	0.9	0.3	摩滅著しく調整不明	1/2残、灰白2.5GY8/1	
				口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)			
554	不明	須恵器	椀	13.4	4.5	9.0	外面：底部ヘラキリ→ナデ	1/2残、灰白N8/	
555	不明	須恵器	椀	16.6	5.2	5.1	外面：底部回転糸キリ	1/2残、灰白7/	
556	第1層	須恵器	壷	19.6	(4.5)		内外面：回転ナデ	灰5Y6/1	
557	H-1区第1層	須恵器	捏鉢		(7.3)		内面：斜位ナデ	破片、オリーブ灰2.5GY1/6	
558	F-6区	須恵器	捏鉢		(6.8)		内外面：回転ナデ	破片、オリーブ灰2.5GY1/6	
559	不明	須恵器	捏鉢		(6.8)		内外面：回転ナデ	破片、暗オリーブ灰5GY5/1	
				瓦当幅(cm)	瓦当高(cm)	瓦当厚(cm)			
560	不明	瓦	軒平瓦	(10.8)	4.4	2.0	剣頭文	破片、灰5/	
				口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)			
561	不明	須恵器	杯		(2.3)	7.2	外面：底部ヘラキリ、内面：底部墨書「□」	1/4残、明灰黄2.5Y5/2	
562	不明	瓦器	椀	11.7	4.6	5.1	外面：指頭圧痕→暗文、内面底部ジグザグ文	1/3残、灰7.5Y4/1	

番号	出土位置	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	備考	分類
563	不明	瓦器	椀	13.7	4.7	6.3	外面：指頭圧痕、内面：暗文	1/2残、灰N6/	
564	第1層	瓦器	椀	10.8	4.4	4.5	外面：指頭圧痕、内面：螺旋状文(底部まで)	1/3残、暗灰N3/	
565	不明	緑釉	椀		(1.5)	6.8	外面：高台内無釉	1/2残、釉色：濃緑、胎土：浅黄橙10YR8/3	
566	不明	緑釉	椀		(1.7)	8.0	内外面：全面施釉？	1/4残、釉色：暗青灰10BG3/1、胎土：浅黄2.5Y8/3	
567	F-7区第1層	青磁	椀		(2.5)		内面：蓮弁文？(片彫り)	破片、釉色：オリーブ灰10Y6/2、胎土：灰白10Y7/1	
568	第1層	青磁	椀		(3.8)		内面：蓮弁文？(片彫り)	破片、釉色：オリーブ灰10Y6/2、胎土：灰白10Y7/1	
569	不明	青磁	椀		(3.9)		内面：？(片彫り)	破片、釉色：オリーブ灰10Y6/2、胎土：灰白10Y8/1	
570	不明	青磁	椀		(3.5)	6.6	外面：高台内輪状釉掻き取り、内面：花文(スタンプ？)	1/2残、釉色：オリーブ灰10Y5/2、胎土：明赤褐5YR5/8	
571	不明	青磁	椀		(2.6)	6.1	外面：高台内輪状釉掻き取り、内面：花文(片彫り)	底部残、釉色：オリーブ灰10Y6/2、胎土：灰白10Y7/1	
572	第1層	青磁	椀		(2.4)	4.2	内外面：櫛描き文	2/3残、釉色：灰白10Y7/2、胎土：灰白10Y8/1	大宰府：同安窯系椀Ⅲ-1c
573	不明	青磁	椀		(2.5)	5.7	外面：高台内無釉	1/2残、釉色：灰白10Y7/2、胎土：灰白N8/	
574	第1層	白磁	椀	14.6	(2.8)			1/8残、釉色：灰白2.5Y7/2、胎土：灰白10Y8/1	大宰府：椀Ⅳ
575	G-4区	白磁	椀		(3.4)			破片、釉色：灰白7.5Y7/2、胎土：灰白10Y8/1	
576	第1層	白磁	椀		(5.2)			破片、釉色：灰白10Y8/1、胎土：灰白7.5Y8/1	大宰府：椀Ⅴ-4
577	G-3区第1層	白磁	椀		(3.7)		内面：櫛描き文	破片、釉色：灰白7.5Y8/2、胎土：浅黄5Y7/3	
578	不明	白磁	椀		(2.9)	3.8	外面：体部下半無釉、	1/2残、釉色：灰白7.5Y8/2、胎土：浅黄5Y7/3	
579	第1層	白磁	椀		(1.5)	4.4	外面：畳付無釉	1/2残、釉色：灰白5Y7/2、胎土：灰白2.5Y8/2	
580	不明	白磁	椀		(1.7)	3.8	外面：高台内無釉	釉色：灰白10Y2/1、胎土：灰白7.5Y8/1	
581	第1層	白磁	皿	4.8	1.3	1.7	型作り	紅皿、完形、釉色：灰白2.5Y8/1、胎土：灰白2.5GY8/1	肥前磁器
582	不明	白磁	杯	6.4	2.8	3.0	外面：高台内無釉	完形、明緑灰7.5GY8/1、胎土：灰白N8/	肥前磁器
583	不明	白磁	杯	6.6	2.9	2.8	外面：畳付無釉	完形、灰白2.5GY8/1、胎土：灰白7.5Y8/1	肥前磁器
584	F-2区	土師器	皿	7.8	1.3		外面：口縁ヨコナデ、体部指押さえ、内面：口縁ヨコナデ、体部ナデ	完形、灰白2.5Y7/1	
585	F-2区	土師器	皿	7.7	1.3		外面：口縁ヨコナデ、体部指押さえ、内面：ヨコナデ	完形、灰白2.5Y8/2	

番号	出土位置	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	備考	分類
586	F-2区	土師器	皿	8.0	1.3		外面：口縁ヨコナデ、体部指押さえ、内面：口縁ヨコナデ、体部ナデ	完形、灰白10YR8/2	
587	E-1区	土師器	皿	8.9	1.7		摩滅著しく調整不明	1/4残、浅黄橙7.5YR8/3	
588	F-6区	土師器	皿	9.7	1.4		外面：口縁ヨコナデ、体部指押さえ、内面：ヨコナデ	完形、灰白2.5Y8/2	
589	K･L-5区	土師器	堝		4.0		内外面：ヨコナデ	破片、浅黄2.5Y8/3	
590	不明	土師器	甕	42.8	(8.4)				
				全長(cm)	厚(cm)	孔径(cm)			
591	第1層	土製品	?	(5.4)	3.2		外面：面取り様ケズリ	1/2残、灰N6/	
592	不明	土製品	土錘	3.7	2.1	0.5	摩滅著しく調整不明	完形、褐灰10YR4/1	

第５節　木製品

今回の調査によって出土した木器は、弥生時代後期～古墳時代前期に属するものと、中世に属するものに大別できるが、人形等古代の後半に属するものも少数確認することができる。弥生時代後期～古墳時代前期に属するものは土坑からの出土品であり、中世のものは旧河道から出土したものが大勢を占め、古代の木器も同一の旧河道内から出土している。

器種分類に関しては、奈良国立文化財研究所編纂の『木器集成図録』（原始編・古代編）を参照することとし、掲載のない遺物に関しては独自の器種設定を行った。記載は各遺構毎に行い、そのなかで器種分類を行っている。

１．弥生時代後期から古墳時代前期

この時期に属する木器は、調査区の中央西寄りの個所を中心として100基以上検出された粘土採掘坑と想定される土坑状の遺構内より出土したものである。土器の共伴する土坑がいくつかあるため、その所属時期については、第２章第１節の出土土器に関する報告を参照いただきたい。記述は各土坑（SK）毎とし、器種毎にまとめて記載する。敢えて記載していないものの多くは、用途不明の木器である。

SK25

ａ：用途不明木器（１・２）

１は現長69cm、太さ3.6cmの棒状材を半裁したものである。先端部は丸く仕上げ、その下方に２個所、両側から小さな刳り込みを入れる。

２は全長34.2cm、現幅23.8cm、厚さ1.8cmの板材であり、片面には表面調整を行った手斧状のハツリ痕が明瞭に残る。いずれも正目に材を用いる。

SK13

ａ：用途不明木器（３～６）

３は現長46.8cm、幅6.5cm、厚さ1.5cmの板状の形状を呈するが、両端は欠損する。その両側辺に２個所ずつの小孔を貫通しないように穿つ。板目取りを行う。５は長方形板状の形態にあるが、一小口辺が円弧を描くため、半円形もしくは半楕円形の旧態を想定することができる。その半裁直線辺に沿って遺存する６個所の小孔は、修復用の結束孔とも考えられるため、円盤状あるいは小判状の形態を想定することができる。厚さ1.6cmの板目材を使用する。

４・６については、形状を想定することもできない木片である。

SK11

ａ：部材（９）

９は現長76.8cm、幅9.6cm、厚さ8.4cmの板目取りした角材である。その下方には、側辺の片側には幅4.4cm、深さ2.4cmの臍溝を切る。もう一方には、長さ6.6cm、幅3.5cm、深さ2.8cmの臍孔を溝と段違いになる位置に穿つ。何に用いられた部材かは判断できない。

SK13

ａ：板材（12）

12は小口が円を描く可能性があるため、５のような円盤状の製品となることも考えられる。

SK18（10・11）

a：10の表面には調整のハツリ痕が残存している。現状では、これらの木器についてその用途を推定することのできる根拠はなく、板材とするより他にない。

SK41

a：桶（13・14）

いずれも刳物の桶である。13は長さ25.1cmの体部上辺から高さ5.5cmの把手が作り出される形式のものである。把手は内側に向かって大きく傾斜し、握部は径3.2cmの棒状を呈する。体部厚は1.4cmであるが、底辺から6.4cmで段を成して、厚さ2.6cmの最厚となる。その直ぐ下方に小さな段を成して、目釘が2本残存することから、ここに底板が設けられていたこととなる。体部外面の調整は非常に丁寧であるが、内面には鑿状工具の痕跡を明瞭に残す。14は厚さ1.6cm、高さ26.1cmを測るが、体部部分であるため有把式か否かの判断はできない。13と同様下方辺から6.4cmで体部最厚となるが、表面が腐食するため正確な厚さを確認できない。底板の装着法も13と同様であり、目釘孔を3個所残す。内外面とも比較的丁寧な仕上げとなる。いずれも縦木取りと想定される。

b：円盤形木器（15）

直径27.6cmになるものと推定される。厚さ0.8cmとかなり薄い。

SK42

a：桶（16）

高さ22.4cm、厚さ1.3cmの刳物桶の体部である。下方辺から4.6cmで底板の受部となる。外面は丁寧な仕上げ状態にあるが、内面にはケズリの痕跡が見て取れる。内面に底板を装着するための段やその固定用の木釘穴などは確認できないため、13・14とは型式の異なることが考えられる。

SK52

a：桶（19）

木取り等から判断して桶となる可能性が高いが、遺存状態が劣悪なため断定できない。現高25.4cmを測り、下方辺から7.2cmの個所が最厚部となるが、底板を設ける段の痕跡を確認できない。

SK46

a：梯子（18）

断面台形の材を用いた一木梯子の上半部である。上端は直線となり、そこに装着用となる一辺7.2cmの方形孔を穿つ。梯は2段分であり、現存端の直ぐ下方で下端になるものと思われる。現長122.1cm、幅19.8cm、梯間距離33.0cmとなる。

SK49

a：板材（22）

全長65.5cm、幅6.7cm、厚さ1.3cmの板材であり、その両端部及び中央部に長さ3cm前後、幅2cm前後の長方形の穿孔を施す。田下駄の枠部材あるいは建築の部材と思われる。

SK45

a：篦状木器（23）

現長78.8cm、幅5.2cm、厚さ1.4cmの細長い板材であり、その先端部を尖らせて蛇頭状とする。

b：串状木器（24）

現長60.5cm、断面3.3×2.1cmの楕円形となる棒状材の先端部を削って杭状としたものである。

c：用途不明木器（26・27）

26は板状の、27は細長い板状の木器である。

2．古代から中世

遺物の多くが前記したとおり旧河道内からの出土であり、呪符木簡のように明らかに中世に属するものと、人形のように古代に属することが明確なものとが混在している。そのため、両時期で型式変化が無く、何れの時期とも確定できない曲物・引物の資料を多く含むため、「古代」・「中世」として区分することを避け、古代～中世の遺物として記述することとした。ただ、中世(12世紀中葉～13世紀前半)に属することが明確な「井戸１（SE01)」に関しては遺物の限定・時期の特定ができるため、まとめて記載することとした。

SE01

呪符木簡・箸状木器・串状木器・扇骨・不明木器が出土すると共に、井戸枠の構造材が残存している。

a：呪符木簡（28～30）

28は全長27.4cm、幅3.8cmを測り、下方両隅を小さく面取する。頭部の右隅を大きく斜めに落としたうえで、両側辺から削り込みを加える。表面には削り込みを繋いで結束紐様の痕跡が確認される。呪文字は咄天咫(符籙)「急々如律」と書こうとしたものと思われるが、「急々」は「急」と「々」が合体したような字体となり、「如」は「女」偏のみとなるなど、著しい変体字・誤字となっている。また「令」の文字はなく「律」で書き収められているなど、文字の本来的な意味を無視した墨書となっている。29も基本的には28と同形態の木簡であるが、長さが23.6cmとやや短くなる。符籙を挟んで、「咄呎咫」・「急々如律令」の呪文が書かれている。30は下方に向かって幅狭となる形態であり、「令」の一部かと思われる墨書を確認できるが、上方のほとんどは欠損する。28・29は柾目材を用いるが、30は板目取りとなる。

b：箸状木器（38～40）

串状木器との区別が付きがたいものもあるが、一応を箸状木器とした。38は全長17.6cm、径0.4cmを測り、下方が細く尖る。39は下方先端が欠損するものの、現長20.1cmを測る。40は両先端を欠損し、現長で20.4cmとなる。

c：串状木器（41）

箸状木器と同様の形態となるが、現長が28.2cm以上であるうえ、全体に大きなソリをもつことから、串状木器とした。

d：扇（42・43）

扇の骨材であり、42で現長24.8cm、43で現長19.1cmとなる。基部側半部は幅広の扁平形態となり、その先端付近に要の孔を穿つ。

e：井戸枠部材（47～50）

井戸枠の隅木材である。幅９cm強・厚さ７cm強の角材を用い、下端から82cm前後の高さに、長さ６cm強・幅５cm前後の長方形の臍穴を１孔穿つ。上端部は腐植が著しく欠損するため、全長は知り得ない。いずれも木芯を避けた板目材を使用する。

SE02

井筒として使用されていた曲物と、漆器製鉢・椀の小片が出土している。

a：曲物（52）

底板がなく側板のみであり、結束が解けた状態にある。下方側辺部近くには、底板を固定していた目釘の孔を19箇所確認できる。径67.2cm、器高16.0cmの曲物を復元するものでる。

3．旧河道・包含層出土

旧河道・包含層からは多くの木器が出土しているものの、時期的にも弥生時代から中世のものが混在しており、形式的に時期を明確にすることができない器種もあるため、ここでは器種別に記述を行うこととする。

a：皿（53～56・58～60・63～70）

皿には口径により小型と大型の2類に大別することができる。いずれも、輪高台を作り出さない所謂皿Aの型式のみである。ただ、口縁部の形状は、内湾気味のものと外反気味のものが確認でき、同端部は水平面を形成するものと丸く納まるものが看取できる。

ⅰ．小型（53・55・59・63～67・69・70）

全形を知り得るものは53のみであり、他は半分以下の残存状態にあるが、概ね直径18cm（6尺）前後のものがここに含まれる。底部厚は0.4～0.8cm、器高0.8～1.2cmの範疇に納まるようである。その多くのものには、口縁部内外面に轆轤引きの痕跡をみることができ、55・59・63・69には内外面もしくは片面に刀子用の利器による切痕が残存する。ただ、全体的な残存状況が良好でないため、55においてのみ‖型の轆轤爪の痕跡を確認することができる。口縁部の形態は、53・56・65が外反する形態にあり、他は内湾する形態となる。端部は53・67が水平面をもつが、他は丸く納まる。59・69・70に関しては、口縁部を欠損するため細分できない。

ⅱ．大型（54・56・58・60・68）

口縁部の形態等は小型のものと共通しており、口径が22cm（約7尺）前後となる。底部厚は0.6～0.9cm、器高は1.0～1.8cmと小型のものよりも一回り大型となる。56以外はいずれも内外面に刀子用の利器による刃当たり痕を残し、特に58は非常に多数の痕跡が確認できる。56の口縁部が外反する以外は、内湾形態の口縁部となる。端部は58に平坦面がみられる他は、丸く納まる。また、60は中央に直径4.8cmに円孔が穿たれており、容器以外の用途に供したものと思われる。

b：鉢（57）

遺存状態が非常に悪いためかなりの推測を加えて、径約18cm（6尺）の浅い丸底形の鉢を想定した。器壁は1.1cm程度を測り、口縁端部には水平面をもつようである。

c：円形曲物（61・62・71～78）

側板との結合が木釘によるものと樺皮によるものの両者がみられるが、前者が多数を占めている。

ⅰ．目釘結合のもの（71～75）

径13cm前後（約4尺）、16cm前後（約5尺）、18cm前後（約6尺）、21cm前後（約7尺）さらに39cm前後（約13尺）の5種類に大別できる。4尺となるのは61・62と74であり、厚さは0.8cm程度となる。61は1/3程度を残存するため、側面に木釘穴を1個所のみ確認できるが、半分以上が残存する62においても木釘は1個所であるため、この大きさの曲物は側板との結合が木釘1本もしくは2本であったものと想定される。74は約半分を残し、直径となる位置に2個所の木釘穴を

確認することができる。また、中央部には結合とはまったく関係のない樺皮が残存することから、蓋であったと思われる。5尺の大きさとなるものは、71の1点のみである。厚さは0.7cmを測る。残存率は約2/3であり、その側辺には木釘を10個所数える。6尺に相当する資料は73であり、約半分が残存している。厚さは0.6cmを測り、その側辺には4個所の木釘がほぼ均等な間隔で打たれているため、全体では8個所の木釘を復原できる。7尺となる72は、厚さが0.9cmとなる。2/5程度の残存率であり、木釘穴は2個所を確認できるが、極めて近い間隔で打たれている。13尺となるのは75であり、1/7程度の残存となる。木釘は4個所あり、ほぼ均等な間隔で設けられている。携帯用曲物等ではなく、飯桶・水桶のような用途に当てられたものと思われる。

ii．樺皮結合のもの（76～78）

3点が出土しており、径18cm前後（約6尺）の1型式が看取できる。いずれも、側板の立つ位置に段をもたない樺皮結合B型である。77・78とも直径となる位置に樺皮あるいはその貫通穴を設けることから、対峙する4個所に結合が設けられていたことが推定される。76は細片のため詳細は不明であるが、外側となる面に利器による切痕を留める。

d：長方形曲物（79）

i．木釘結合のもの（79）

隅丸の長方形を呈しており、長辺が35.4cmを測るが、短辺側は半分弱の残存となる。結束穴は長辺部のほぼ中央となる個所にあることから、短辺側も中央部に設けられた計4個所の樺皮によって結束されていたものと想定される。内外面とも中央部に切痕が残る。

e：下駄（81～86）

体部と歯部が一連に作り出される連歯下駄が6点出土している。

i．BⅢa型式（85）

復原長は約18.9cm、幅9.6cm、幅指数50.8%を測る。体部表面には左足の使用痕が明確に残り、先端鼻緒も右に偏って設けられている。歯部の幅は体部より幅広にあったと思われるが、かなり使い込まれているため、3.6cmの高さまで磨滅っている。

ii．CⅡe型式（83）

全長22.8cm、最大幅11.1cmとなる。歯部は著しく低く、0.4cmを測る程度にある。前壺は後壺に比してかなり細い穴となっている。

iii．CⅢc型式（81）

長さ15.6cm、幅10.5cmを測る。全長に対する全幅の割合（幅指数）は67.3%を示す。歯の幅は体部幅よりも広くなり、高さも5.7cmとかなり高い状態で残るが、体部表面には左足の使用摩滅痕を確認することができる。前壺は体部幅のほぼ中央に穿たれ、後壺よりかなり細い穴となる。

iv．CⅢe型式（86）

残存状態が劣悪な状態にあるが、本型式となる可能性が高いのではないかと考える。

v．CⅣd型式（82）

全長19.2cm、幅8.9cm、幅指数46.4%とかなり細長くなる。前壺は中央に穿たれるが体部表面には左足の使用痕跡が明瞭に残る。歯部の高さが4.5cmを測り、先端面が丸みをもつことから、かなり使用されたことが推定される。

f：漆器椀（87～89）

3点の出土が確認されている。黒漆と赤漆の内外面への塗布の仕方の違いにより、A類とB類に大別される。

A類（87・88）

87は椀の体部から底部にかけての部分であり、内外面とも黒漆仕上げとなる。体部外面には、四葉の花柄を中心飾りとした亀甲花文を朱漆で描く。亀甲文は三段重ねの表現となっており、二つの亀甲文で一対となる文様位を全面に散らしていたものと思われる。88も椀であるが、木地が比較的厚手であり、内外面とも黒漆を塗布している。残存状況が劣悪なせいもあるが、文様等は確認することができない。

B類（89）

89は口縁部のみであり、浅手の椀もしくは皿状の製品になると想定される。木地が非常に薄く、内面には赤漆を、内面の口縁部から外面にかけては黒漆を塗り分ける。外面には、赤漆による横方向にひかれた筆書きの文様をわずかに看取できるが、文様構成は確認することができない。

g：人形（91～99）

9点の出土があるが全体の形状を知り得るものは4点であり、他は部分的な残存となっている。

i．AⅡb型式（91・92・97・98）

頭頂部は圭型もしくは直線型であり、頸部の切り込みは不等辺三角形による怒肩となる。腕部は両側辺の下方から削り込み、脚部は切り込みを入れた後に折り取ることによって表現している。形式的には、こうした特徴をもつAⅡb型式のみであり、全体を知り得ない部材についても本型式に属すると考える。ただその中でも、共通する特徴をもつ2つのグループに細分することができる。一つは91～93のグループであり、脚部は若干V字形に近い切り込みとなり、脚部先端が尖る状態にある。さらに、頸部の切り込みが長く、頭頂部が圭形となる。顔の表現も、墨書によって目・鼻・口・顎髭が示されている。91が全長25.2cm、92が全長24.3cm、幅は両者とも2.7cmを測る。これに対して、97・98がもう一つのグループとなる。頸部が短いために長頭形態となり、顔の表現は横方向に引かれた刻線のみによって行われる。頭頂部は直線的で、両角を斜めに落とす。脚部は平行に切り込むものの、97のように片足の先端部を尖らせるものもみられる。97の全長が35.4cm、98で32.1cm、幅は両者とも3.6cmとなる。そのなかで、91と92は顔の描き方に共通した手法が認められるため、同じ書き手によって描かれたことが想定される。94にも墨書によって鼻・口・髭が描かれているが、91・92よりかなり手慣れた筆の運びとなっている。

h：呪符木簡（100・101）

100は幅4.6cmで、上半部分を欠損するため長さは現長で16.9cmとなる。表面に「天罡□□□□□□□」の文字が書かれる。裏面への墨書は確認できない。101は下半部と右側辺の一部を欠損するため、現長は15.8cm、現幅は4.2cmとなる。表面には「天罡（符籙）」と墨書され、裏面には墨書は残らないものの墨痕として「天罡（符籙）」と読みとることのできる文字が残存する。いずれも邪気を祓うことを願った呪符木簡である。

i：陽物木器（104・105・106）

便宜的にその表現の違いから、以下の3型式に分類することとする。

i．棒型式（104）

直径0.9cm、長さ33.9cmの棒状材を用い、その頭部を小さく造りだし、先端部を両側から削っ

て篦状に薄くした形態にある。一応ここでは陽物として報告するが、簪状（コウガイ状）の木器となる可能性も高い。

ii．立体型式（105）

断面楕円形の材を用い、三方からのくり込みによって頭部を作り出す型式のものである。105は幅3.6cm、厚さ2.4cm、現長30.2cmを測る。下端は両面から削り込んで薄い作りとする。芯持ちの材を用いる。

iii．：板型式（106）

幅3.3cm、厚さ2.1cmの板目取りした板材を用いる。下方が折損するため、現長で26.7cmを測る。頭部は両側辺から削り込むだけの扁平な表現となる。

j：田下駄（108～117）

i．板型式（108～110）

基本的に、幅広い長方形の板本体のみによって使用される。108は全長が48.2cm・厚さ1.4cm、109は全長が46.1cm・幅19.2cm・厚さ1.6cm、110は全長が50.7cm・幅17.2cm・最大厚2.2cmを測る。3点とも鼻緒孔は方形の穴となる。108・109の鼻緒孔は使用者の足が本体の中央部に乗る位置に穿たれるが、109はかなり前方に位置する。ただ、前壺と後壺の間隔が前2者の15cm前後に対して、10cm前後と狭い配置になる。

ii．枠型式（111～115・117）

細長い板状の本体部と枠とを組み合わせるタイプである。本体部の両端部には両側辺からV字形の切り込みを入れて、そこで枠部と結合する構造であるが、鼻緒孔の位置・本体先端部の形状等に違いが認められる。111は本体部の両端が直線的に切断され、鼻緒孔を3箇所穿つ。全長40.2cm、幅10.3cm、厚さ0.6cmを測る。112・113は先端小口部が山形となり、鼻緒孔は前壺のみが穿たれる。112には後壺となる個所に両側辺から小さなV字の切り込みが加わる。112は長さ48.5cm・幅7.8cm・厚さ1.0cm、113は長さ44.9cm・幅8.5cm・厚さ1.5cmを測る。117は現長で84.5cm・最大幅12.2cmと倍以上の長さになるが、構造的には両者と同様になるものと想定される。114・115の本体部の形態は前2者と同様であるが、鼻緒孔をまったく設けない型式である。114は現長48.7cm・幅8.8cm、115は半裁状態であり、現長46.3cmとなる。116は枠部分であり、山形の横木と板状の縦木からなる。山形部は長さ36cm前後・幅13cm前後であり、両端部近くに方形の穴を穿つ。縦木は長さ44cm前後・幅3cm前後の板材の両端に臍を作り出し、これを横木の穴に装着した後外側に木釘を通して固定する構造となる。横木の台本体部が装着される頂坦面には木釘穴が1個所穿たれることから、111タイプの台本体とセットになっていたものと想定される。

k：槽（119）

平面形は、隅丸長方形に復原することができるものと考える。底部から体部へは稜をもたないまま移行する。口縁部に狭い水平面を形成するが、側辺部より小口部が幅広となるように、小口部分の器壁自体が厚い作りとなる。半裁された状態で残存するが、両隅に棒状の把手が作り出されるため、本来は四隅に設けられていたと考える。全長151.5cm、厚さ3.0cmを測る。縦木取りを行う。

l：馬鍬（120）

馬鍬の台木部分であり、全長100.2cm・径7.8cmの芯持ち材を用いる。引棒穴は高さ3.6cm・幅4.6cmの方形であり、これと直交する角度で8本の歯部装着用の穴が穿孔されている。引棒穴が貫通す

る片面に柄固定用の穴がみられることから、台木の側面に柄の装着されるタイプとなる。

m：木錘（121～123）

ⅰ．6類（121）

集成で分類した5型式には含まれないタイプのため、便宜的に「6類」とした。削り込みが大きく偏り、野球のバット状の形態となる。長さ18.9cm・径4.2cmの芯持ち材を用いる。図の下方部分は未調整の状態で、樹皮を剥いただけの自然面を残す。

ⅱ．4類（122）

長さ17.1cm・径6.3cmの芯持ち材を使う。手斧等の利器により両側から削り込んで、典型的な鼓形とする。削り込みは非常に粗く、調整を行わない。

ⅲ．4亜類（123）

長さ13.2cm、径2.5cmに細い芯持ち材を用いる。中央部は両側から削って細くするが、削り込みの頻度は小さく、僅かに窪む程度となる。両端部には樹皮をめくった自然面を残す。

n．指物腰掛け（124・125）

ⅰ．A型（125）

小型品の脚部となる。全長20.4cm、最大幅6.0cmの長方形板を原板とする。上端幅が4.4cmとやや狭くなり、その先に長さ2.5cmの臍が付く。臍の直下には、内面となる側に深さ約1cmの、補強材を装着するための臍穴が設けられている。

ⅱ．A′型（124）

幅9.8cm・幅6.4cmの比較的厚手の板材を用い、その両側辺から入った「く」の字形の刳り込みはかなり高い位置にあり、その上端部に長さ8.6cmの臍を作り出す。現長で37.8cmとなる。

o：柄（133）

厚さ2.1cmの板材を用いるものであり、頭部側で幅2.3cm・柄尻部分で幅3.9cmとなる。柄尻部分の平面形体は舳先状となり、両側辺とも一測辺に向って緩やかに湾曲する。

p：梯子（146）

一木作りの階段である。両端部を欠損するが、現長で134.2cmを残す。梯は2段分あり、その間は49.5cmとなる。上の梯から上端まで60cmを測るが次の梯が現れないため、上方へはこれで終了しているものと考えられる。幅15.7cmを測る。

第6節　金属器

金属器は、鉄製品、青銅製品などがある。1～4の鉄鏃・刀以外はすべて包含層からの出土である。

遺構から出土した金属器は、1がSB04の柱穴内、2の刀はSK01の土坑内、3がSD23、4がピット（P7777）より出土している。

鏡（6）

青銅製の素文鏡である。面径は4.7cmで、紐部を欠損する。

鉄　鏃（1・4・11・12）

鉄鏃は4点出土している。このうち1・11・12は刃部が欠損し、茎部のみ出土した。4は長頸片刃箭式鉄鏃である。

刀・縁（2・7）

2は、片関式の刀である。切先および茎部を欠く。刃部には鞘の木質痕が付着している。

7は銅製の縁金具と考えられる。形は小判形で、厚さは7cmである。

銅椀（18）

銅椀の破片と考えられる。

鎌（5）

柄鎌の刃部である。刃部は幅3.4cmと広く、茎部の先端は目釘穴を穿っている。

釘（3・14）

3・14は頭巻の釘と考えられる。

煙管（8）

吸い口部である。

表6．金属器観察表

No	出土位置	種別	製品名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考
1	SB04	鉄製品	鏃	(4.8)	0.8	0.7	茎部
2	SK01	鉄製品	刀	(16.4)	3.0(最大)	1(背部)	刀身に木質痕、片関式
3	SD23	鉄製品	釘	(5.3)	0.8	0.6	頭部欠損
4	P7777	鉄製品	鏃	(3.9)	0.8	0.4	長頚片刃箭式
5	L-7区第4-8層	鉄製品	鎌	11.3	3.4	0.2	完形、鎌先
				面径(cm)		厚さ(cm)	
6	K・L-5区第3・4層	青銅	鏡	4.7		0.7	紐部欠損、素文鏡
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	
7	H・I-8・9区包含層	銅製品	縁	3.8	2.2	0.7	
8	F-7区第3層	真鍮製	煙管	(2.5)	1.4	1.3	一部欠損、吸い口
9	F-7区第3層	銅製品	不明	3	1.4	1.2	
10	第1～3層	鉄製品	不明	(8.7)	1.3	1.2	下端欠損
11	E-6区遺構面	鉄製品	鏃	(4.0)	0.8	0.7	両端欠損、茎部
12	F-6区第4層	鉄製品	鏃	(3.8)	1.0	0.8	両端欠損、茎部
13	第3層	鉄製品	不明	(4.0)	0.9	0.8	両端欠損
14	第3層	鉄製品	釘	(2.5)	0.4	0.3	下端欠損、折頭釘
15	F-6・7区第4-1層	鉄製品	不明	(5.9)	(5.3)	(1.7)	板状
16	G-3区第4-2層	鉄製品	不明	(3.4)	(1.7)	(0.9)	
17	F-6・7区第4-1層	鉄製品	不明	(3.3)	(3.1)	(1.6)	
18	不明	銅製品	銅椀	(3.3)	(6.4)	0.2	内面:沈線

第7節　石　器

石　器

今回の調査で出土した石器の大部分は、表面採集ないしは包含層中からの出土であり、他の遺物との供伴関係等は不明である。出土した石器は、石鏃・石匙・磨石・扁平片刃石斧で、石斧を除けば概ね縄文時代の範疇で理解されるものである。

石　斧（12：写真図版57）

写真●－1は扁平片刃石斧である。わずかに緑色をおびた灰色の風化色を呈する、泥岩質の石材を用いている。剥離による整形の後、表裏および両側面と基部に丁寧な研磨が施されているが、研磨後の剥離面が認められる。南地区のSK48内埋土（黒褐色土）中より出土した。

石　鏃（1～8）

石鏃は合計8点が出土している。1点を除き、いずれも凹基式石鏃である。石材はすべてサヌカイトが用いられている。各個体間には、明瞭な風化度の差が認められる。風化が最も進行しているのは5で、黄灰色の器表面を呈しており、6がこれに次ぐ。また風化が最も浅い個体は8で暗灰色を呈し、1～4がこれに次いで風化が浅い状態を示す。7は両者の概ね中間的な器表面を見せている。

1は基部の抉りが深く、鋭利な脚端部をもつ石鏃である。表裏ともに緻密な二次加工が施されている。先端と片脚端部をわずかに折損する。

2は基部の抉りが浅い石鏃である。片側側縁が不整形で、左右非対称形となっているが、剥離痕の観察によれば、素材が厚く、側縁の二次加工が効果的に行えなかったためと思われる。

3は基部の抉りが深い石鏃である。先端と脚端を折損しているが、本来は鋭利な脚端部をもつものであったろう。

4は基部の抉りが浅い石鏃である。整った二等辺三角形状を呈し、鋭利な脚端部をもつ。両側縁はほぼ直線的な形態を示すが、先端部付近でわずかに屈折して、先端角が鈍くなるように仕上げられている。

5は先端を欠く。脚端部はややまるみをおび、両側縁はほぼ直線的に仕上げられている。

6は基部の抉りが深い石鏃である。片側の脚を折損するが、著しい左右非対称形を呈し、現存する脚は大きく外方に張り出すように見える。しかし詳細に観察すると、脚が現存する側縁中央の剥離痕は、他の二次加工と比較して粗大であり、一連の整形過程で生じたものとするには違和感がある。抉られたように見えるこの部位は、むしろ使用による欠損の可能性があり、本資料は、本来ごく一般的な、左右対称形の凹基式石鏃であったものと思われる。

7は4に近い形態を示す。片側側縁の形態がやや不整形であるが、これは先端近くから、ファシット状にのびる剥離痕が原因であり、二次加工に伴って偶発的に生じたものと思われる。

8はまるみをおびた基部を呈する。先端部が一見錐状に見えるが、使用に伴う摩耗が認められないこと、先端部付近の断面形が凸レンズ形で薄いことから、石鏃と判断した。

石　匙（9・10）

9は縦型の石匙である。サヌカイト縦長剥片の打面部を基部とし、両側縁に表裏から細かな二次加工を施している。背面側に広く自然面をとどめている。

10は青緑色を呈する、良質なチャートを用いている。やや剥離軸の傾いた剥片を素材とし、その厚い

打面部に緻密な二次加工を施して基部としている。相対する側縁に、主として腹面側から二次加工を施し、刃角60°前後を測る刃部をつくりだしている。

磨　石（11）

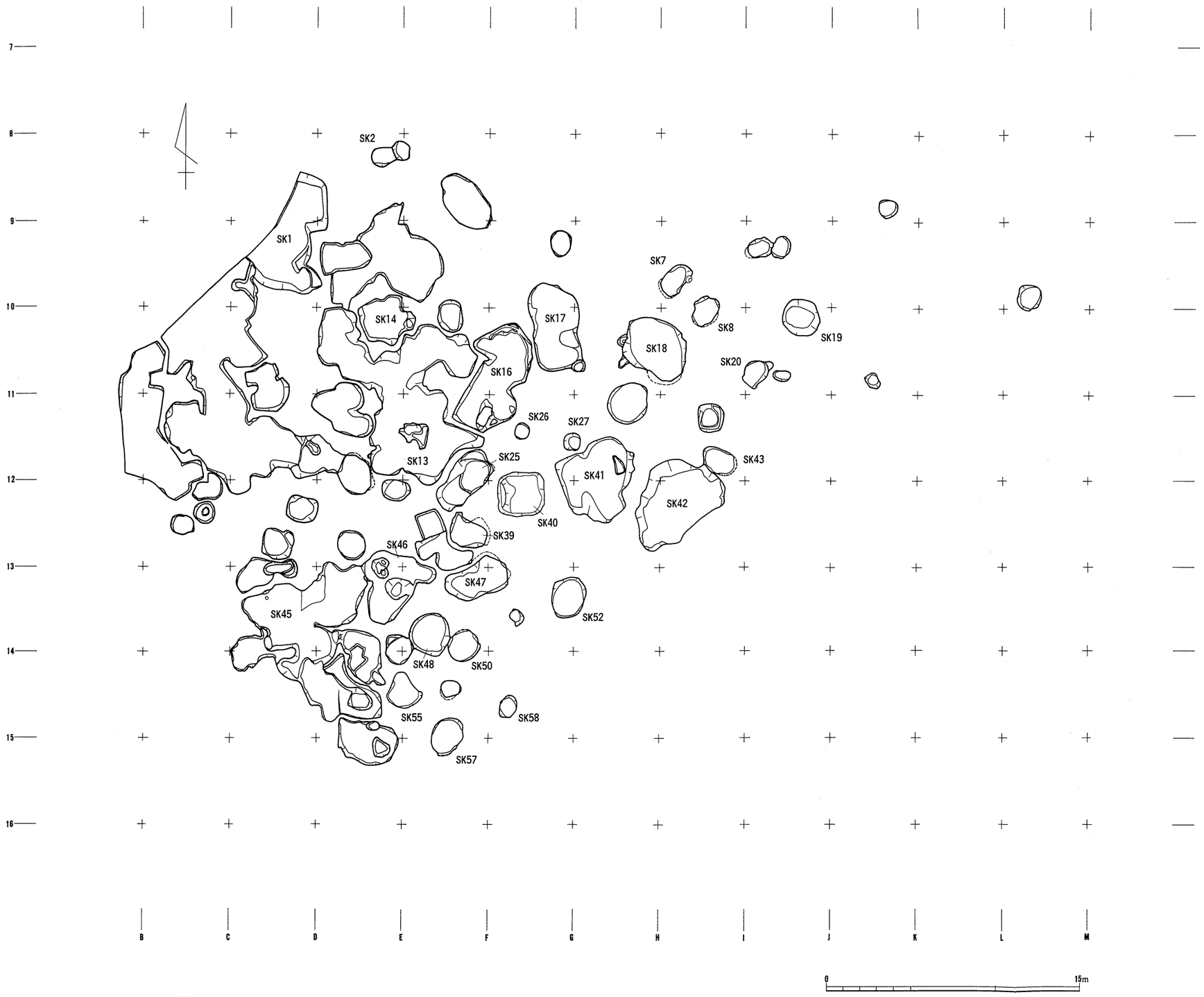
磨石は、いずれも砂岩質の河川礫を用い、その一端を割り取ったものである。図示した11は、やや扁平な礫の両面中央を敲打して凹ませている。片面（図右面）には、顕著な磨痕が認められ、主たる使用面であったことが理解される。また、図下端面にも敲打痕が認められることから、磨石とともにハンマーストーンとしても使用されたものと思われる。

表７．石器・石製品計測表

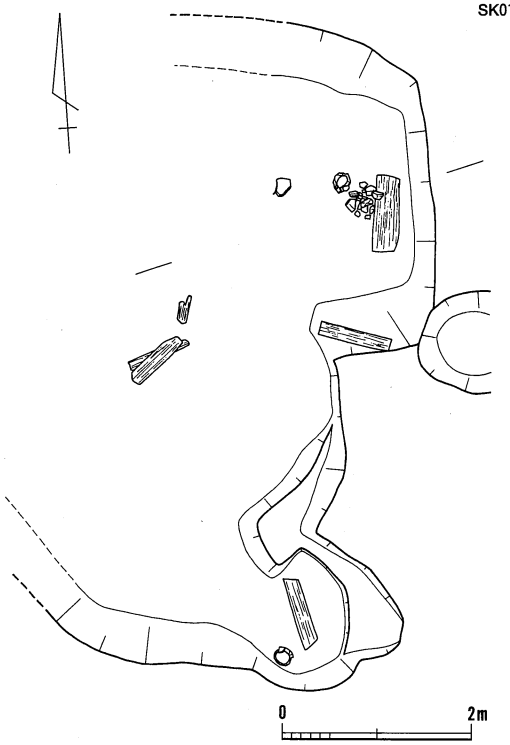
No.	出土位置	種　別	種　類	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重さ(g)
1	M-12区	石器	石鏃	1.8	1.5	0.3	0.5
2	K-6区	石器	石鏃	1.8	1.6	0.5	1
3	H-12区	石器	石鏃	1.4	1.1	0.3	0.4
4	表採	石器	石鏃	2.4	1.5	0.4	0.9
5	表採	石器	石鏃	2.2	1.7	0.3	1
6	表採	石器	石鏃	1.6	1.1	0.3	0.4
7	表採	石器	石鏃	2.5	1.5	0.4	1
8	J-11区	石器	石鏃	2.6	1.8	0.4	1.7
9	表採	石器	石匙	6.2	1.7	1.7	7.1
10	不明	石器	石匙	3.3	7.2	1.1	2.3
11	不明	石器	磨石	10.1	9.6	4.9	673.5
12	SK48	石製品	扁平片刃石斧	4.6	3.0	0.7	13.4
13	不明	石製品	巡方	(2.2)	1.9	0.5	－

土坑群配置図

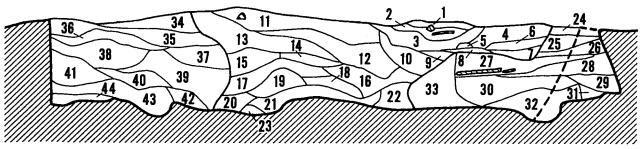
図版 1


7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
SK1
SK2
SK7
SK8
SK13
SK14
SK16
SK17
SK18
SK19
SK20
SK25
SK26
SK27
SK39
SK40
SK41
SK42
SK43
SK45
SK46
SK47
SK48
SK50
SK52
SK55
SK57
SK58
0
15m

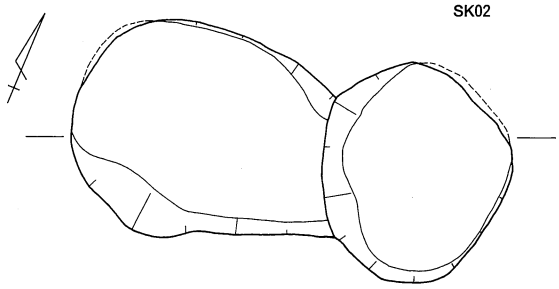
SK01



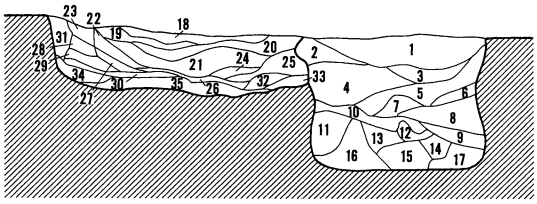
211.5m



SK02



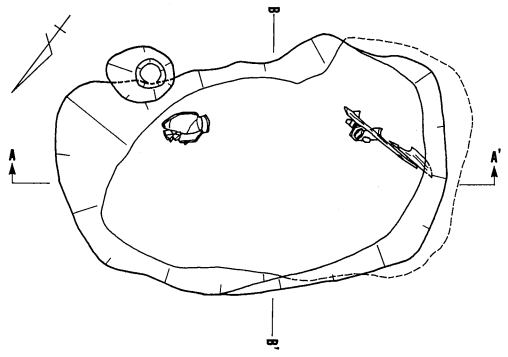
211.7m



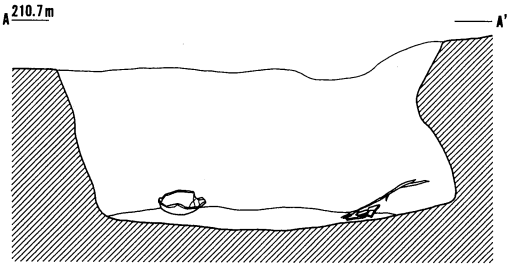
1. 黒褐色極細砂（中・細礫含）
2. 黄灰色極細砂
3. 黄灰色極細砂
4. 暗灰色極細砂
5. 黒褐色極細砂質シルト
6. 灰黒色シルト
7. 黒褐・黄灰色シルト
8. 黒灰色シルト
9. 濁灰色シルト
10. 黒褐色シルト
11. 黒灰色シルト
12. 灰緑色シルト
13. 灰黒色シルト～極細砂
14. 灰緑色シルト（極細砂混）
15. 濃灰色粘質土（5㎜大風化礫含）
16. 暗灰色シルト
17. 黒灰色シルト
18. 暗灰褐色土（地山塊含む）
19. 灰褐色粘質土（5㎜大風化礫含）
20. 乳灰色粘質土（5㎜大風化礫含）
21. 暗乳灰色粘質土（5㎜大風化礫含）
22. 暗灰色粘質土（5㎜大風化礫含）
23. 暗灰色粘質土
24. 濃灰色粘質土（5㎜大風化礫含）
25. 明灰色粘質土（5㎜大風化礫含）
26. 黒灰色粘質土（炭化物多量含）
27. 濃乳灰色粘質土（5㎜大風化礫含）
28. 濃乳灰色粘質土
29. 濃白色粘質土
30. 暗濃灰色粘土
31. 暗褐灰色粘質土
32. 淡灰色粘土
33. 淡灰色粘質土（風化礫含）
34. 濁暗灰色粘質土（地山塊含）
35. 灰白色粘土（地山塊含）

1. 淡灰褐色土（1㎝大の中礫・鉄分含）
2. 黒灰色シルト（礫）
3. 暗灰色シルト（礫）
4. 灰褐色土（2㎜大の細礫・鉄分含、硬）
5. 明黄褐色土（粗）
6. 暗灰褐色土（細礫含、硬）
7. 暗灰色シルト（細礫含、硬）
8. 淡青灰色粘質土
9. 灰黄色砂質土
10. 濁明灰色砂質土
11. 灰褐色砂質土
12. 暗灰褐色粘質土（黄色塊含）
13. 暗茶褐色粘質土
14. 濃黄褐色砂質土
15. 濁茶褐色粘質土
16. 濁濃黄褐色粘質土
17. 暗灰色砂質土
18. 暗灰黄色粘質土
19. 灰褐色粘質土
20. 濃乳灰色砂質土
21. 緑灰色砂質土
22. 淡緑灰色砂質土
23. 乳灰色砂質土
24. 黄褐色砂質土
25. 褐灰色粘土
26. 暗黄灰色粘質土
27. 乳灰色粘土
28. 黄灰色粘土
29. 黄灰色砂質土
30. 黄灰色粘質土
31. 暗黄褐色砂質土
32. 黄緑色砂礫
33. 濁乳灰色粘質土
34. 明黄灰色砂質土
35. 茶褐色粘質土
36. 黄灰色砂質土
37. 濁暗灰黄色粘質土
38. 乳灰色粘質土（砂粒多量含）
39. 暗乳灰色粘質土（砂粒多量含）
40. 明黄灰色粘質土
41. 淡褐色粘質土
42. 暗灰色粘質土（砂粒多量含）
43. 濃乳灰色粘質土（砂粒多量含）
44. 濁灰色粘質土

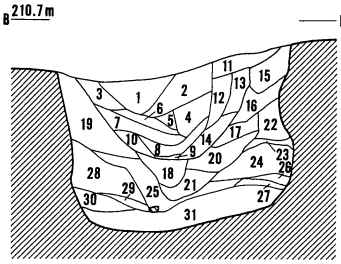
SK07



A 210.7m



B 210.7m



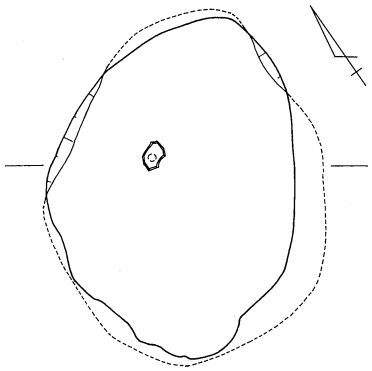
1. 黒褐色土(0.5～1㎝大の中礫多量含)
2. 茶褐色土（5㎜大の中礫多量含）
3. 濁灰色土（2㎜大の細礫含）
4. 茶灰色土（やや粘、細礫含）
5. 茶灰色土（4より灰色味強）
6. 濁灰色粘質土
7. 暗灰色粘質土
8. 淡灰褐色粘質土
9. 濁灰褐色粘質土（炭片含）
10. 黒褐色粘質土（中礫含）
11. 茶灰色土（細礫含）
12. 淡灰色粘質土（細礫含）
13. 濁灰色粘質土（細礫含）
14. 暗灰色粘質土（細礫含）
15. 茶褐色土（細礫多量含）
16. 灰色粘質土
17. 淡灰色粘質土
18. 黒灰色粘質土
19. 灰褐色粘質土（礫少量含）
20. 褐灰褐色粘質土（黄色地山塊含）
21. 淡黒灰色粘質土（礫少量含）
22. 淡茶灰色粘質土
23. 淡灰色粘質土
24. 濁黄褐色土（やや砂質）
25. 灰色粘質土
26. 淡灰色粘質土
27. 黄褐色粘質土
28. 濁灰色粘質土（黄灰色粘質塊含）
29. 淡灰色粘質土
30. 黄灰色粘質土（砂を少量含）
31. 濁青灰色粘質土

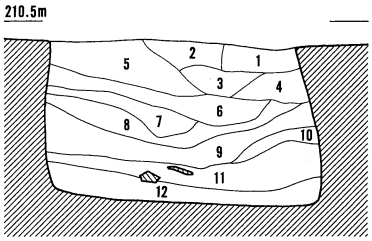
0
2m

図版 3

ＳＫ08・09・14

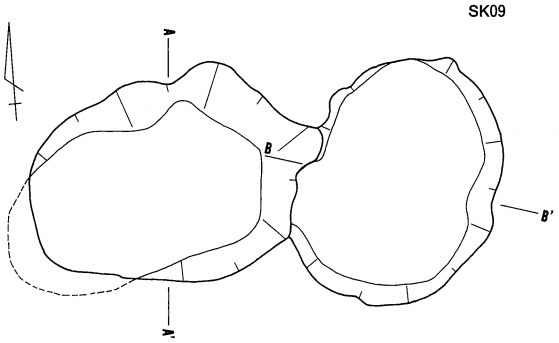
SK08

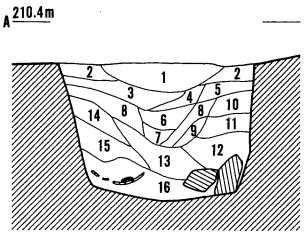




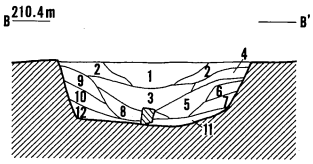
1．埋立土（確認調査）
2．茶褐色粘質土（礫含）
3．暗茶褐色粘質土（礫含）
4．茶灰色粘質土
5．灰茶色粘質土
6．灰褐色粘土
7．濁灰色粘質砂
8．明黄褐色土
9．濁乳灰色粘質砂
10．暗黄灰色粘質砂
11．暗灰色粘土（遺物含）
12．濁青灰色粘質土

SK09



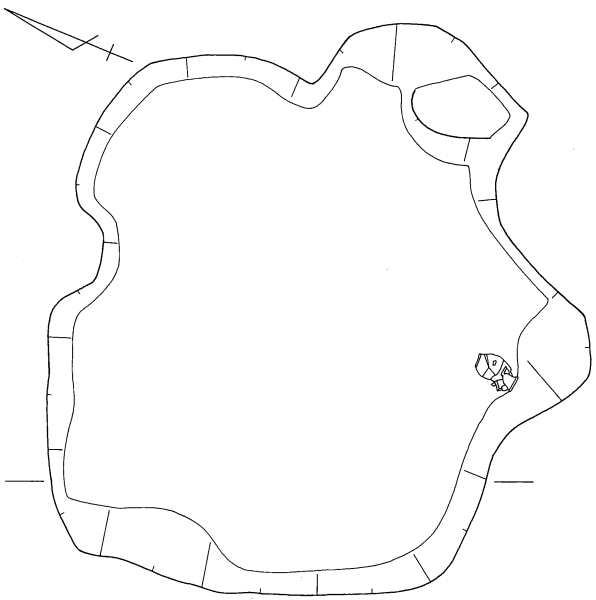


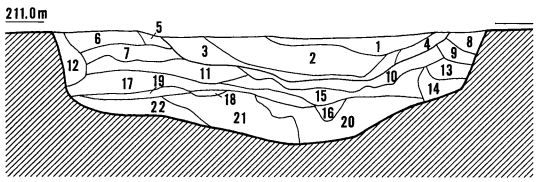
1．暗茶褐色土（0.2～1cm大の細～中礫多量含）
2．暗茶褐色土（極粗砂多量含）
3．茶灰色土（極粗砂少量含）
4．黒灰色土（細礫少量含）
5．茶灰色土（極粗粒砂少量含）
6．暗灰色土（やや粘質、0.5～1cm大の中礫少量含）
7．暗灰色粘質土
8．灰色粘質土（茶色味）
9．濁灰色粘質土（黄色味）
10．茶灰色土
11．黄褐色土（やや粘質）
12．濁黄褐色粘質土（灰色味）
13．暗黄灰色粘質土
14．濁黄褐色土（やや茶色味）
15．黄褐色土（やや砂質）
16．濁暗灰色粘質土（黄色味）



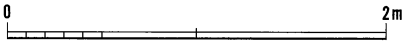
1．暗茶褐色土（細礫少量含、硬）
2．茶褐色土（細礫少量含、硬）
3．黄茶灰色土（1より粒子粗い）
4．淡黄茶色土（極粗粒砂少量含）
5．黄茶色土（ややシルト質）
6．明黄茶色土（8より暗く砂質）
7．淡黄茶色土（砂質）
8．淡茶灰色土（シルト質）
9．黄茶色土（細礫・黄色塊少量含）
10．淡黄色粘質土
11．淡灰色粘質土
12．淡茶灰色粘質土

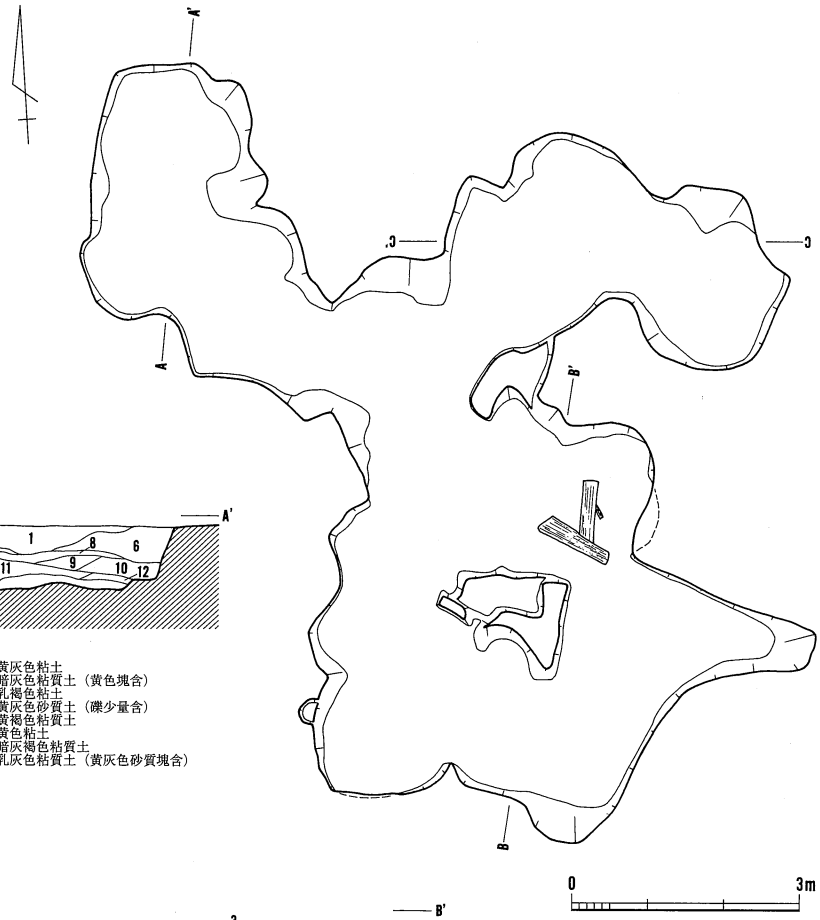
SK14

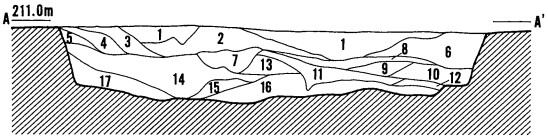




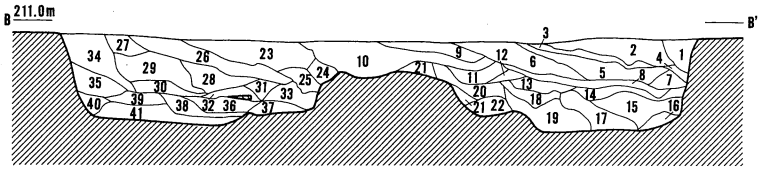
1．暗茶褐色砂質土
2．濁黄褐色砂質土
3．茶褐色粘質土
4．暗黄褐色粘質土
5．暗黄褐色粘質土
6．黄灰色砂質土
7．濁褐色砂質土
8．黄灰色砂質土
9．茶褐色粘質土
10．暗灰褐色粘質土
11．濁黄灰色砂質土
12．黄灰色粘質土
13．濁暗黄褐色砂質土
14．明黄褐色砂質土
15．暗黄褐色砂質土
16．乳黄褐色砂質土
17．濁茶褐色砂質土
18．乳灰色粘質土
19．黄灰色砂質土
20．濁暗灰色粘質土（黄色塊含）
21．濁乳黄色粘質土
22．乳灰色粘質土（地山）



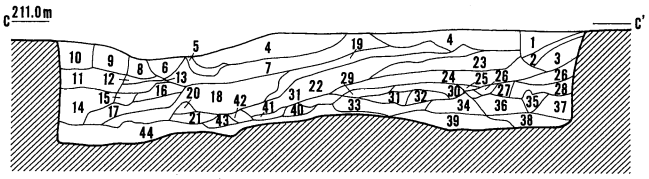




1．茶灰色粘質土
2．灰褐色粘質土（1～2cm大の中礫含）
3．暗灰褐色粘質土
4．暗青灰色砂礫
5．濁黄灰色粘質土
6．濁黄灰色粘質土（礫含）
7．暗茶褐色粘質土
8．濁茶褐色粘質土
9．淡黄灰色砂礫
10．乳黄灰色粘土
11．濁暗灰色粘質土（黄色塊含）
12．淡乳褐色粘土
13．暗黄灰色砂質土（礫少量含）
14．濁黄褐色粘質土
15．乳黄色粘土
16．濁暗灰褐色粘質土
17．濁乳灰色粘質土（黄灰色砂質塊含）



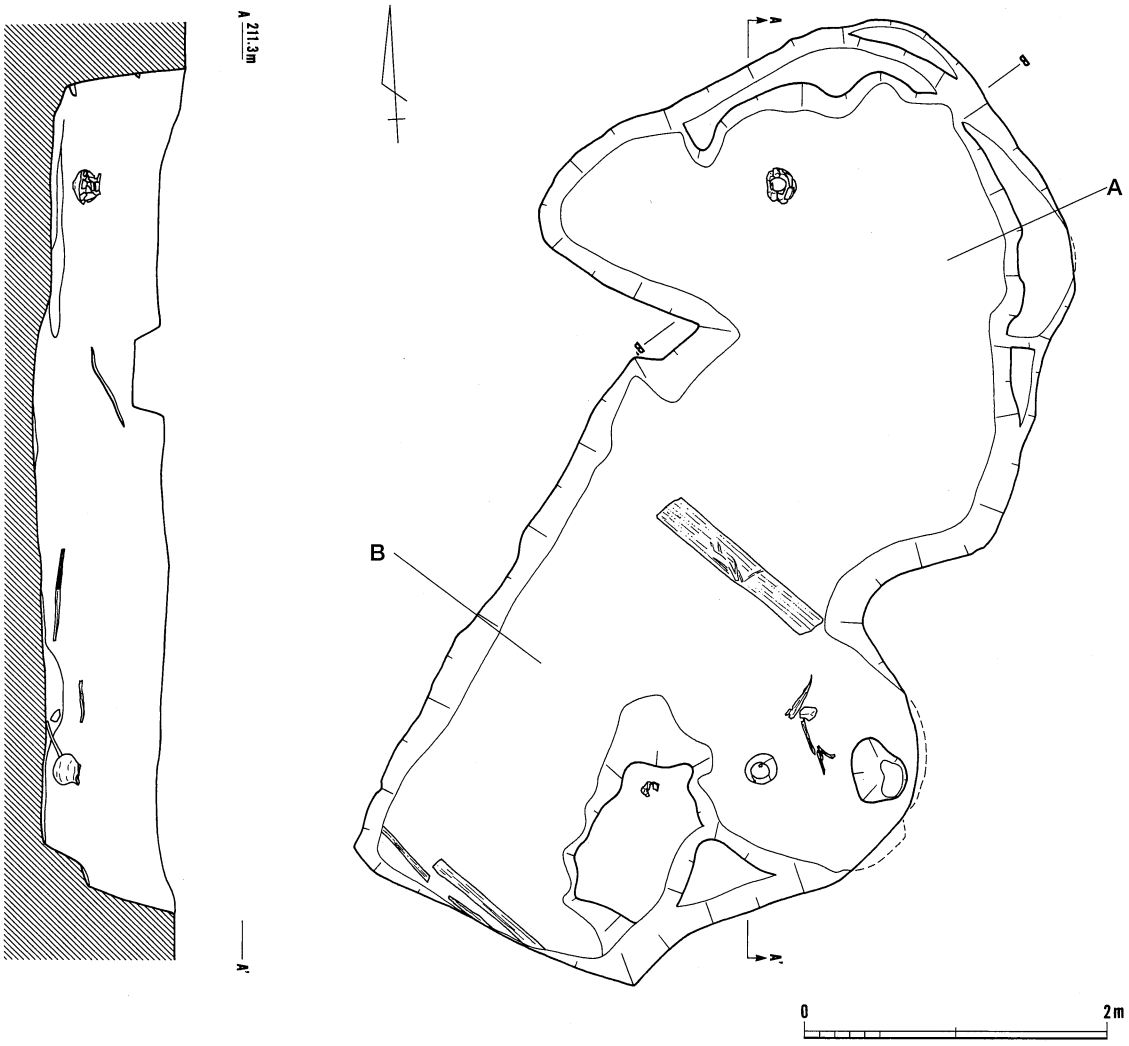
1．暗黄褐色砂質土
2．暗茶褐色砂質土
3．濁黄灰色粘質土
4．明灰褐色粘質土
5．濁暗灰褐色粘質土
6．濁灰褐色粘質土
7．灰褐色粘質土
8．暗灰褐色粘質土（黄灰色粘土含）
9．灰褐色粘質土
10．褐灰色粘質土
11．淡灰褐色粘質土（黄灰色粘土含）
12．淡灰褐色粘質土
13．濁濃灰褐色粘質土
14．黒褐色粘質土
15．濁暗黄褐色砂礫
16．乳黄色粘土
17．明黄灰色粘土
18．黄灰色粘質土
19．濁乳灰色シルト
20．濁暗褐色粘質土（礫少量含）
21．濁黄褐色砂礫
22．黄褐色シルト
23．暗褐色砂質土
24．黄色砂質土
25．濁灰褐色粘質土
26．黒褐色粘質土
27．濁青灰色砂質土
28．濁暗黄褐色砂質土
29．濁暗褐灰色粘質土（黄色砂礫含）
30．灰褐色粘質土（黄灰色粘土含）
31．濁黄褐色粘質土（礫少量含）
32．淡乳灰色砂質土
33．黄灰色粘土
34．濁暗黄灰色砂質土
35．濁黄灰色粘質土
36．暗乳灰色粘土
37．乳黄色粘土
38．灰色粘質土
39．濁黄灰色粘質土
40．明黄灰色粘土
41．濁明乳灰色シルト

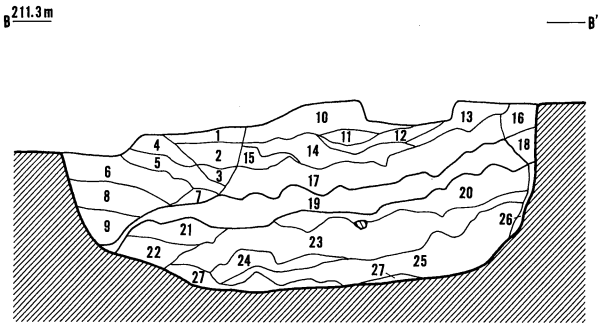


1．濁黄白色砂質土（粗粒砂多量含）
2．明黄褐色砂質土
3．明黄褐色砂質土
4．黒褐色砂質土（0.5～1cm大の中礫多量含）
5．濁灰色砂質土（0.3～1cm大の細・中礫多量含）
6．黄白色砂質土（細礫多量含）
7．濁黄褐色砂質土（0.7～1cm大の中礫多量含）
8．黄白色砂質土
9．暗黄褐色砂質土（2cm大以上の大礫含）
10．暗黄褐色砂質土（極細粒砂）
11．黄灰色砂質土
12．暗灰色粘質土（粘質弱い）
13．濁黄褐色粘質土（細礫含）
14．乳黄色粘質土
15．乳灰色砂質土（5mm大の中礫含）
16．暗灰白色砂質土（1cm大の中礫含）
17．灰褐色砂質土（粗粒砂～細礫多量含）
18．黒灰色粘質土（細礫少量含）
19．濁黄褐色砂質土
20．乳白色粘質土
21．黒灰色粘質土（黄色含）
22．暗黄褐色砂質土（1cm大の中礫多量含）
23．黒褐色砂質土（粘質弱い）
24．黒褐色粘質土
25．暗灰色粘質土
26．乳黄褐色粘質土
27．濁黄褐色粘質土
28．濁黄灰色粘質土
29．黄褐色砂質土（5mm大の中礫多量含）
30．濁黄褐色粘質土
31．濁黄灰色粘質土（5mm大の中礫多量含）
32．濁黄灰色粘質土
33．暗灰褐色粘質土
34．濁乳灰色粘質土
35．黄灰色粘質土
36．乳灰色粘質土
37．明乳灰色粘質土（黄色混）
38．明黄灰色粘質土
39．暗乳灰色粘質土
40．暗黄灰色砂質土
41．黄白色粘質土
42．黄白色粘質土
43．濁灰色白色粘質土（5mm大の中礫多量含）
44．淡乳灰色粘質土

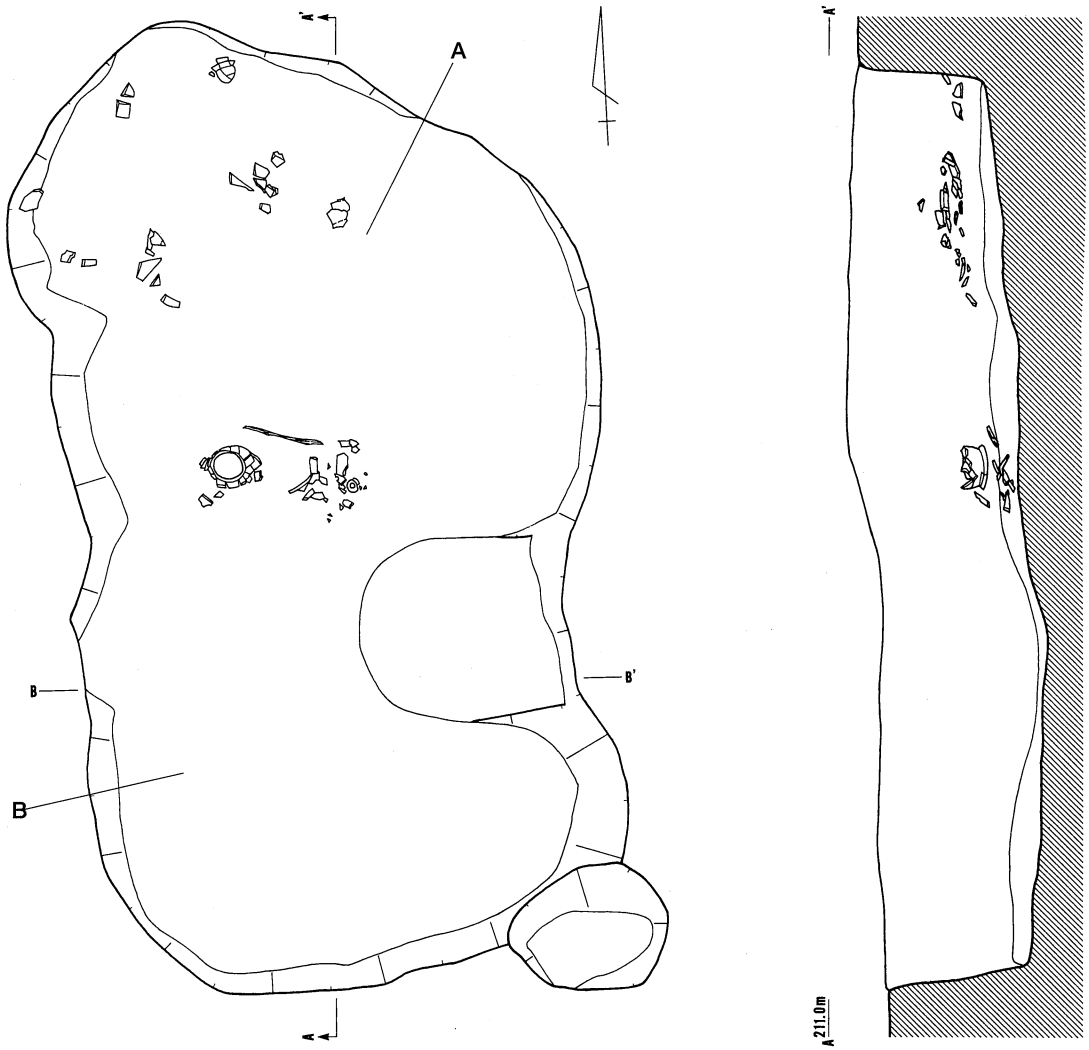
図版5

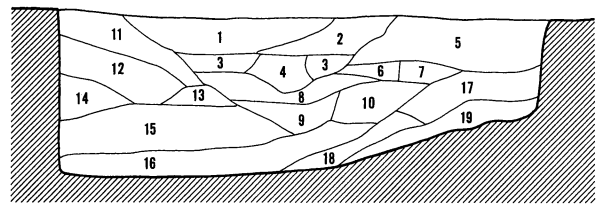
SK16





1. 黄褐色土（礫含）
2. 黄褐色粘質土
3. 明黄褐色粘質土
4. 暗黄灰色砂質土
5. 黄褐色粘質土
6. 黄灰色砂質土（1～2㎝大の中礫含）
7. 明黄褐色土
8. 暗黄褐色砂質土
9. 黄褐色粘質土
10. 暗茶褐色土（1～2㎝大の中礫含）
11. 黄茶褐色土
12. 茶褐色土
13. 暗茶褐色土
14. 黄茶褐色土
15. 暗茶褐色土
16. 暗黄褐色土
17. 濁黄茶褐色土（礫多量含）
18. 黄褐色土
19. 暗灰褐色粘質土（礫含）
20. 濁黄褐色土（灰色塊含）
21. 黄褐色粘質土
22. 明黄褐色粘質土
23. 濁青灰色粘質土
24. 淡青灰色粘質土
25. 濁黄青灰色粘質土
26. 濁灰色粘質土
27. 青灰色粘質土



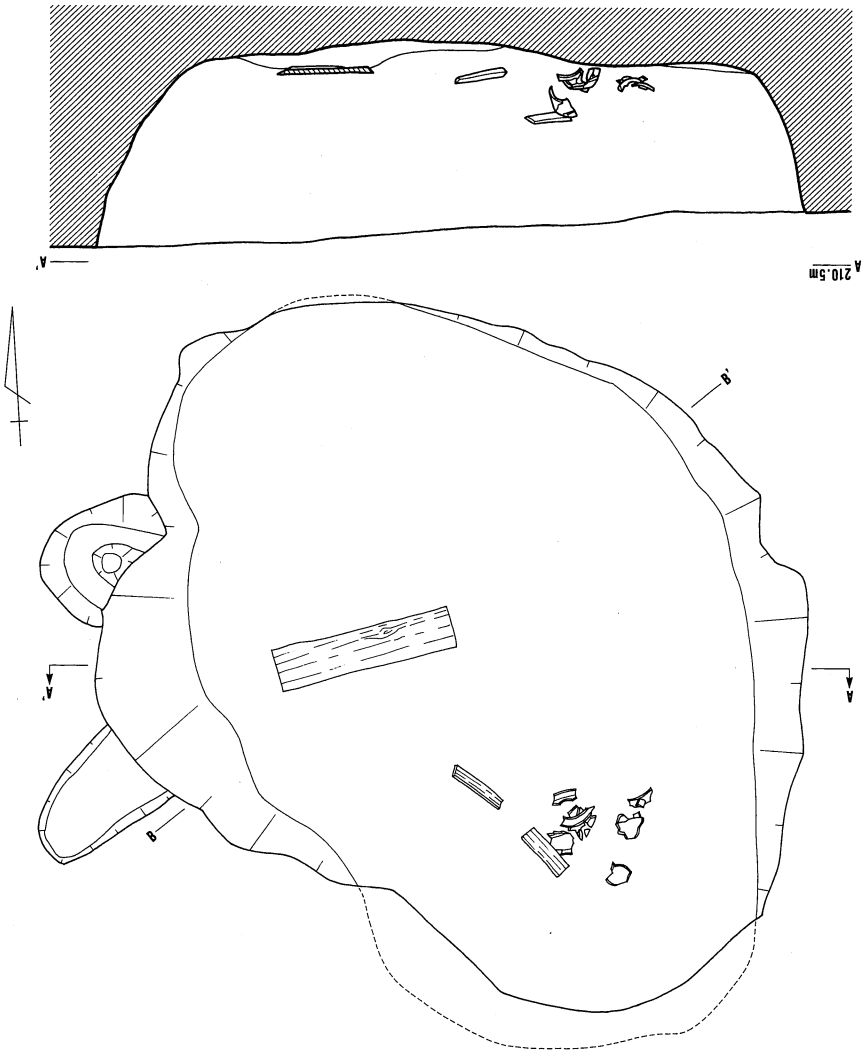


1．茶褐色土（５㎜の中礫少量含）
2．黄茶褐色土（地山塊、５㎜大の中礫含）
3．暗黄茶褐色土
4．暗茶褐色土（地山塊含）
5．濁茶褐色土（地山塊含）
6．淡黄茶色土（やや粘質）
7．黄褐色土
8．茶灰色粘質土
9．灰褐色粘質土
10．濁黄褐色土（やや灰色味）
11．黄茶褐色土
12．黄褐色土
13．濁黄褐色土
14．明黄白色粘質土
15．濁黄白色粘質土（灰色粘質土塊含）
16．青灰色粘質土
17．明黄褐色粘質土
18．暗黄褐色粘質土
19．明黄白色粘質土

0　2m

図版 7

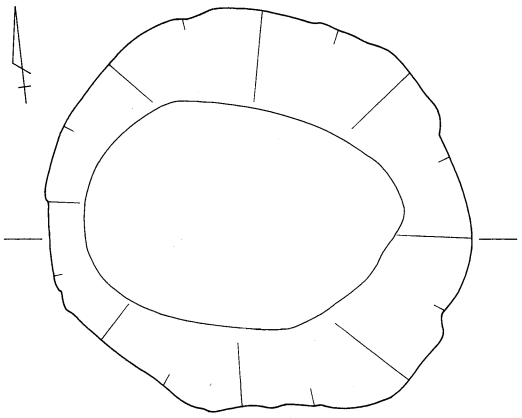
ＳＫ18

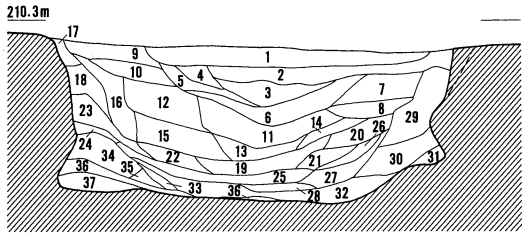


1．灰色粘質土（水田溝）
2．暗茶褐色土（礫含）
3．暗茶褐色土（やや暗）
4．茶褐色土
5．暗茶灰色粘質土（礫含）
6．黒茶灰色粘質土
7．暗茶灰色粘質土
8．淡茶褐色土
9．暗灰色粘質土（やや青味）
10．淡茶褐色土
11．茶褐色土
12．暗茶褐色土（礫含）
13．黄茶色粘質土
14．濁黄灰色土（やや粘質、小さい礫含）
15．濁淡黄褐色粘質土（灰色土塊含）
16．暗茶褐色粘質土（礫含）
17．暗灰褐色粘質土
18．黄褐色土
19．濁黄灰色土
20．暗茶灰色粘質土（礫含）
21．茶褐色土
22．灰褐色粘質土
24．濁灰褐色土（粒子粗）
25．濁淡黄灰色土
26．暗茶褐色土
27．暗茶灰色粘質土
28．濁黄茶色土
29．暗茶灰色土
30．茶褐色土
31．黄茶褐色土
32．茶褐色土（礫含）
33．濁暗茶褐色土
34．濁淡黄褐色土（礫含）
35．黄茶色土
36．濁黄褐色土（灰色塊含）
37．黄褐色粘質土
38．黄褐色砂質土
39．黄褐色砂質土（ややシルト質）
40．黄灰色粘質土
41．濁黄褐色土
42．黄灰色粘質土（ややシルト質）
43．灰褐色粘質土
44．黄青灰色粗砂
45．黄青灰色粘質土
46．明灰褐色粘質土
47．黄褐色粘質土
48．濁青灰褐色粘質土
49．濁青灰色土
50．灰色粘質土
51．濁黄灰色粘質土
52．淡灰褐色粘質土
53．淡黄灰色土（青味）
54．灰色粘質土（黄色塊含）
55．淡黄灰色土（青味）
56．淡黄灰色粘質土
57．黄灰色粗砂
58．黄灰色粘質土
59．濁青灰色粘質土
60．淡灰褐色土
61．青灰褐色粘質土
62．青灰褐色土
63．濁青灰色土
64．濁灰褐色土
65．濁青灰色粘質土（黄色土塊含）
66．淡青灰色粘質土
67．明黄灰色粘質土
68．濁青灰色粘質土（やや明）
69．暗灰褐色粘質土（青灰色塊含）
70．濁黄青灰色粘質土（やや暗）
71．濁黄青灰色粘質土（やや明）
72．濁淡青灰色粘質土
73．濁黄青灰色粘質土
74．濁黄青灰色粘質土（灰色塊含）
75．黄青灰色粘質土
76．淡黄灰色粘質土
77．淡灰色粘質土
78．青灰色粘質土

0 2m

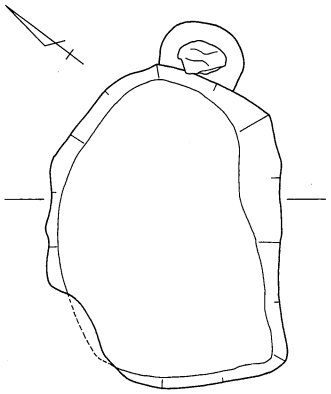
SK19

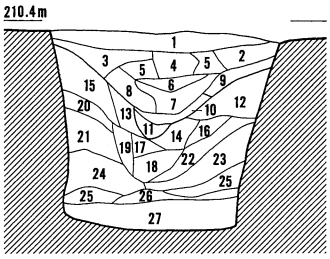




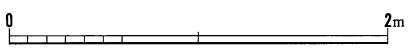
1．暗茶褐色土（細礫多量含）
2．黒茶色土（0.5～1㎝大の中礫少量含）
3．暗灰色土（粗）
4．淡黒茶色土（5㎜大の中礫少量含）
5．黒茶色土（5㎜大の中礫少量含）
6．黒灰色土（0.5～1㎝大の中礫多量含）
7．灰褐色土
8．灰色土
9．茶褐色土（細礫少量含）
10．茶灰色土
11．暗灰色土（粗、炭片少量含）
12．淡灰褐色土（やや粘質）
13．暗灰色土（軟、やや粗）
14．淡灰色粘質土（礫少量含）
15．濁灰色土（やや黒味、1㎝大の中礫少量含）
16．灰褐色土
17．淡茶褐色土（極粗砂多量含）
18．濁黄褐色土（灰色塊含）
19．黒灰色土（炭層）
20．暗灰色粘質土
21．暗灰褐色粘質土（細礫少量含）
22．灰色土（やや粗）
23．黄褐色土
24．濁黄褐色土（灰色塊含）
25．暗灰色粘質土（黒味強）
26．暗灰色粘質土
27．暗灰褐色粘質土
28．灰色粘質土
29．濁黄褐色土（やや粘質、礫少量含）
30．濁灰褐色土（やや粘質、礫少量含）
31．淡灰褐色粘質土
32．暗茶灰色粘質土（やや粗）
33．濁黄灰色土（やや青味）
34．黄色土（粗粒砂多量含）
35．濁黄灰色土（灰色塊含）
36．黒灰色炭層
37．濁淡青灰色粘質土

SK20

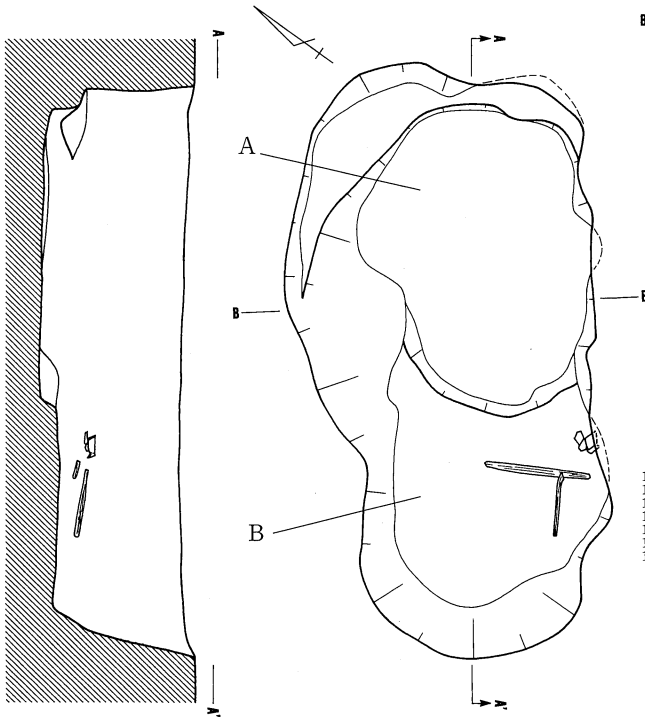


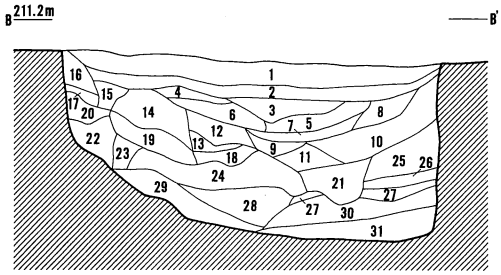


1．淡茶褐色土
2．茶褐色土
3．茶褐色土
4．黒褐色土（風化礫多量含）
5．暗茶褐色土
6．明茶褐色土（黄灰色地山混）
7．暗濃灰褐色粘質土
8．暗灰褐色粘質土（礫少量含）
9．暗茶褐色粘質土
10．黒灰色粘土
11．黒灰色粘土（礫多量含）
12．淡灰褐色粘質土
13．褐灰色粘質土（礫少量含）
14．暗灰色粘土
15．淡乳灰褐色粘質土
16．乳灰色粘質土
17．乳灰色粘質土
18．淡黒色粘土
19．濁乳灰色粘質土
20．淡乳灰色粘質土
21．明灰褐色粘質土（地山塊含）
22．乳灰褐色粘質土
23．濁乳灰褐色粘質土（地山塊含）
24．明黄褐色粘質土
25．暗乳灰色粘土
26．乳白・明乳黄色粘土
27．乳青灰色粘質土

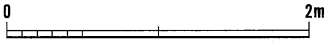


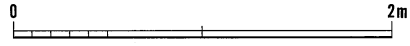
SK25





1．暗茶褐色土
2．茶褐色土
3．黒茶色土（0.5～1㎝大の中礫・炭片多量含）
4．茶褐色土
5．濁暗茶灰色土（やや粘質、1㎝大の中礫多量含）
6．黄白色土（やや粘質）
7．濁茶灰色土（礫少量含）
8．茶褐色土
9．濁淡青灰色土（2㎝大の中礫・丸木含）
10．濁黄褐色土（やや粘質）
11．濁淡灰色土（やや砂質）
12．灰色粘質土
13．黄褐色土
14．黄茶褐色土（1～2㎝大の中礫含）
15．茶褐色土（礫少量含）
16．暗茶褐色土（0.5～1㎝大の中礫含）
17．茶褐色土
18．灰色粘質土
19．黄茶褐色土（粗砂多量含）
20．黄灰色粗砂
21．濁灰色土（やや砂質）
22．黄褐色土
23．黄灰色砂質土
24．暗黄褐色土
25．黄褐色砂質土
26．暗灰色粘質土
27．淡灰色粘質土
28．濁灰色土（淡青灰色粘質土塊含）
29．黄灰色土
30．淡青灰色シルト（淡灰・淡青色粘質土塊含）
31．淡青灰色シルト

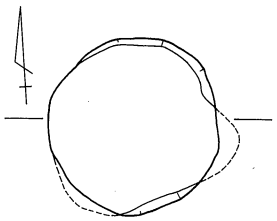


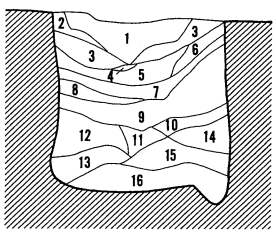


図版 9

SK26・27・28・36

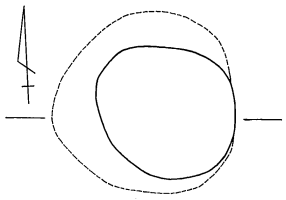
SK26

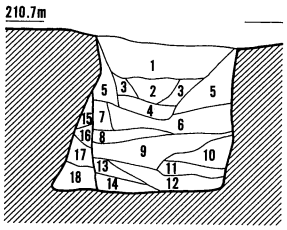




1. 暗茶褐色土（1㎝大の中礫多量含）
2. 茶褐色土（細礫多量含）
3. 茶褐色土（細礫少量含）
4. 黄褐色土（粗）
5. 暗茶褐色土（粗）
6. 茶灰色土
7. 暗灰色シルト
8. 淡灰色シルト
9. 濁黄褐色砂質土
10. 灰色粘質土
11. 灰褐色粘質土
12. 灰褐色土（砂含）
13. 淡黄灰色粘質土
14. 濁黄灰色粘質土
15. 暗灰色粘質土
16. 濁黄灰色粘質土

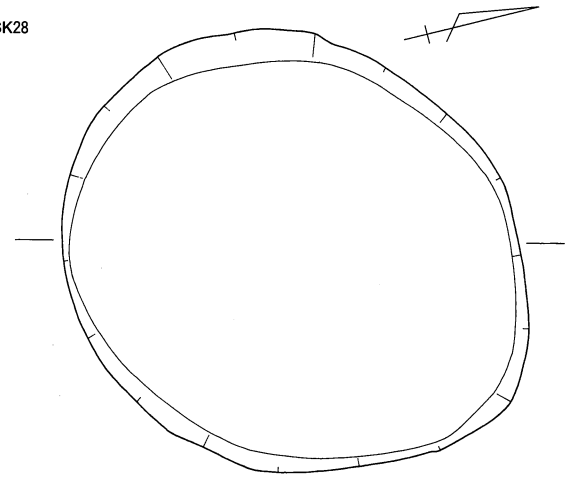
SK27

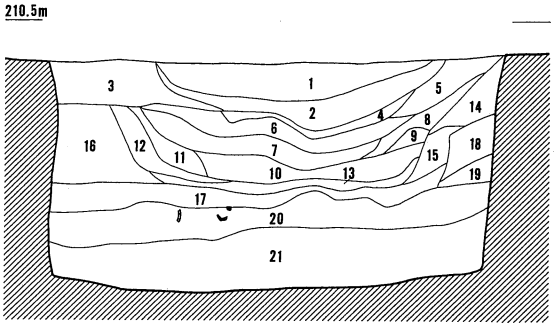




1. 黒茶褐色土（硬、5㎜大の中礫多量含）
2. 黒褐色土（軟、0.5～1㎝大の中礫多量含）
3. 暗茶灰色土（細かい）
4. 黒灰色粘質土
5. 茶灰色土（粗）
6. 淡茶灰色粘質土
7. 暗茶灰色粘質土（0.5～1㎝大の中礫少量含）
8. 暗灰色粘質土（黄色地山塊含）
9. 濁淡黄灰色粘質土
10. 暗灰色粘質土
11. 灰褐色粘質土
12. 淡黄灰色粘質土
13. 黄灰色粘質土
14. 黄白色粘質土
15. 黄褐色土（やや砂質）
16. 濁灰色粘質土
17. 黄褐色土
18. 暗灰色粘質土

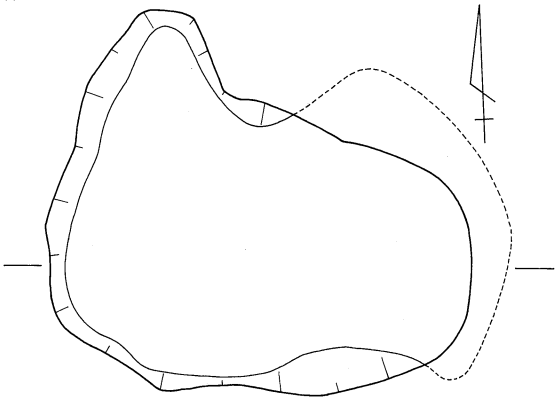
SK28

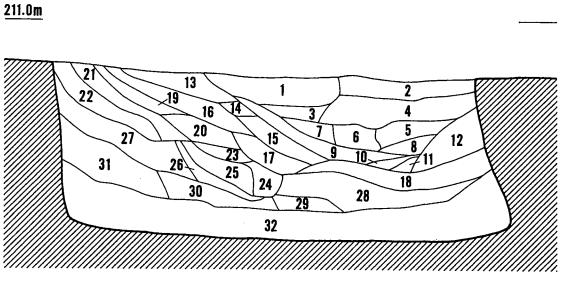




1. 明茶褐色土（やや砂質）
2. 黒褐色土（礫少量含）
3. 茶褐色土（礫少量含）
4. 灰褐色土（黄色地山塊混）
5. 暗茶褐色土
6. 暗灰褐色粘質土
7. 暗乳灰色粘土
8. 暗乳灰色粘質土（礫多量含）
9. 灰茶色粘質土
10. 濃乳灰色土
11. 時乳灰色粘質土
12. 乳灰色粘質土
13. 黒灰色粘土（炭化物多量含）
14. 茶灰色粘質土
15. 暗乳褐色粘質土
16. 暗乳褐色粘質土
17. 淡乳灰褐色シルト
18. 濁青褐色粘質土
19. 黄灰色粘質土
20. 乳青灰色粘土・砂礫
21. 濁黄灰色粘質土

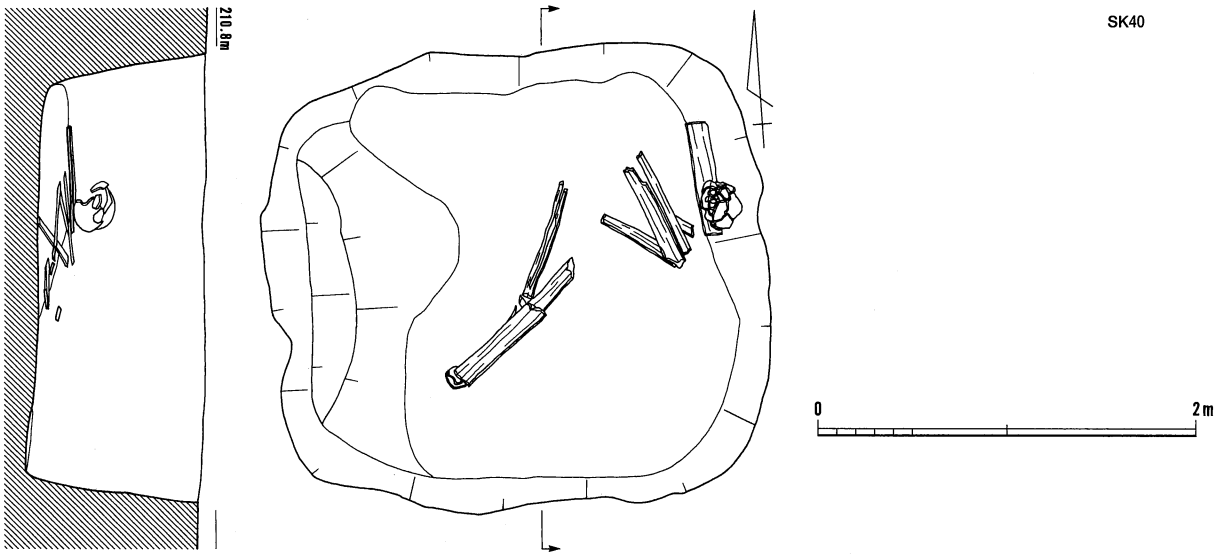
SK39

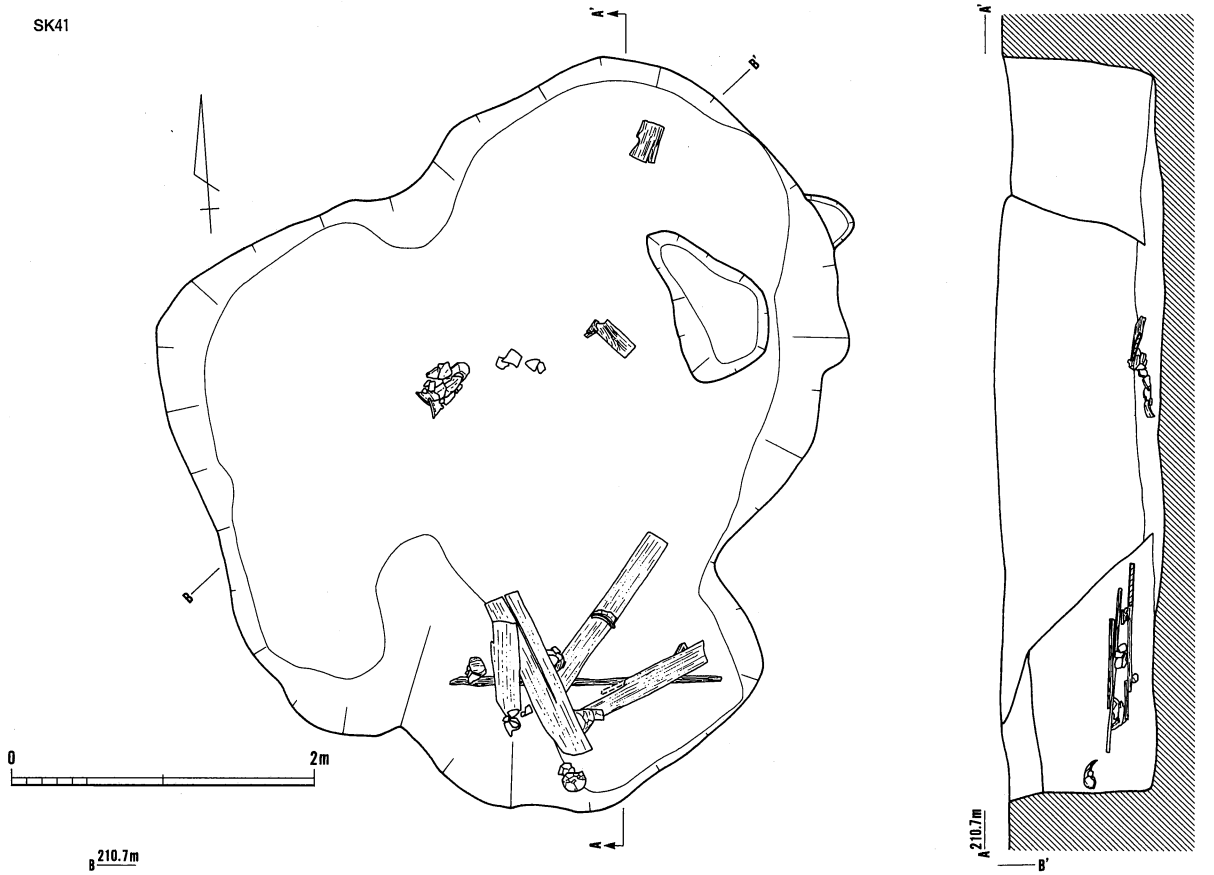


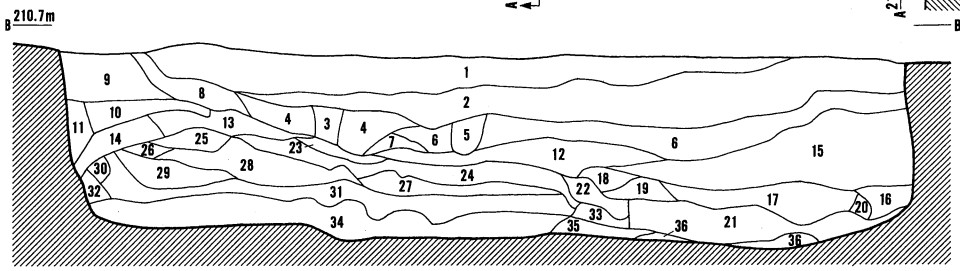


1. 茶褐色土（礫、細礫多量含）
2. 淡茶褐色土
3. 暗茶褐色土
4. 暗茶褐色土
5. 暗茶灰色土
6. 黒茶色土（2～3㎝大の中礫・炭含）
7. 黒茶灰色土（細礫含）
8. 暗茶灰色土（やや暗）
9. 黒灰色土（1㎝大の中礫多量、炭含）
10. 暗茶灰色粘質土
11. 茶褐色粘質土
12. 濁黄茶色土
13. 淡茶褐色土（粗）
14. 淡茶褐色土（やや細かい）
15. 濁黄灰色土（細礫多量含）
16. 茶褐色土（5㎜大の中礫少量含）
17. 淡黄褐色土（細礫多量含）
18. 灰色粘質土（炭含）
19. 暗茶褐色土（礫少量含）
20. 暗灰色粘質土（礫少量含）
21. 濁黄灰色土（砂礫多量含）
22. 濁茶褐色土（やや粘質）
23. 濁黄灰色土（細礫多量含）
24. 灰色粘質土（黄色地山塊含）
25. 黄褐色土（砂礫多量含）
26. 暗灰色粘質土
27. 濁灰色土（やや粘、地山塊含）
28. 黄褐色粘質土
29. 濁黄褐色土（灰色粘質土塊含）
30. 濁灰色粘質土（5㎜大の中礫少量含）
31. 濁灰色粘質土（青味強、礫含）
32. 濁黄褐色土

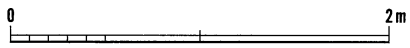
0 2m



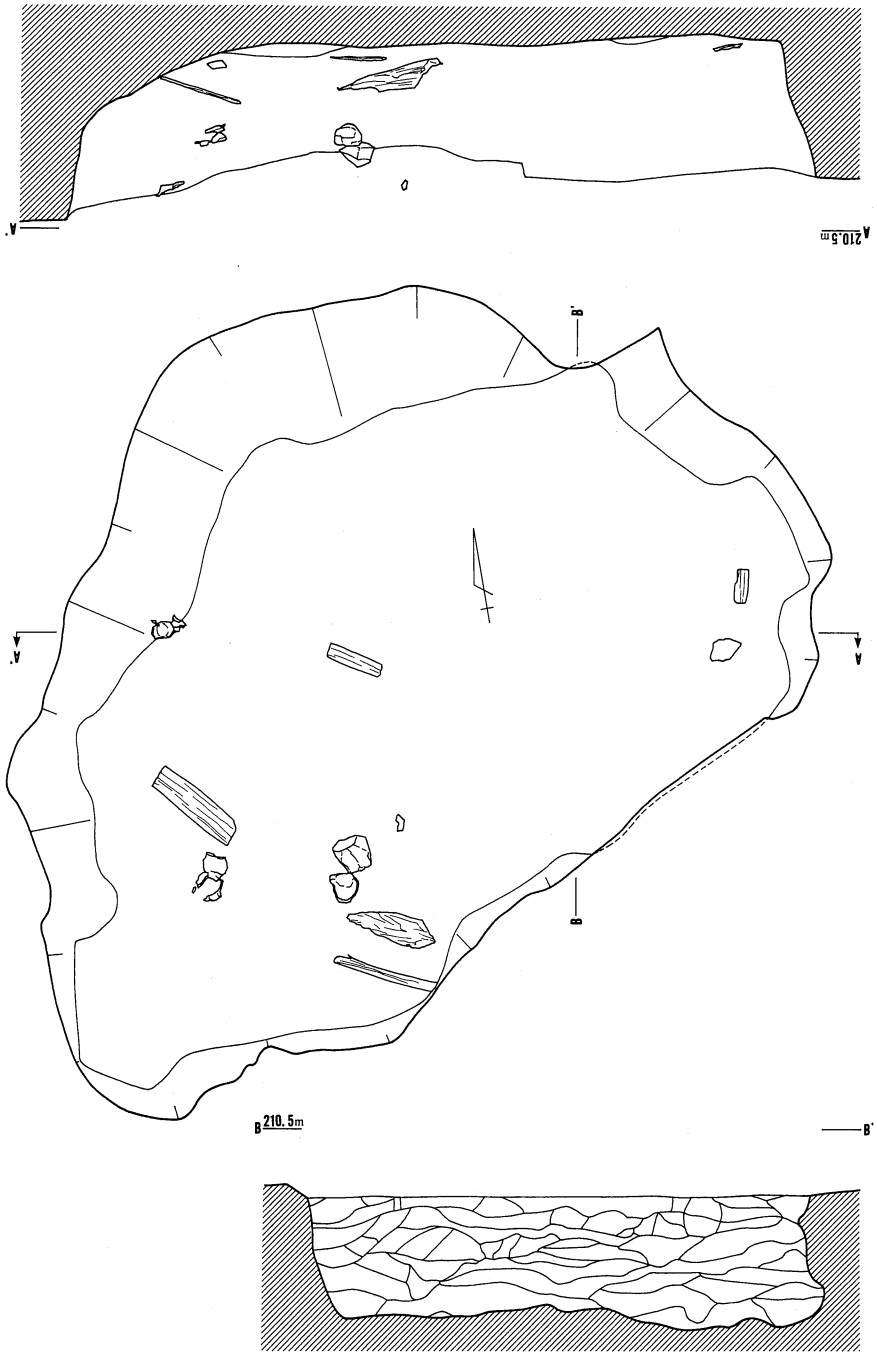




1．茶褐色土（1cm大の中礫含）
2．濁灰褐色粘質土（1cm大の中礫多量含）
3．灰褐色粘質土
4．暗黄褐色砂質土
5．濁暗黄灰色粘質土
6．明黄褐色粘質土
7．黄褐色粘質土
8．濁黄灰色砂質土
9．濁黄褐色砂質土
10．濁明黄褐色砂質土
11．淡黄灰色粘質土
12．明黄灰色粘質土
13．暗茶褐色粘質土（黄色粘土塊含）
14．黒灰色粘質土（黄色粘土塊含）
15．淡黄褐色粘質土
16．濁黄灰色砂質土
17．淡青褐色粘質土
18．緑灰色砂質土
19．濁黄褐色砂質土
20．淡青褐色砂質土
21．乳灰色粘質土
22．濁黄灰色粘質土
23．乳黄灰色粘質土
24．乳黄灰・黒灰色粘質土
25．黄白色粘質土（暗灰色粘土塊混）
26．緑灰色砂質土（砂質）
27．濁黄白色粘質土
28．緑灰色砂質土
29．濁灰色砂礫
30．乳白色砂
31．黄灰色粘質土
32．淡黄褐色粘質土
33．乳青灰色砂質土
34．乳灰色粘土・砂
35．明黒灰色粘質土
36．暗灰色粘質土

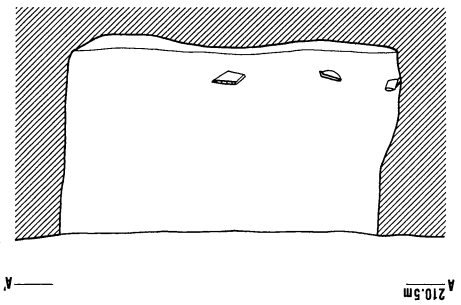


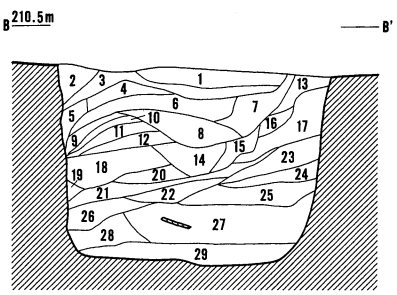
SK42



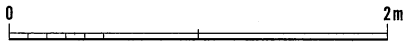
0 2m

SK43

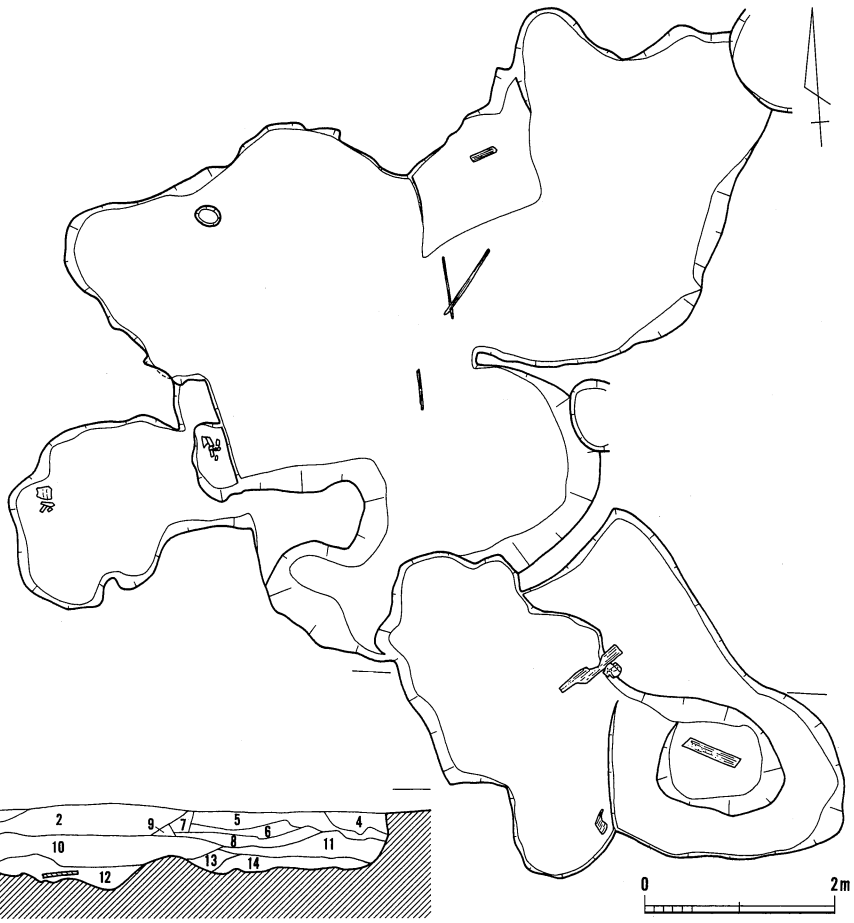


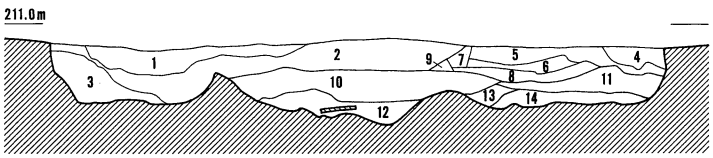


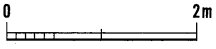
1．茶褐色土（黄色礫含）
2．濁黄褐色土（５㎜大の中礫多量含）
3．暗茶褐色土（５㎜大の中礫多量含）
4．黄茶色土（５㎜大の中礫多量含）
5．黄褐色土
6．暗黄茶色土（礫含）
7．黒褐色土（礫多量含）
8．暗乳灰褐色粘質土
9．黄褐色土（やや粘質）
10．暗黄茶色土
11．黄褐色土（やや粘質）
12．暗茶灰色粘質土
13．濁褐色粘質土
14．濃乳灰褐色粘質土
15．黒灰色粘土
16．濁灰褐色土（地山塊混）
17．濁黄褐色土
18．濁淡黄褐色土
19．淡黄灰色粗砂
20．濃乳灰褐色粘土
21．淡黄褐色土（シルト質）
22．乳青灰白色粘土
23．暗黄褐色砂質土
24．濁乳灰色砂質土
25．濁黄灰色土
26．青灰色粘質土
27．淡青灰色粘質土
28．黄灰色土（やや粘質、砂混）
29．暗青灰色粘質土



SK45

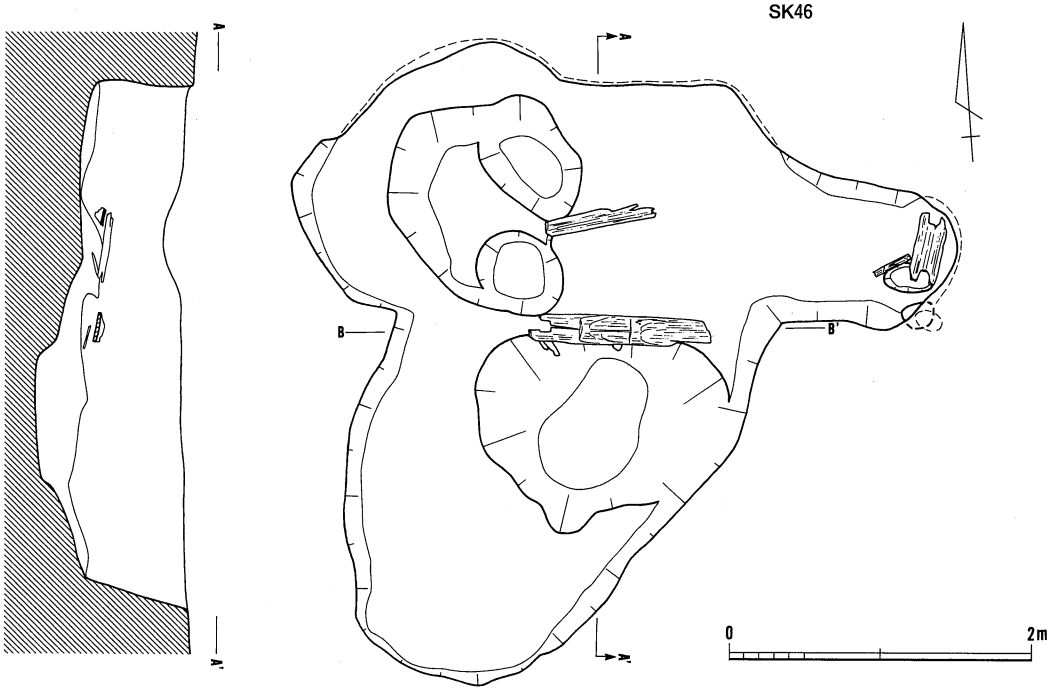


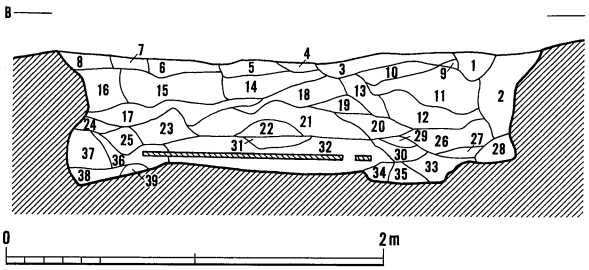




1．灰色極細粒砂
2．灰黒色極細粒砂
3．濁黄白色シルト～極細粒砂（黒褐色シルト斑点少量含）
4．暗灰色極細粒砂
5．暗灰褐色シルト
6．暗灰色シルト
7．暗灰色極細粒砂・黄灰色シルト
8．黄灰色小礫
9．暗灰色シルト
10．黒褐色極細粒砂
11．黄色シルト（壁際に小礫混）
12．黄灰色・黒灰褐色シルト（斑状）
13．灰色シルト（灰黒色斑含）
14．灰色シルト（黒色シルト斑含）

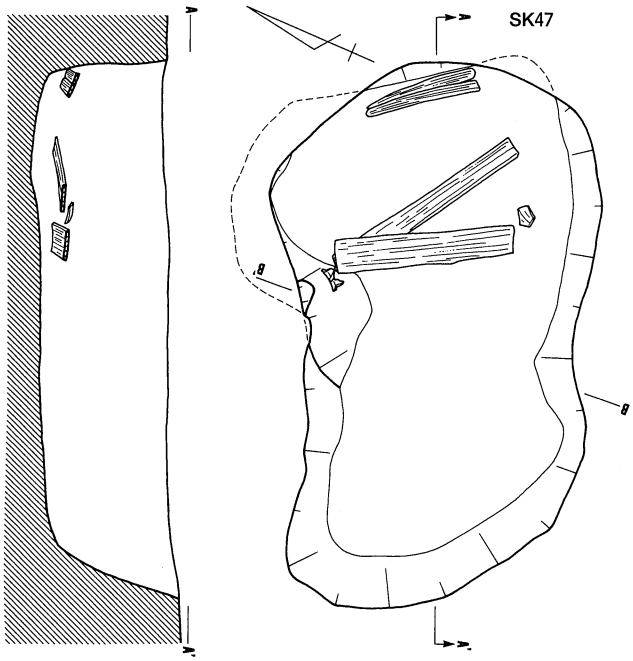
SK46

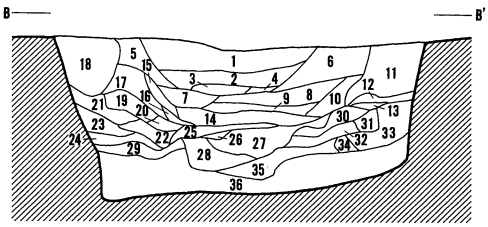




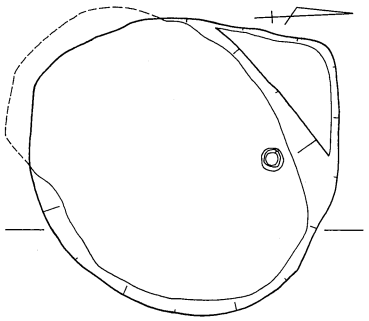
1．暗灰褐色粘質土（２cm大の中礫含）
2．濃乳灰色砂質土（２cm大の中礫少量含）
3．茶褐色砂質土（１～２cm大の中礫含）
4．灰褐色砂質土（１cm大の中礫多量含）
5．濃灰褐色砂質土
6．黄灰色砂質土（１cm大の中礫含）
7．淡黒褐色粘質土
8．乳灰色粘質土
9．淡茶灰色粘質土
10．濁茶灰色粘質土（１cm大の中礫少量含）
11．暗茶褐色粘質土（黄色塊混）
12．濁灰褐色砂質土（１cm大の中礫含）
13．濁暗灰褐色砂質土（１cm大の中礫含）
14．濁黄灰色砂質土（１～２cm大の中礫含）
15．濁茶灰色粘質土
16．黄褐色砂質土
17．暗黄灰色粘質土
18．乳褐色粘質土（黄色塊混）
19．暗茶褐色粘質土
20．濁黒褐色粘質土（黄色塊混）
21．濁黄灰色砂礫
22．乳灰褐色粘質土
23．暗乳褐色粘質土
24．明黄褐色粘質土（砂礫混）
25．淡乳黄色粘質土
26．黒褐色粘質土
27．濁黄灰色砂礫
28．黄褐色砂礫
29．明淡黄灰色粘質土（精良）
30．濁乳灰色粘質土（砂礫混）
31．黒灰色粘質土
32．暗灰色粘質土（砂礫混）
33．暗乳灰色粘質土（砂礫混）
34．緑灰色粘質土（砂礫混）
35．濃灰色粘質土（砂礫混）
36．濁黄灰色粘質土（砂礫混）
37．濁黄灰色粘質土（砂礫少量含）
38．濁青灰色粘質土（砂礫・黄色塊少量混）
39．淡青灰色粘質土（黄色塊混）

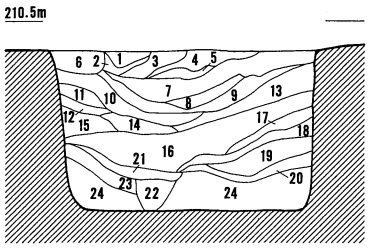
SK47





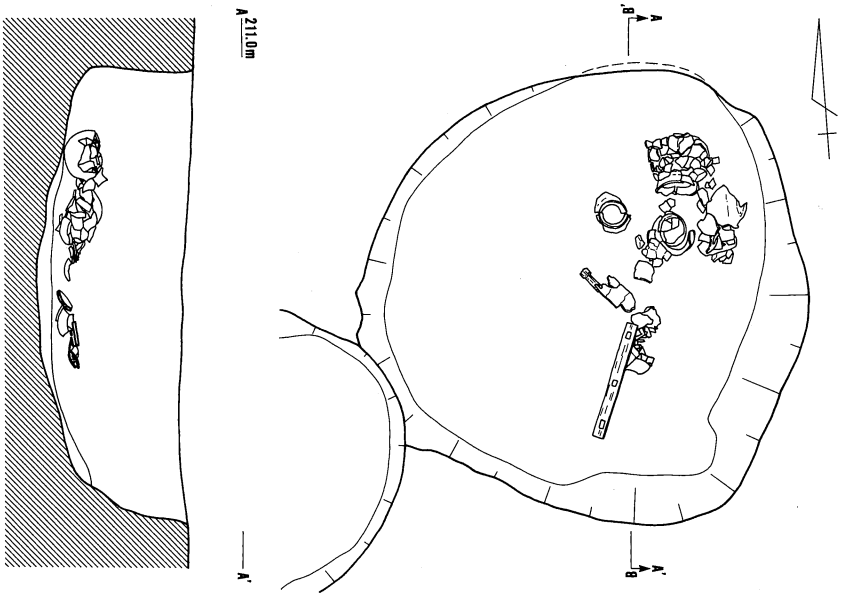
1．茶褐色土（0.5～１cm大の中礫含）
2．暗茶褐色土（0.5～１cm大の中礫含）
3．黒茶色土（0.5～１cm大の中礫・炭含）
4．黒灰色土
5．茶褐色土
6．茶褐色土
7．暗灰色土
8．暗灰褐色土（１～２cm大の中礫多量含）
9．暗灰色土（ややシルト質、礫少量含）
10．灰褐色土
11．濁黄灰色土（やや粗砂質、地山塊含）
12．暗灰色粘質土
13．淡黄褐色土
14．黒灰色シルト質土
15．暗茶灰色土（細礫含）
16．黒灰色粘質土
17．茶灰色土
18．暗黄褐色土（礫、粗砂含）
19．濁暗黄褐色土
20．濁灰褐色土
21．黄白色粘質土
22．乳灰褐色粘質土
23．濁黄灰色粗砂
24．淡灰褐色土（やや粘質）
25．暗灰色粘質土（細礫含）
26．黒灰色粘質土
27．濁淡黄灰色土（やや粘質、地山塊含）
28．濁灰褐色土（粘質）
29．濁淡灰褐色土
30．黄褐色土
31．黄褐色粘質土
32．濁淡灰褐色土（粗砂含）
33．濁暗灰褐色土（やや粘質）
34．黄白色粘質土
35．濁黒灰色粘質土（粗砂含）
36．濁黄青灰色土（やや粘質、粗砂含）



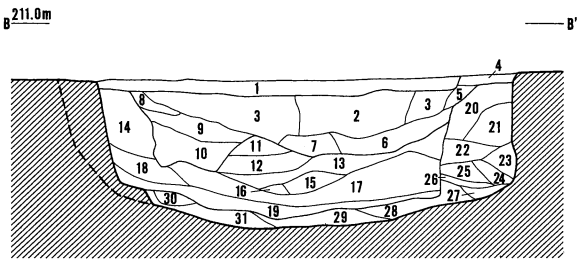


SK48

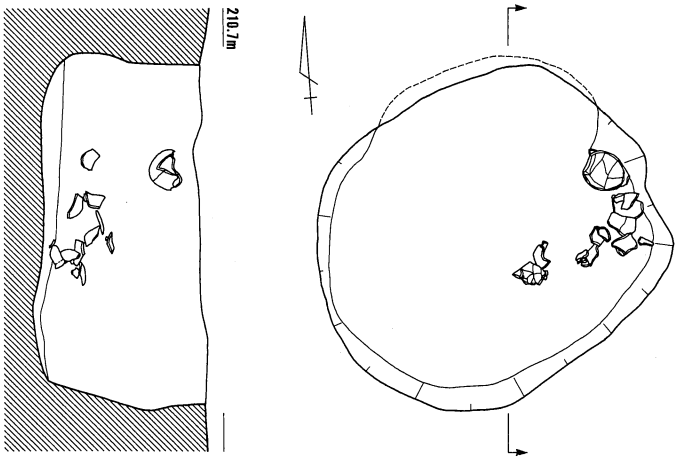
1．淡灰褐色土（細礫含）
2．灰褐色土
3．黄茶褐色粗砂
4．暗灰褐色土（0.5～1cm大の中礫含）
5．濁暗黄褐色土
6．濁淡青灰色（1cm大の中礫含）
7．濁黄褐色土（やや砂質）
8．濁黄褐色土（灰色土塊含）
9．淡灰褐色土（黄色地山塊含）
10．明灰褐色土
11．灰褐色土
12．黄茶色土
13．明灰褐色土（やや明）
14．黒灰色土（やや粘質、黄色地山塊含）
15．淡茶灰色粘質土
16．青灰色粘質土（0.5～1cm大の中礫含）
17．明青灰色粘質土
18．暗灰褐色粘質土
19．明青灰色粘質土
20．明青灰色粘質土（やや砂質）
21．青灰色粘質土
22．灰色粘質土
23．暗青灰色粘質土
24．青灰色粘質土（やや黄色味）



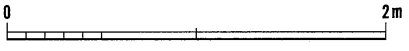
SK49



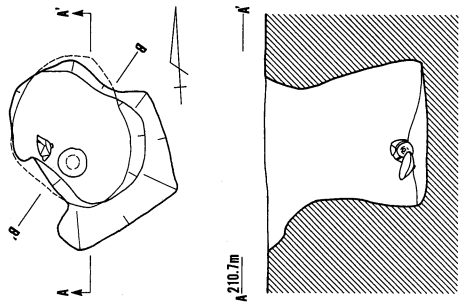
1．淡灰褐色土（やや茶色味、0.5～2cm大の中礫多量含）
2．茶灰色土（やや粘質、礫、黄色地山塊含）
3．濁黄褐色土（0.5～2cm大の中礫多量・黄色地山塊含）
4．暗茶褐色土
5．明黄褐色土
6．淡黄褐色土（粗）
7．灰褐色土（やや粗、黄色地山塊含）
8．黄褐色土（粗）
9．濁灰褐色土（黄色味、粗、黄色地山塊多量含）
10．濁灰褐色土（黄色味、やや粘質、粗、黄色地山塊多量含）
11．灰色粘質土（地山塊含）
12．灰色粘質土
13．灰色粘質土（やや青色味）
14．灰色粘質土（やや暗）
15．濁黄褐色土（やや砂質、灰色粘質塊含）
16．淡灰褐色粘質土
17．暗灰色粘質土（土器含）
18．灰褐色粘質土
19．濁黄褐色粘質土
20．淡黄褐色土（0.5～1cm大の中礫多量含）
21．黄褐色土（0.5～1cm大の中礫多量含）
22．濁暗黄灰色土
23．黄灰色土
24．暗灰色粘質土
25．淡灰褐色土（2～3cm大の中礫含）
26．灰褐色粘質土
27．黄灰色粘質土
28．淡黄褐色土（0.5～1cm大の中礫多量含）
29．青灰色粘質土（0.5～1cm大の中礫多量含）
30．淡青灰色砂質土
31．淡青灰色粘質土

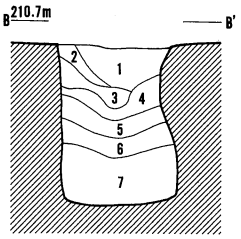


SK50



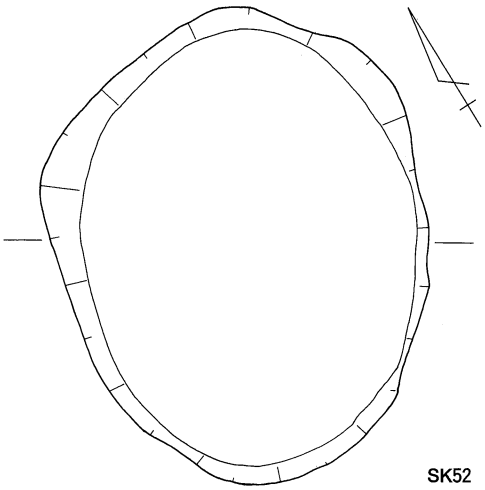
ＳＫ51・52・55・56

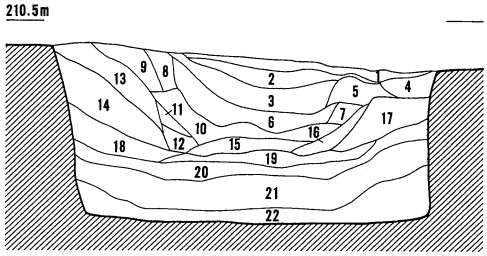




1．暗濃茶褐色土（地山塊含む）
2．濃茶褐色粘質土
3．暗茶褐色粘質土
4．黒褐色粘質土（風化礫、炭含）
5．濁黄灰色砂礫（粘質）
6．暗灰色粘質土（軟、炭含）
7．淡乳青灰色粘土

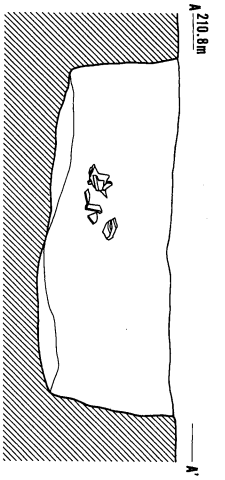
SK51

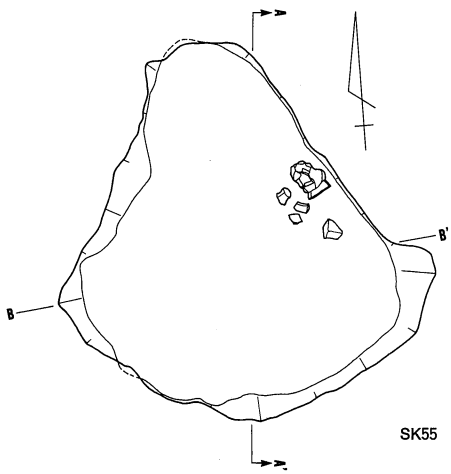


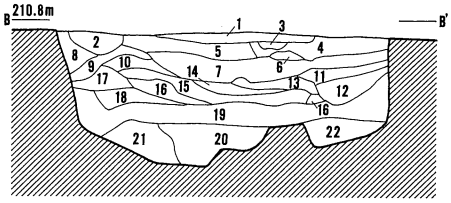


1．濁暗灰色粘質土
2．濁暗灰色粘質土（地山塊含）
3．暗茶褐色粘質土
4．茶褐色粘質土
5．暗茶灰色粘質土
6．黒褐色粘質混礫
7．暗灰茶色粘質土
8．褐色粘質土
9．褐灰色粘質土
10．黒褐色粘土
11．濃褐灰色粘質土
12．濁暗黄灰褐色粘質土
13．濃灰褐色粘質土
14．濁黄灰色粘質土
15．淡黒褐色粘土
16．黒灰褐色粘質混礫
17．濁黄灰褐色粘質土
18．濁灰色粘質土
19．暗灰色粘土（炭含）
20．暗灰色粘質砂（遺物含）
21．青灰色粘質土
22．濁黄灰色粘質土

SK52

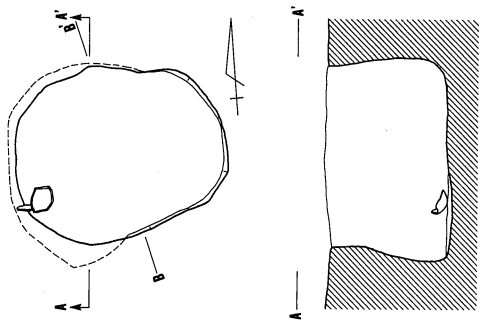


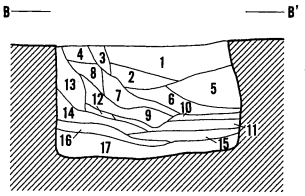




1．灰褐色土（1～2㎝大の中礫多量含）
2．暗黄茶色土（5㎜大の中礫含）
3．黄灰色土
4．暗茶褐色土（細礫少量含）
5．茶褐色土
6．黄灰色土
7．暗灰褐色土
8．茶褐色粘質土
9．暗黄褐色土（粗）
10．明灰褐色土（やや粘質）
11．灰褐色土（細礫少量含）
12．黒灰色粘質土
13．濁黄灰色土
14．濁灰色土（黄色地山塊含）
15．黄灰色粘質土
16．濁暗灰色粘質土（黄色地山塊含）
17．黄褐色土（灰色土塊含）
18．濁黄灰色粘質土
19．黄灰色土（2㎝大の礫含）
20．濁青灰色粘質土
21．明黄灰色粘質土
22．淡青灰色土（細礫多量含）

SK55

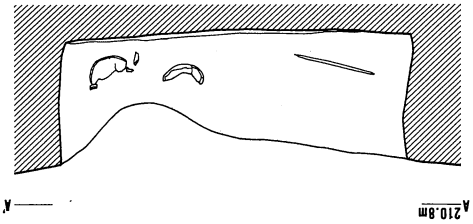


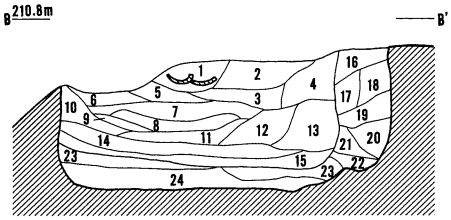


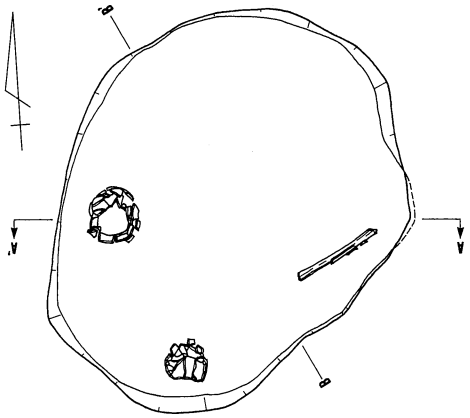
1．暗茶褐色粘質土
2．暗濃茶褐色粘質土
3．茶褐色粘質土
4．明茶褐色粘質土（地山塊含）
5．暗灰褐色粘質土
6．暗濃灰褐色粘質土（炭含）
7．濁灰褐色粘質土（黄色地山塊多量含）
8．暗黄褐色粘質土（黄色地山塊含）
9．黒褐色粘質土（黄色地山塊多量含）
10．暗灰褐色粘土
11．暗灰色粘土（炭含）
12．暗乳灰色粘土
13．濁灰褐色粘質土
14．淡乳褐色粘土
15．乳灰色粘土
16．淡乳灰褐色粘土
17．濁黄灰色粘質土

SK56

0　2m

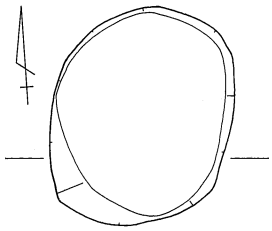


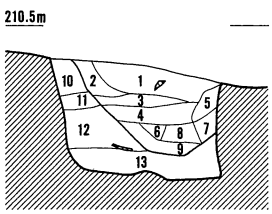




SK57

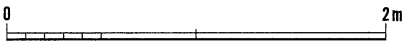
1．黒褐色粘質土（土器含）
2．暗茶褐色粘質土（1cm大の明黄色風化礫含）
3．暗茶褐色粘質土（1cm大の明黄色風化礫含）
4．明灰褐色粘質土
5．灰褐色粘質土（1cm大の明黄色風化礫含）
6．黒灰色粘質土（5mm大の明黄色風化礫含）
7．暗灰褐色粘質土
8．濁灰褐色粘質土（黄色地山塊含）
9．濃灰褐色粘質土
10．濁灰褐色砂質土（粘質）
11．暗灰色粘土
12．濁暗灰色粘土（地山塊含）
13．濁淡灰褐色粘土（地山塊含）
14．暗濃灰色粘土（炭2～3固有）
15．明乳青色粘土
16．淡黄茶色土（やや粘質）
17．淡茶灰色土（粗）
18．淡黄褐色土（粗、3～5mmの細・中礫含）
19．黄褐色粘質土（やや粗）
20．黄褐色粘質土
21．灰褐色粘質土（バンド）
22．淡黄灰色粘土
23．淡黄灰色粘質土
24．青灰色粘質土





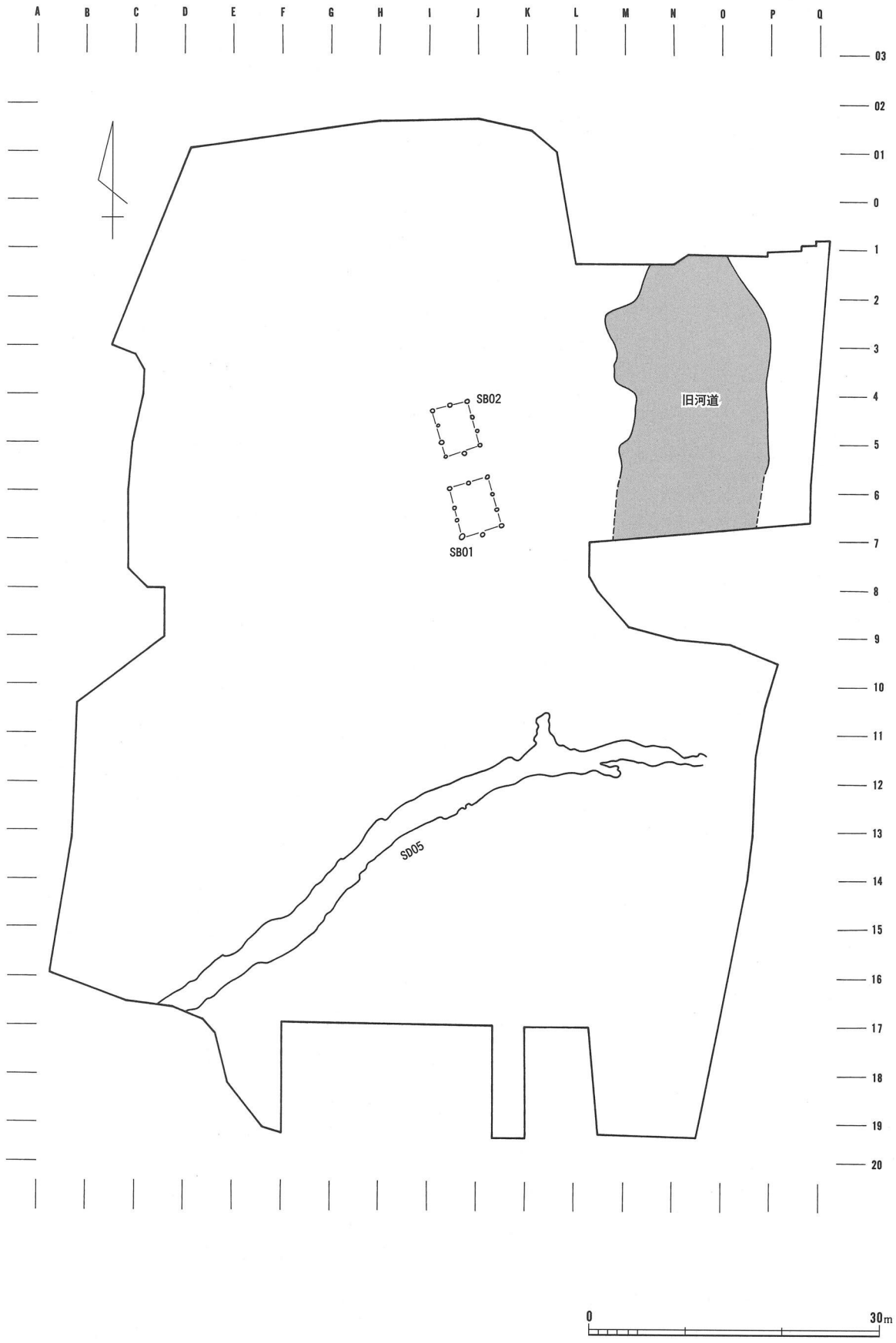
SK58

1．暗茶褐色粘質土（風化礫含）
2．暗濃茶褐色粘質土
3．黒褐色粘質土（風化礫含）
4．黒褐色粘質土
5．乳灰褐色粘質土
6．暗黒褐色粘質土（炭多量含）
7．乳灰色粘質土
8．暗乳灰色粘質土
9．黒灰色粘質土（炭多量含）
10．乳灰色褐色粘質土
11．乳灰色粘質土
12．暗灰褐色粘質土（礫含）
13．暗灰色粘土（炭含）



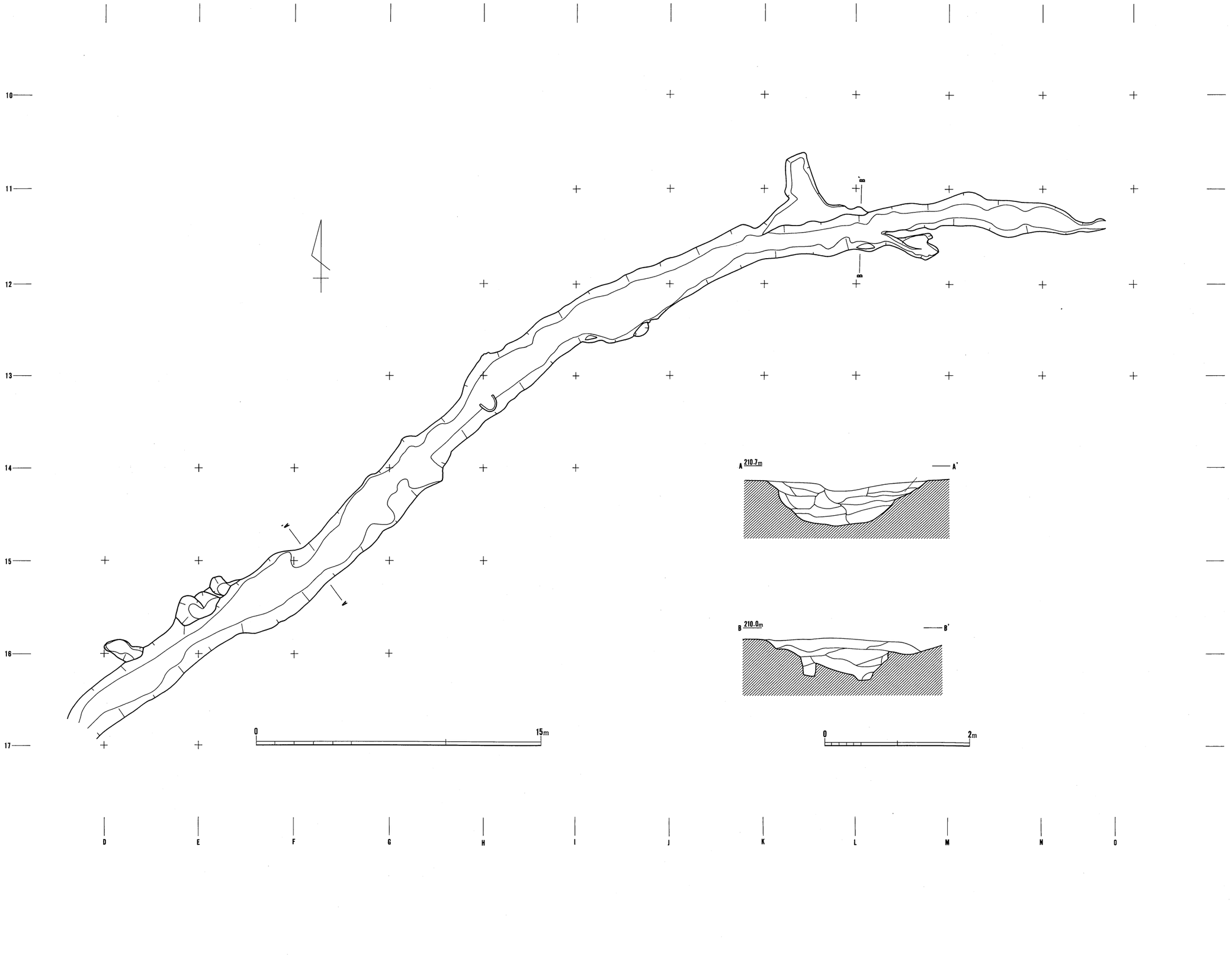
図版17

古墳時代後期～奈良・平安時代の遺構配置図



SD05

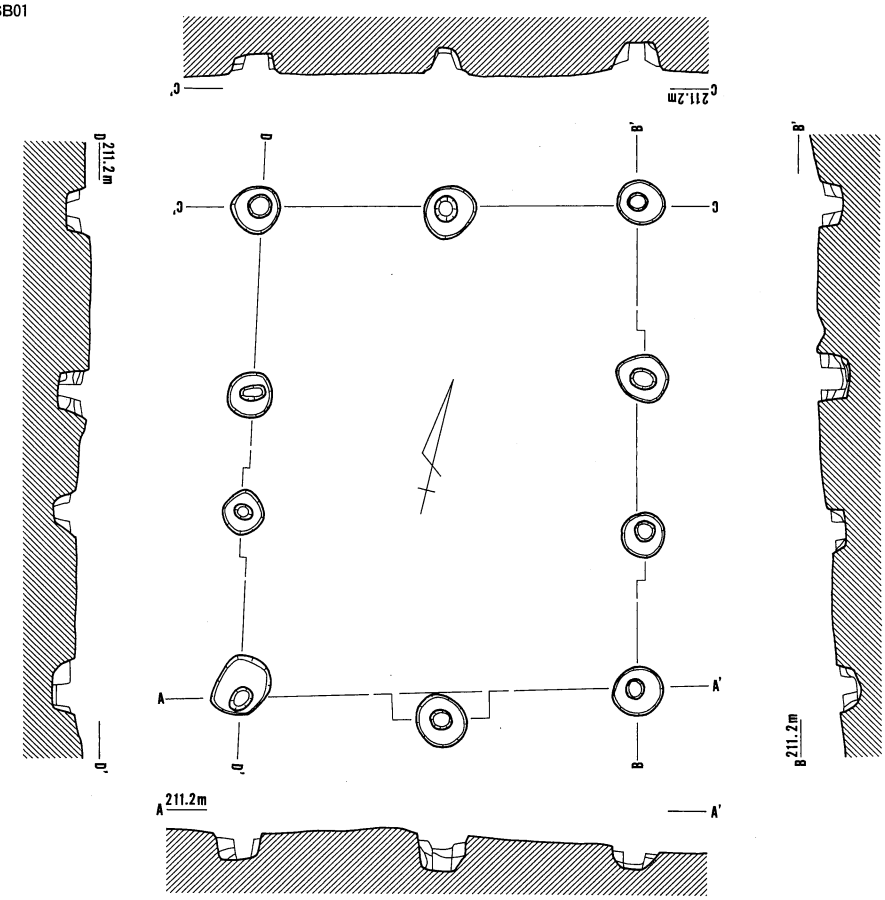
図版18



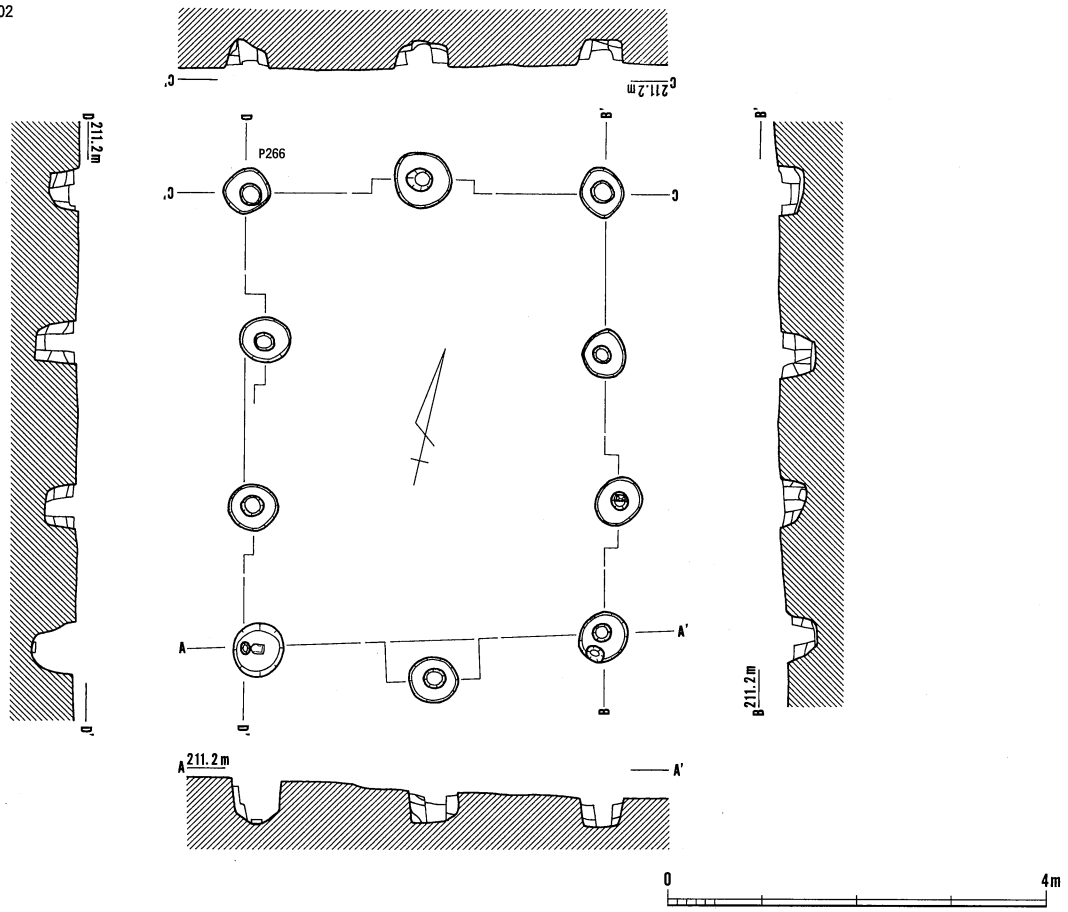
SB01・02

図版19

SB01



SB02

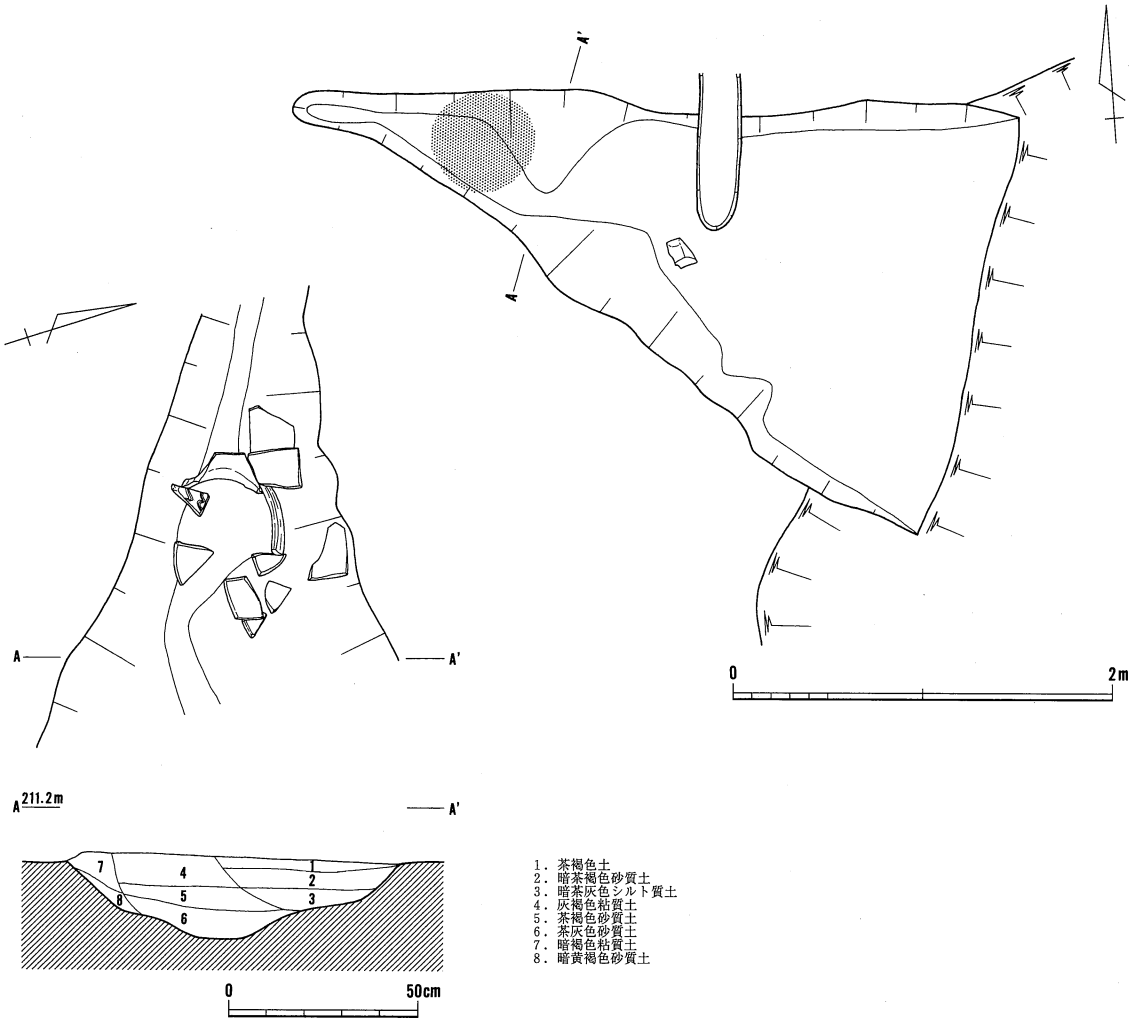


図版20

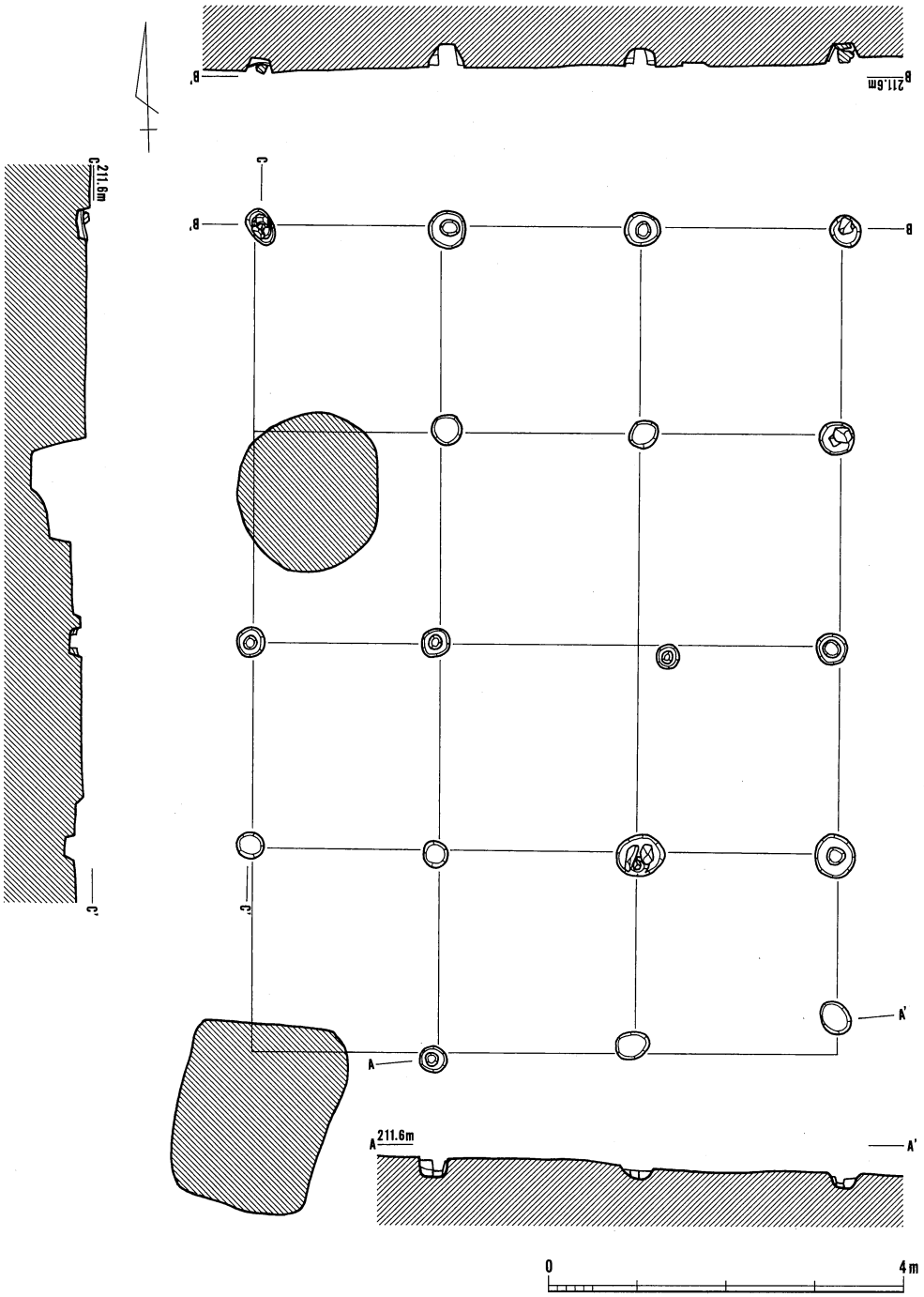
平安時代～鎌倉時代遺構配置図

S D 37

図版21

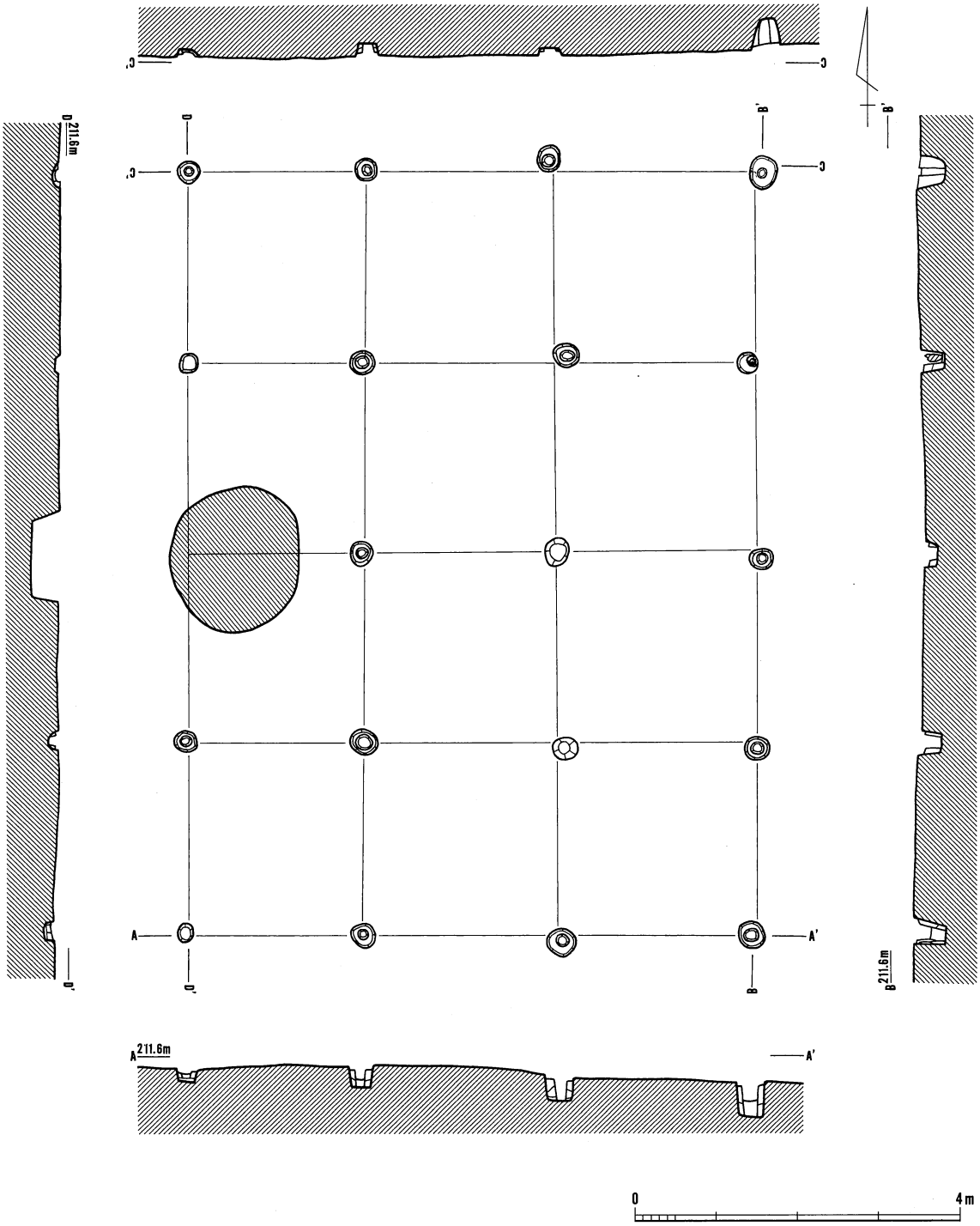


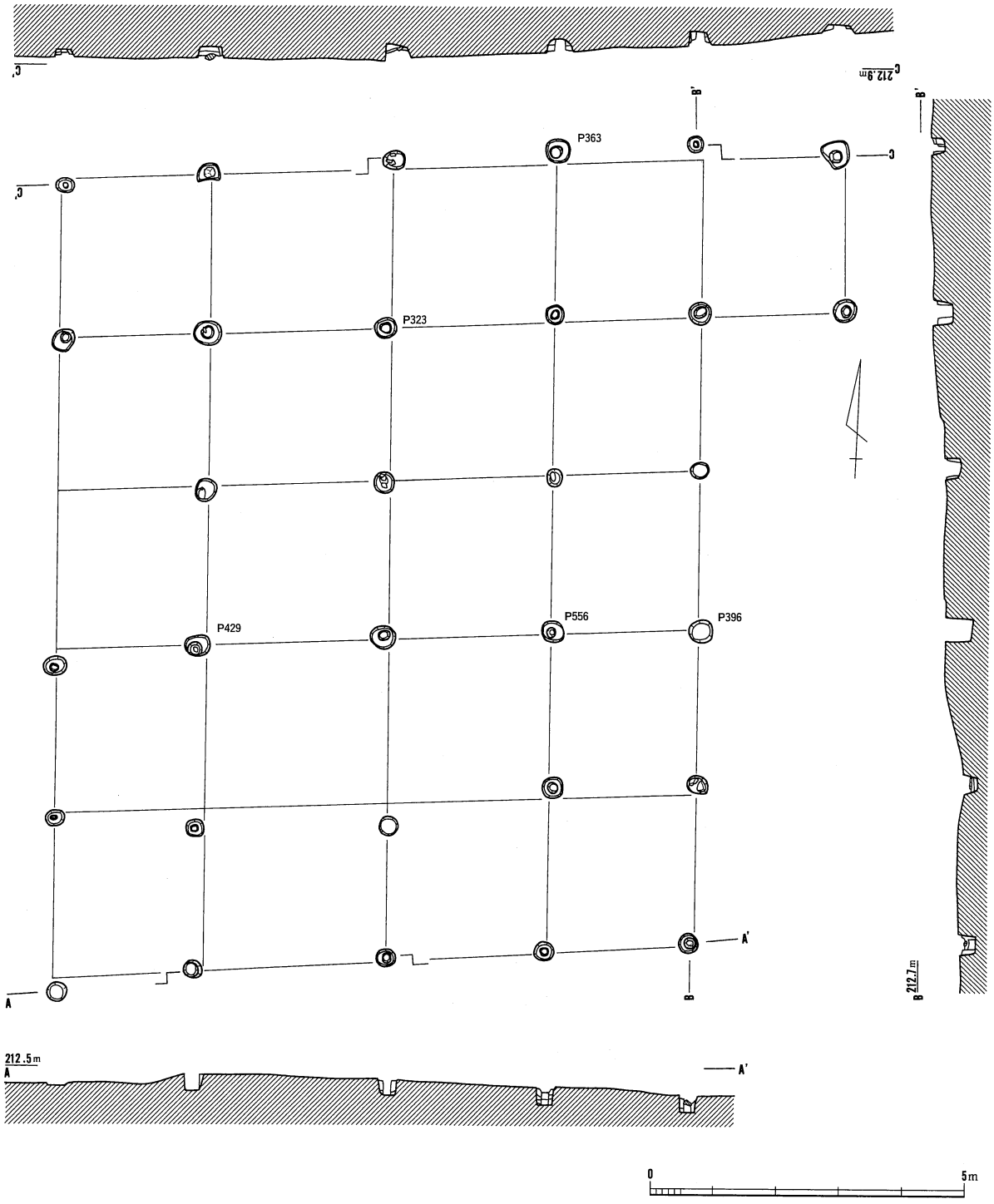
1. 茶褐色土
2. 暗茶褐色砂質土
3. 暗茶灰色シルト質土
4. 灰褐色粘質土
5. 茶褐色砂質土
6. 茶灰色砂質土
7. 暗褐色粘質土
8. 暗黄褐色砂質土


B
B'
211.6m
C
C'
A
A'
0
4m

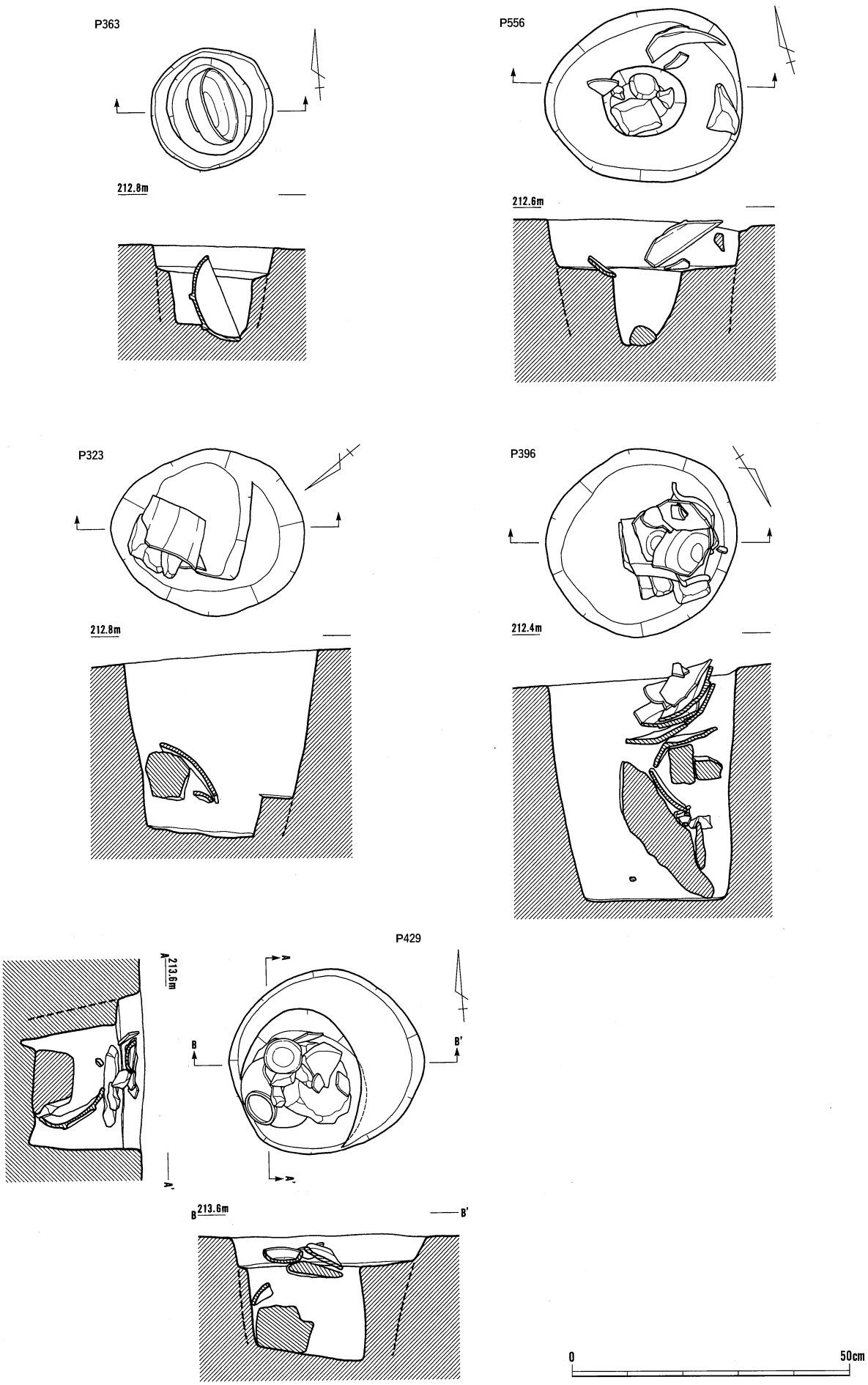
S B 04

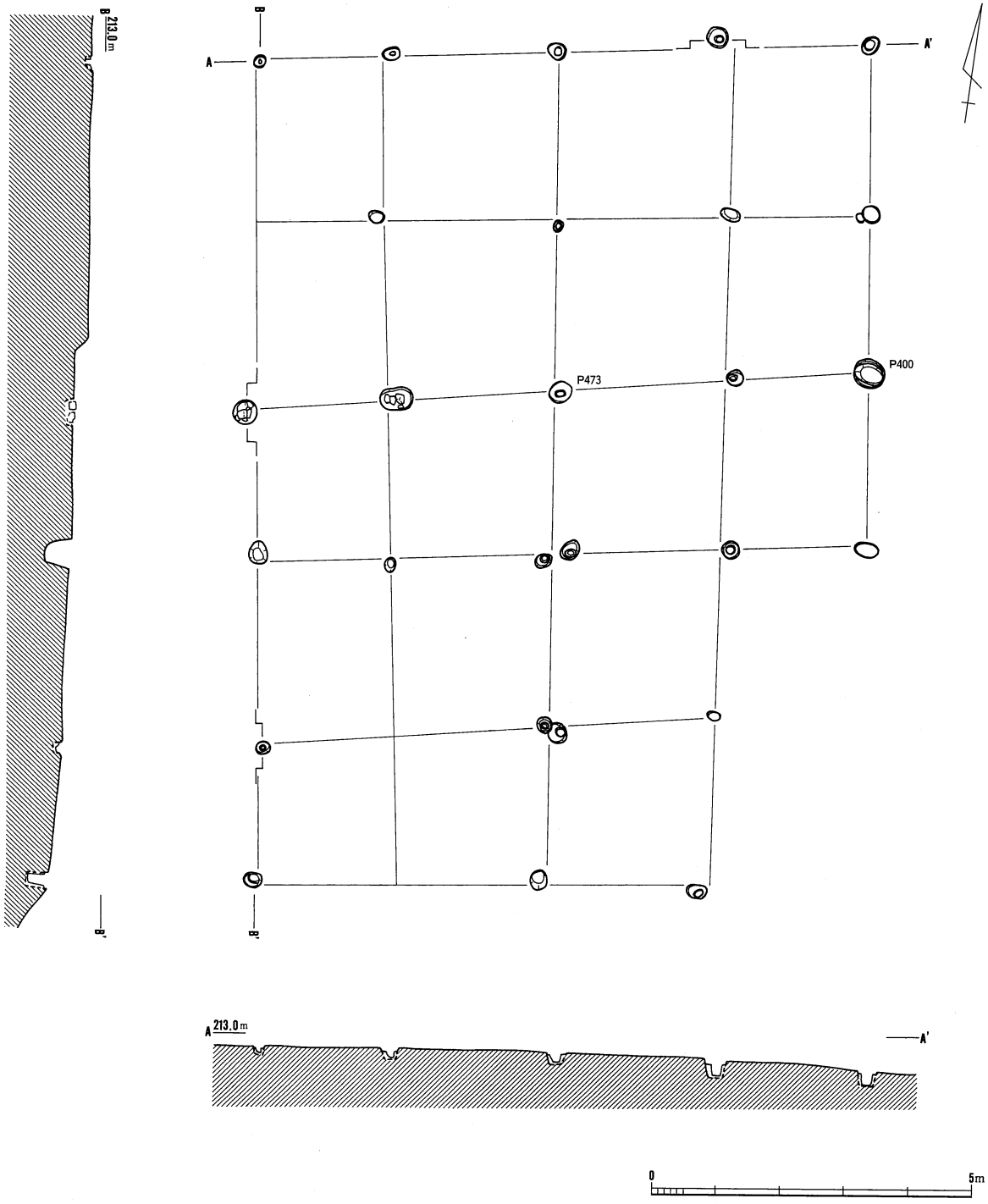
図版23

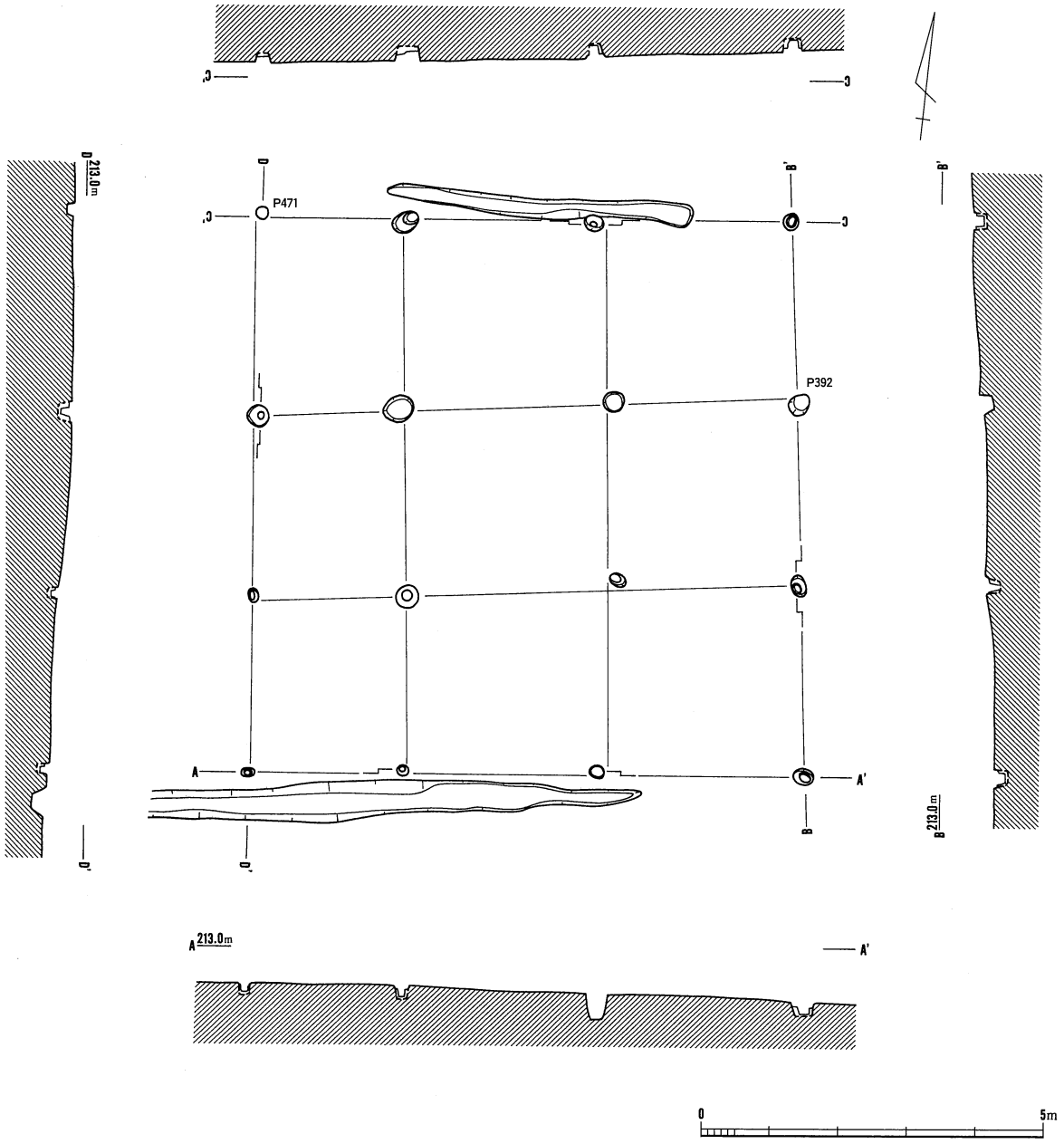



P363
P323
P429
P556
P396
A
A'
B
B'
C
C'
212.9m
212.7m
212.5m
0
5m

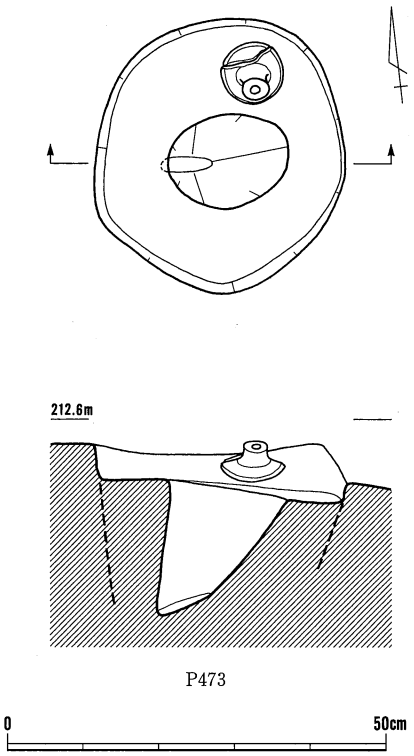
ＳＢ05土器出土状況

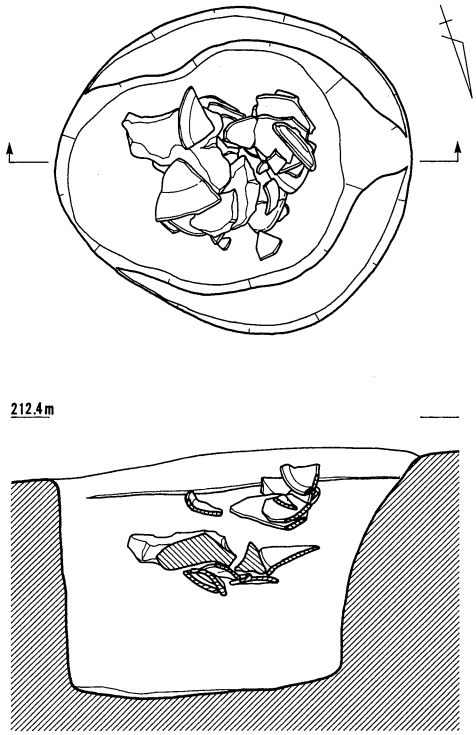

P363
212.8m
P556
212.6m
P323
212.8m
P396
212.4m
P429
A
213.6m
A'
B
B'
B
213.6m
B'
0
50cm


B
213.0m
B'
A
A'
P473
P400
213.0m
0
5m

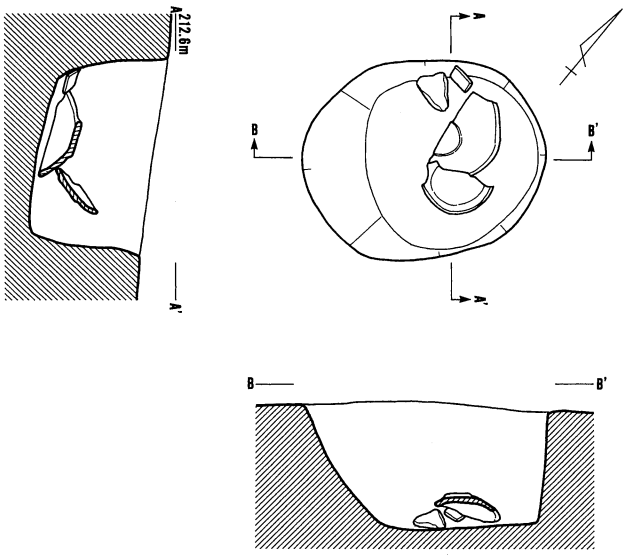

P471
P392
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
213.0m
0
5m

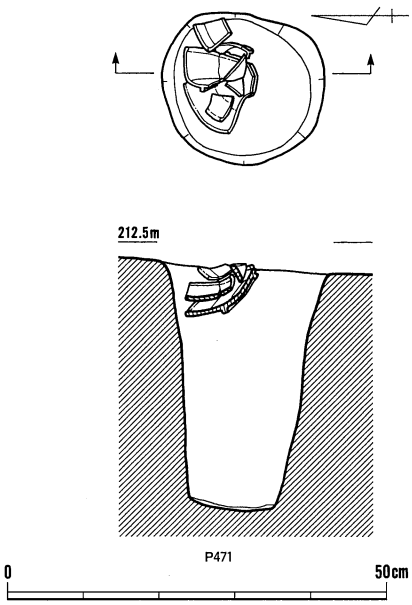
ＳＢ06・07柱穴土器出土状況



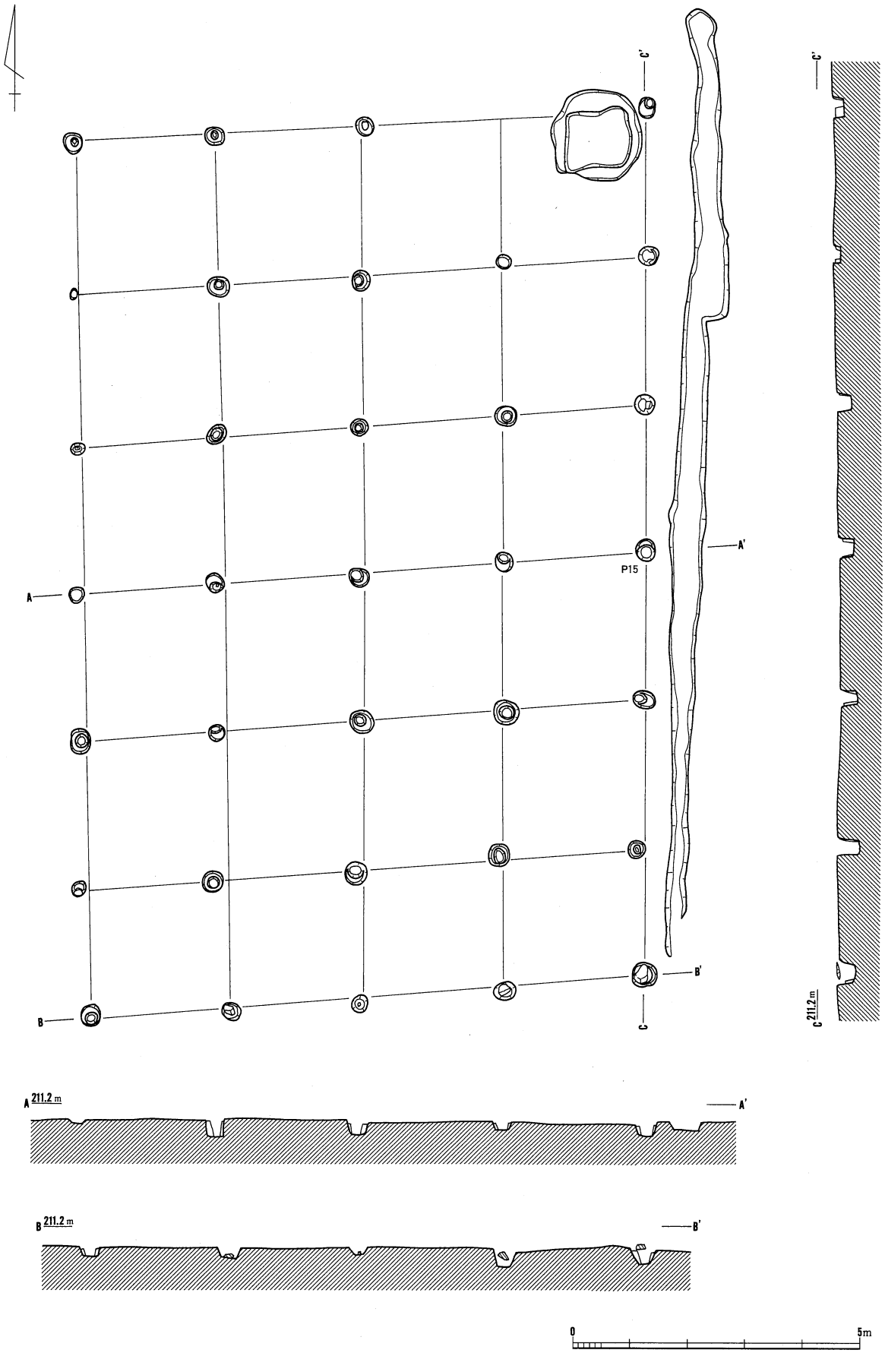


SB06



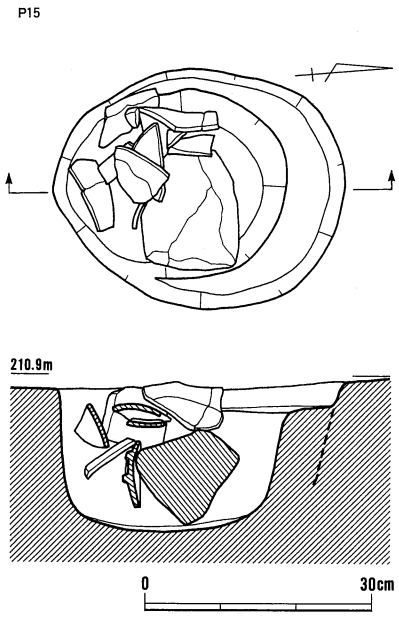


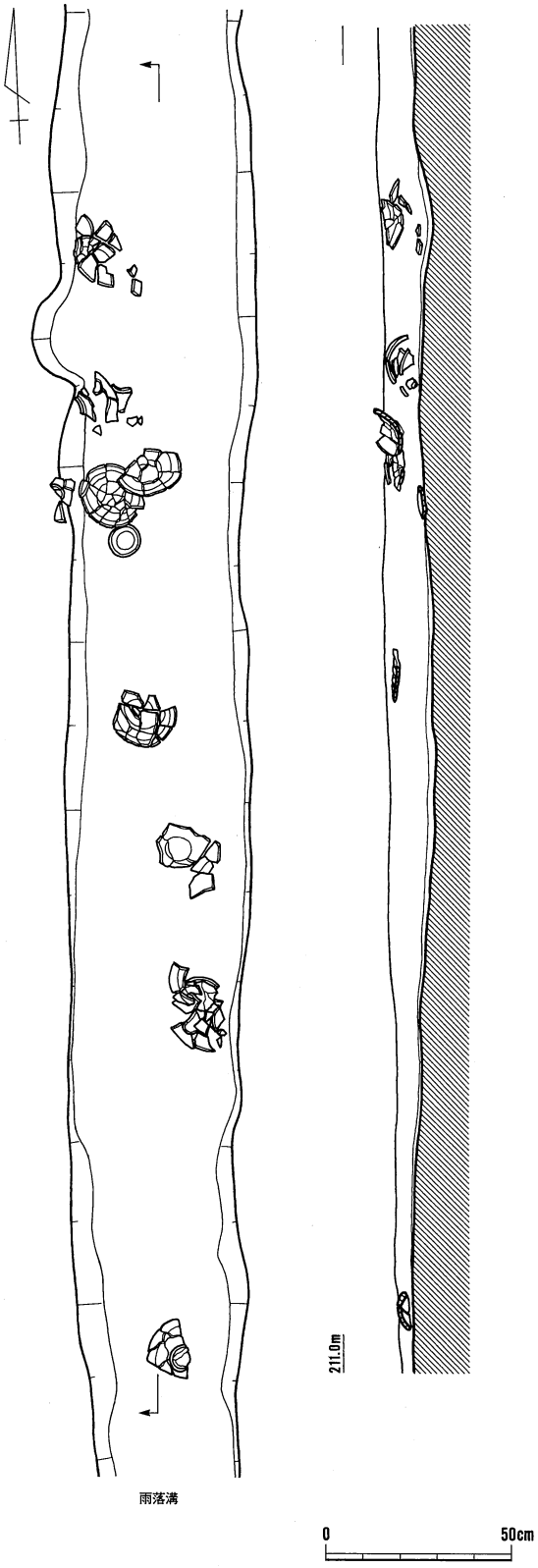
SB07


C'
C'
A'
P15
A
B'
B
C
C 211.2 m
A 211.2 m
A'
B 211.2 m
B'
0
5m

図版30

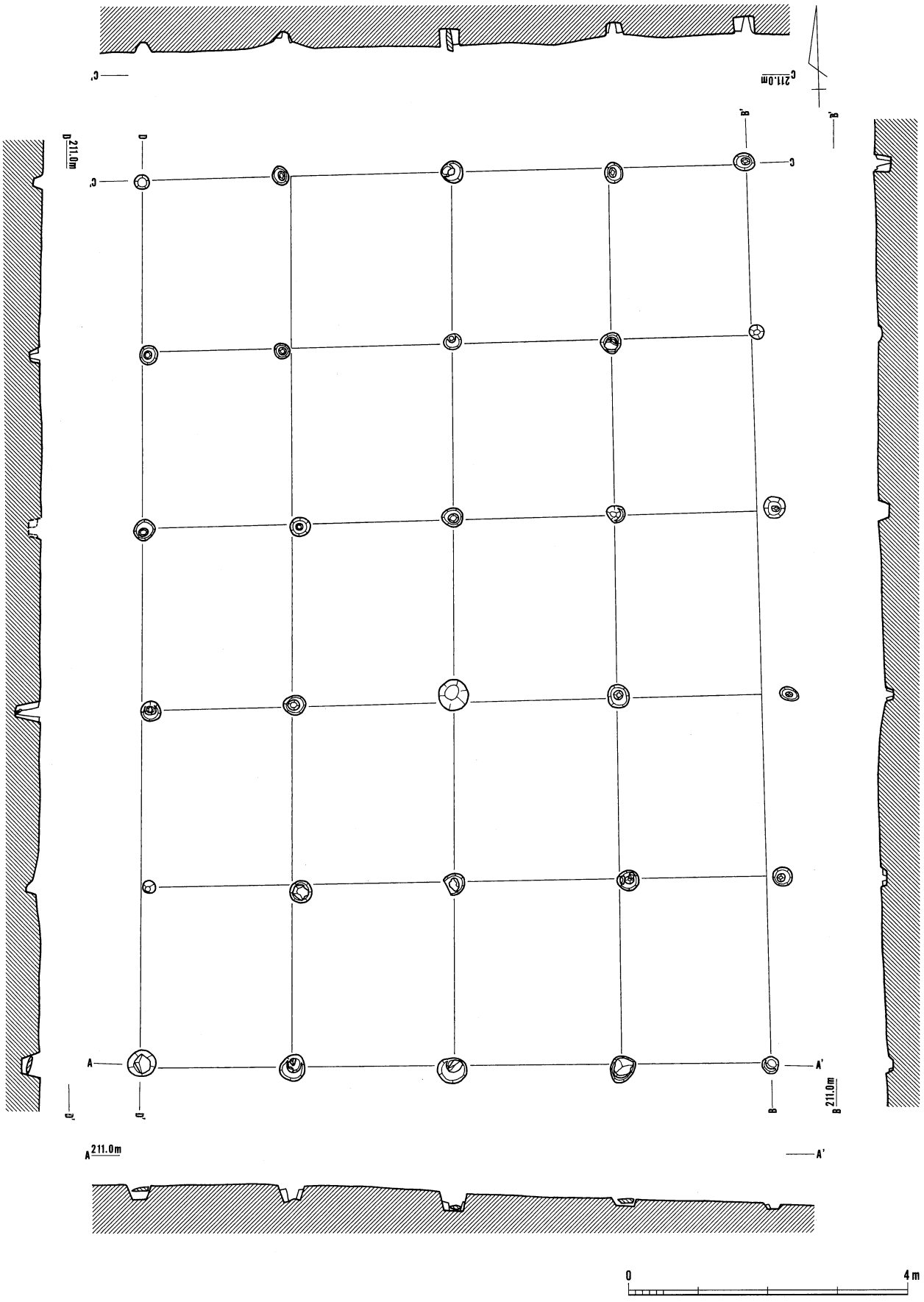
ＳＢ08柱穴・雨落溝土器出土状況

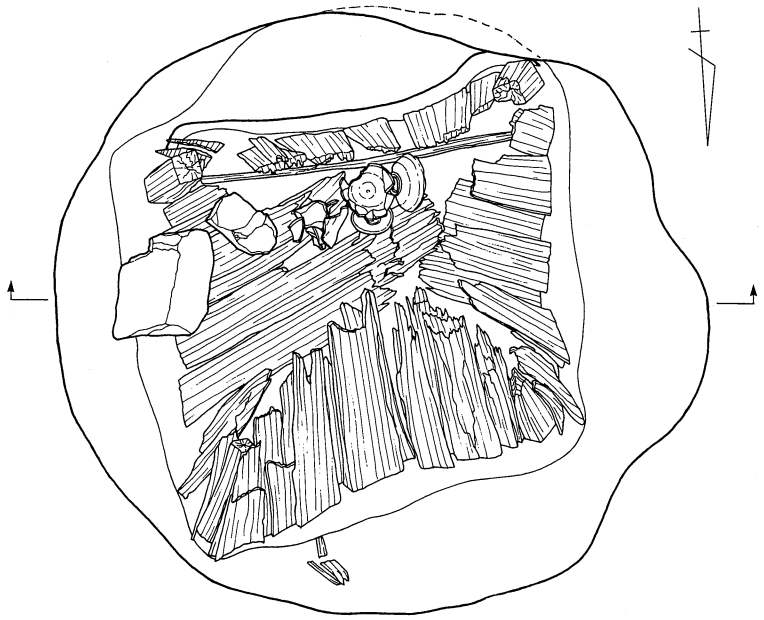


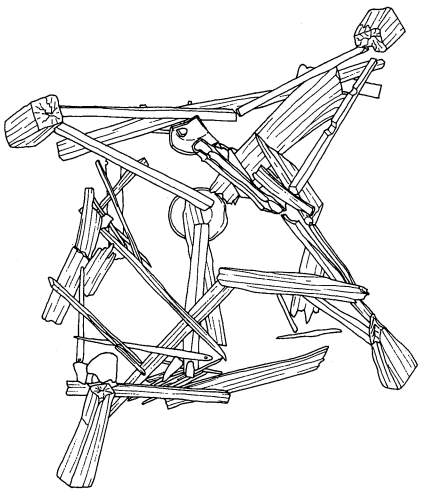


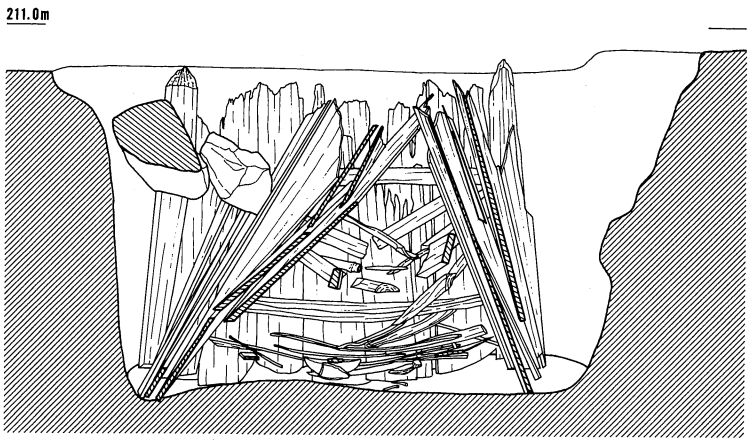
S B 09

図版31



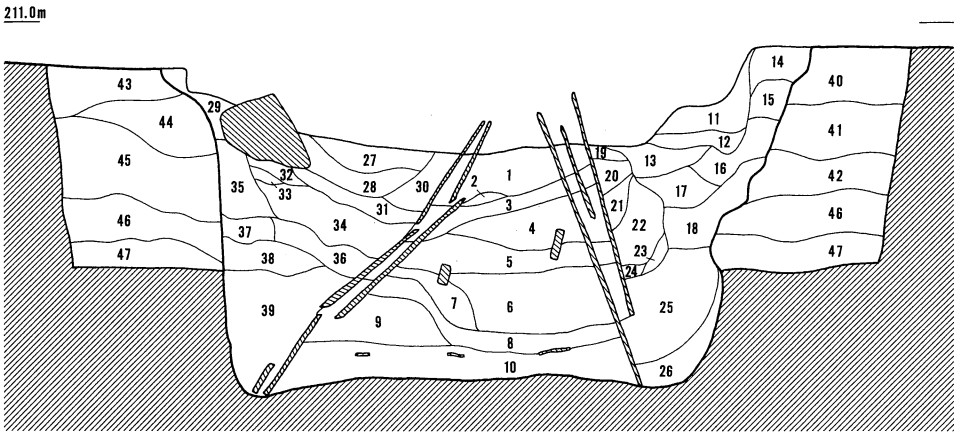





211.0m

0
1m

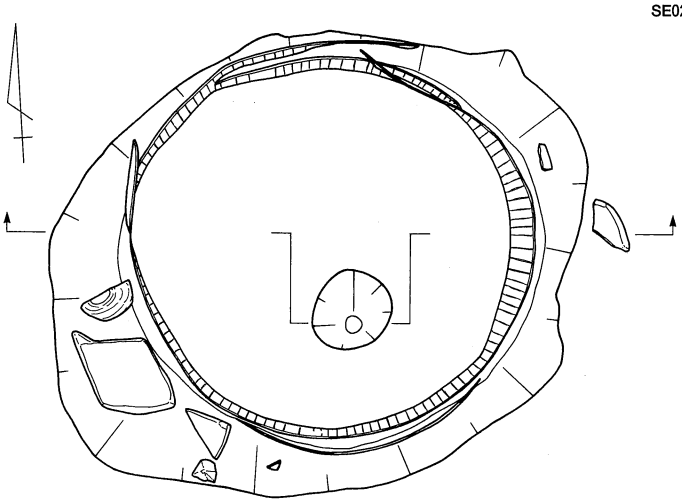
ＳＥ01土層断面図

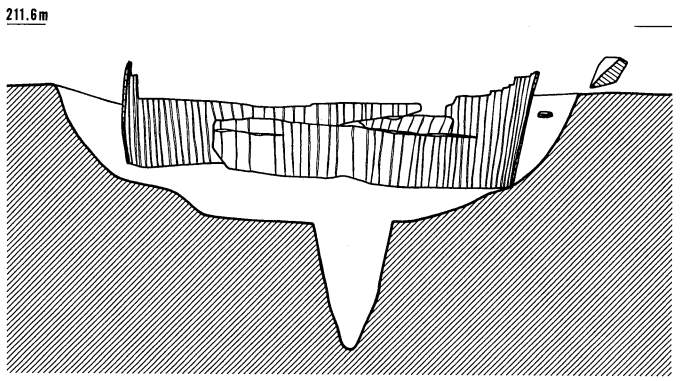


1．暗灰色粘土（硬、土器片少量含）
2．暗灰色シルト（軟）
3．暗灰色粘土（硬、やや砂質）
4．濃灰色粘土（硬）
5．灰色粘土（硬）
6．暗乳灰色粘土（軟、炭少量・木片多量含）
7．乳灰色砂シルト（軟）
8．明灰色砂シルト（軟）
9．灰色シルト（軟、炭少量・木片多量含）
10．乳灰色シルト（軟）
11．暗黄褐色砂質土
12．暗灰褐色粘質土
13．乳褐色粘質土
14．淡黄灰色砂礫
15．濃黄灰色粘質土
16．黄灰色粘質土
17．淡黄灰色シルト
18．濁黄灰色シルト
19．濁灰色白色シルト
20．乳灰褐色粘質土
21．灰色粘質土
22．明乳灰色シルト
23．淡青灰色シルト
24．暗青灰色シルト
25．濁青灰色粘質土
26．淡乳灰色粘質土
27．灰色砂質土
28．濁乳灰色シルト
29．暗灰褐色粘質土
30．濃灰色砂質土
31．濁灰白色シルト
32．灰色粘土
33．灰色砂
34．灰色粘質土（24とほぼ同一）
35．灰褐色粘質土
36．暗青灰色粘質土
37．淡赤灰色粘質土
38．濁灰青色粘質土
39．濁青灰色粘質土（20と同一）
40．黄灰色粘質土
41．淡灰褐色粘質土（Ｍｎ沈着）
42．乳灰褐色粘質土（Ｍｎ沈着）
43．黄灰色砂質土
44．濁灰褐色粘質土
45．濁黄褐色粘質土
46．暗乳灰色粘質土（Ｍｎ少量沈着）
47．灰白色シルト（火山灰）

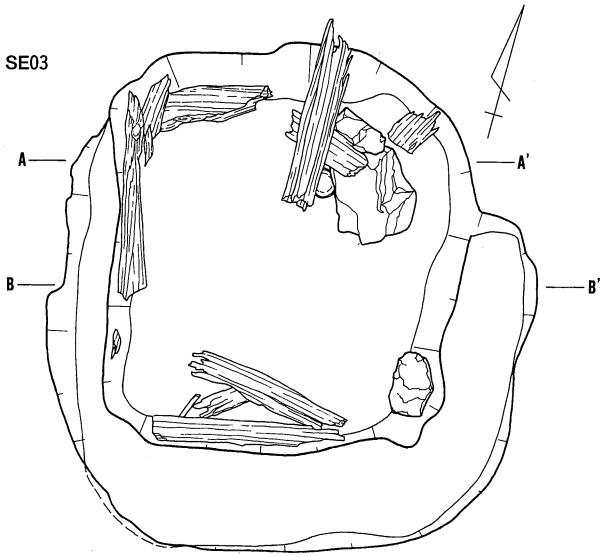
SE02・03

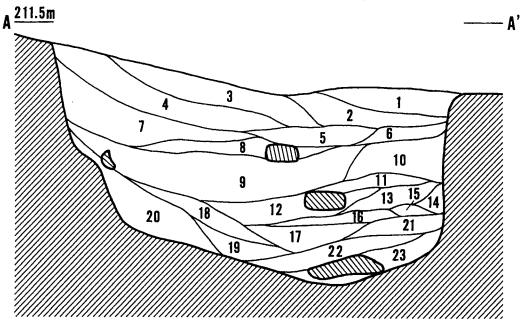
SE02

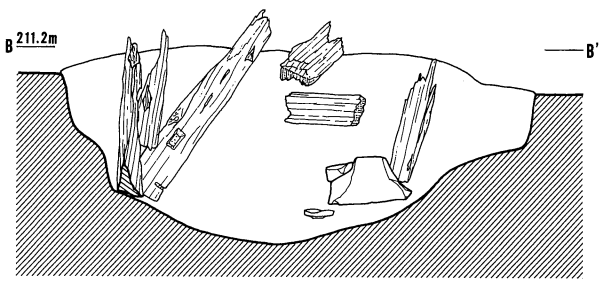




SE03

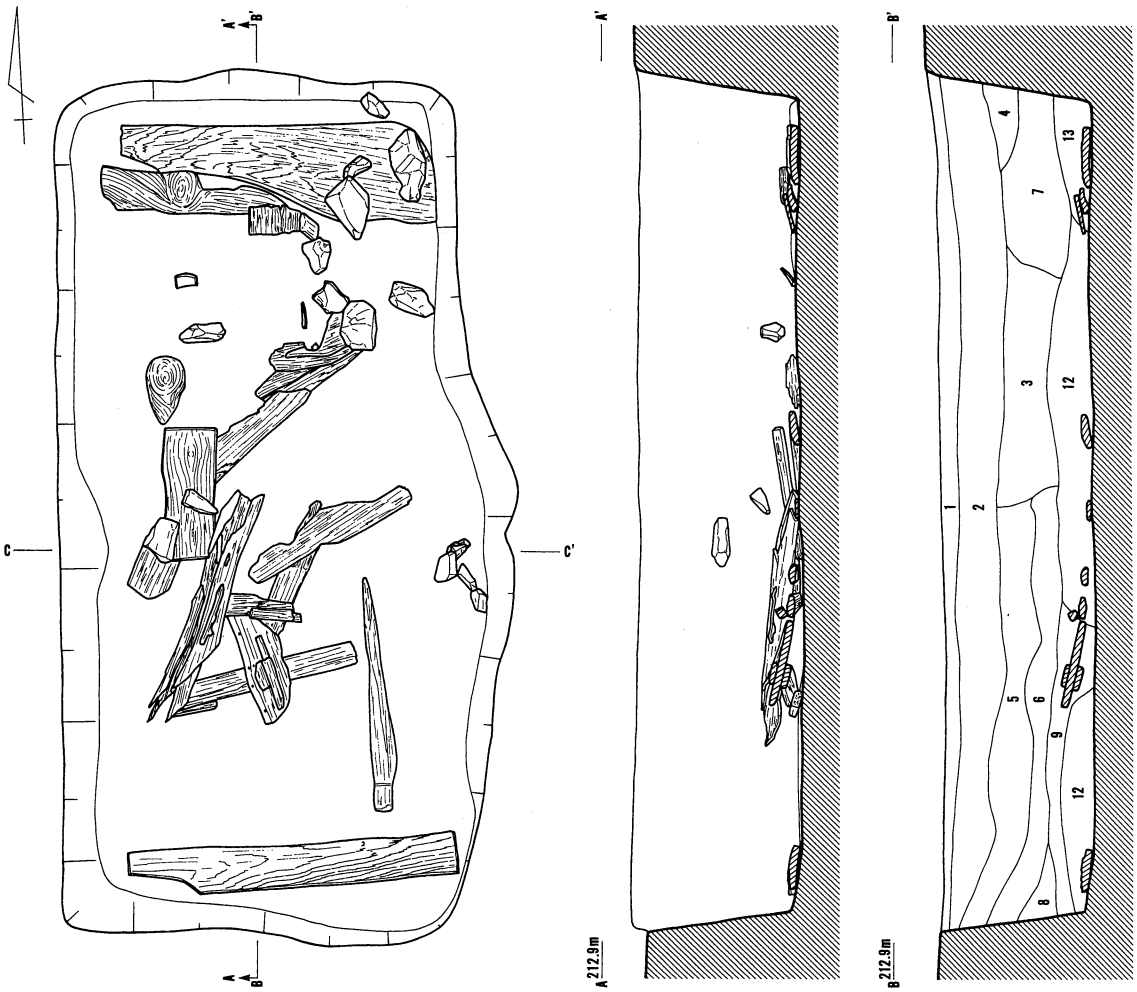






1. 淡茶褐色土（1～2㎝大の中礫含）
2. 淡灰褐色土（1～2㎝大の中礫含）
3. 灰褐色土（1～2㎝大の中礫含）
4. 灰褐色土（粒子やや細い）
5. 暗灰色土（やや砂質、粒子粗）
6. 灰褐色土（5㎜大の中礫含、粒子粗）
7. 灰褐色土（1～3㎝大の中礫含、粒子粗）
8. 灰色土（2～3㎜大の細礫少量含、粘質）
9. 灰色粘質土
10. 灰褐色土（2～3㎜大の細礫少量、炭含）
11. 灰色土（2～3㎜大の細礫含、粘質）
12. 灰褐色粘質土
13. 灰色粘質土
14. 暗灰色粘質土
15. 茶灰色砂質土（ブロック）
16. 暗灰褐色粘質土
17. 暗灰色褐色粘質土
18. 灰色土（2～3㎝大の細礫少量含）
19. 暗灰色粘質土（2～3㎝大の細礫少量含）
20. 暗灰褐色粘質土
21. 暗灰褐色土（2～5㎜大の細礫～中礫含）
22. 黒灰色粘質土
23. 黒灰色粘質土（粒子粗）

ＳＫ06

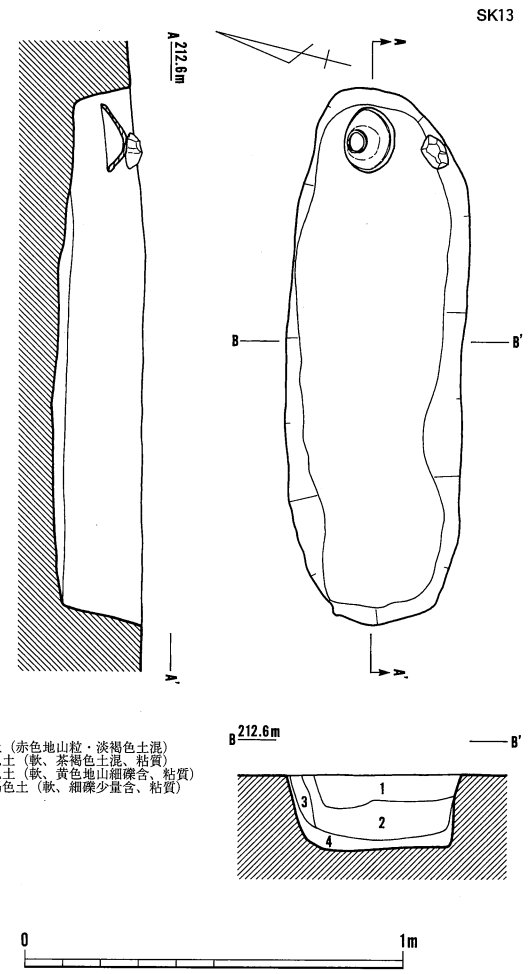


1．明茶褐灰色土（黄色地山細礫・炭少量含）
2．暗茶褐色土（黄・赤褐色地山中～細礫・炭少量含、青灰色混）
3．黄茶褐・青灰褐色土（赤褐色地山粒・炭含、粘質）
4．暗茶褐色土（黄色地山粒少量含）
5．青灰色・明茶褐色土（黄色地山粒少量含）
6．青灰褐・淡黄色土（黄色地山中礫・中礫含、粘質）
7．灰褐・淡黄色土（５類似）
8．青灰褐色土
9．明黄茶褐・青灰色土（粒子粗）
10．暗黄茶褐・明黄茶褐灰色土（中礫・炭少量含、粘質）
11．青白・黄灰・褐灰色土（礫含）
12．青灰色土（粘質砂質混）
13．青黄白色シルト（粘質）

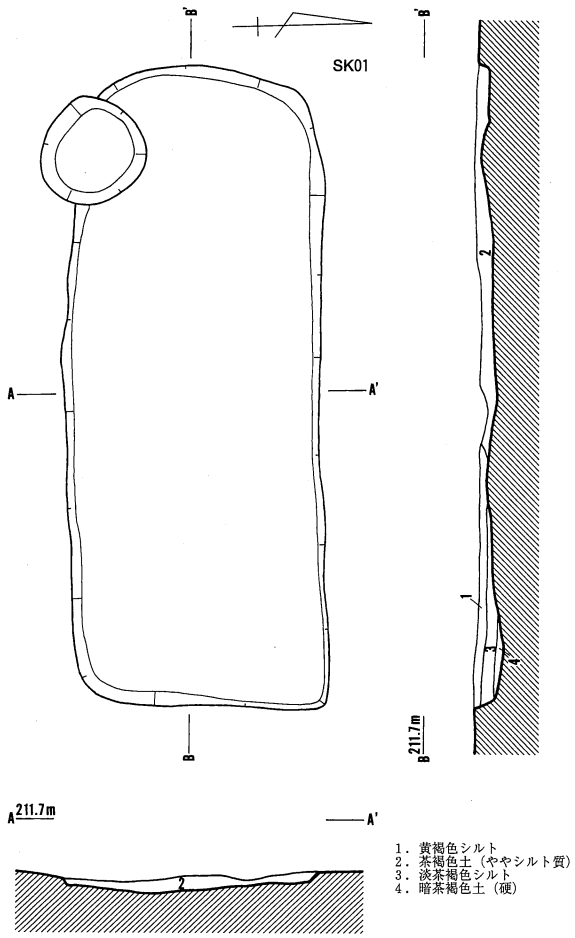
0 1m

図版36

ＳＫ01・13



1．茶褐色土（赤色地山粒・淡褐色土混）
2．淡黄褐色土（軟、茶褐色土混、粘質）
3．暗茶褐色土（軟、黄色地山細礫含、粘質）
4．淡黒灰褐色土（軟、細礫少量含、粘質）



1．黄褐色シルト
2．茶褐色土（ややシルト質）
3．淡茶褐色シルト
4．暗茶褐色土（硬）

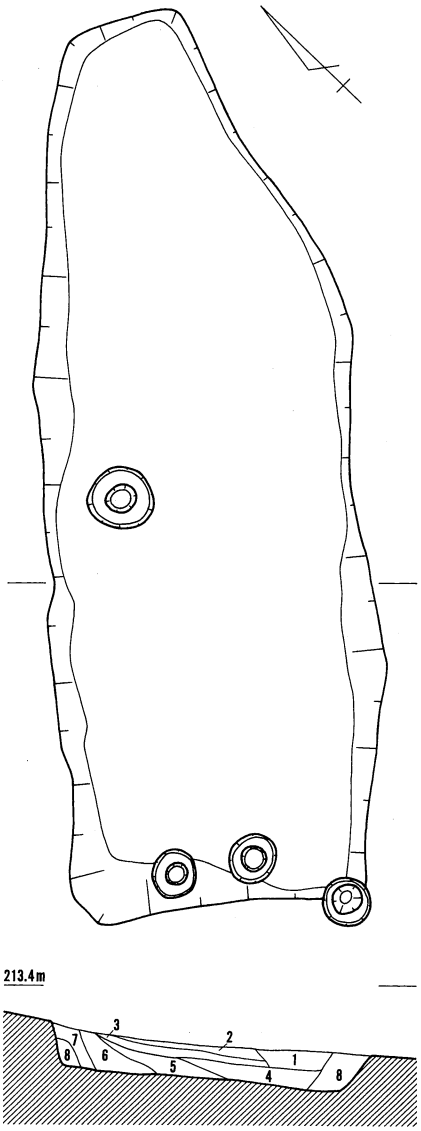
ＳＫ16・17

SK16

1．茶褐色土（粘質、炭含）
2．淡黒茶褐色土（焼土・炭混）
3．赤褐色土（焼土、粘質、黄色地山粒含）
4．淡黒褐色土（1類似）

0 1m

SK17

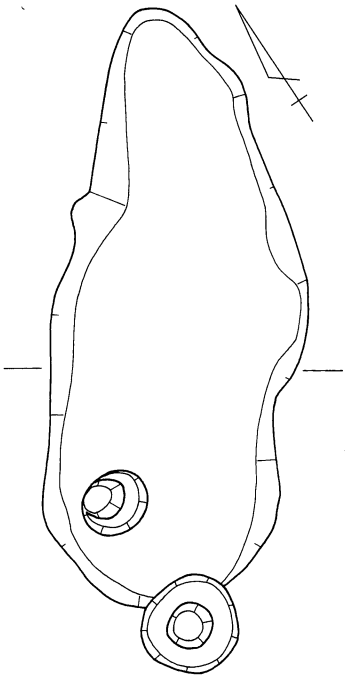


1．暗茶灰色土（やや砂質）
2．暗茶褐色土（砂粒少量含）
3．茶褐色土
4．黄茶灰色粘質土（やや軟）
5．暗黄褐色粘質土
6．茶褐色粘質土
7．茶灰色粘質土
8．明茶褐色粘質土

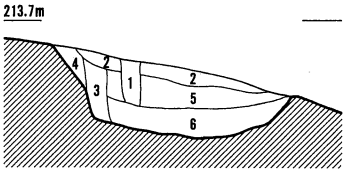
0 1m

ＳＫ03・14・18・21・24

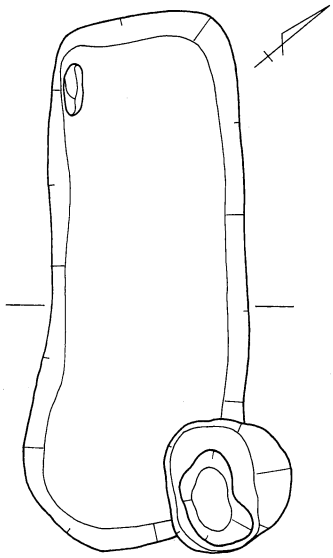
SK18



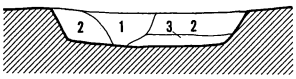
213.7m



SK24



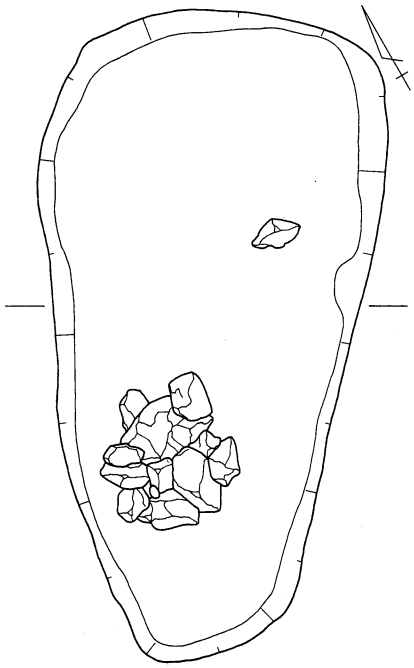
213.2m



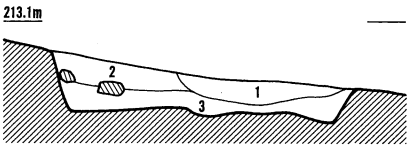
1．暗茶灰色粘質土
2．茶灰色粘質土
3．黄茶灰色土（シルト質）

1．暗茶褐色土（0.5～1㎝大の中礫多量含、硬）
2．暗茶褐色土（粗砂含）
3．明茶褐色土（地山塊含）
4．暗茶褐色土
5．茶褐色土（ややシルト質、砂礫少量含）
6．淡茶褐色土（ややシルト質）

SK21

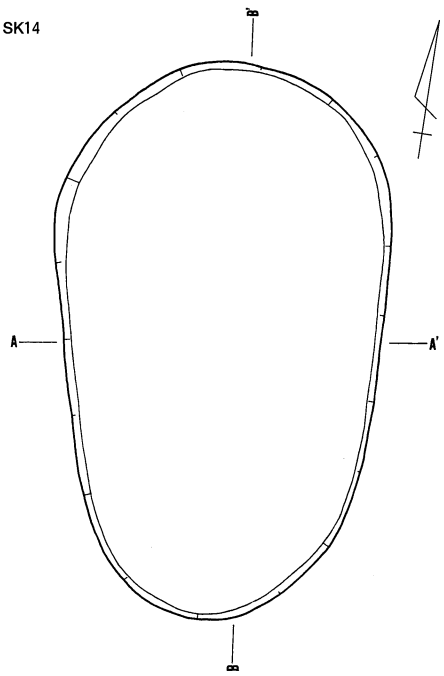


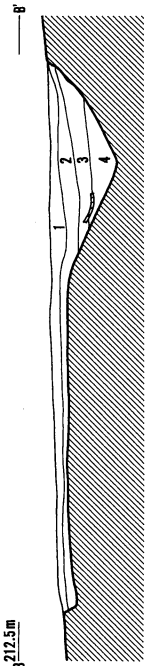
213.1m



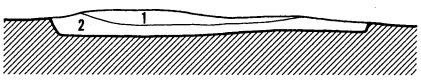
1．暗茶灰色土
2．暗茶褐色土（炭含）
3．茶褐色土（炭含）

SK14

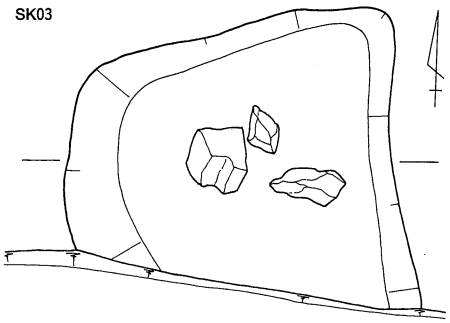




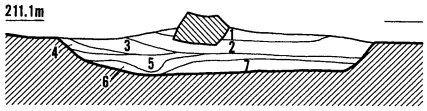
A 212.5m A'



SK03



211.1m



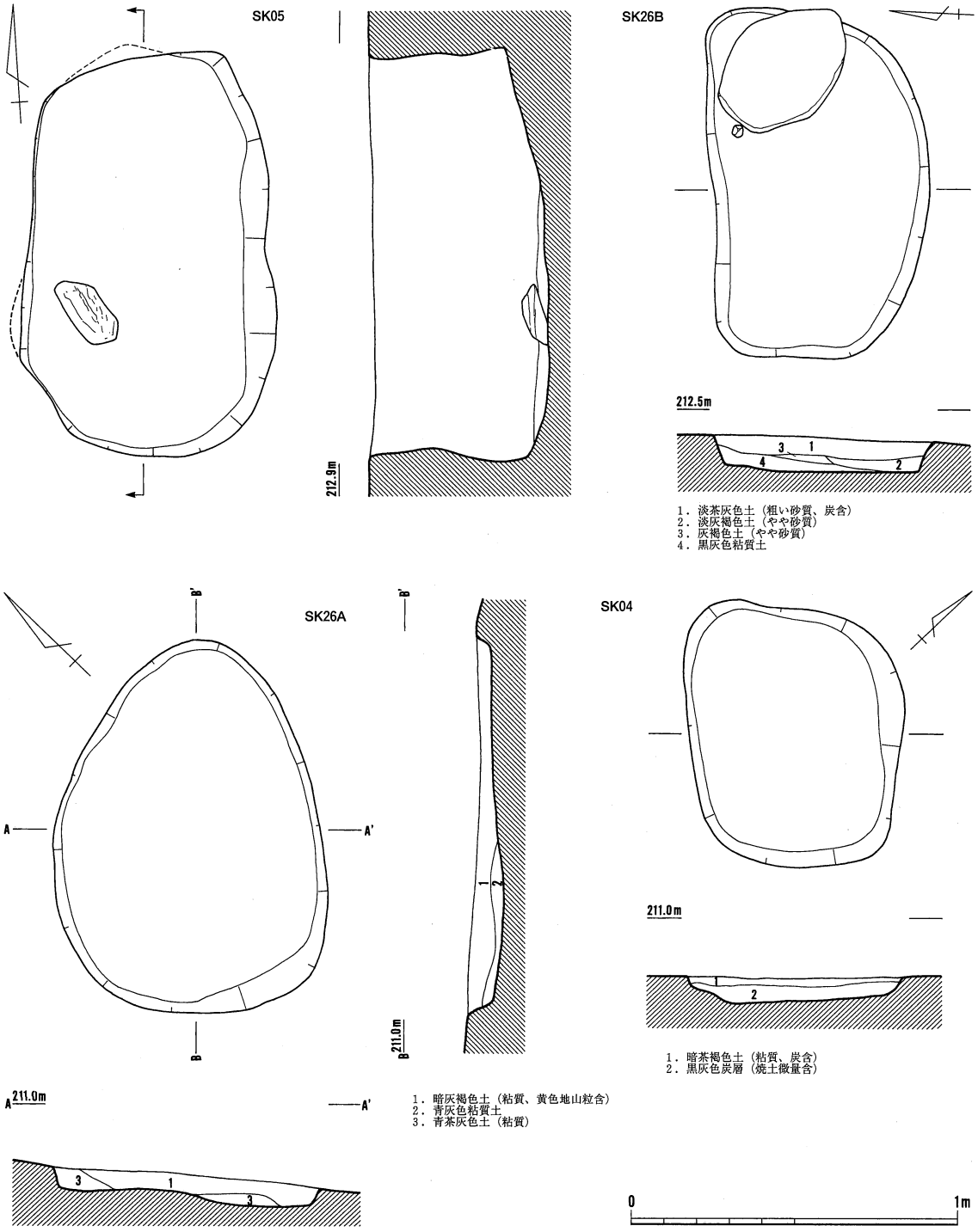
1．茶褐色土
2．暗茶褐色土（ややシルト質）
3．暗茶灰色土
4．炭層
5．暗茶灰色土
6．炭層
7．暗茶灰色土（ややシルト質）

1．暗茶褐色土（硬、赤色地山粒・炭含）
2．茶褐色土（赤色地山粒・炭含）
3．赤茶褐色土（灰色混、地山塊含）
4．暗青灰茶褐色土（粘質、地山粒子含）

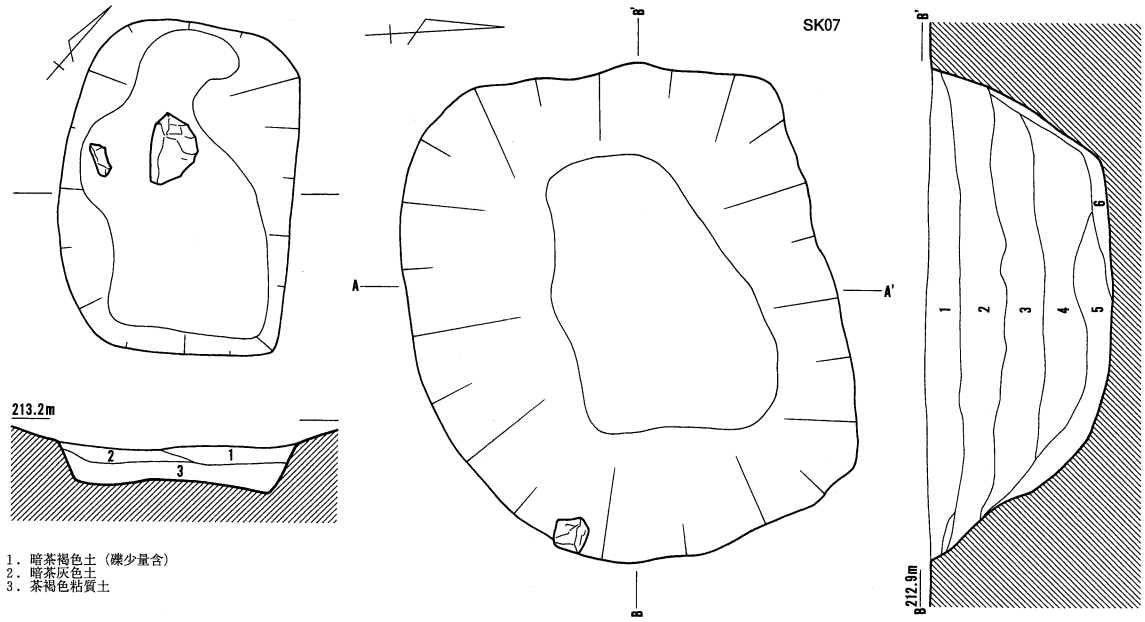
0 1m

SK04・05・26A・26B

図版39



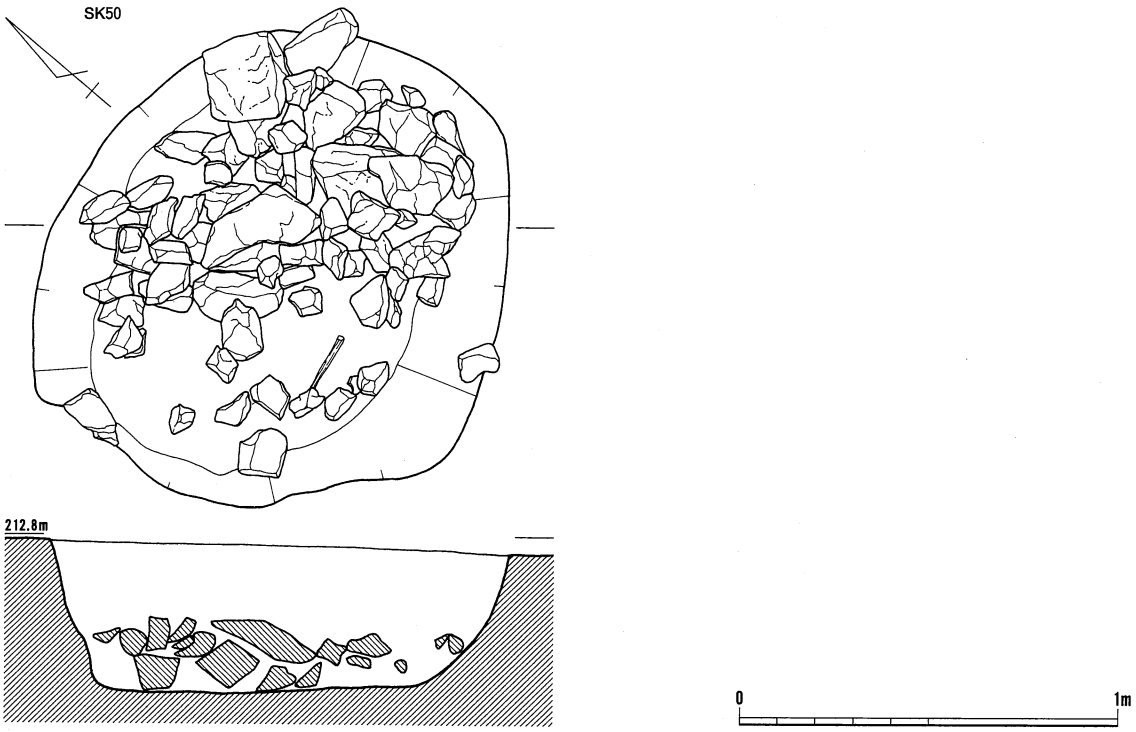
SK07・20・50



1．暗茶褐色土（礫少量含）
2．暗茶灰色土
3．茶褐色粘質土

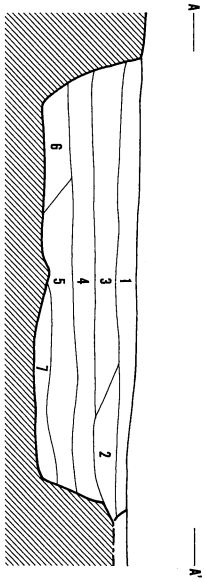
1．黒茶褐色土（硬、黄色土含）
2．暗茶褐色土（硬、黄・灰色土含）
3．青茶褐色土（硬、やや粘質、黄色地山塊含）
4．淡青茶褐色土（粘質、やや軟、地山塊含）
5．淡青黒褐色粘質土（やや軟）
6．黄褐色粘質土（やや軟）

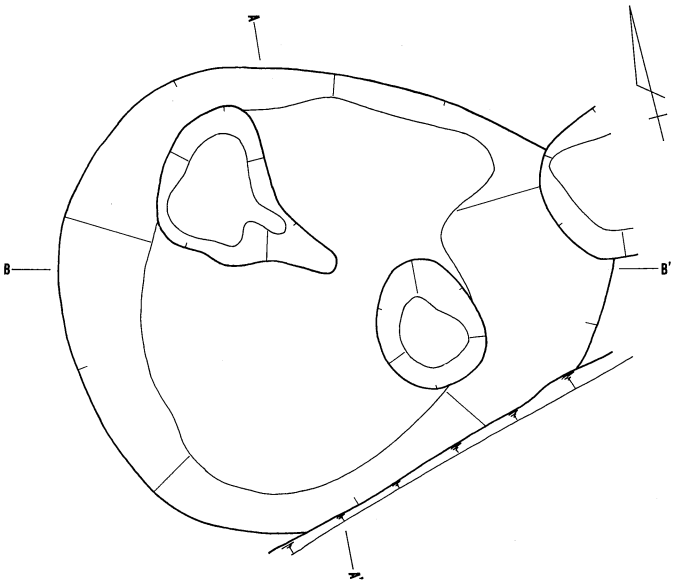
SK20



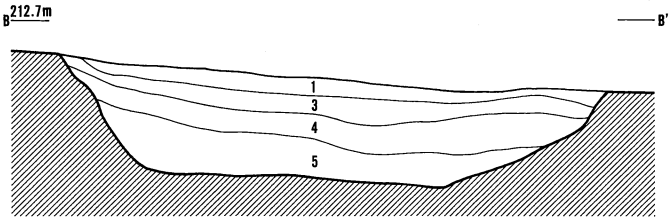
ＳＫ12・15

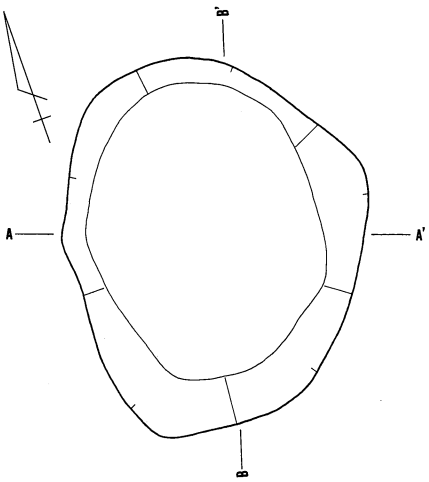
SK15

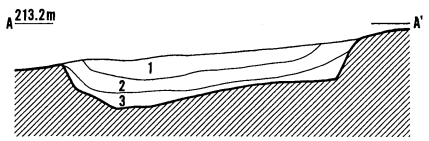


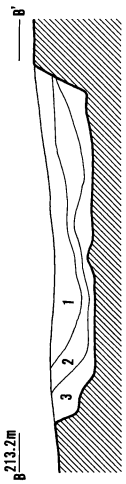


1．暗茶褐色土（0.5～1cm大の地山粒含、硬）
2．淡黄茶色土
3．茶褐色土（硬）
4．黄茶色土（やや砂質）
5．黄茶灰色砂利層（0.5～1cm大の地山粒含）
6．灰褐色粗砂
7．黄灰色粗砂



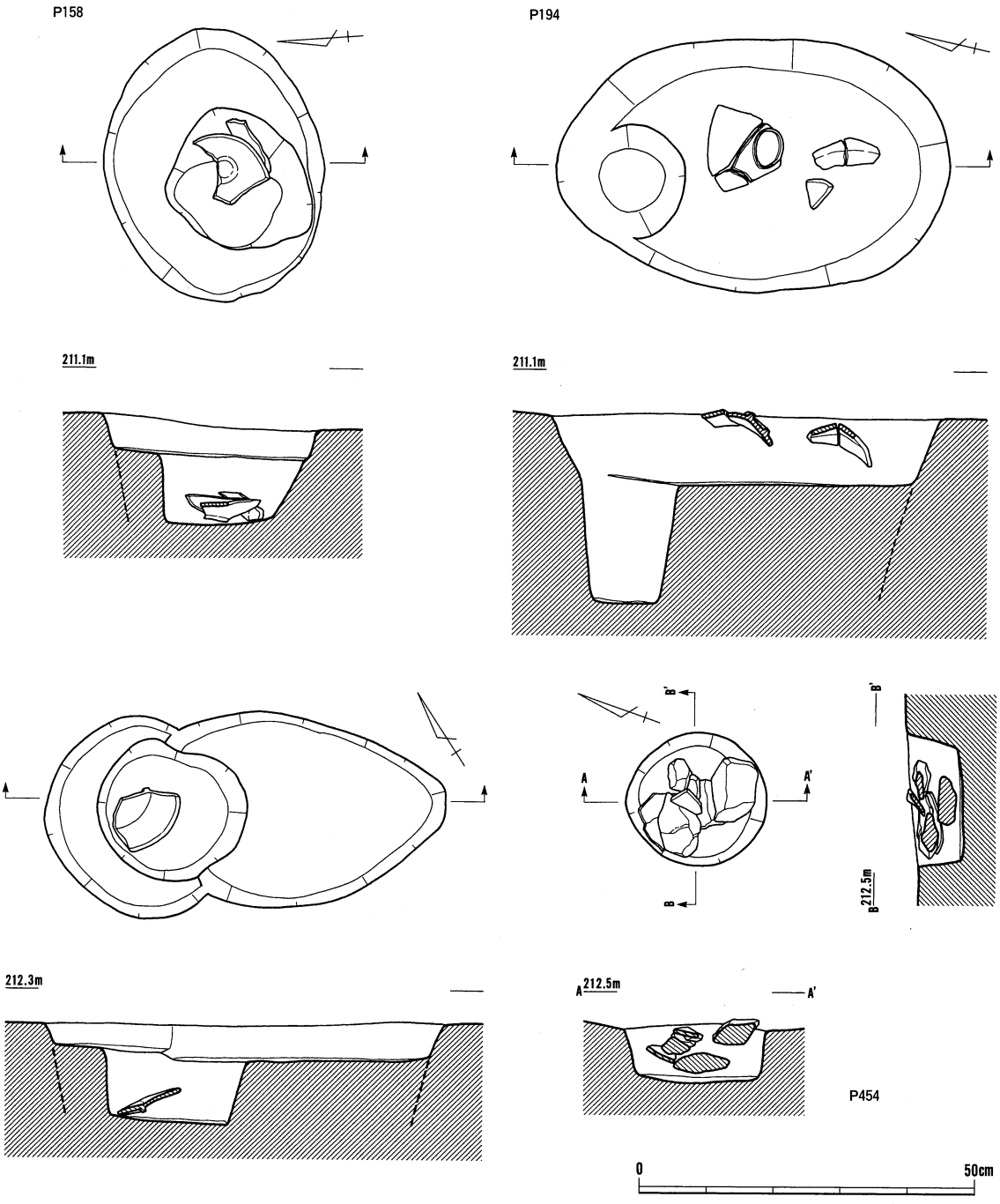


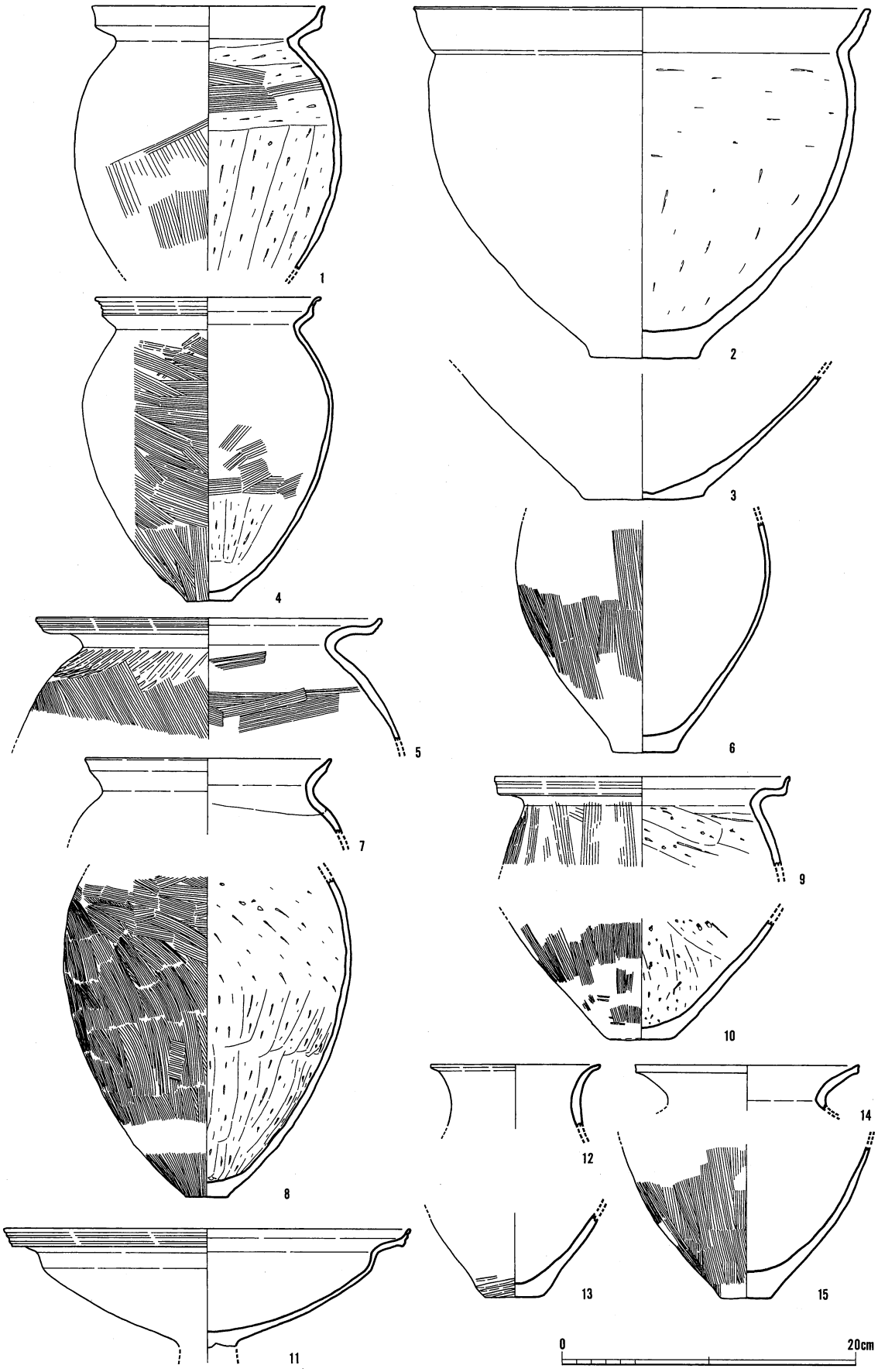




1．淡茶褐色（硬、礫少量含）
2．茶褐色（硬）
3．暗茶褐色（やや粘質、青灰色土混）

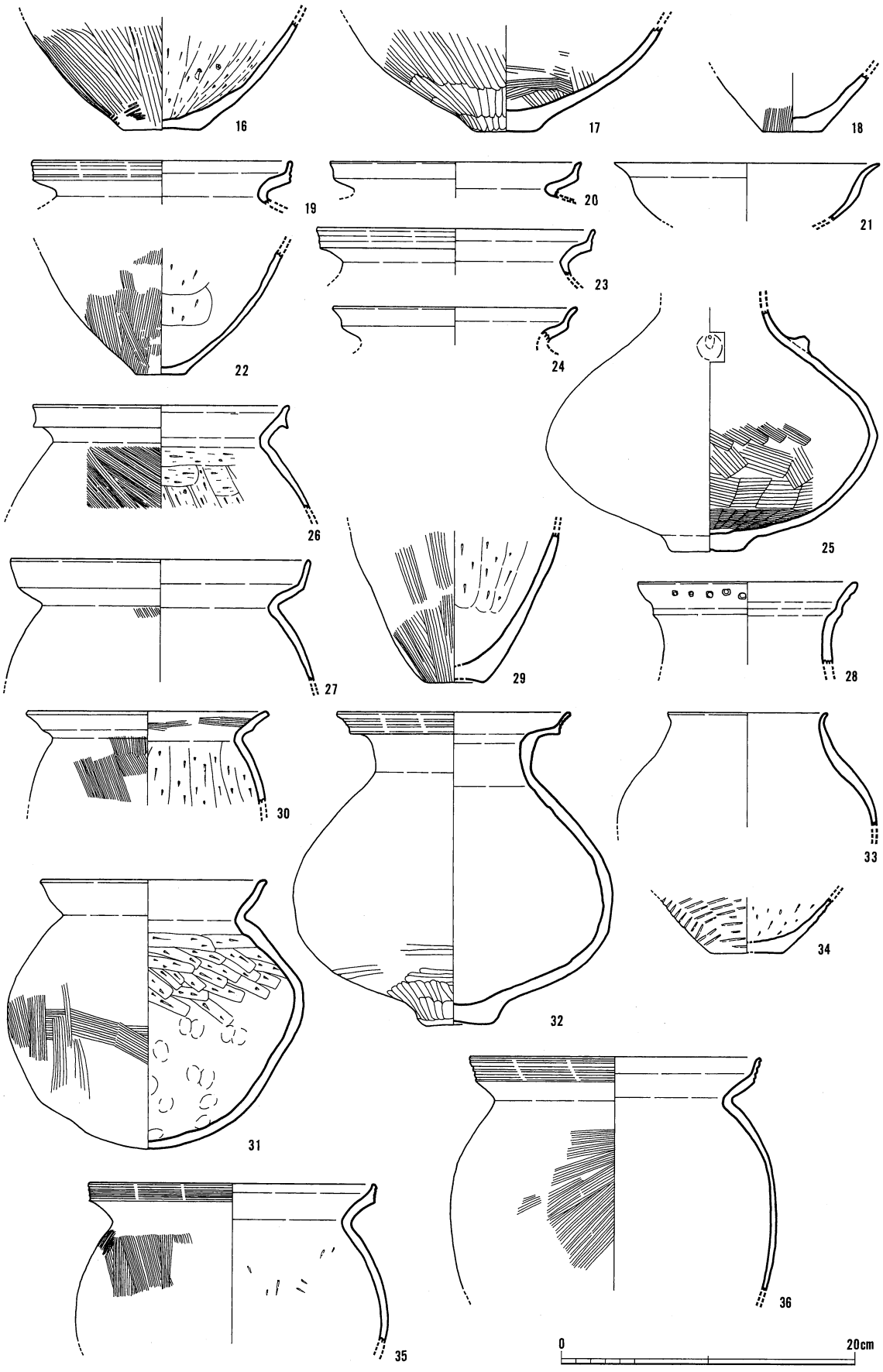
SK12


P158
P194
211.1m
211.1m
B'
A
A'
B
B'
212.5m
212.3m
A 212.5m
A'
P454
0
50cm



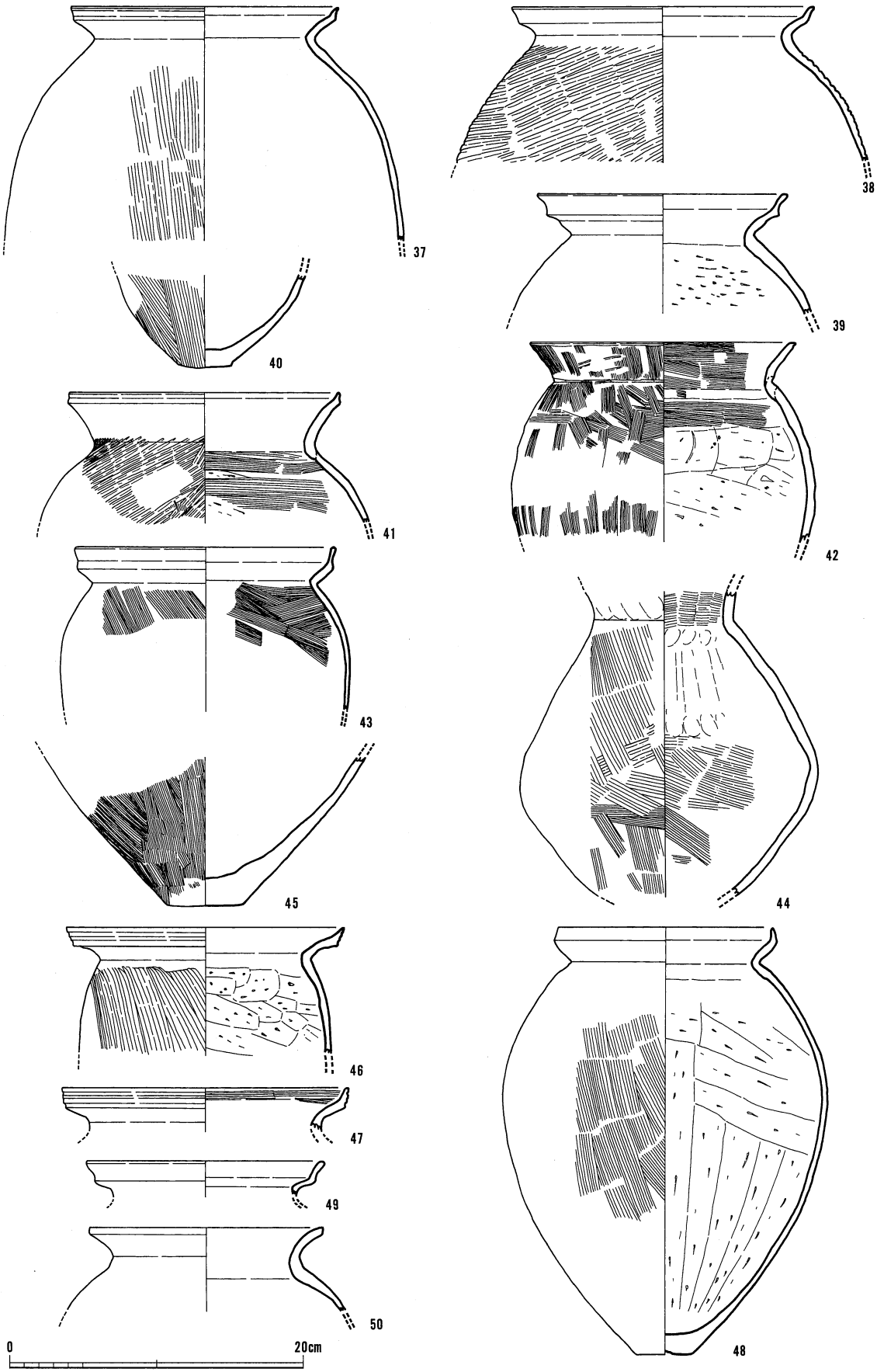
（SK01：1～3、SK02：4、SK05：5・6、SK07：7・8、SK08：9・10、SK11：11～15）

ＳＫ13・14・16・17出土土器



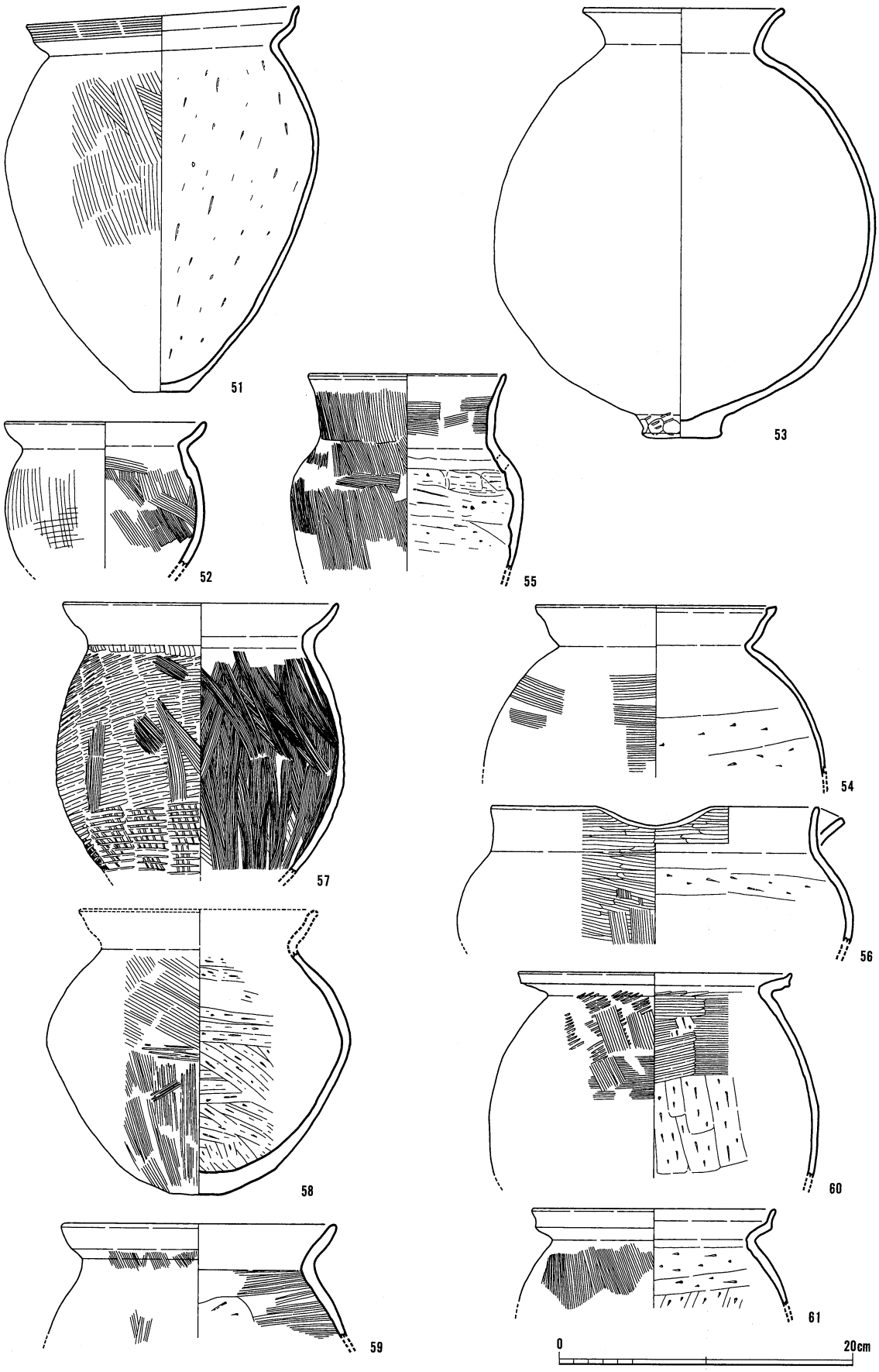
（ＳＫ13：16～29、ＳＫ14：30、ＳＫ16：31～34、ＳＫ17：35・36）

ＳＫ17・18・22・23出土土器

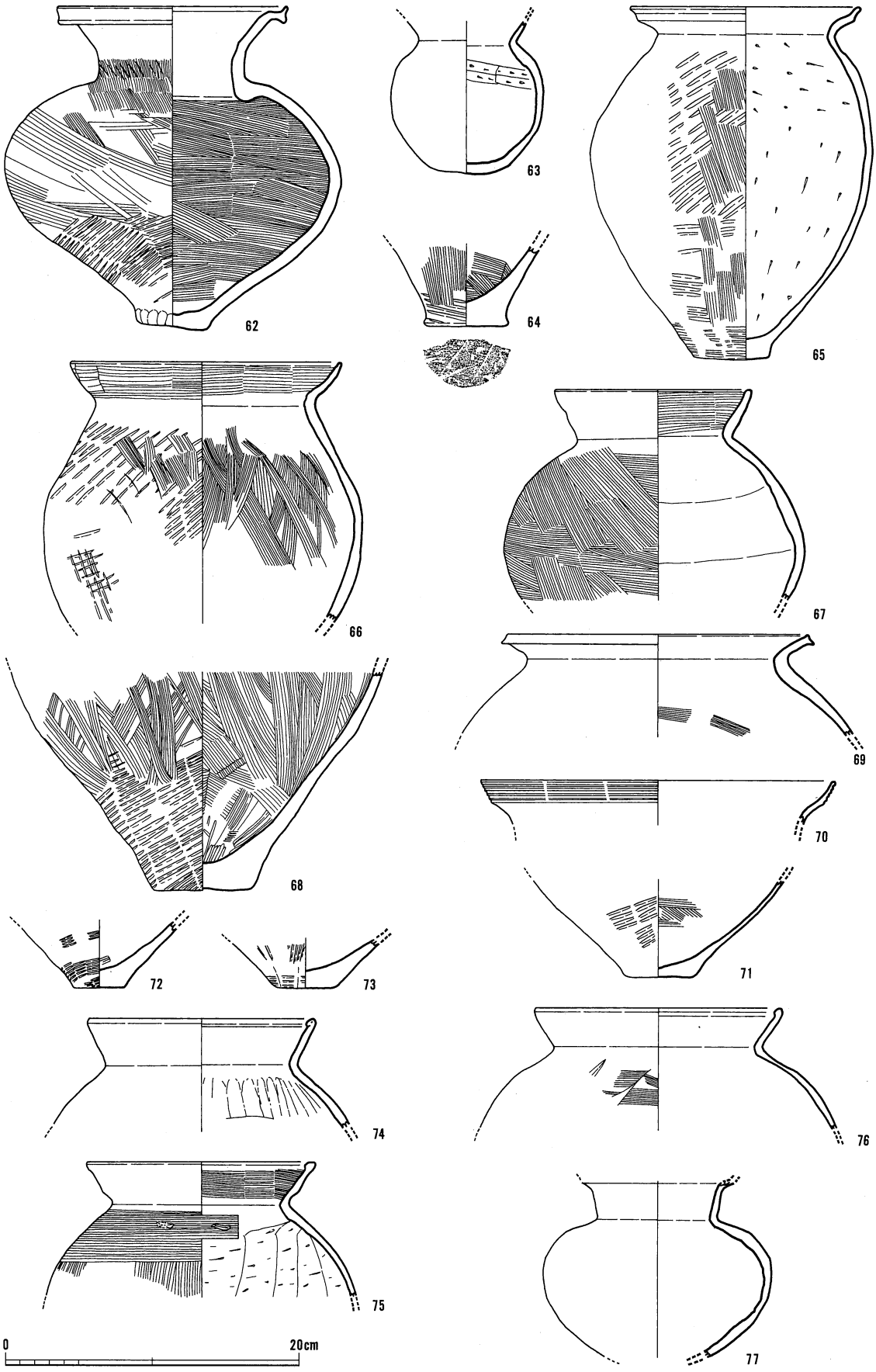


（ＳＫ17：37～40、ＳＫ18：41～45、ＳＫ22：46・47、ＳＫ23：48～50）

ＳＫ24・25・28出土土器

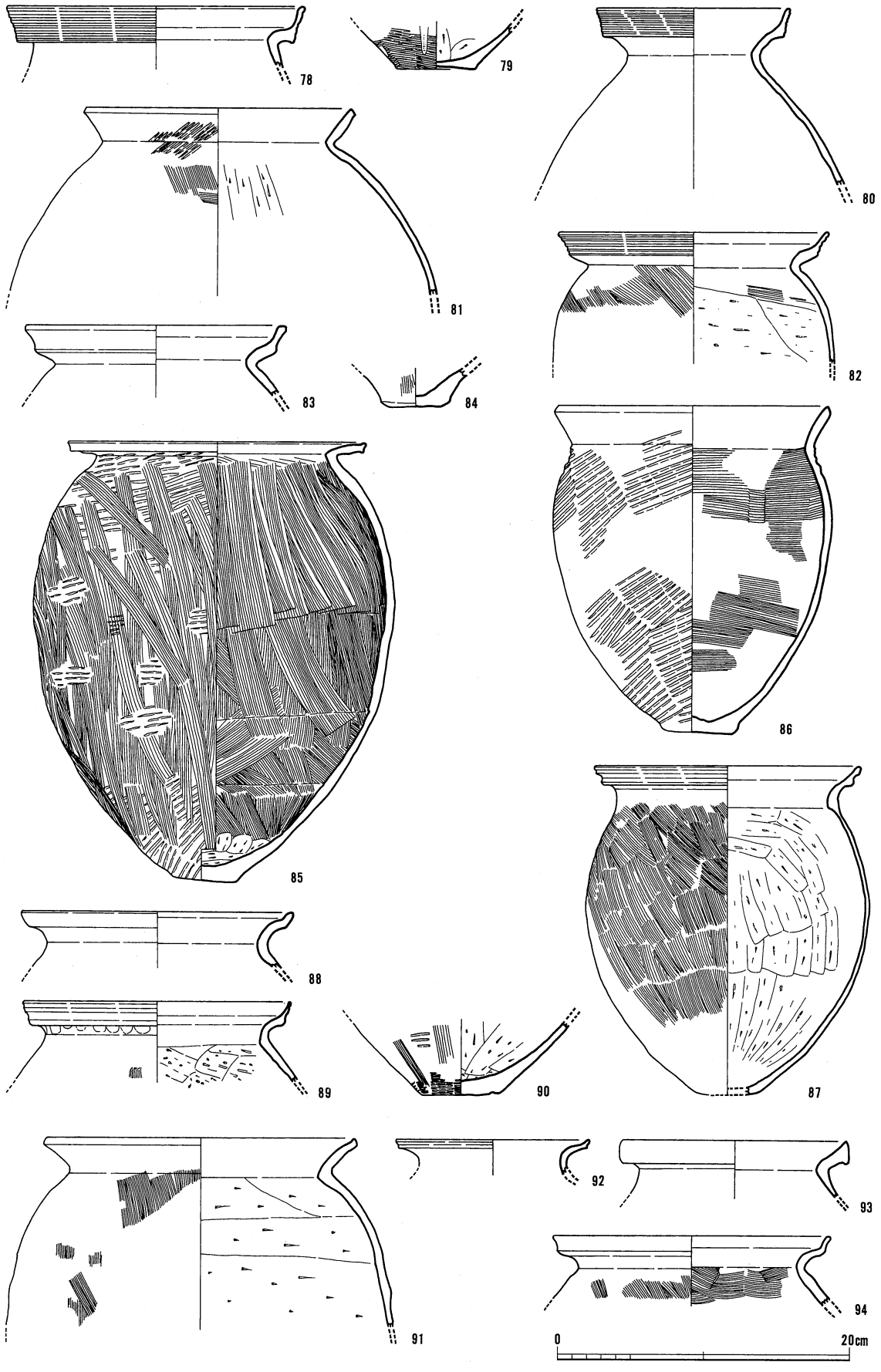


（ＳＫ24：51～53、ＳＫ25：54～56、ＳＫ28：57～61）



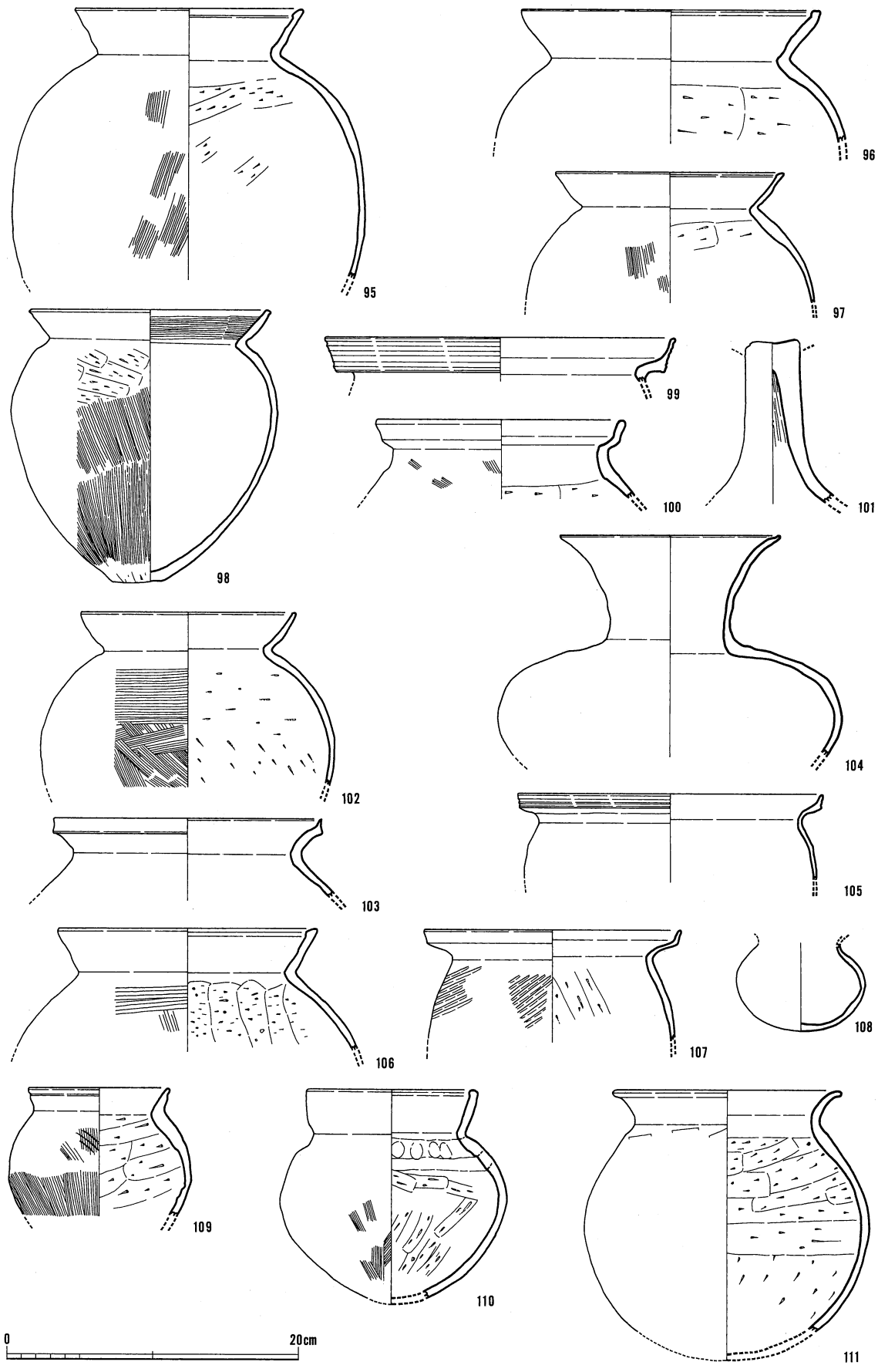
（ＳＫ28：62～64、ＳＫ28最下層：65～68、ＳＫ33上層：69～71、ＳＫ34：72、ＳＫ36：73～76、ＳＫ39：77）

ＳＫ40・41・42出土土器



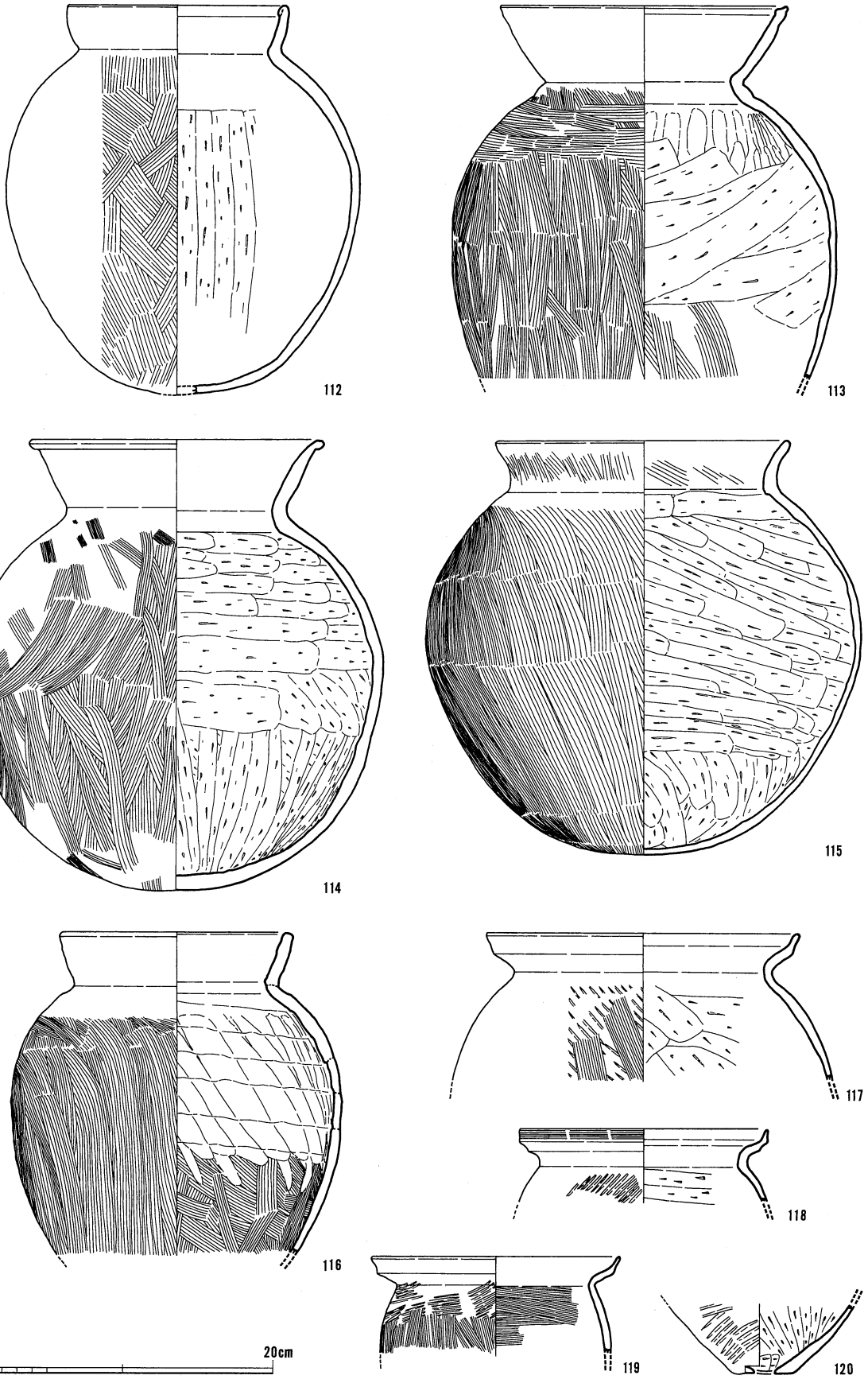
（ＳＫ40：78・79、ＳＫ41：80～90、ＳＫ42：91～94）

ＳＫ45・46・47・48出土土器

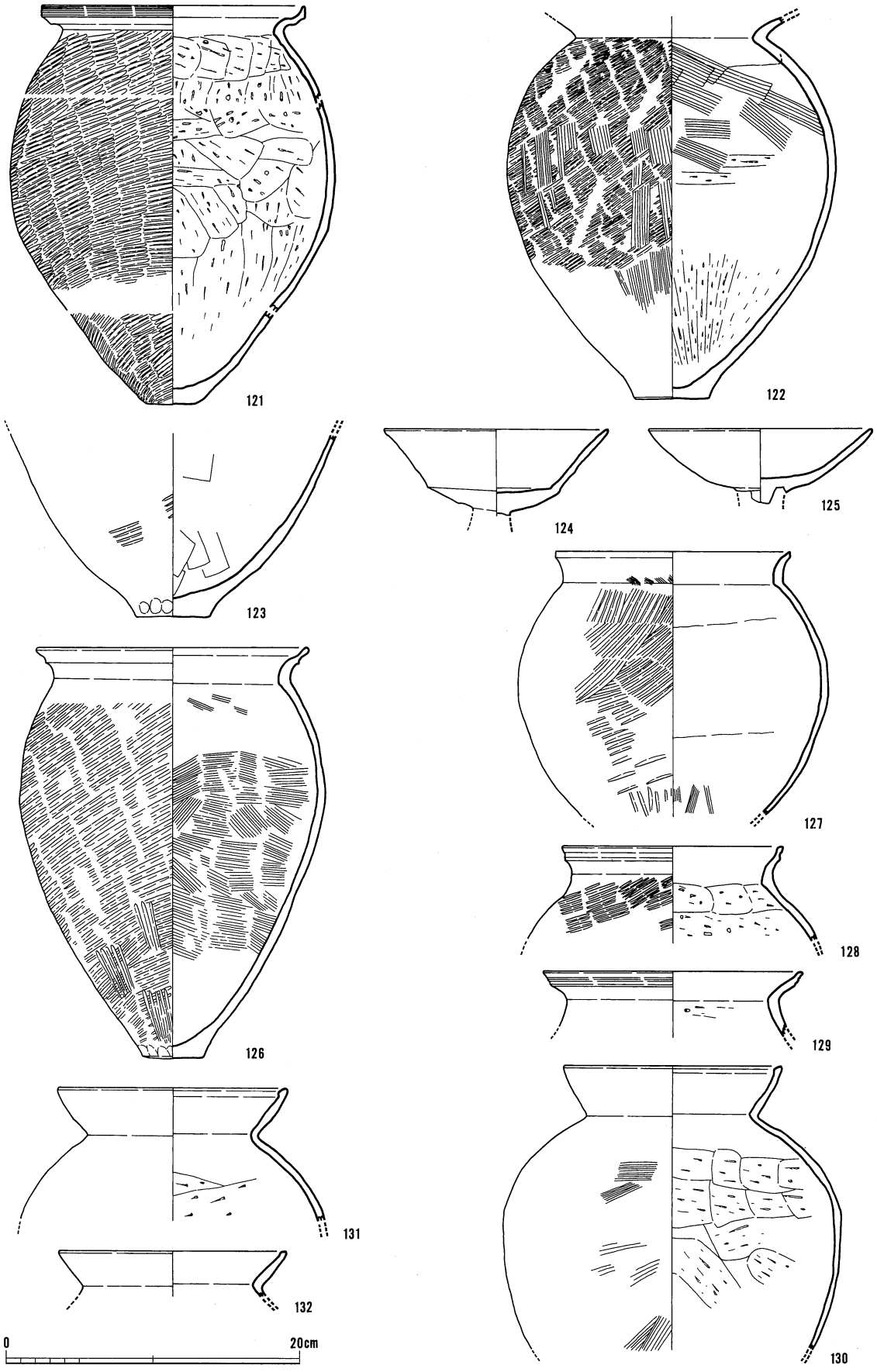


（ＳＫ45下層：95、ＳＫ45：96～105、ＳＫ46：106、ＳＫ47：107・108、ＳＫ48下層：109、ＳＫ49下層：110・111）

ＳＫ49・50出土土器

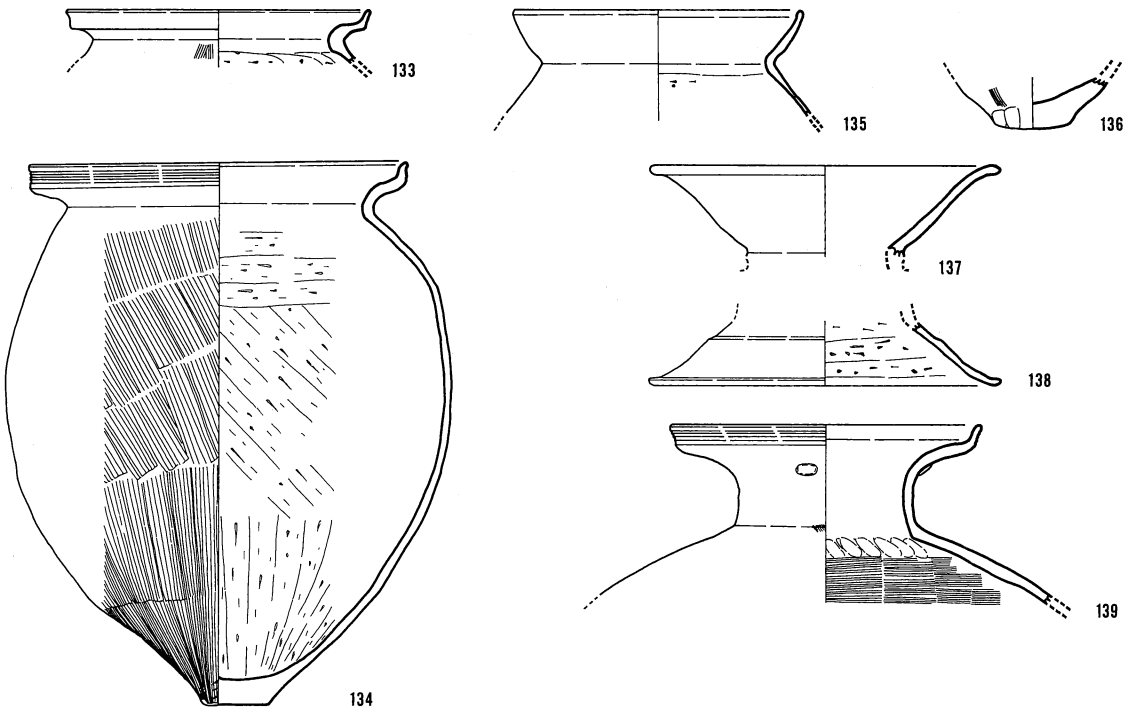


（ＳＫ49下層：112～116、ＳＫ50：117・120、ＳＫ50下層：118・119）

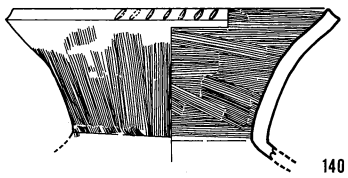


（ＳＫ50：121～123、ＳＫ51：124・125、ＳＫ52：126～129、ＳＫ55：130～132）

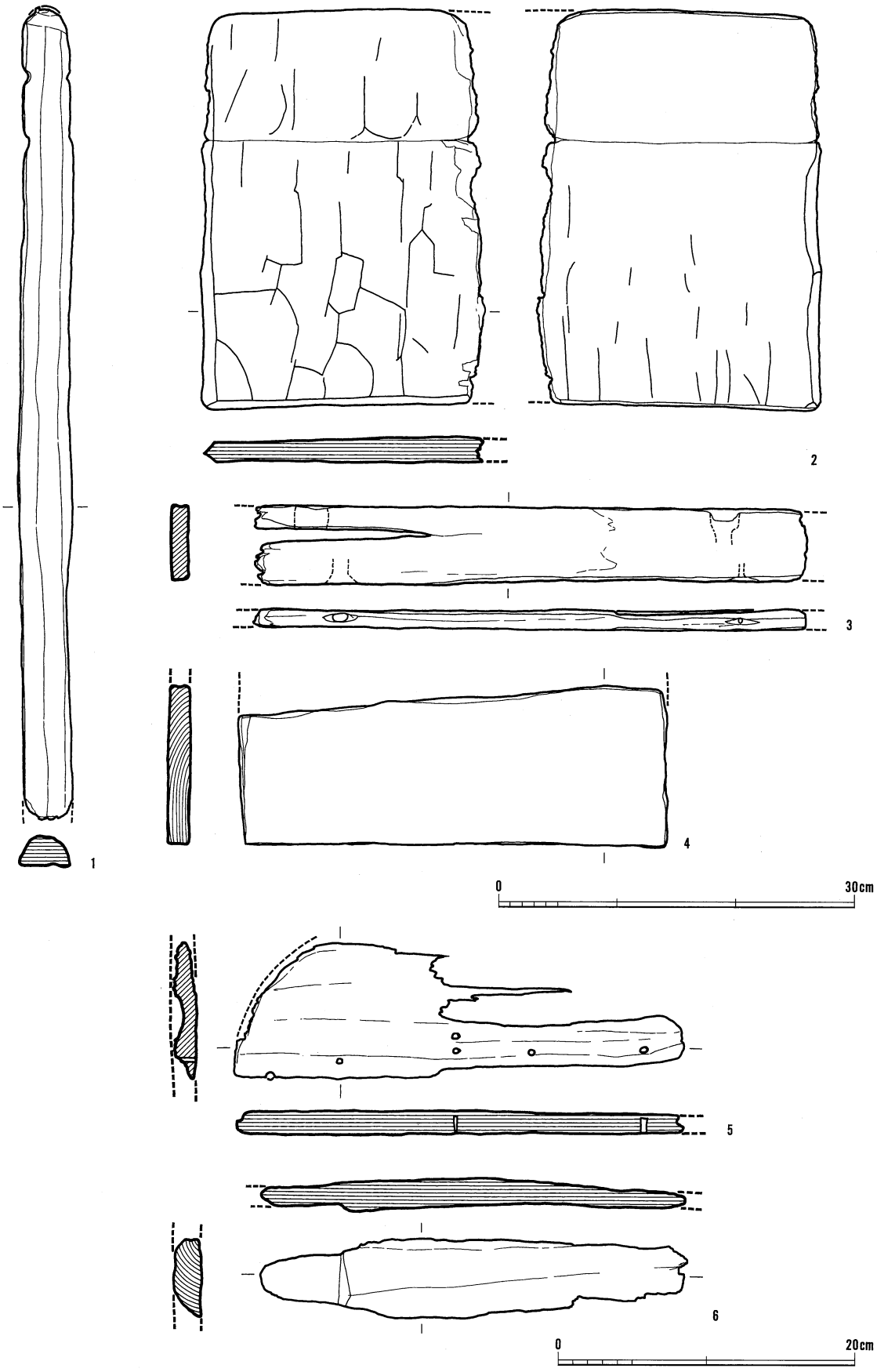
ＳＫ56・57・58，ＳＤ37出土土器



（ＳＫ56：133、ＳＫ57：134～138、ＳＫ58下層：139）

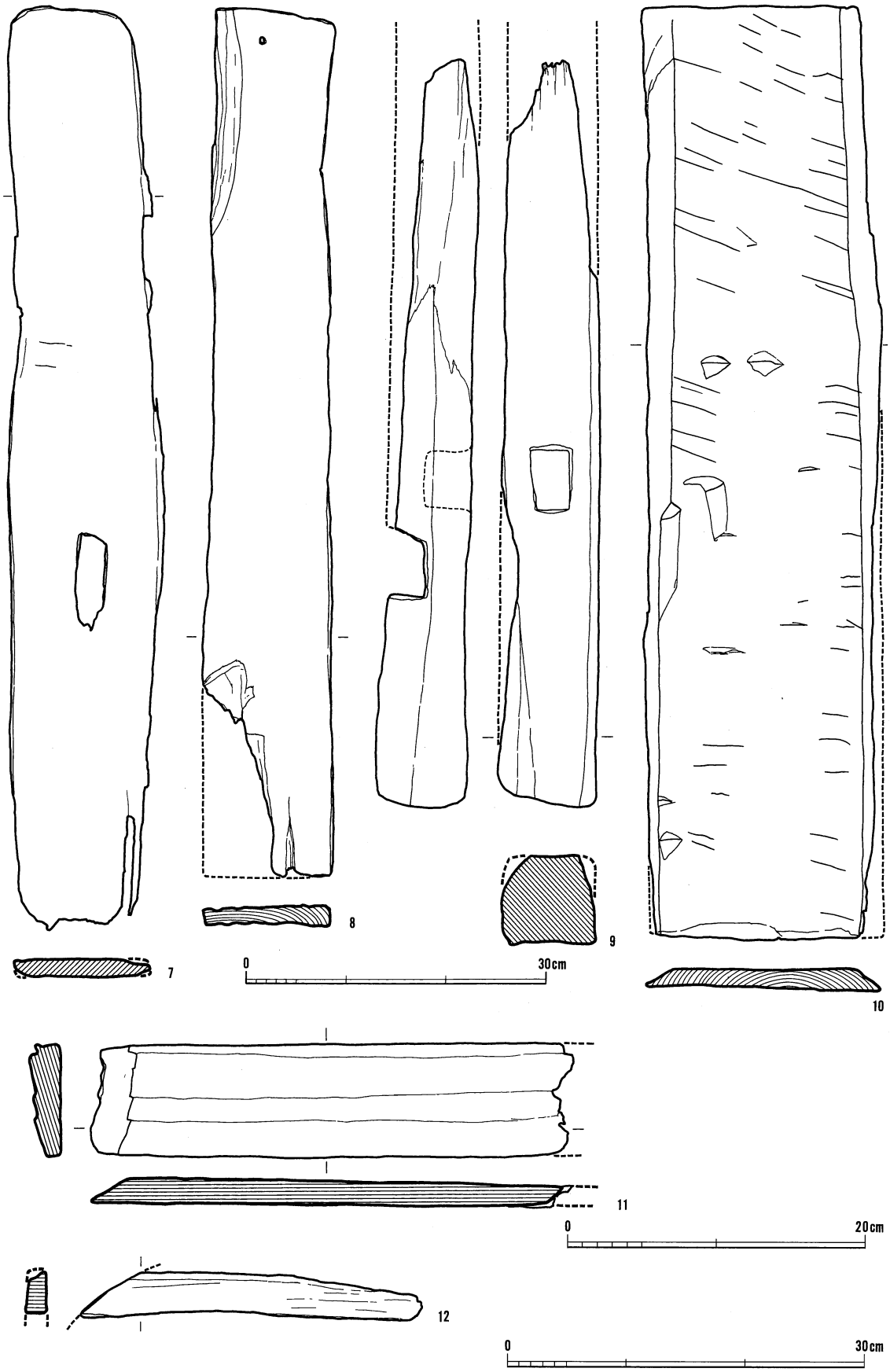


（SD37：140）

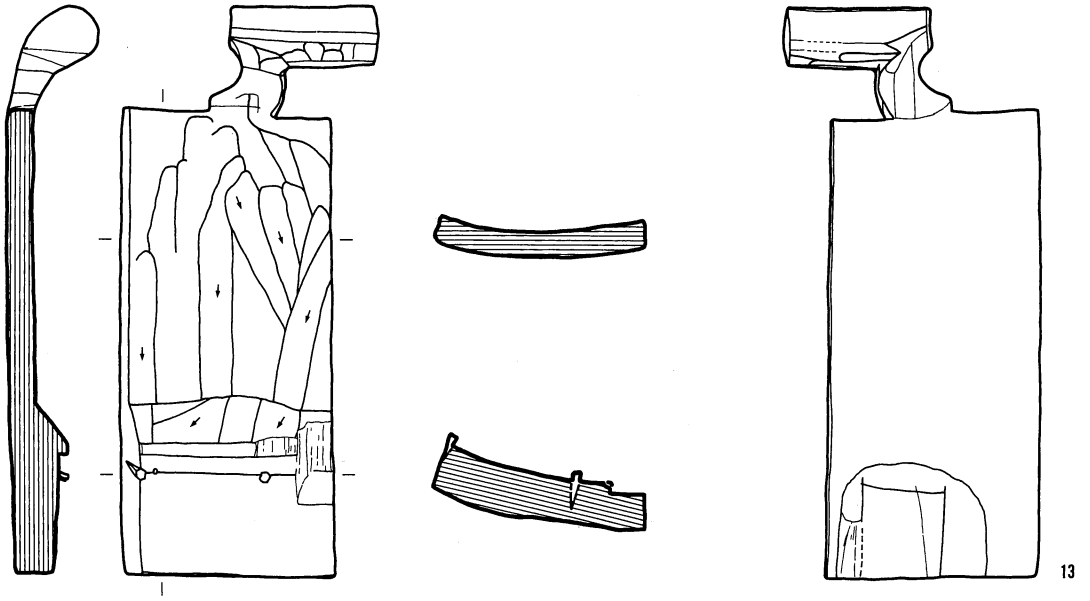


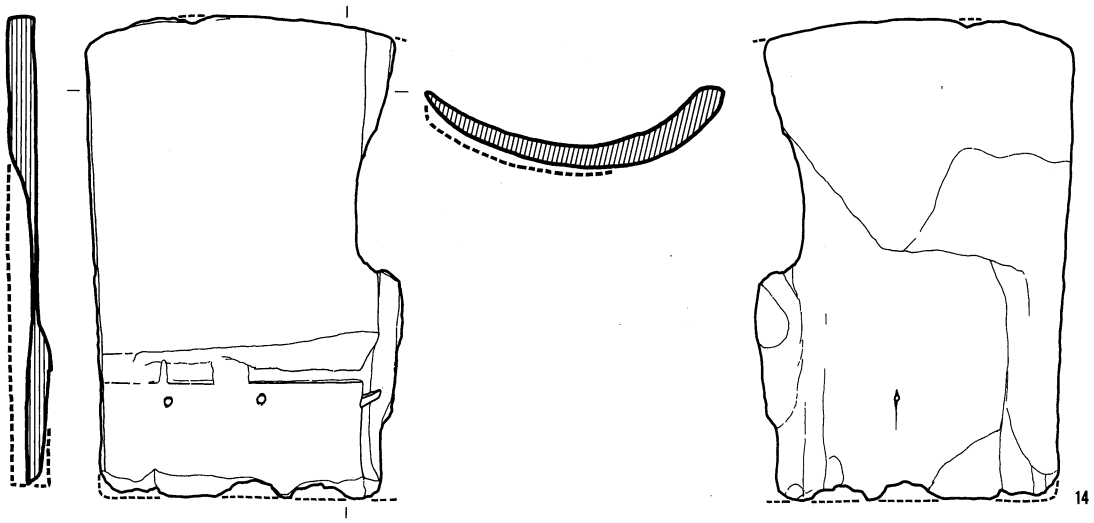
（ＳＫ13：３～６、ＳＫ25：１・２）

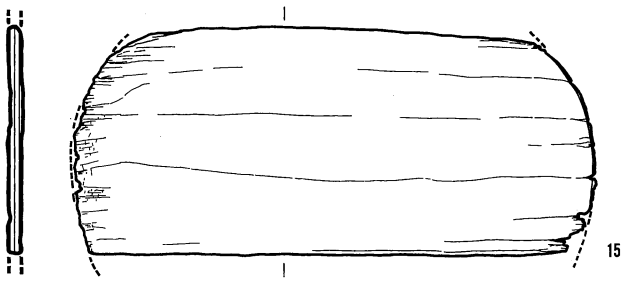
ＳＫ11・13・18・43出土木製品

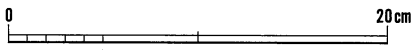


（ＳＫ11：９、ＳＫ13：12、ＳＫ18：10・11、ＳＫ43：７・８）



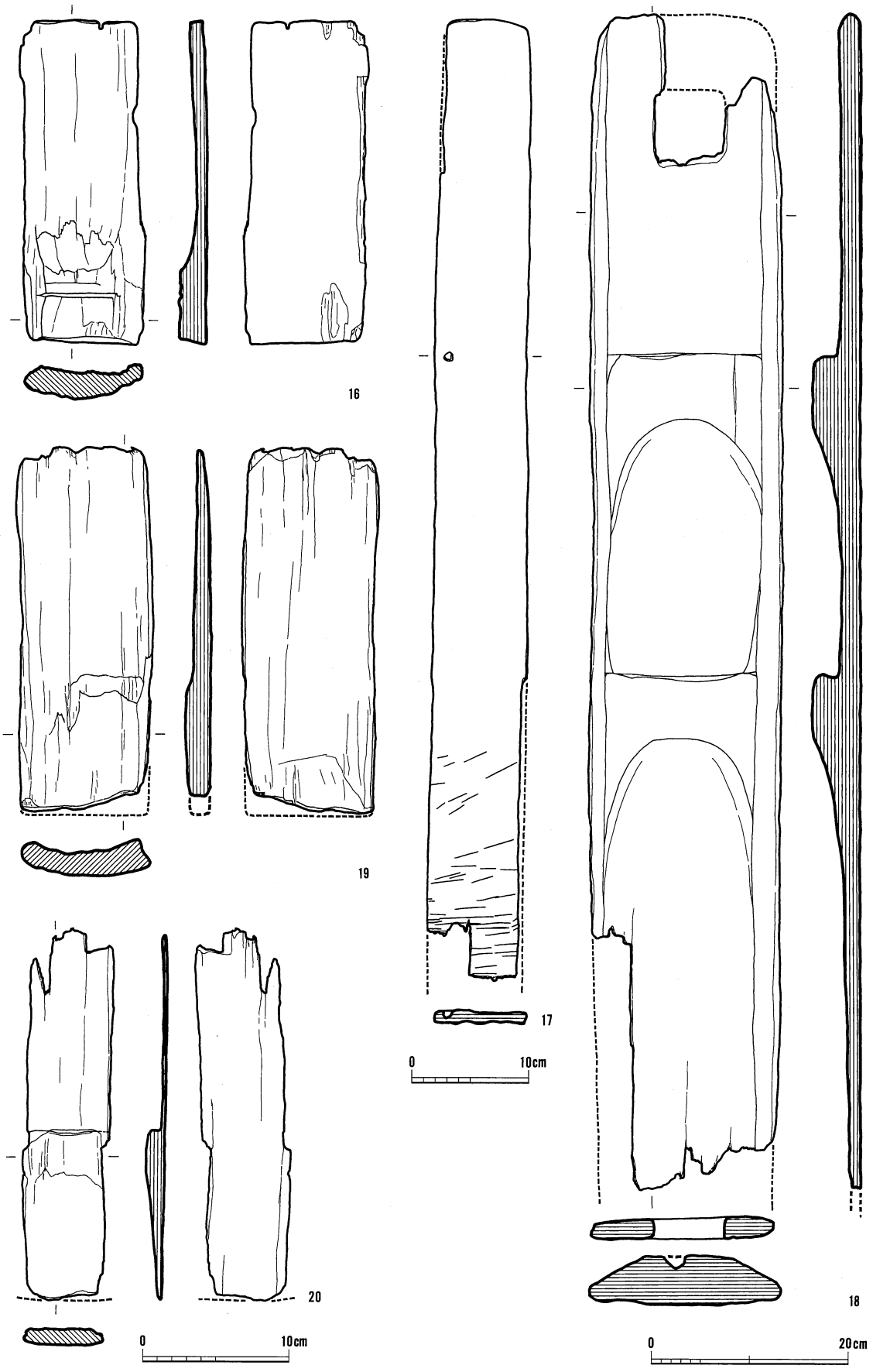




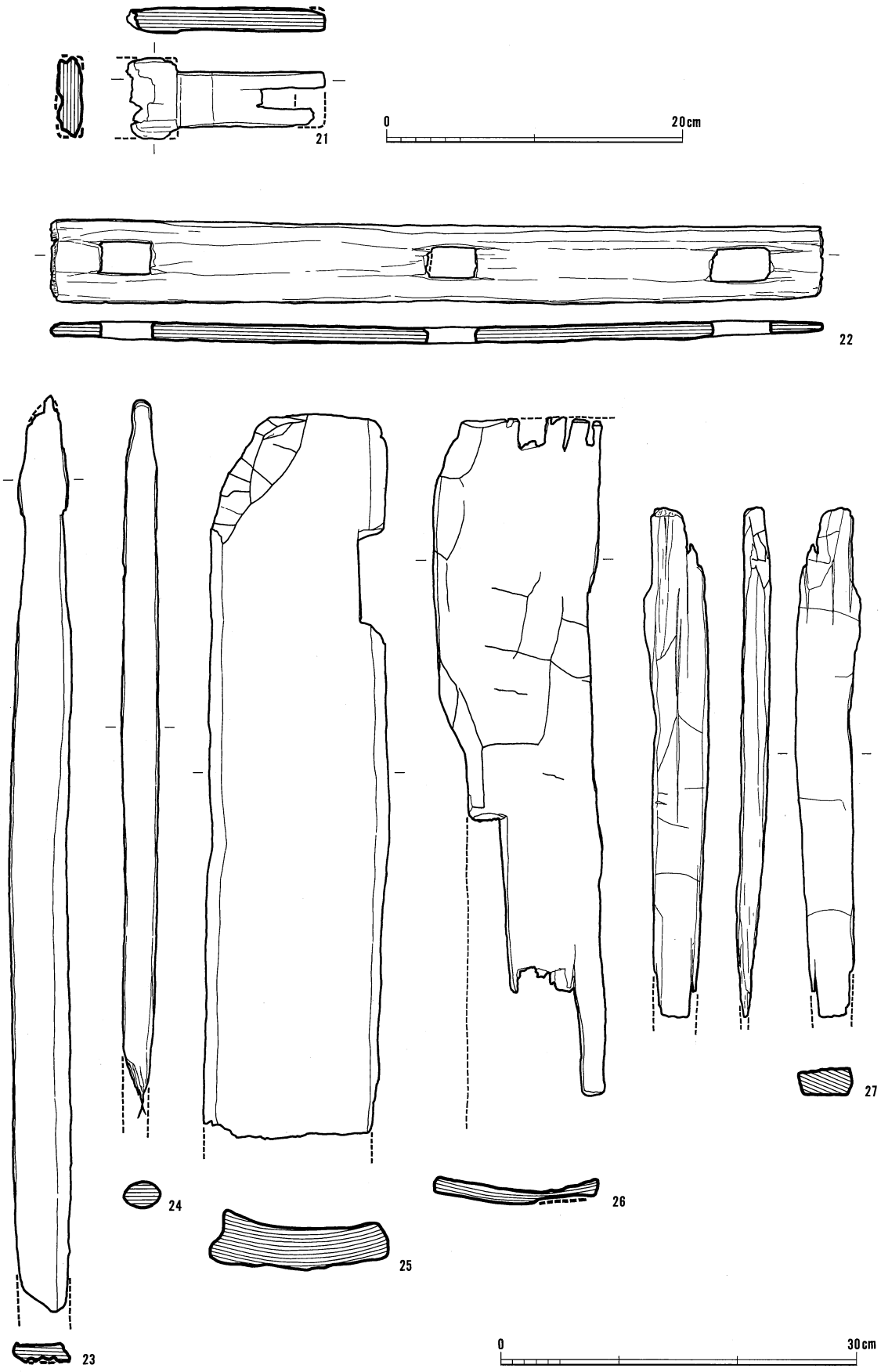


（ＳＫ41：13～15）

ＳＫ42・45・46・52出土木製品

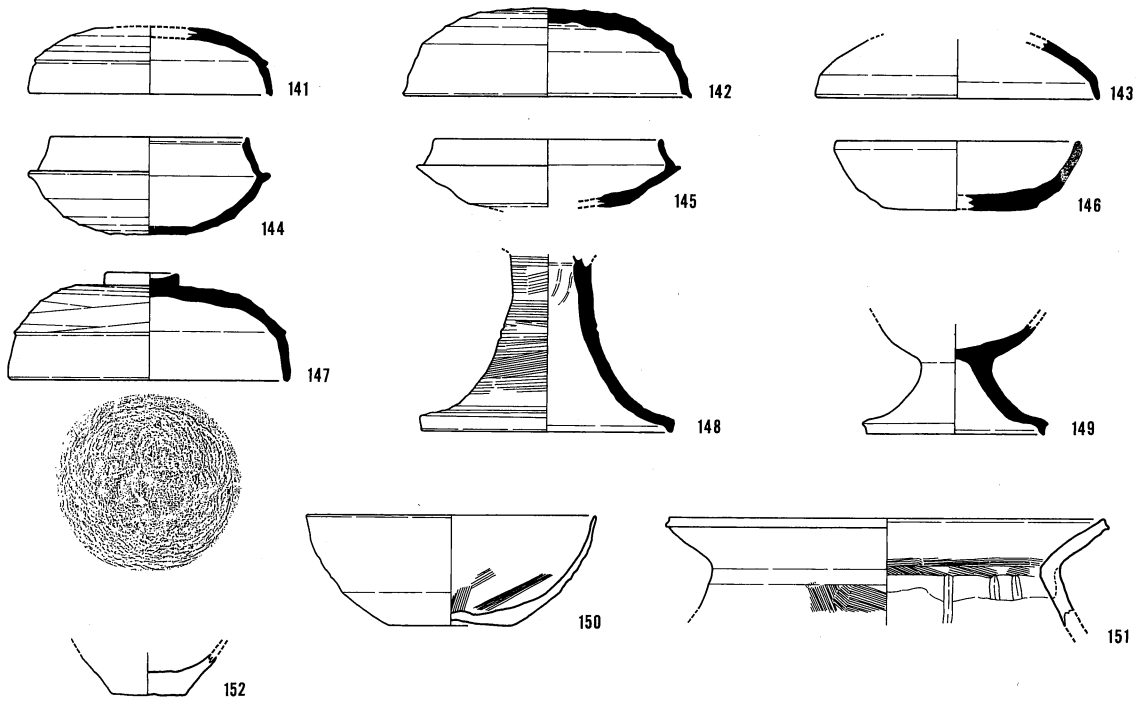


（ＳＫ42：16・17、ＳＫ46：18、ＳＫ52：19、ＳＫ45：20）

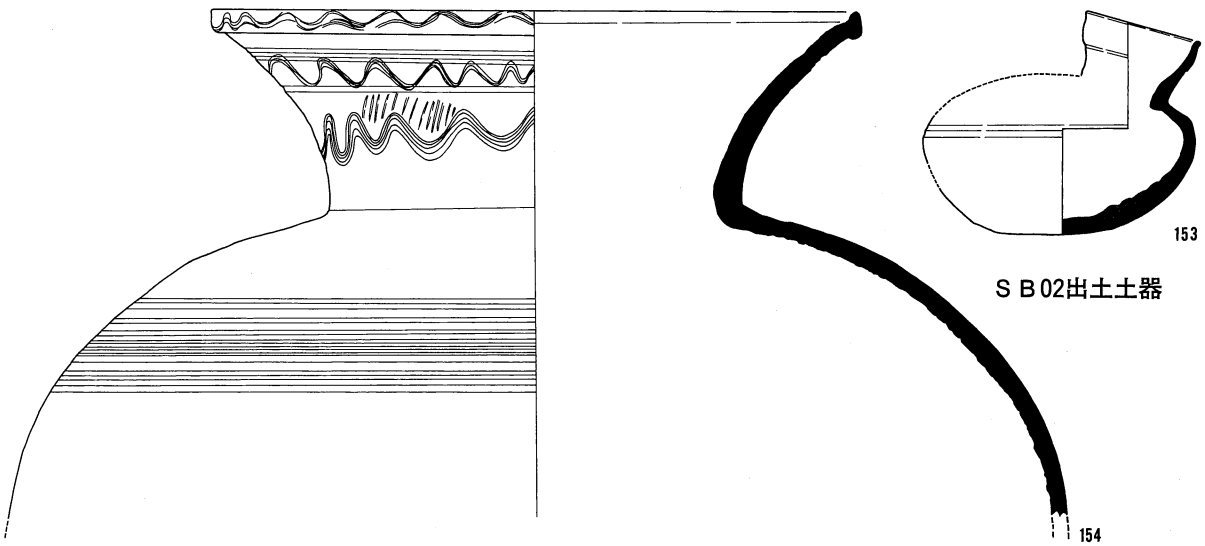


（ＳＫ45：23～27、ＳＫ49：21・22）

ＳＤ05・37，ＳＢ02出土土器



（ＳＤ05：141～151）



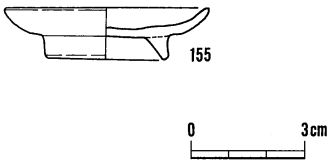
ＳＢ02出土土器

0 20cm

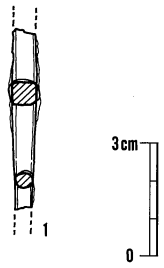
ＳＤ37出土土器

（ＳＢ02：153、ＳＤ37：154）

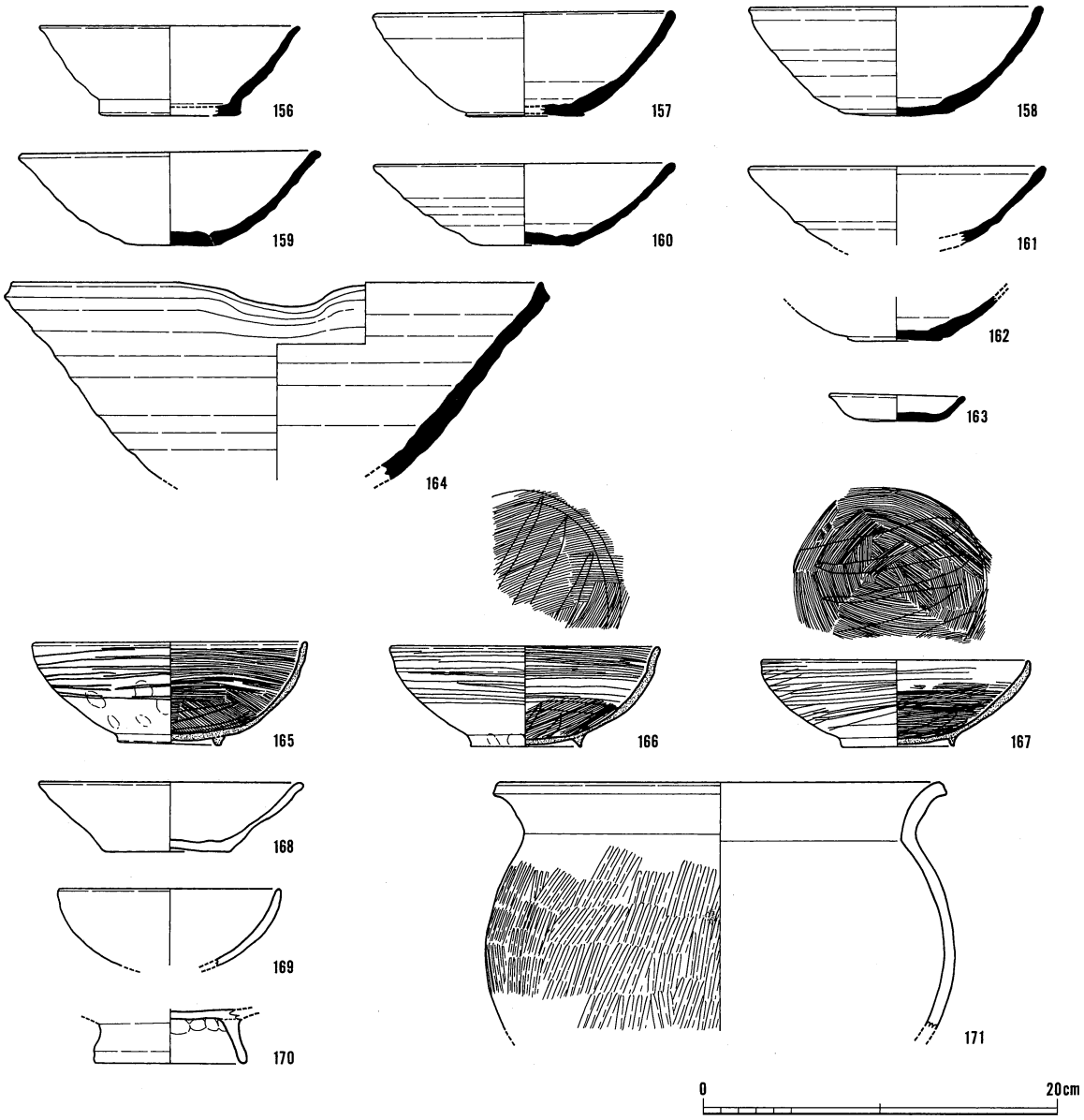
ＳＢ03・04・05出土土器，鉄製品



ＳＢ03出土土器

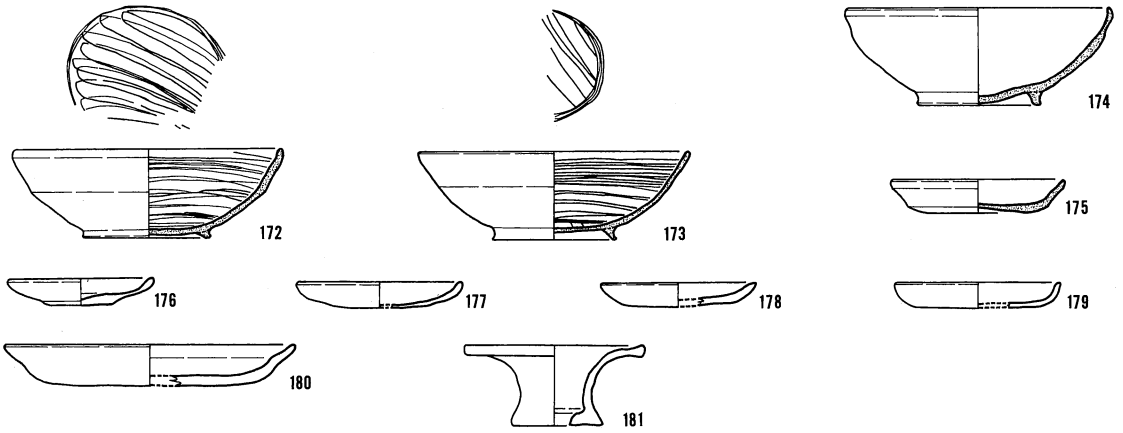


ＳＢ04出土鉄器

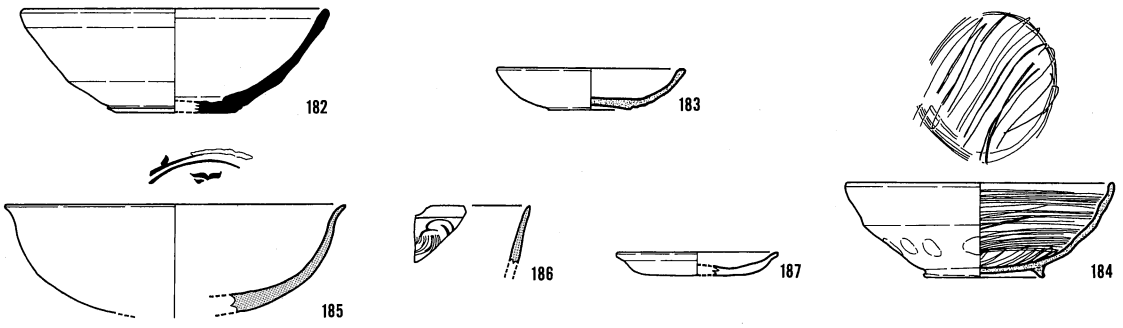


ＳＢ05出土土器（Ｐ307：170、Ｐ363：165、Ｐ323：164、Ｐ380：161、Ｐ784：156、Ｐ772：169、Ｐ429：158・163・167、Ｐ475：168、Ｐ556：157、Ｐ396：159・160・162・166・171）

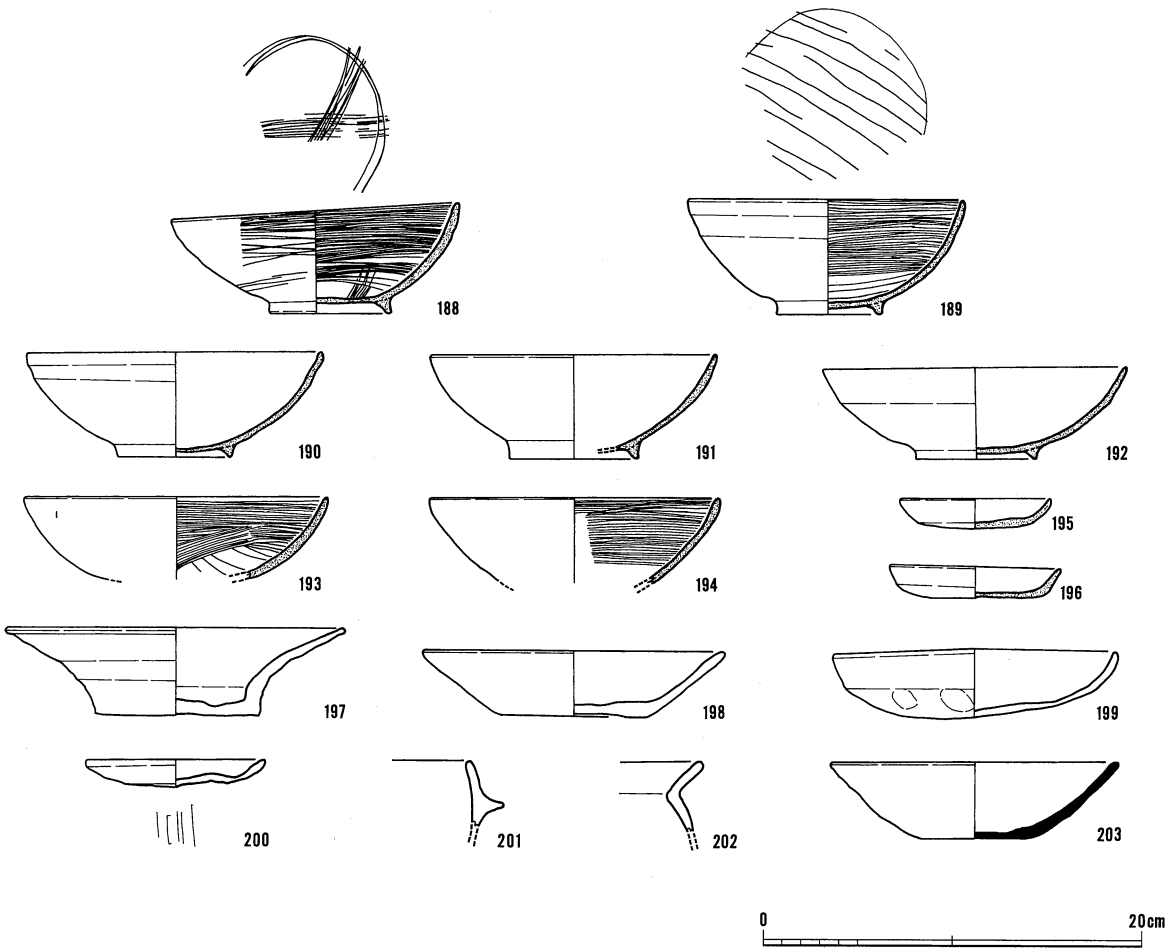
ＳＢ06・07・08出土土器



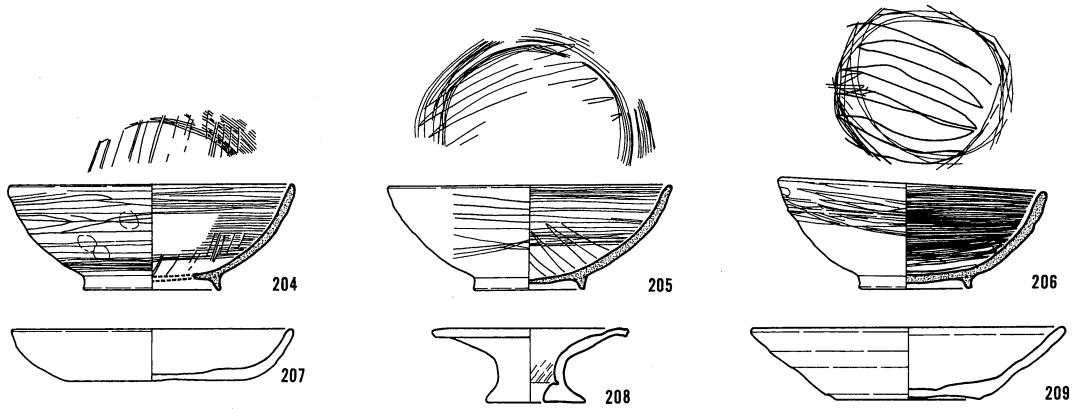
ＳＢ06出土土器（Ｐ379：175、Ｐ473：181、Ｐ393：180、Ｐ400：174・176・177、Ｐ479：172、Ｐ598：173・178・179）



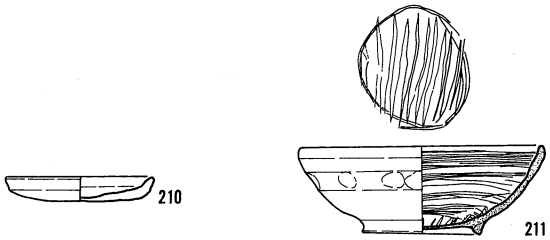
ＳＢ07出土土器（Ｐ392：182・183、Ｐ471：184、ＳＤ21：185～187）



ＳＢ08出土土器（Ｐ15：188、Ｐ16：189、雨落溝：190～203）

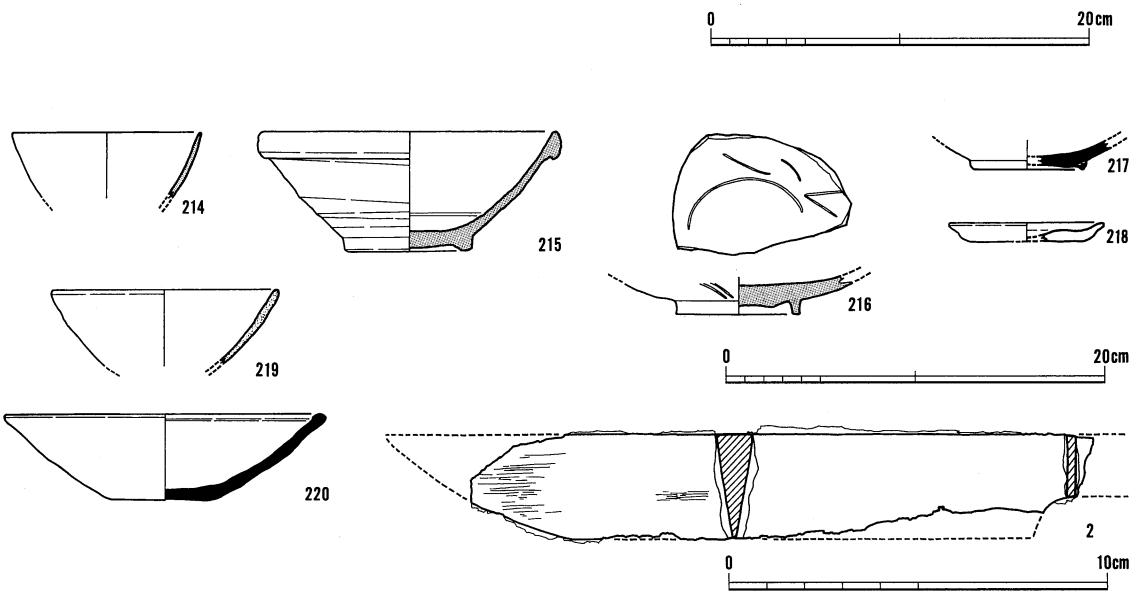


ＳＥ01出土土器（上層：204・205・207・208、中層：209、最下層：206）



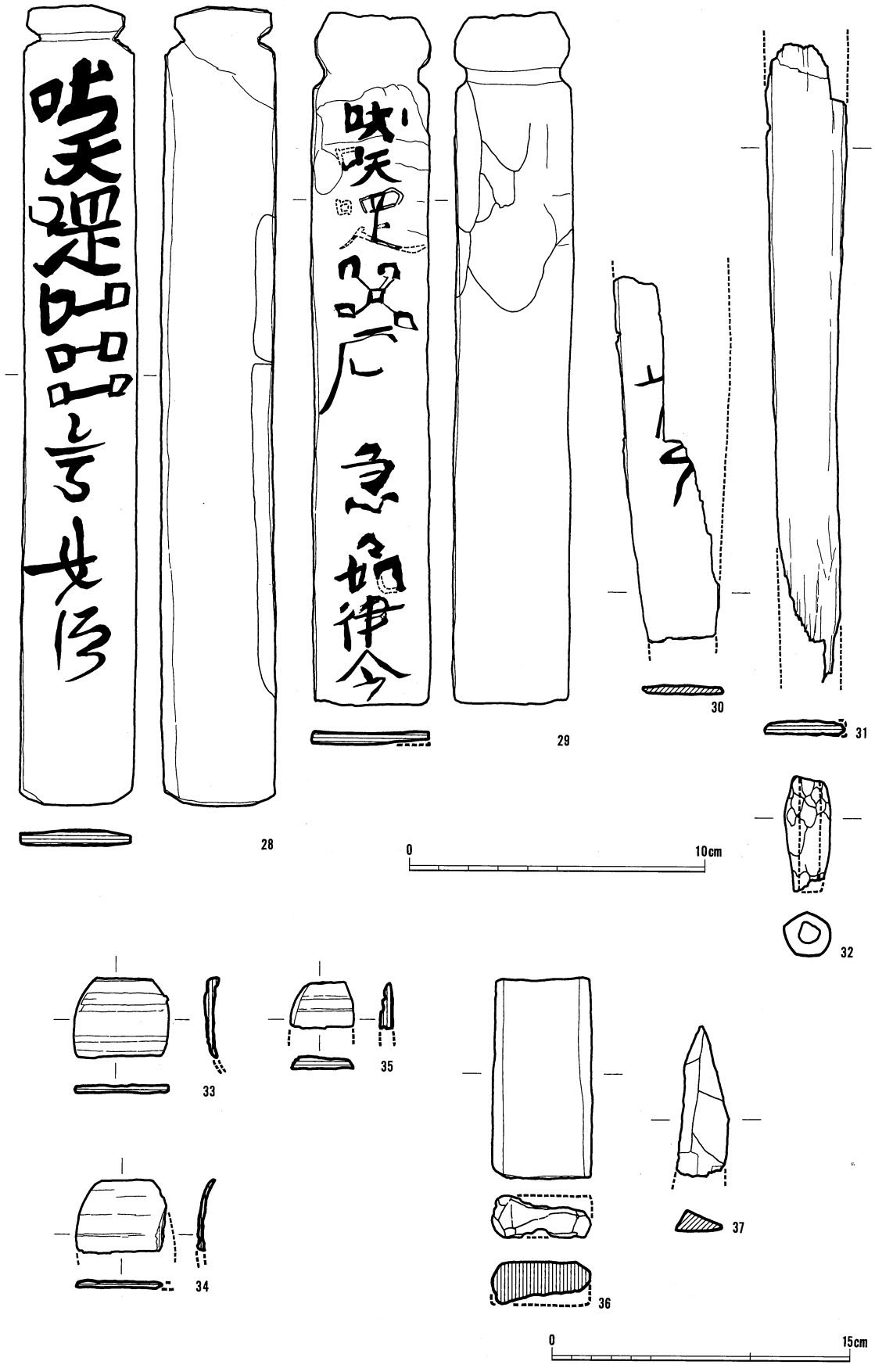
ＳＥ03出土土器

ＳＥ02出土土器



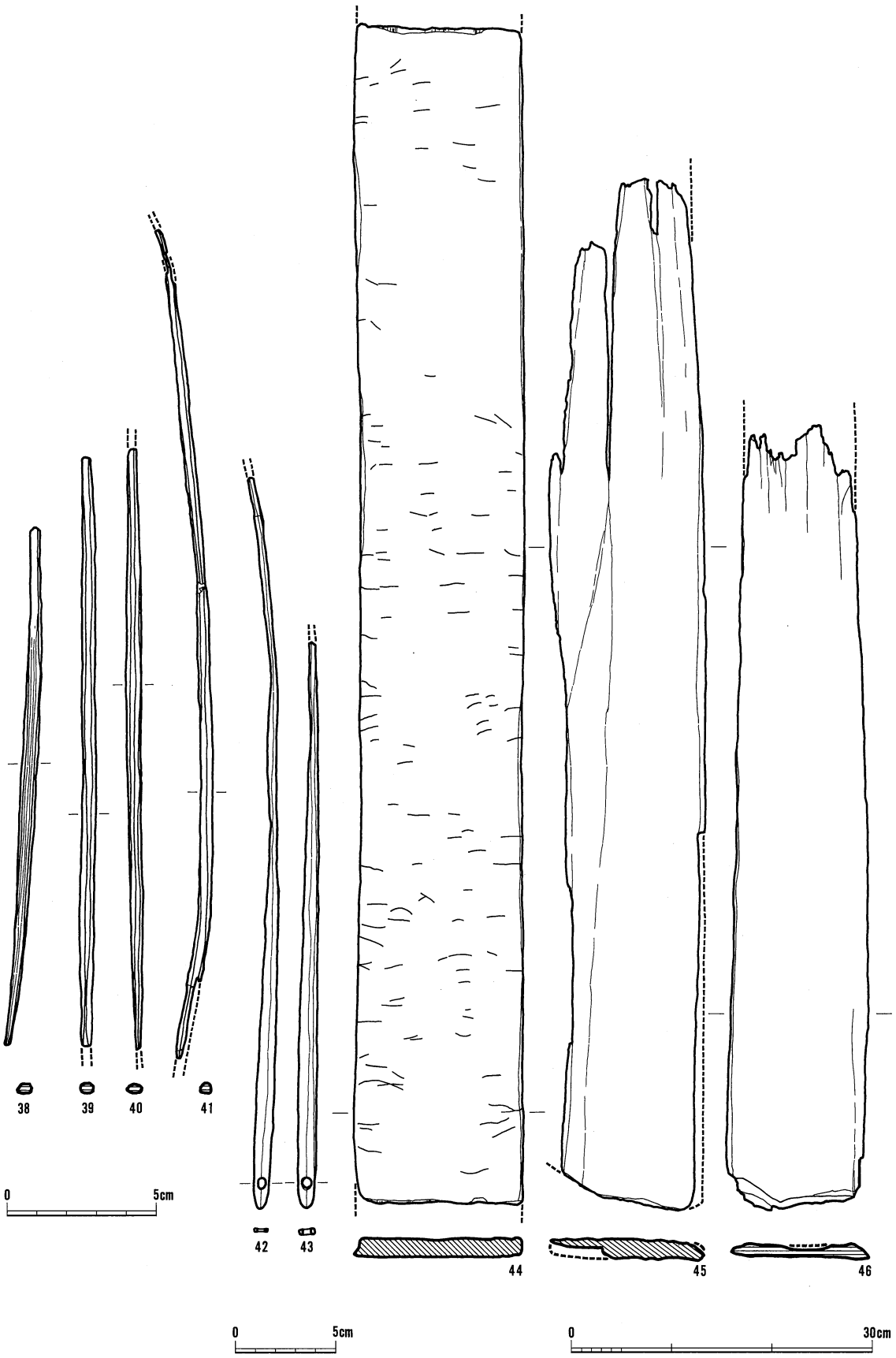
（ＳＫ06：214、ＳＫ13：215、ＳＫ16：216～218、ＳＫ07：219、ＳＫ11：220、ＳＫ01：２）

ＳＥ01出土木製品(1)

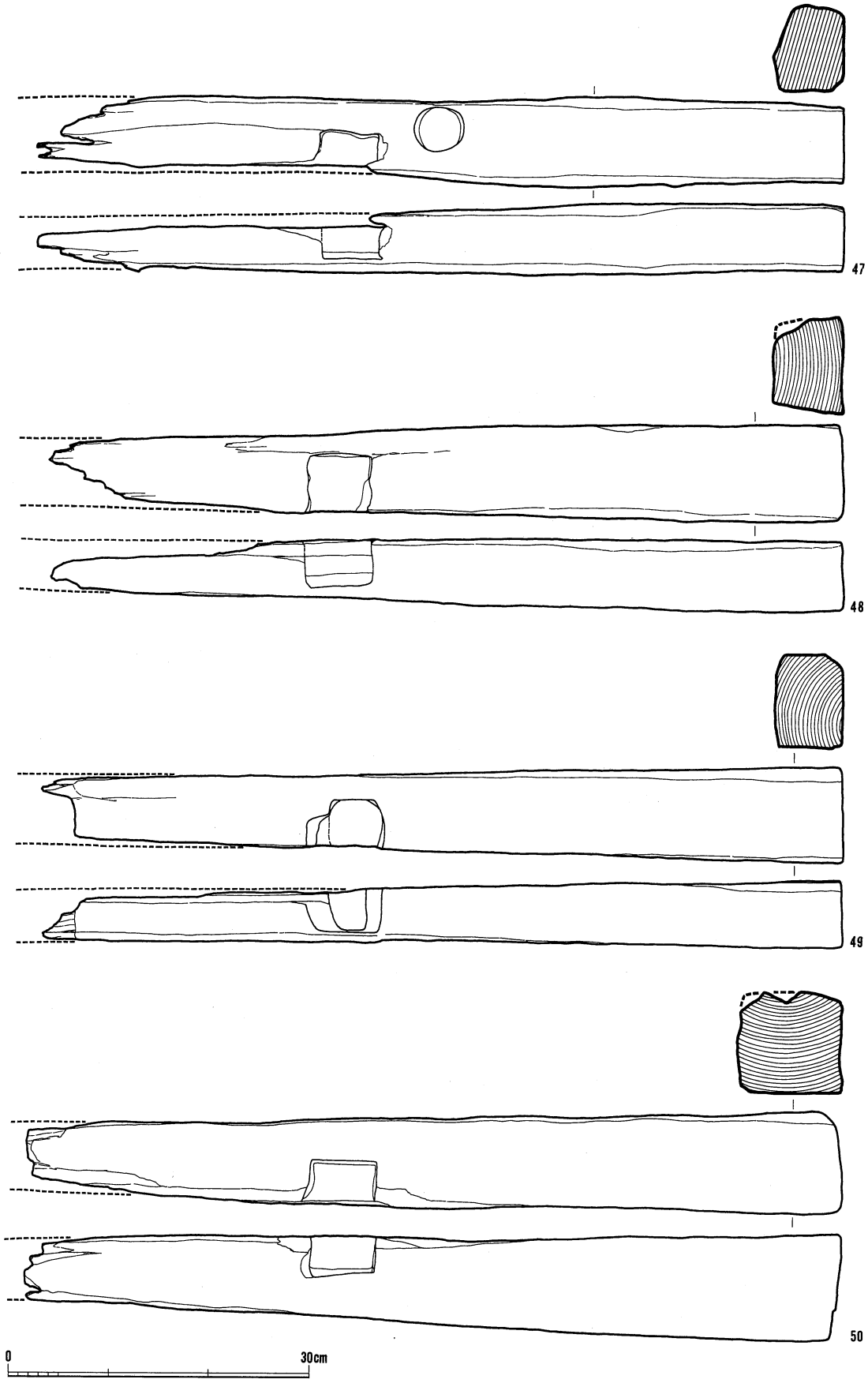


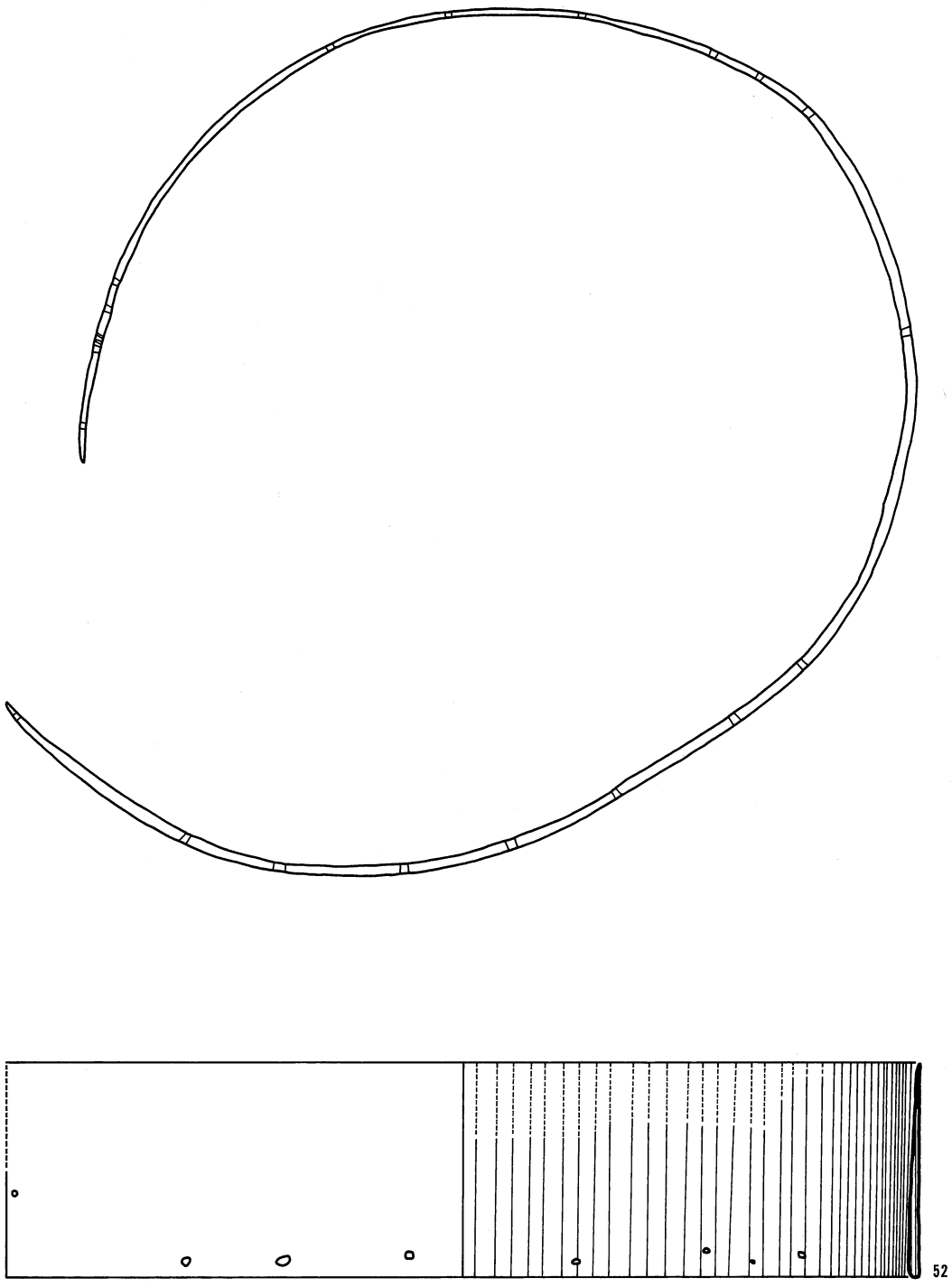
ＳＥ01出土木製品(2)

図版63

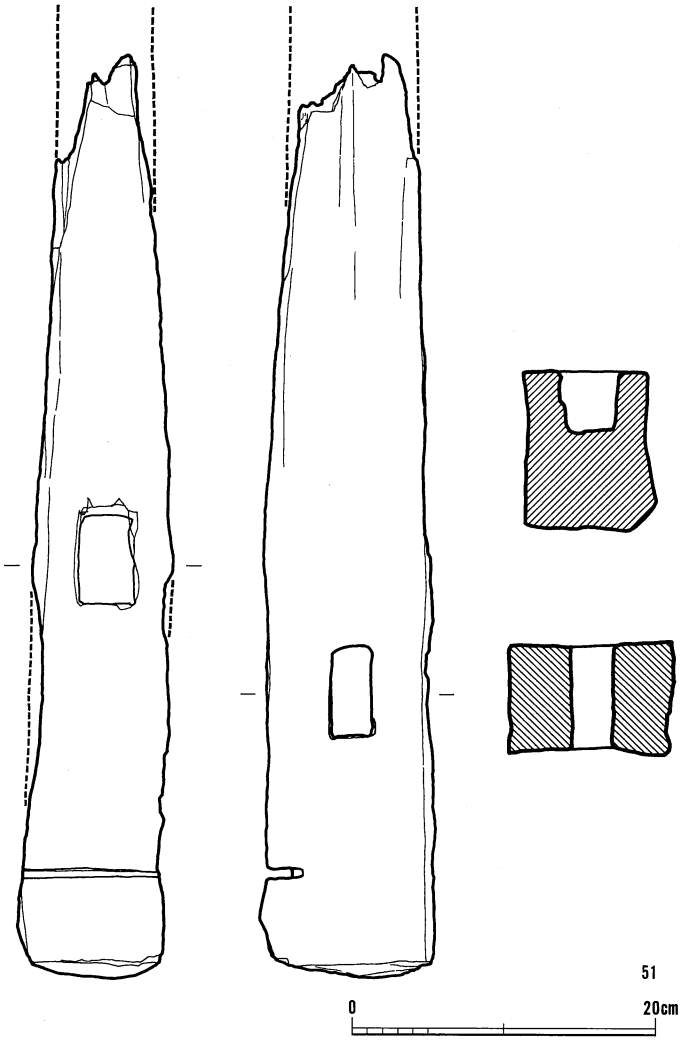


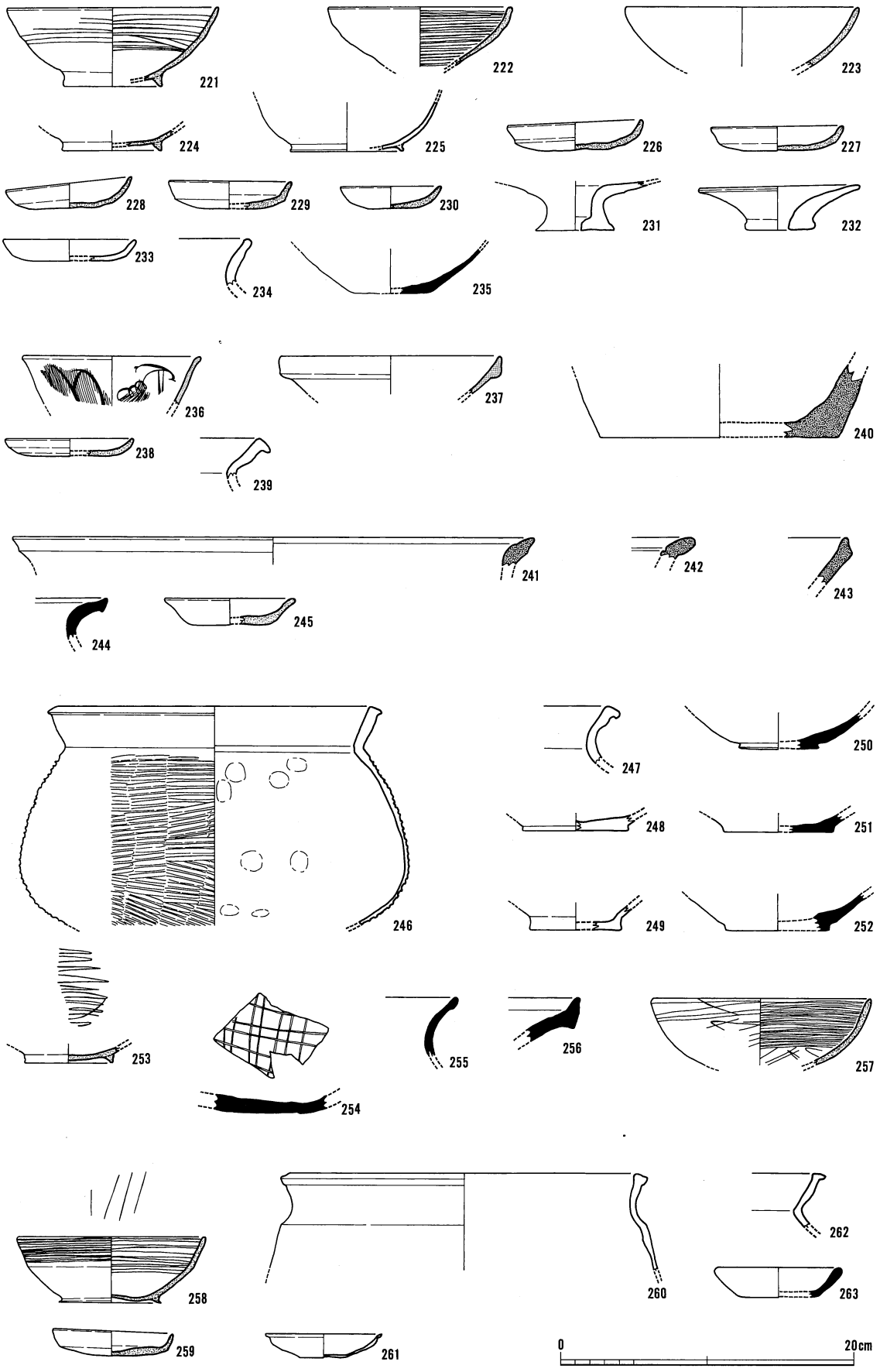
ＳＥ01出土木製品(3)




52
0
20cm

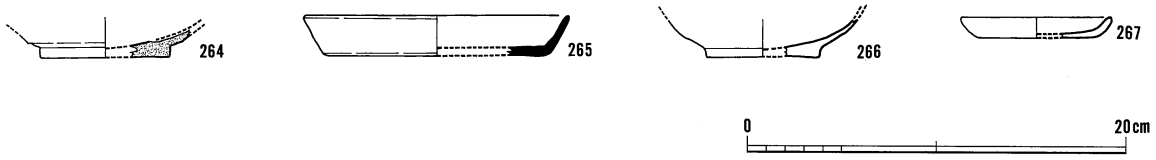
ＳＥ03出土木製品



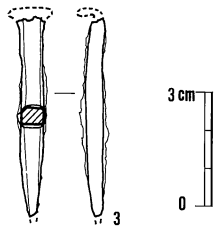


（ＳＤ16：221～235、ＳＤ03：236～240、北ＳＤ03：241～245、ＳＤ36：246～253、ＳＤ37：254～256、ＳＤ01：257、ＳＤ28：258・259、ＳＤ05：260・261、ＳＤ04：262、ＳＤ22：263）

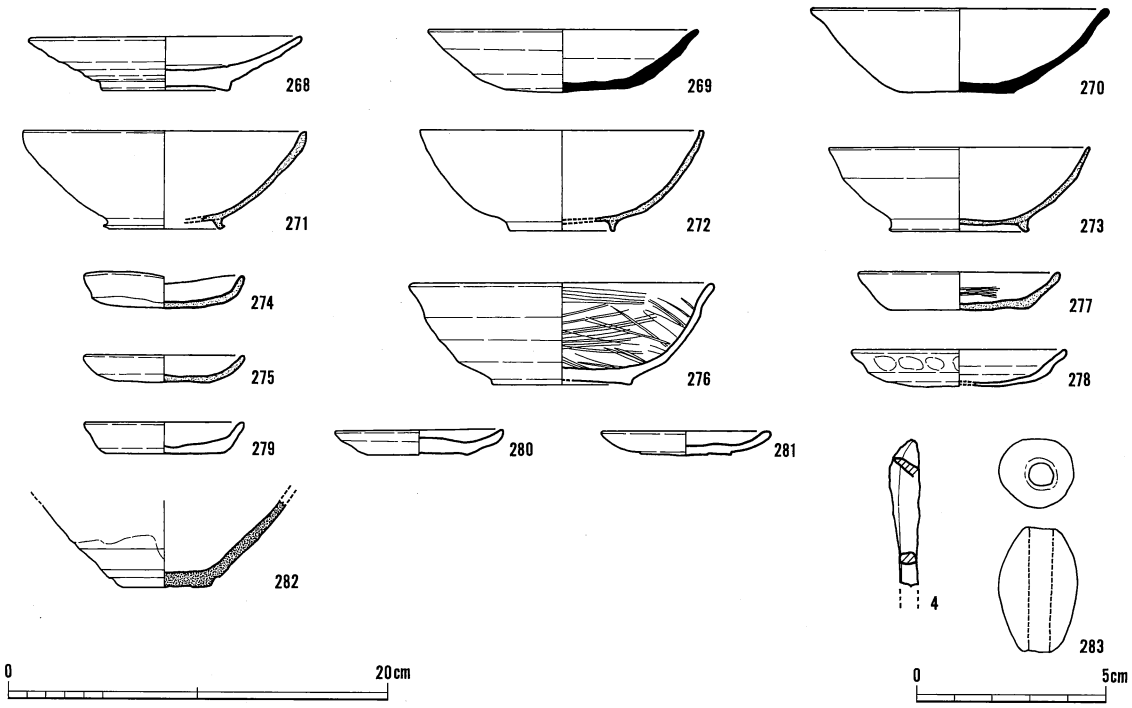
溝・柱穴群出土土器，鉄製品



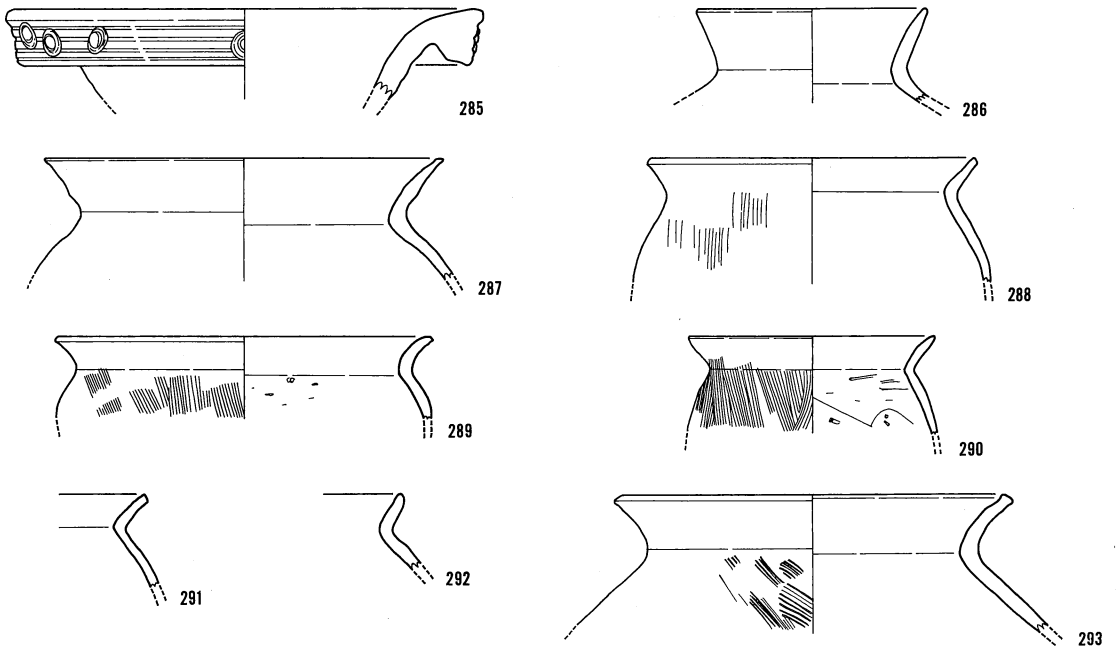
（ＳＤ17：264、ＳＤ39：265、ＳＤ09：266、ＳＤ08：267）



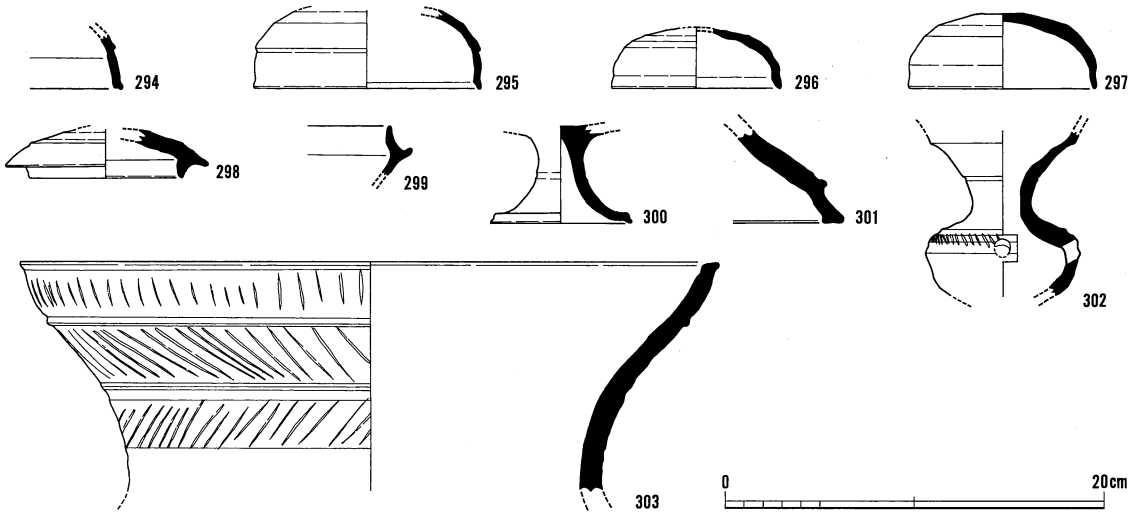
ＳＤ23出土鉄釘



（柱穴：268・269・275～277・279、Ｐ158：270、Ｐ402：271、Ｐ194：272、Ｐ325：273、Ｐ226：274、Ｐ278：278、Ｐ777：280、Ｐ383：281、Ｐ416：282、Ｐ781：283）

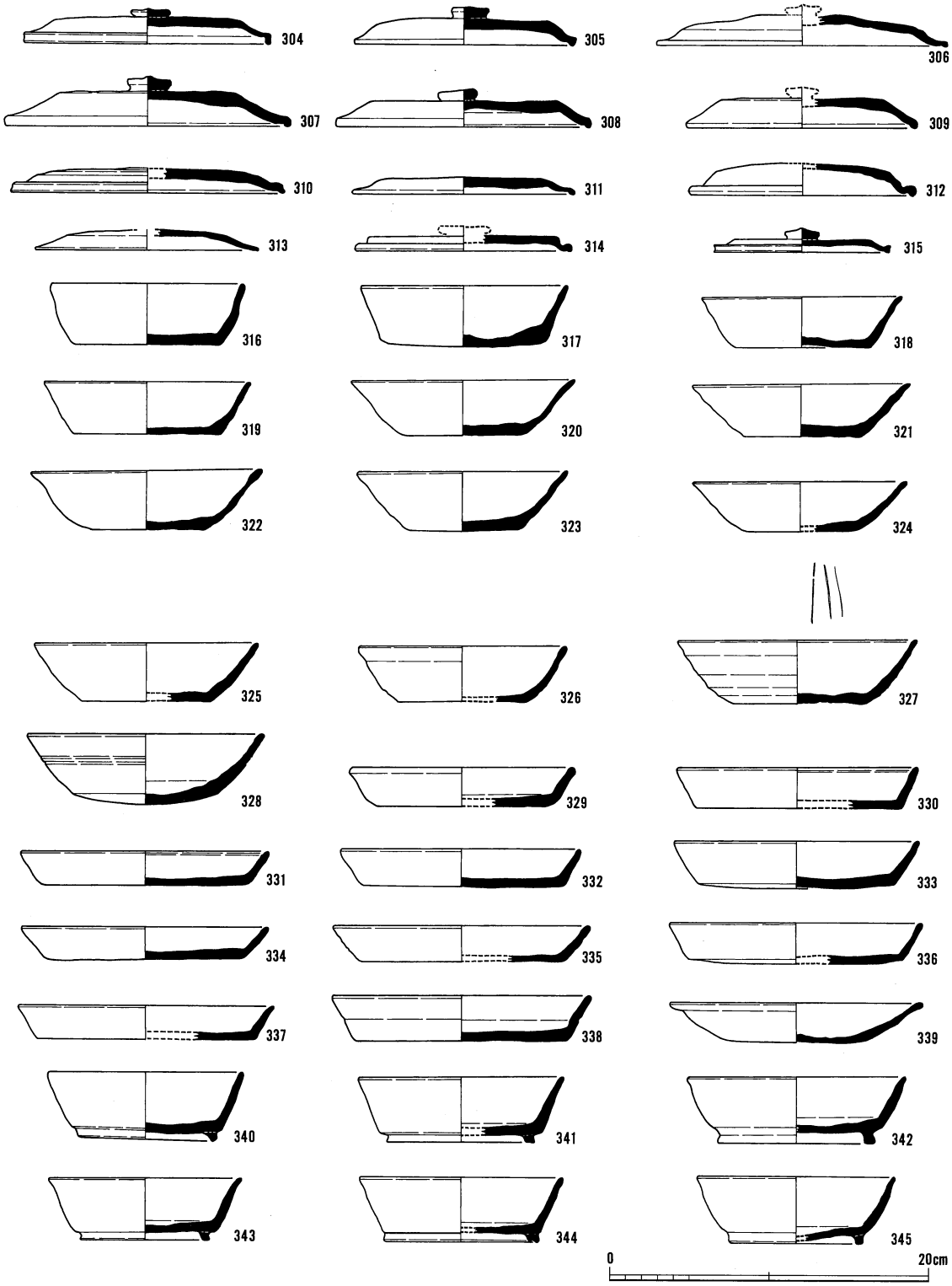


（弥生時代後期～古墳時代前期）

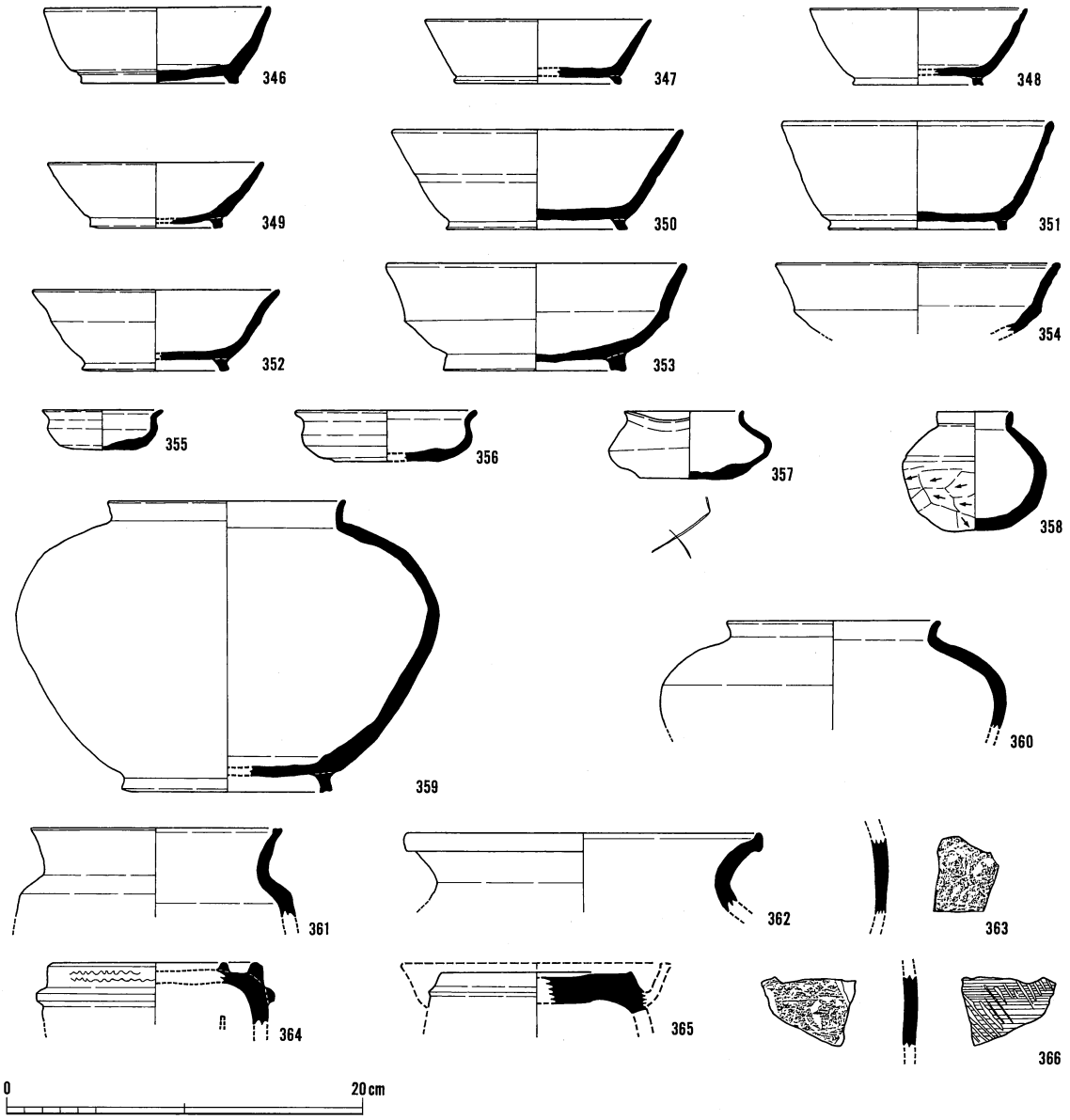


（古墳時代後期）

包含層出土土器(2)

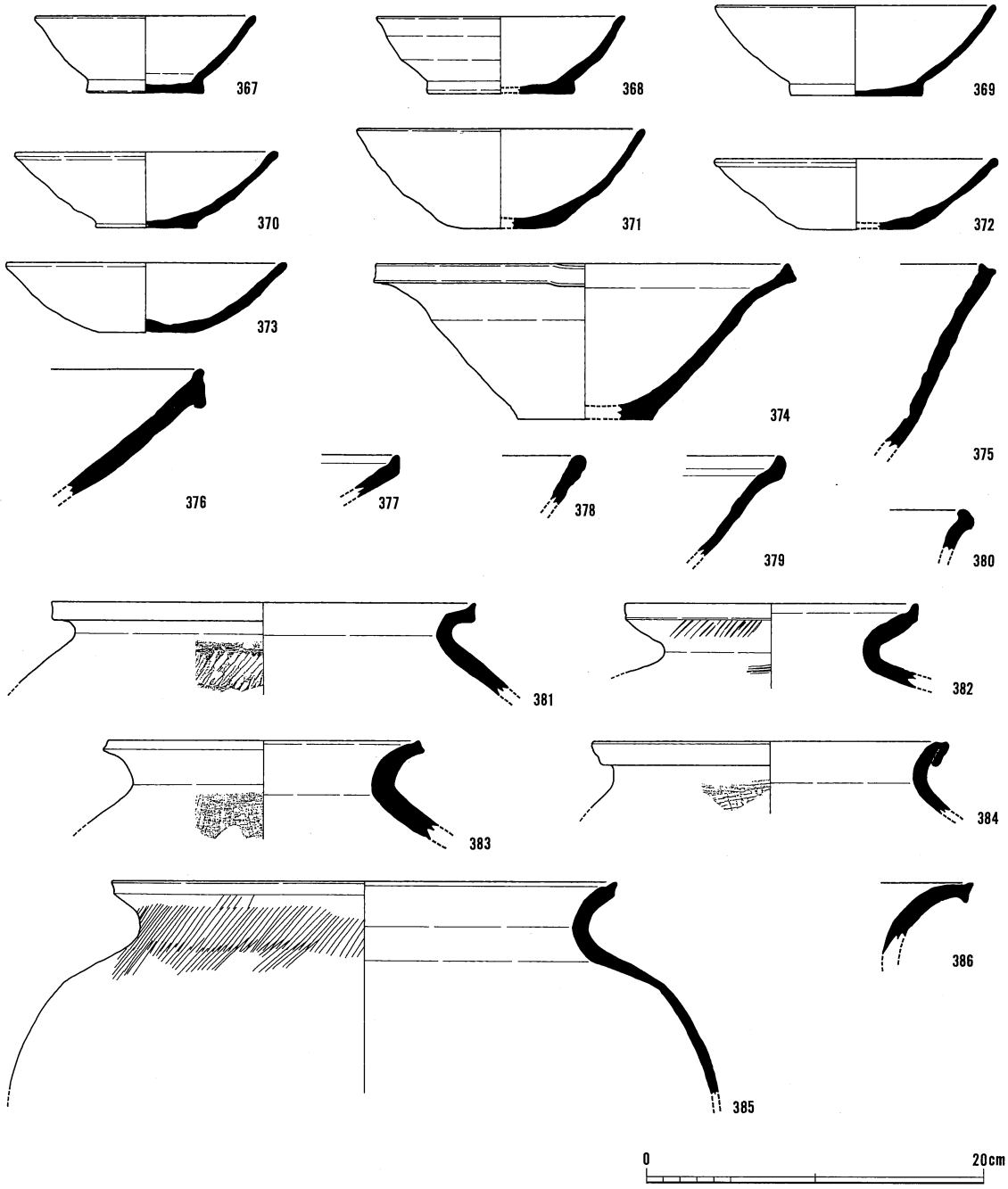


(奈良時代～平安時代)

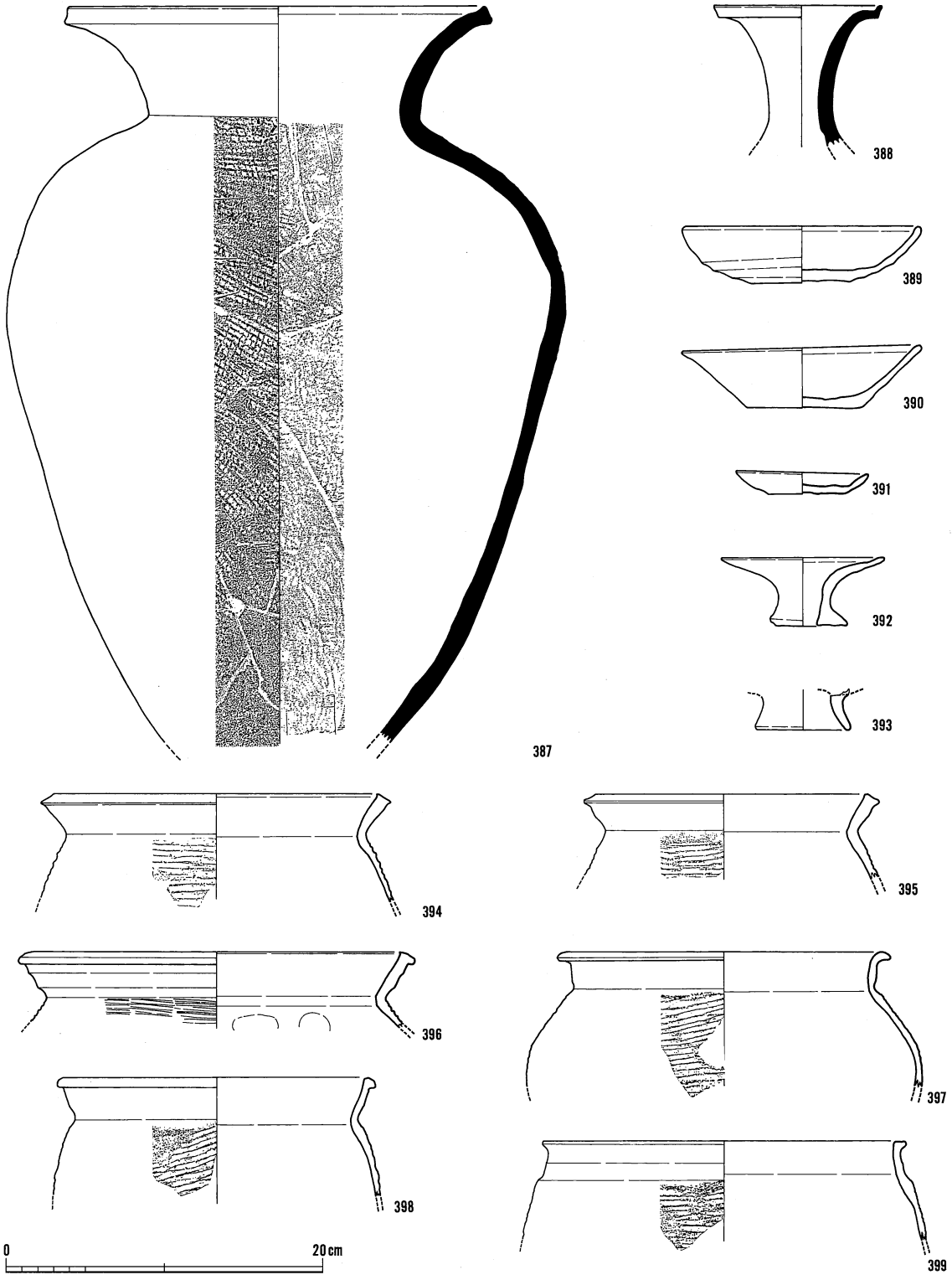

346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
0
20cm

（奈良時代～平安時代）

包含層出土土器(4)

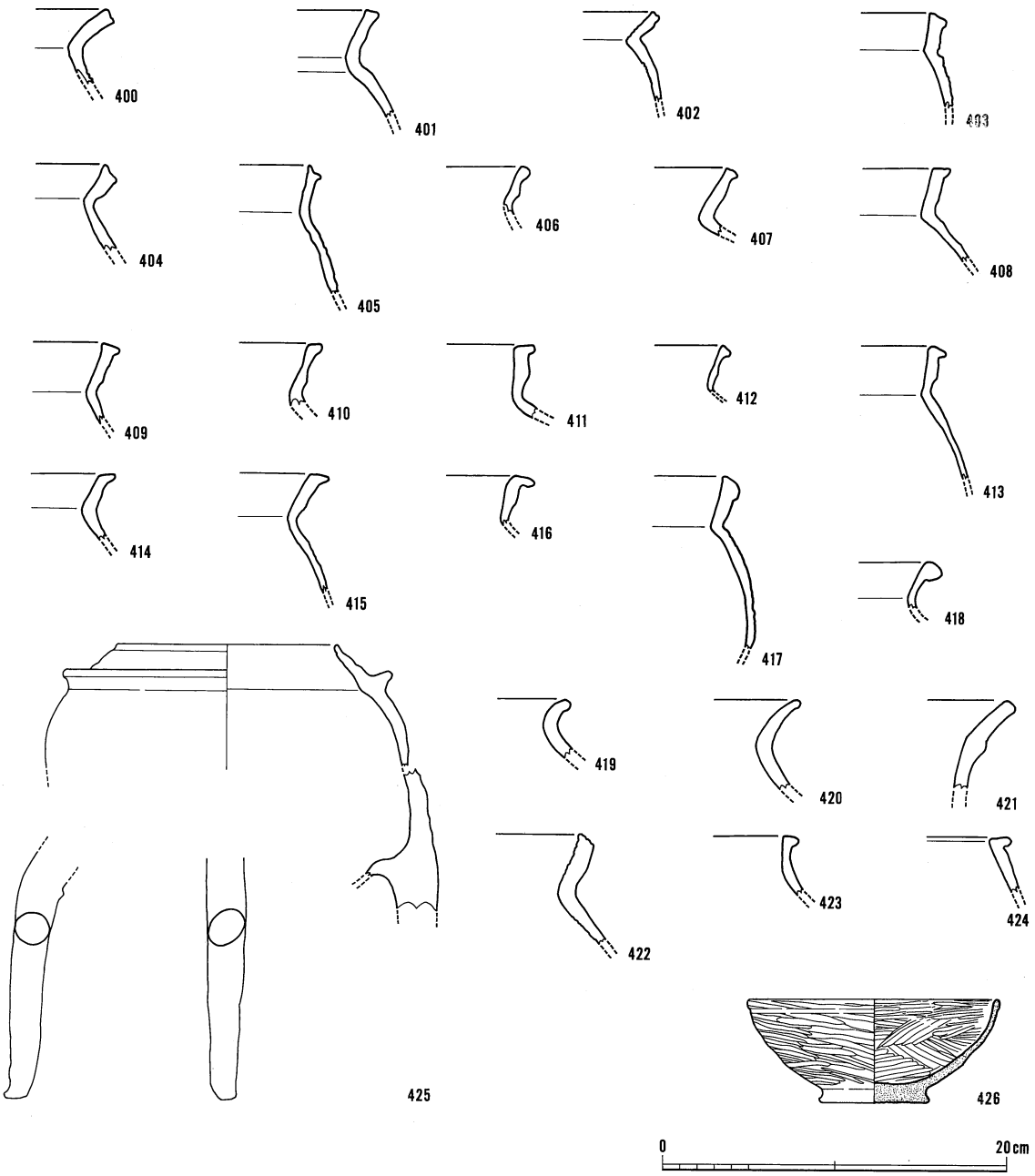


（平安時代～鎌倉時代）

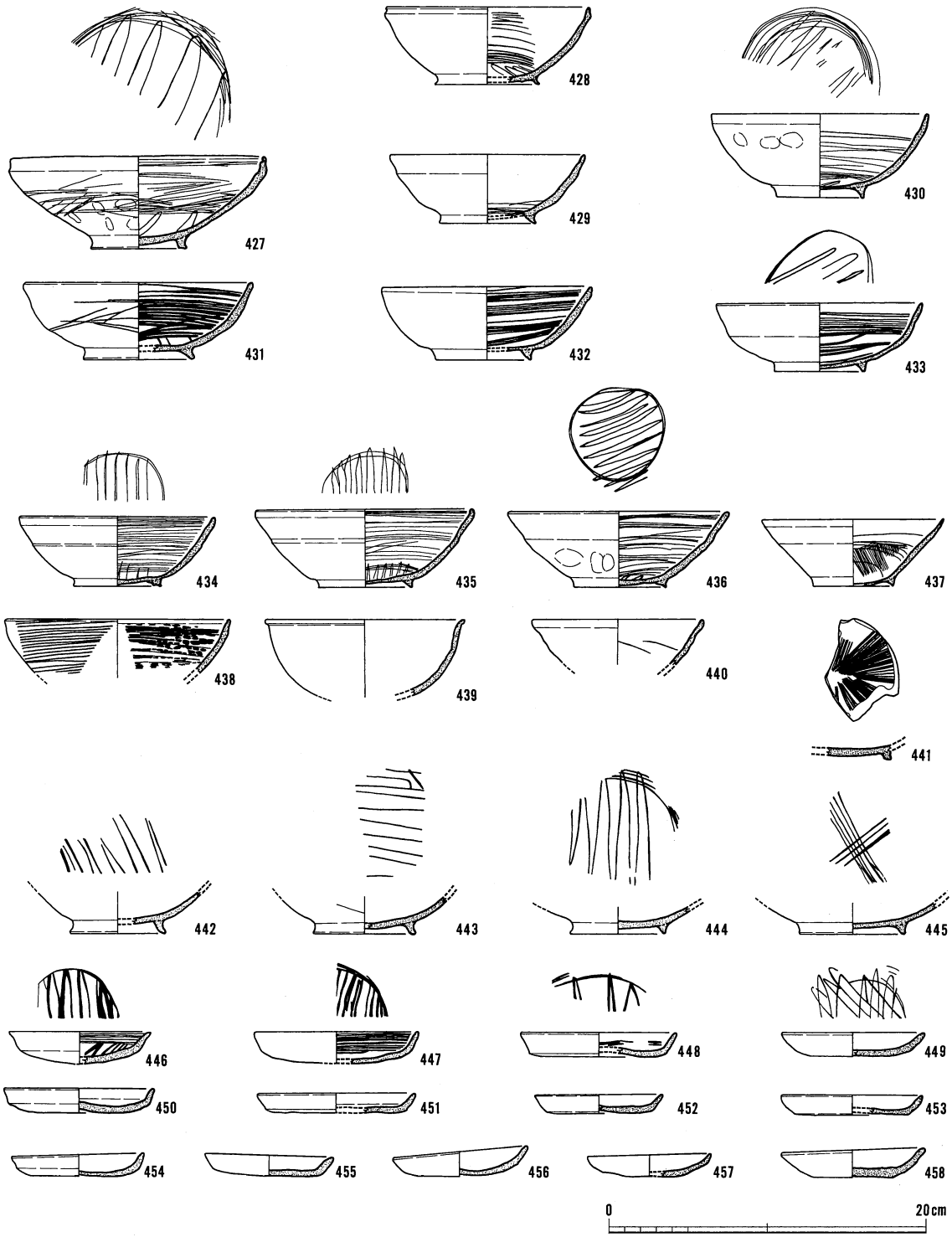


(平安時代～鎌倉時代)

包含層出土土器(6)

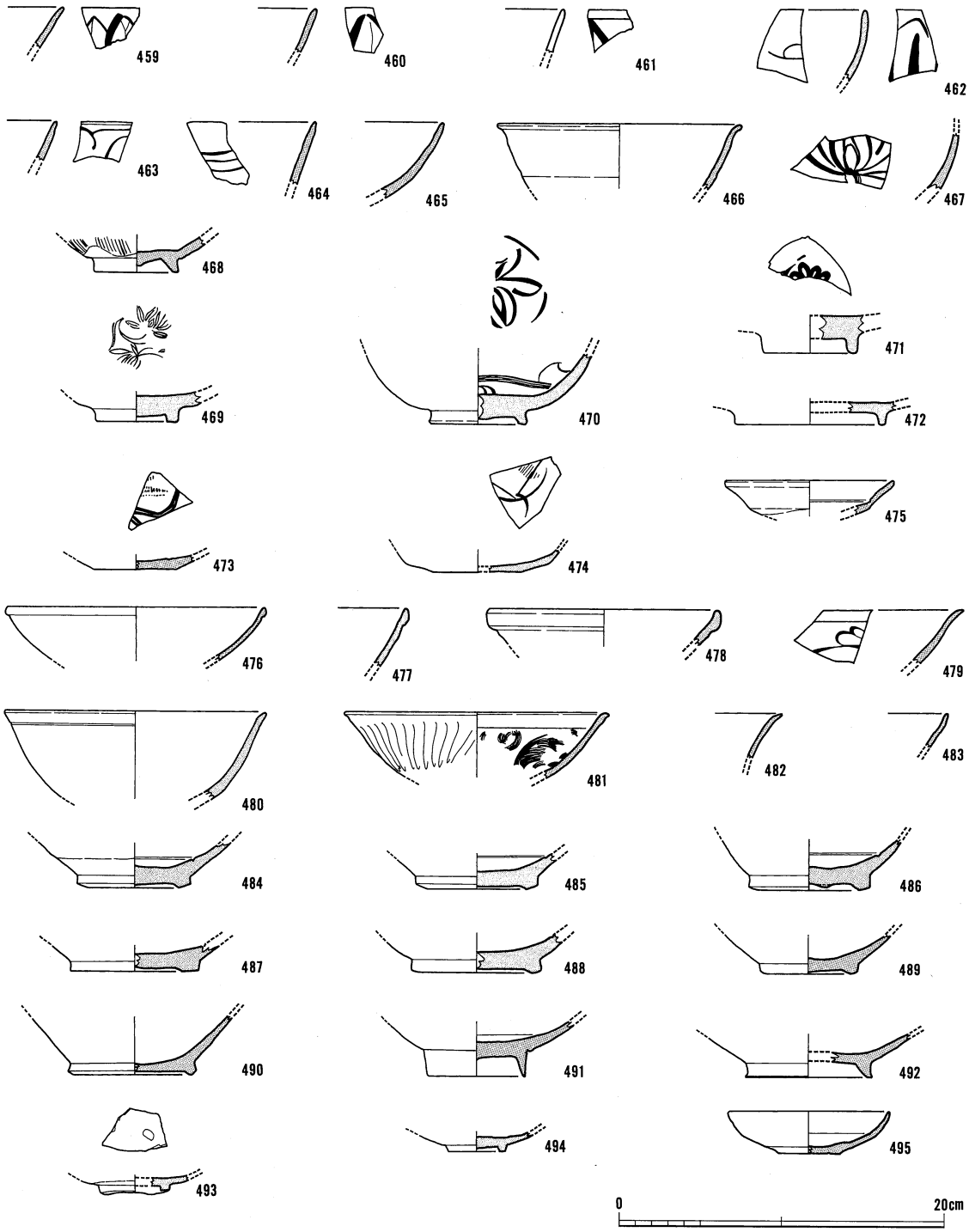


（平安時代～鎌倉時代）

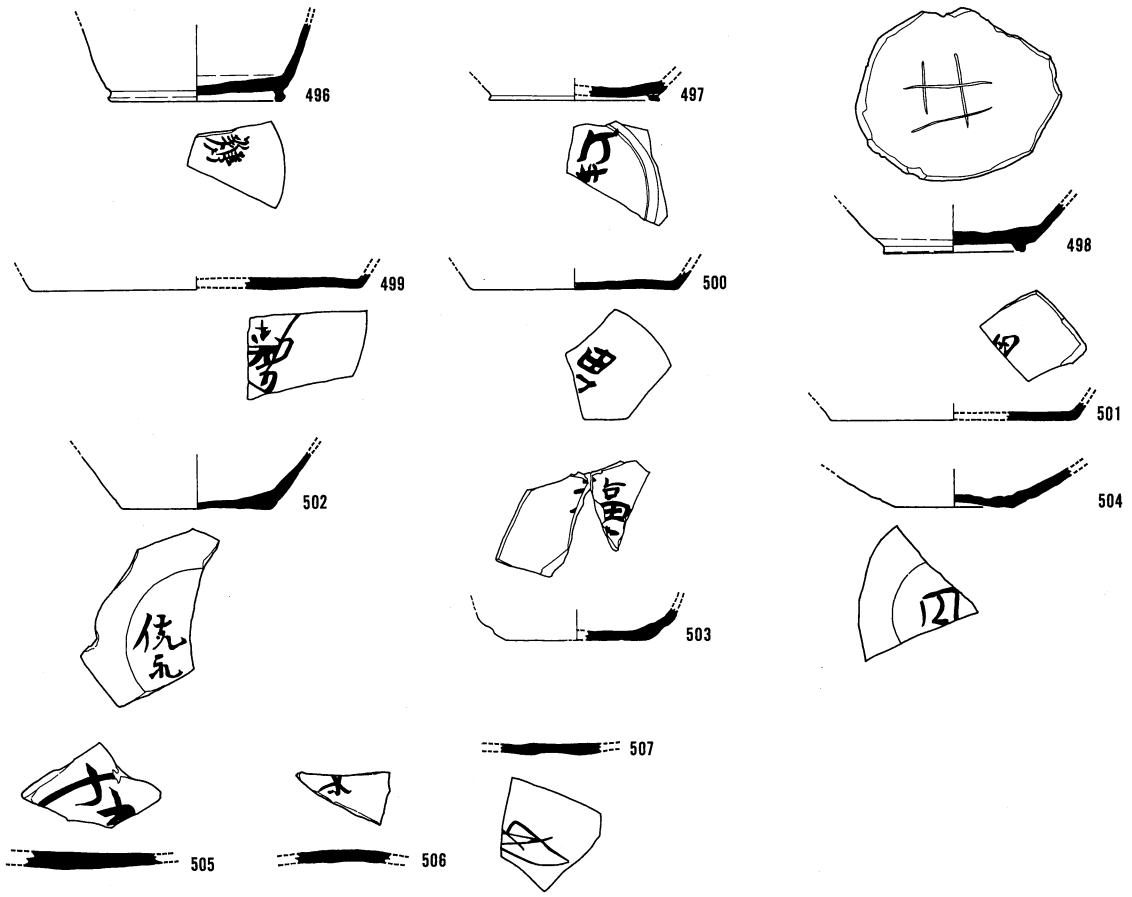

427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
0
20cm

（平安時代～鎌倉時代）

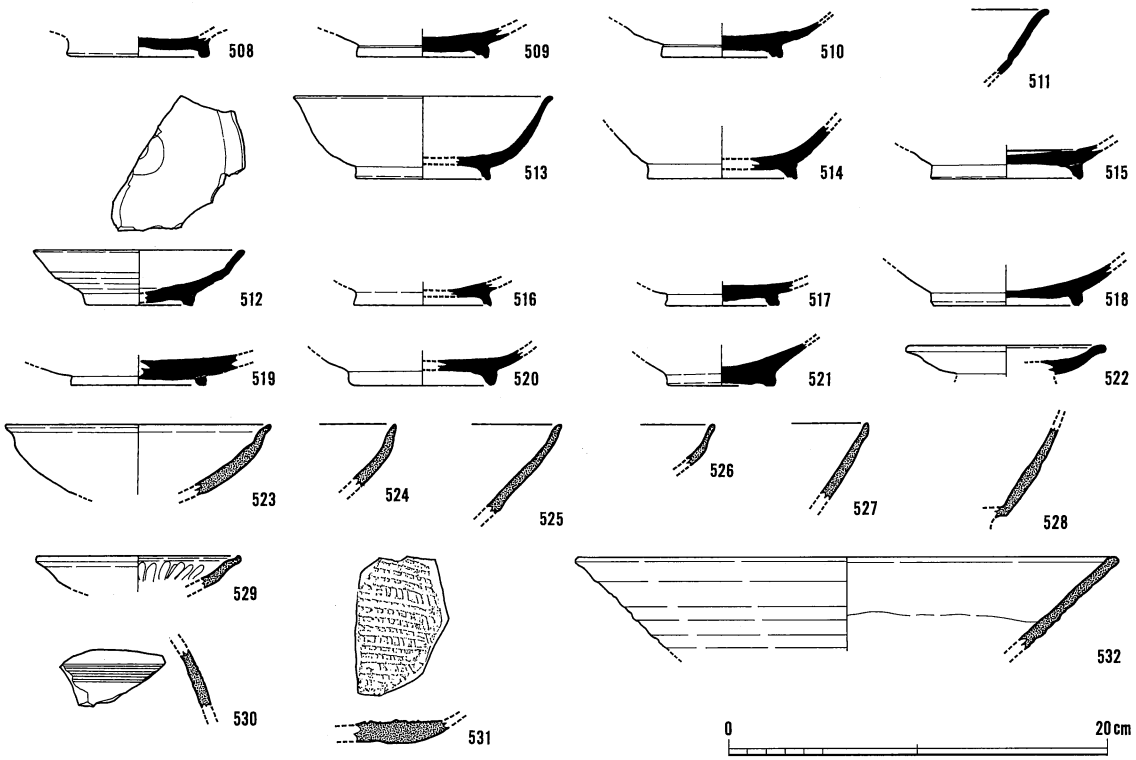
包含層出土土器(8)



（輸入陶磁器）

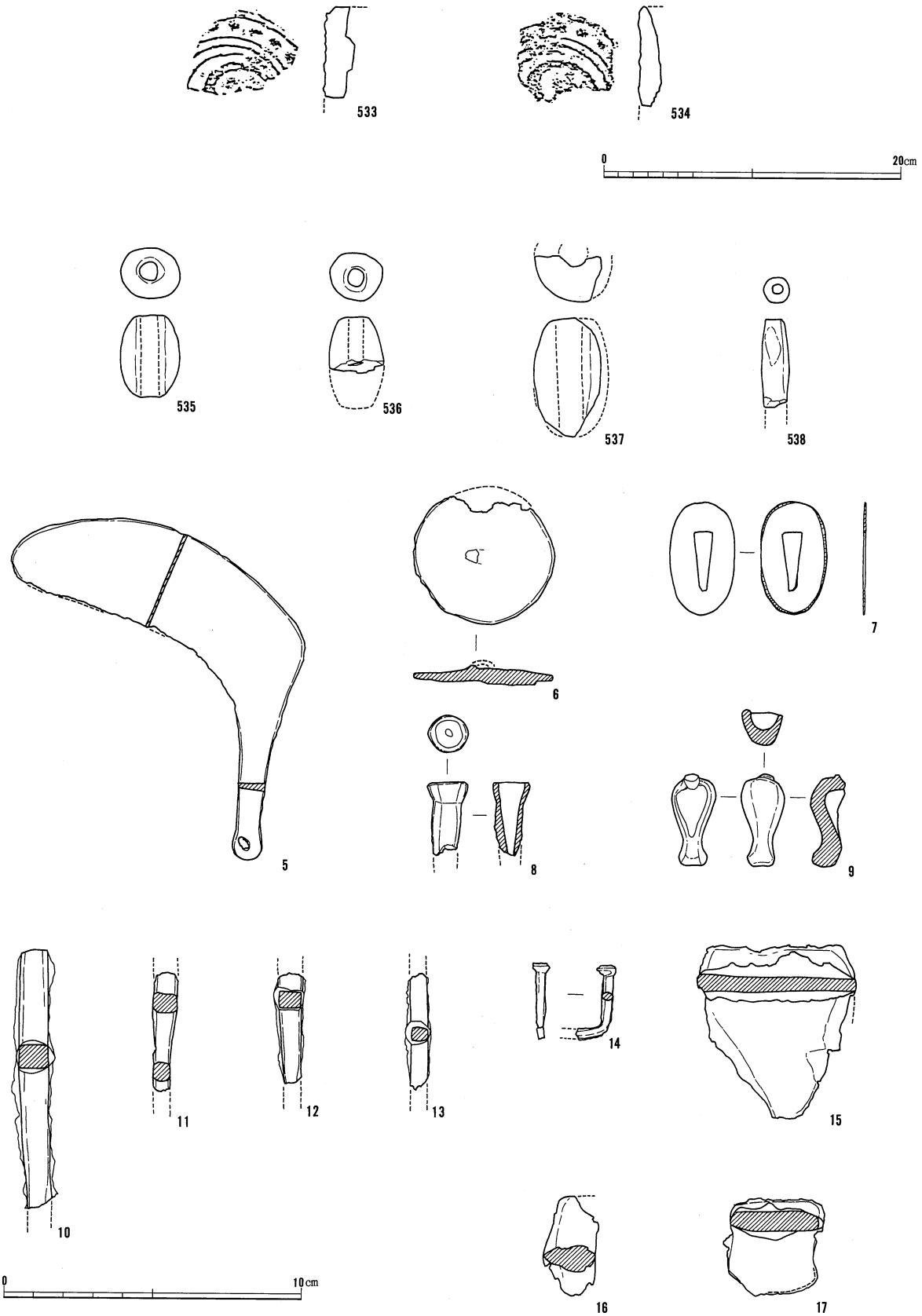

496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507

（墨書土器）

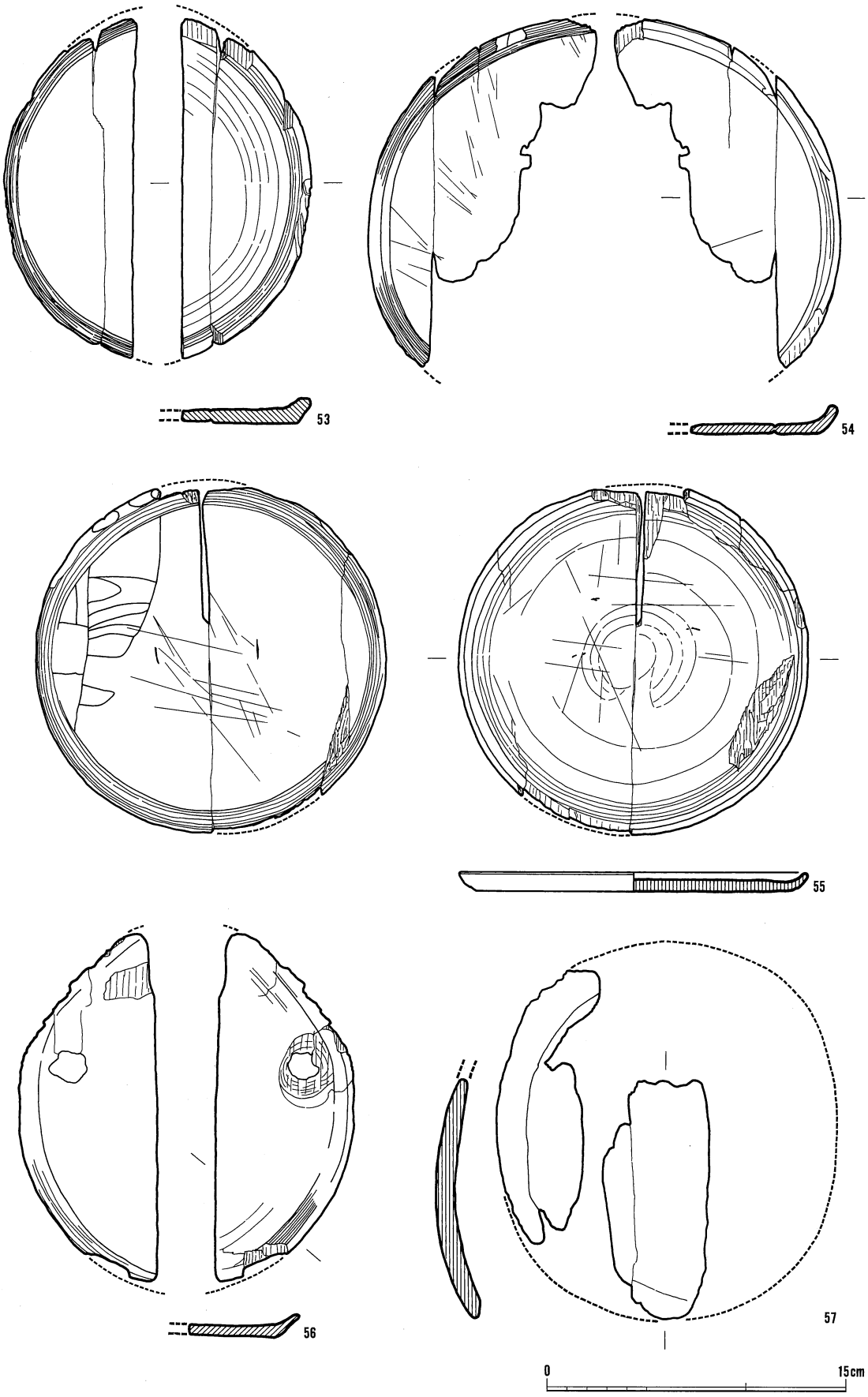

508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
0
20cm

（陶　　器）

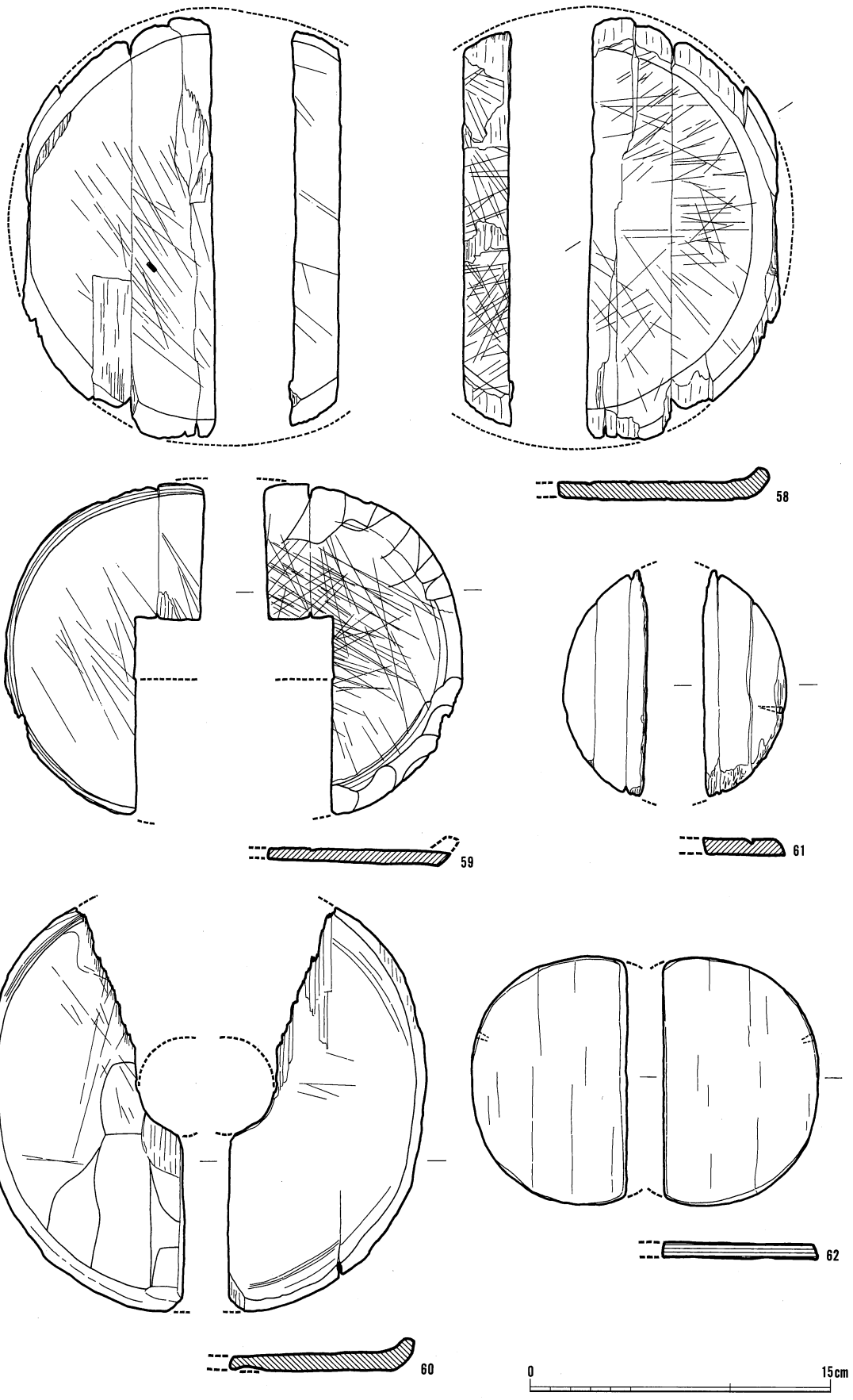
包含層出土瓦，土製品，金属器

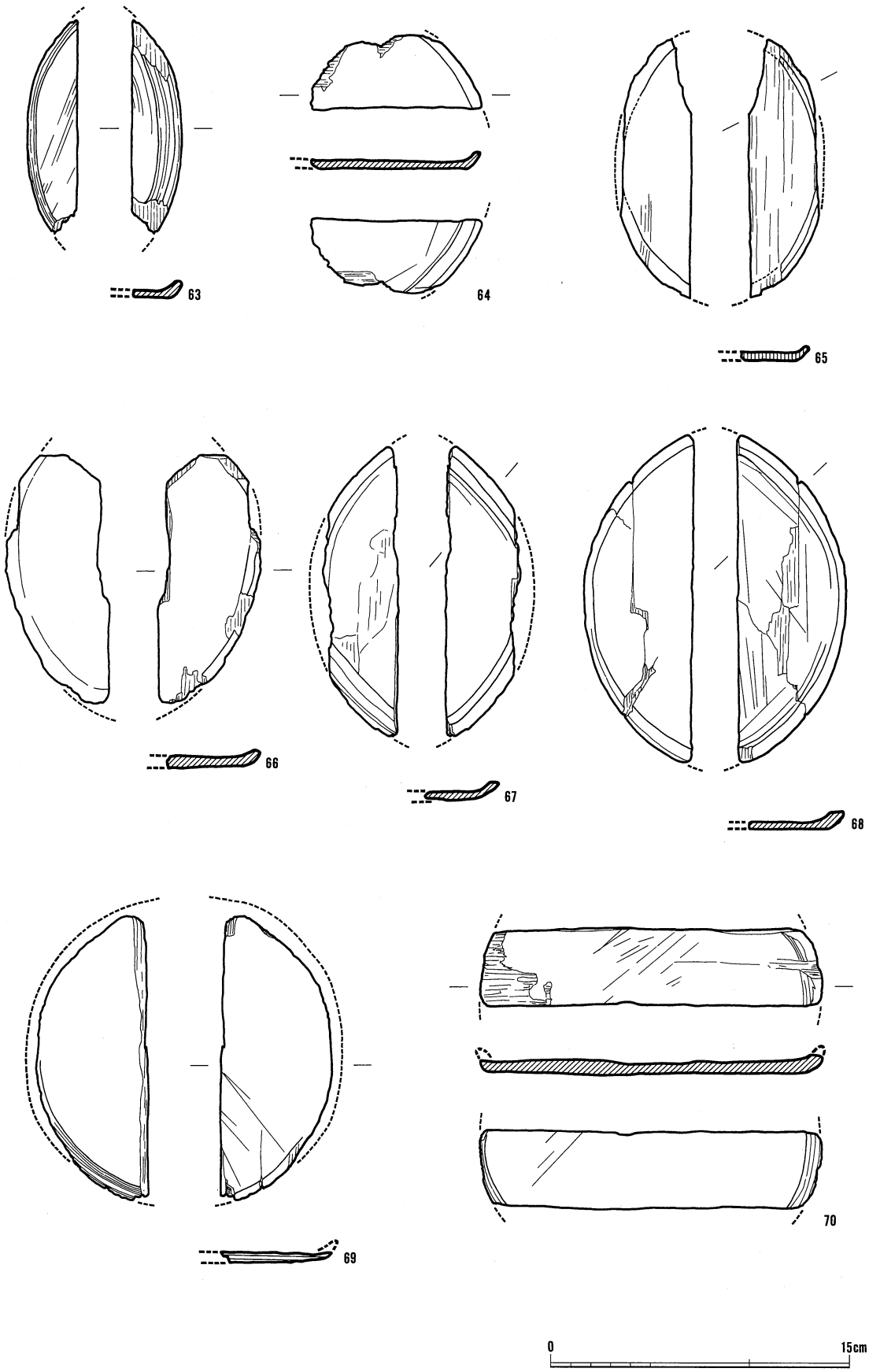


（瓦・土錘・金属器）

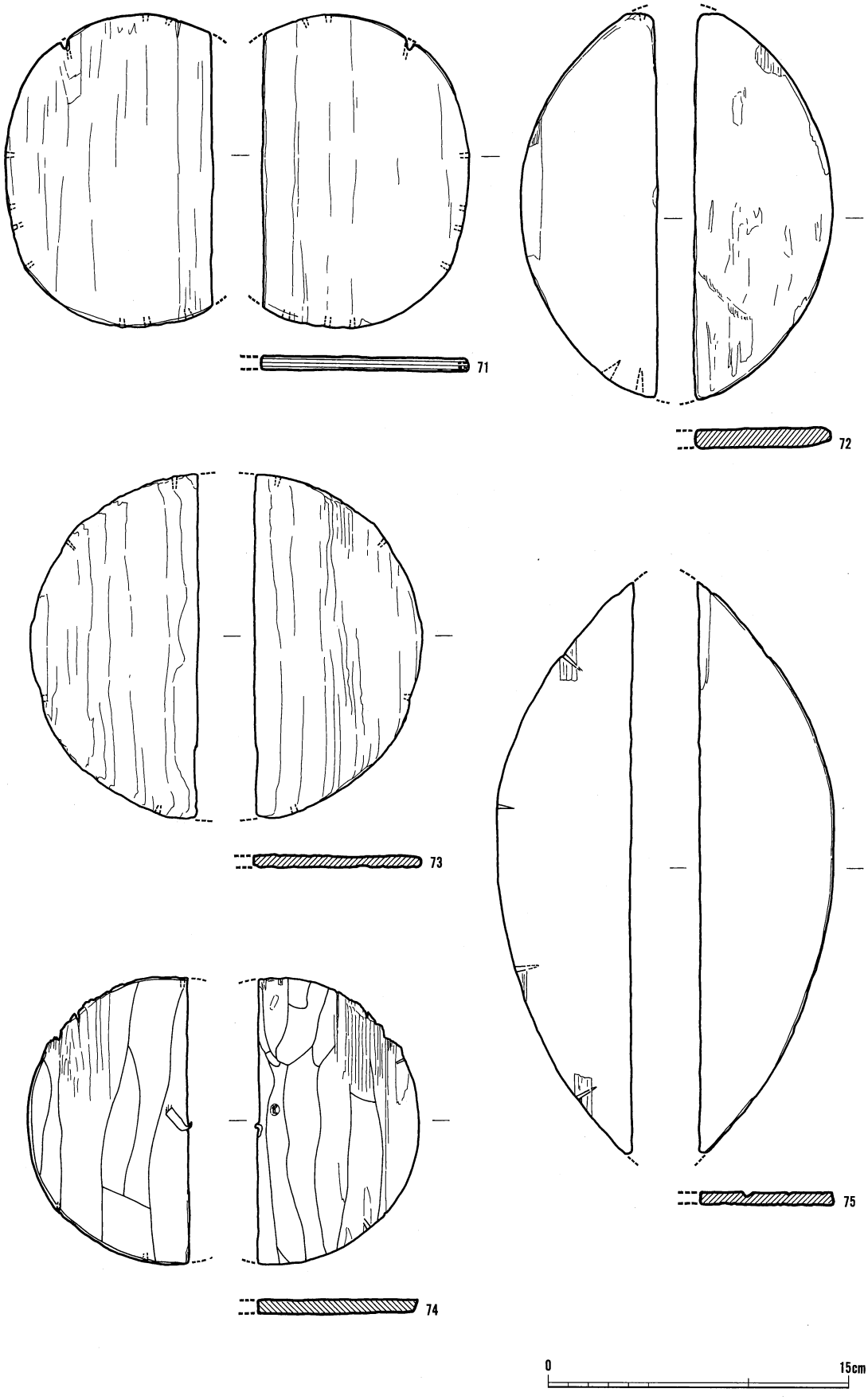

53
54
55
56
57
0
15cm

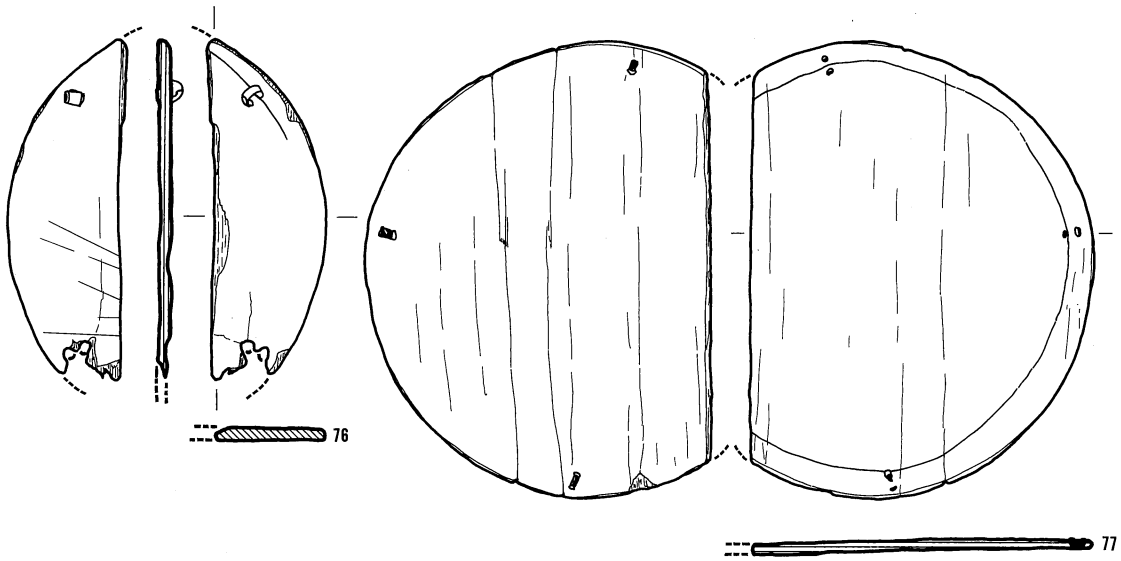
旧河道出土木製品(2)

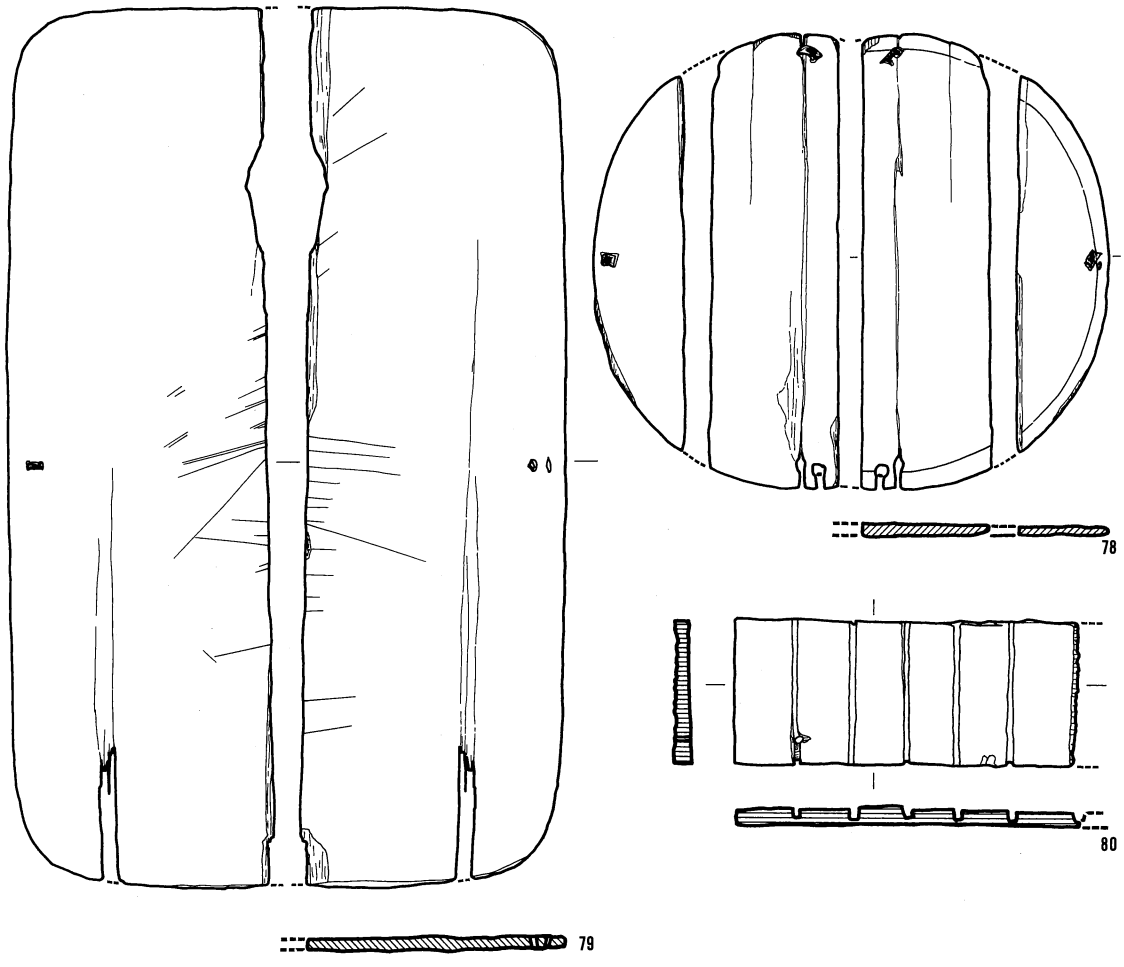



63
64
65
66
67
68
69
70
0
15cm

旧河道出土木製品(4)

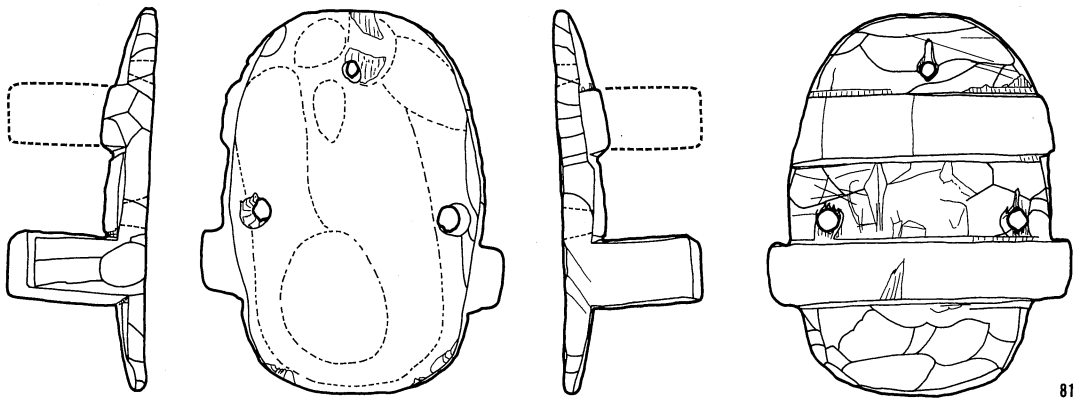


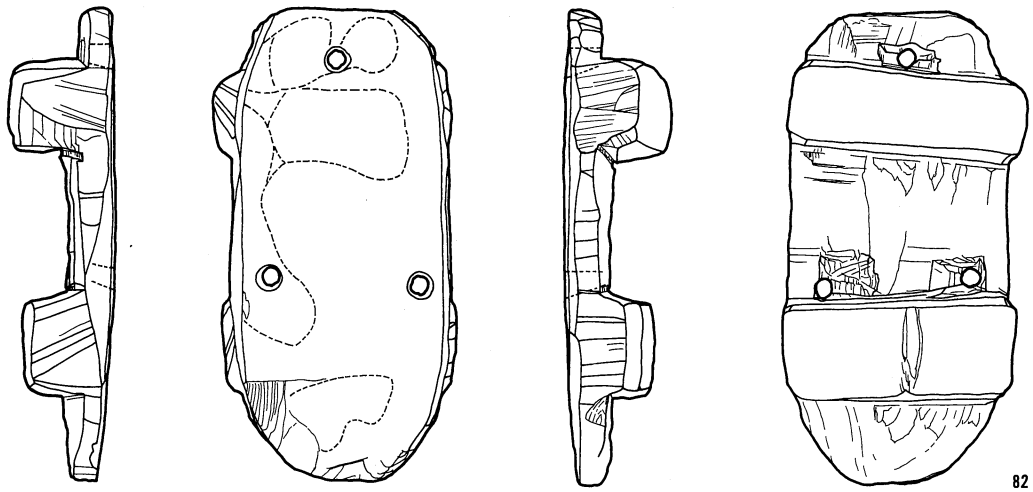

76
77

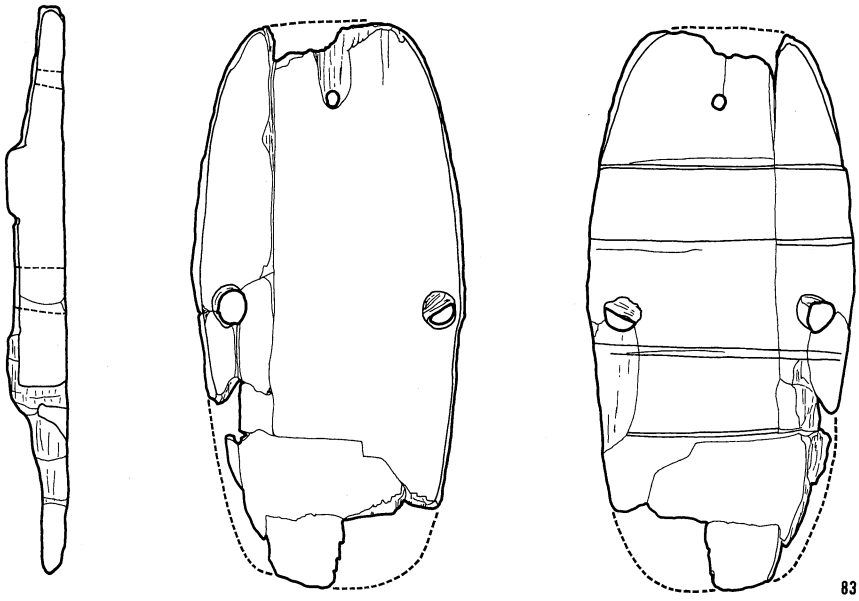

78
79
80

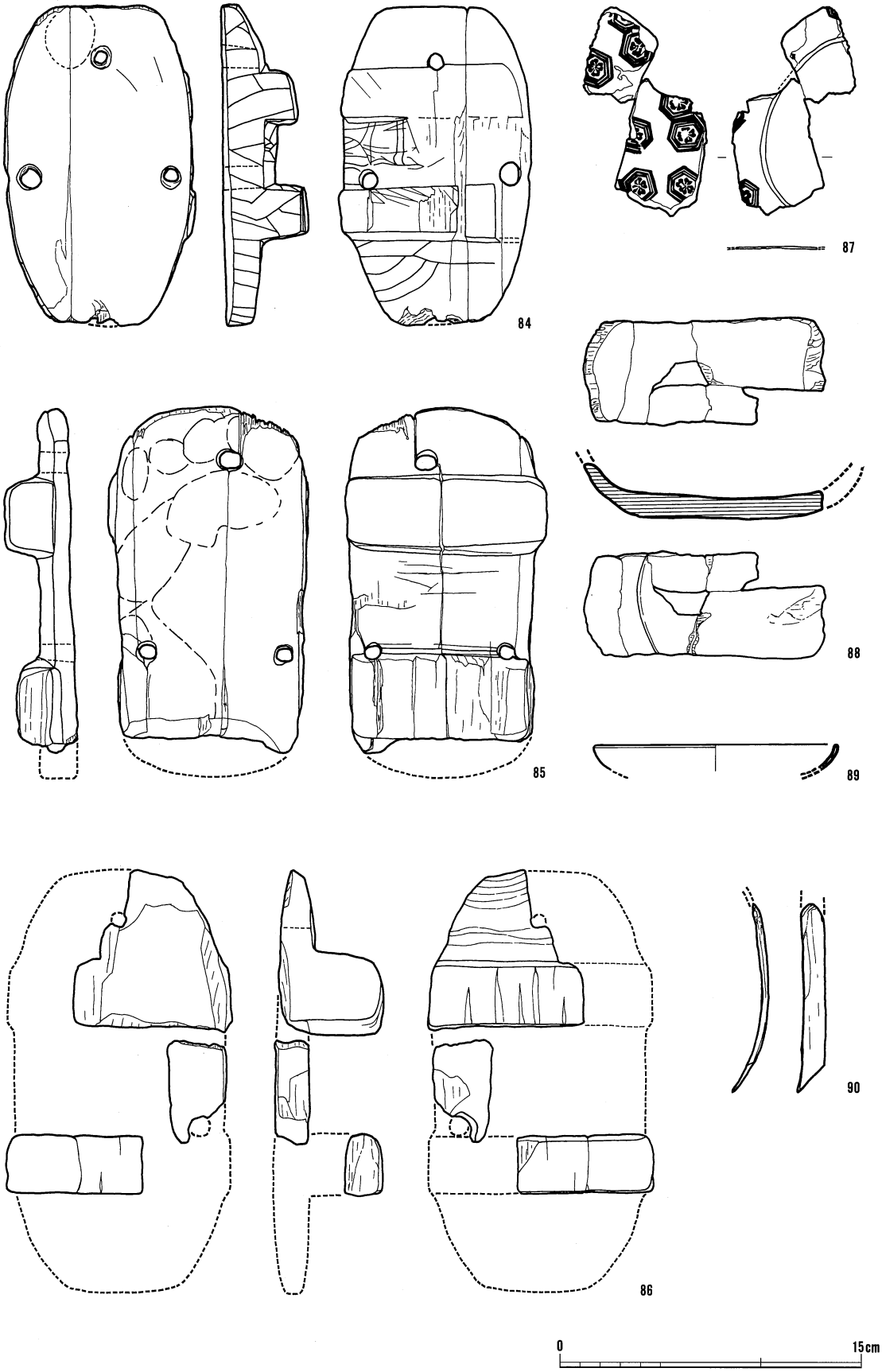
0
15cm

旧河道出土木製品(6)

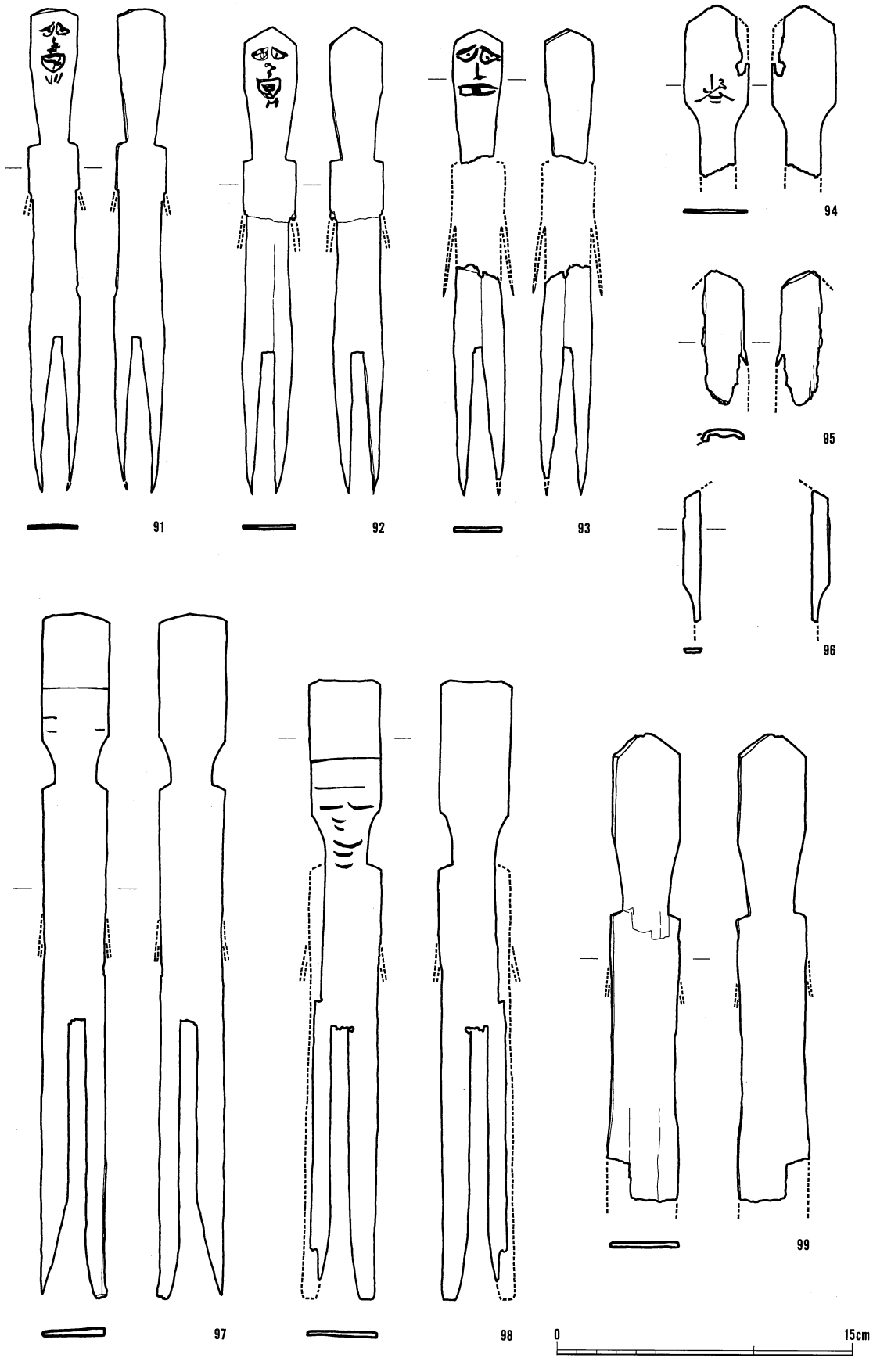


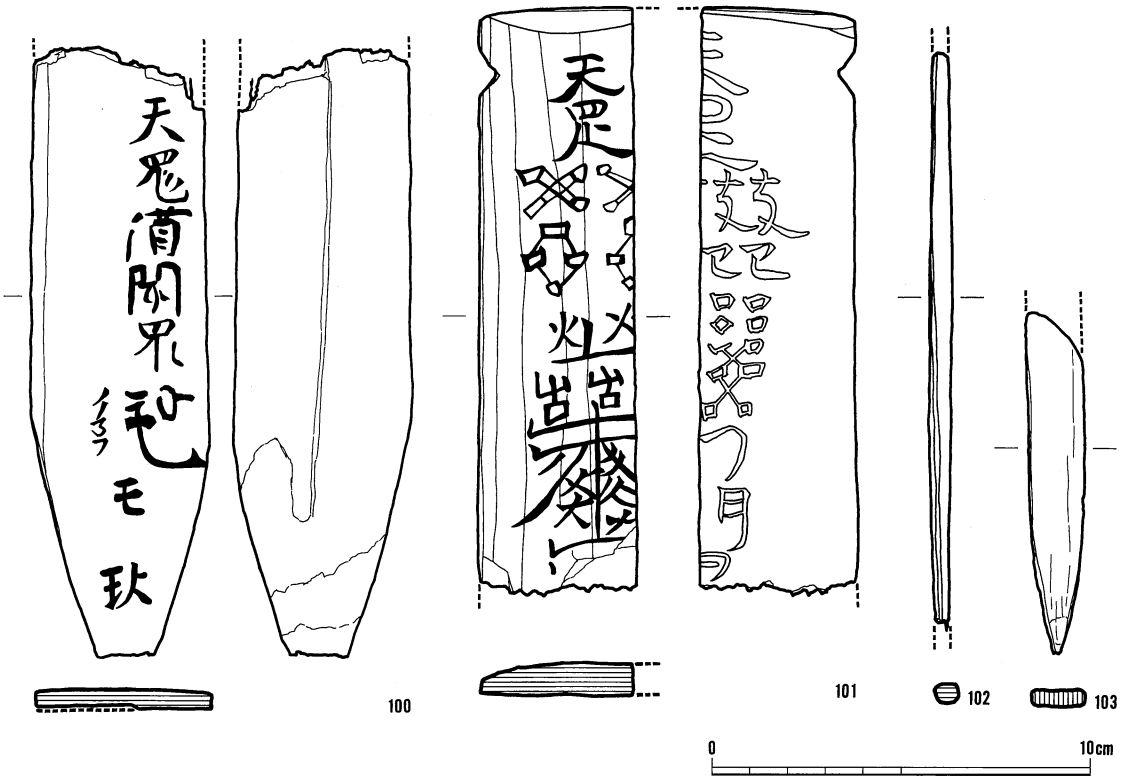


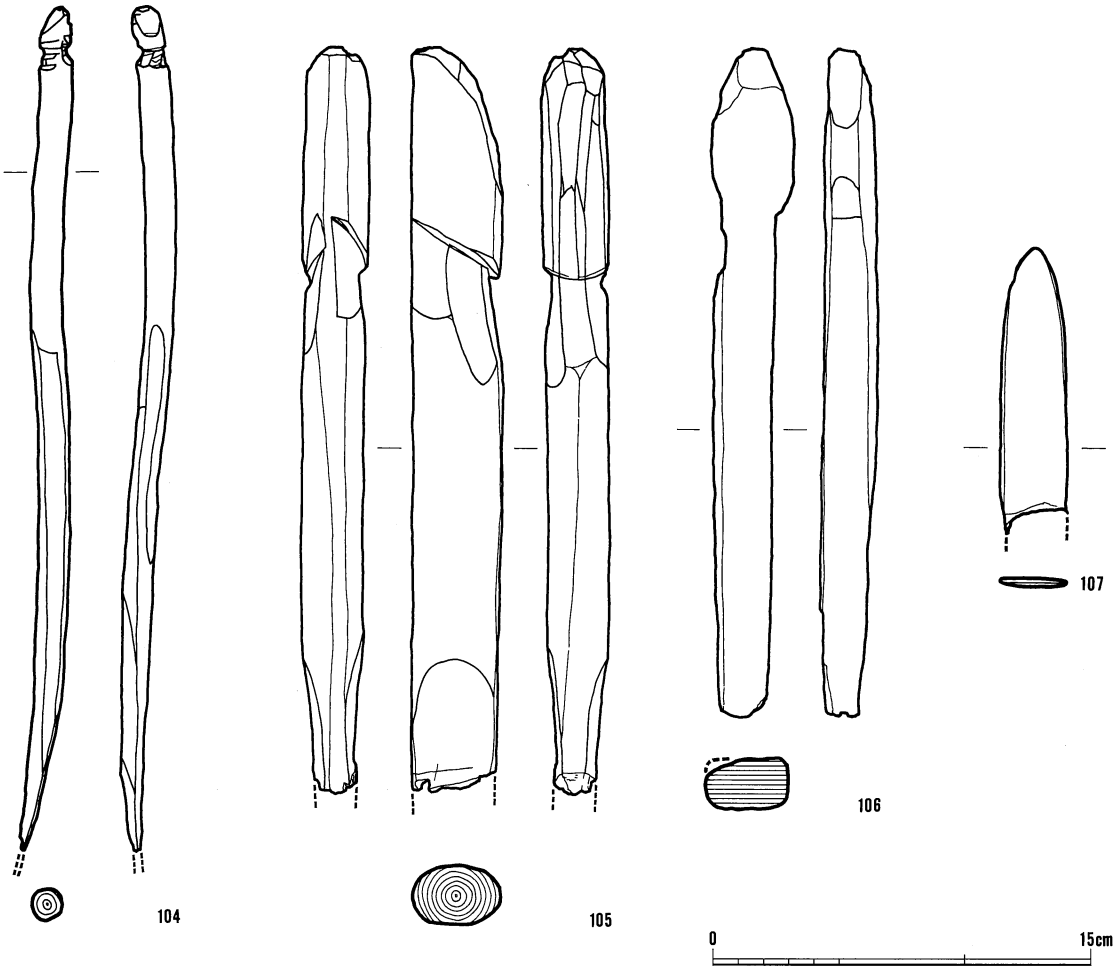



84
87
85
88
89
86
90
0
15cm

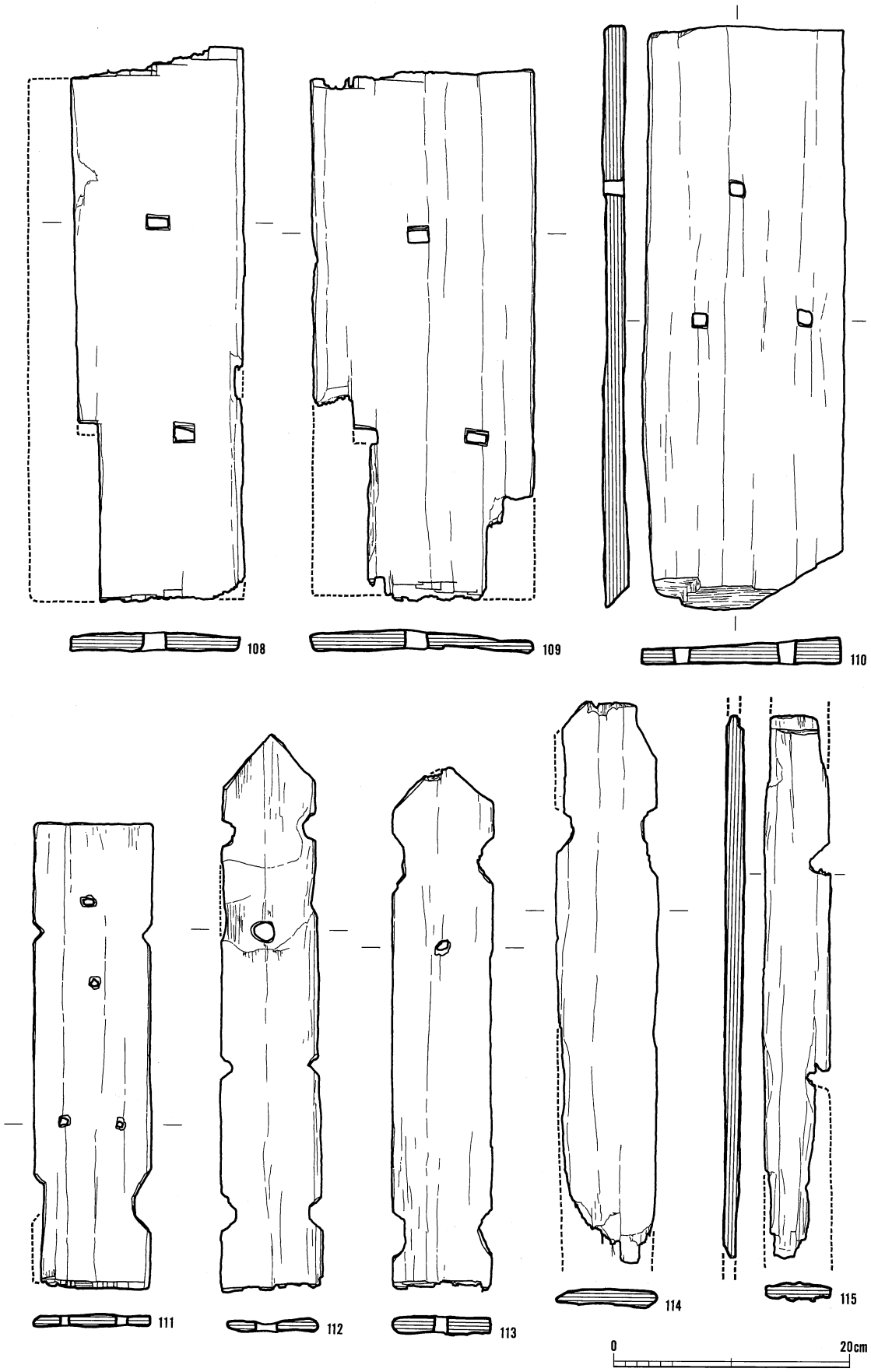
旧河道出土木製品(8)

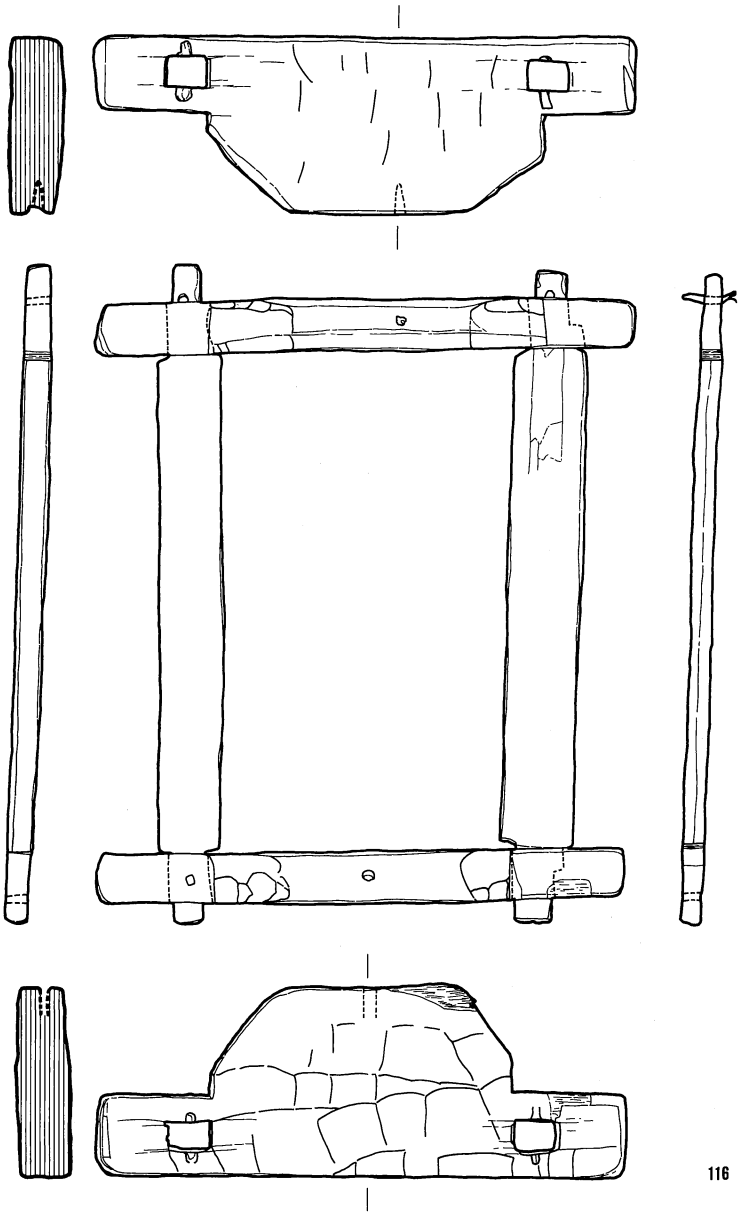



100
101
102
103
0
10cm

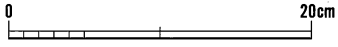

104
105
106
107
0
15cm

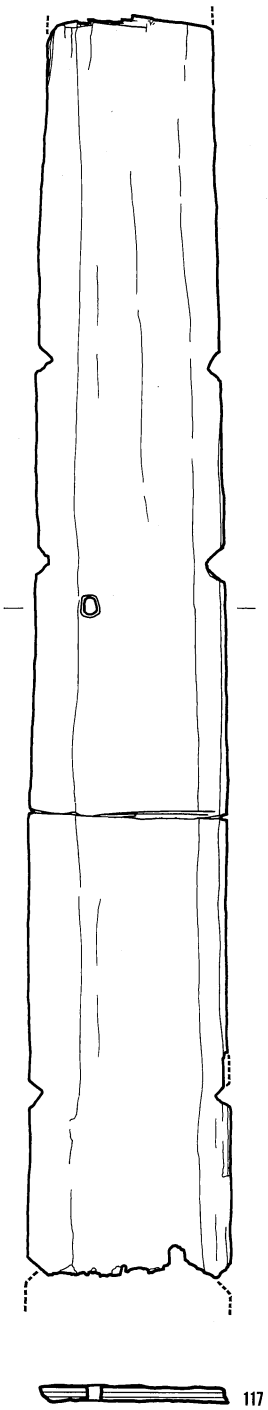
旧河道出土木製品(10)



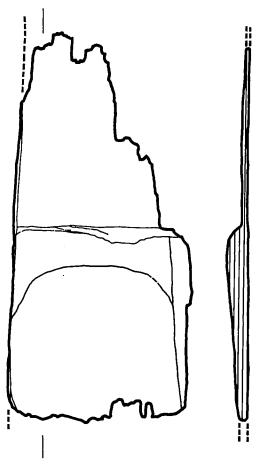


116

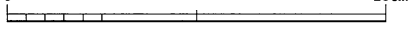




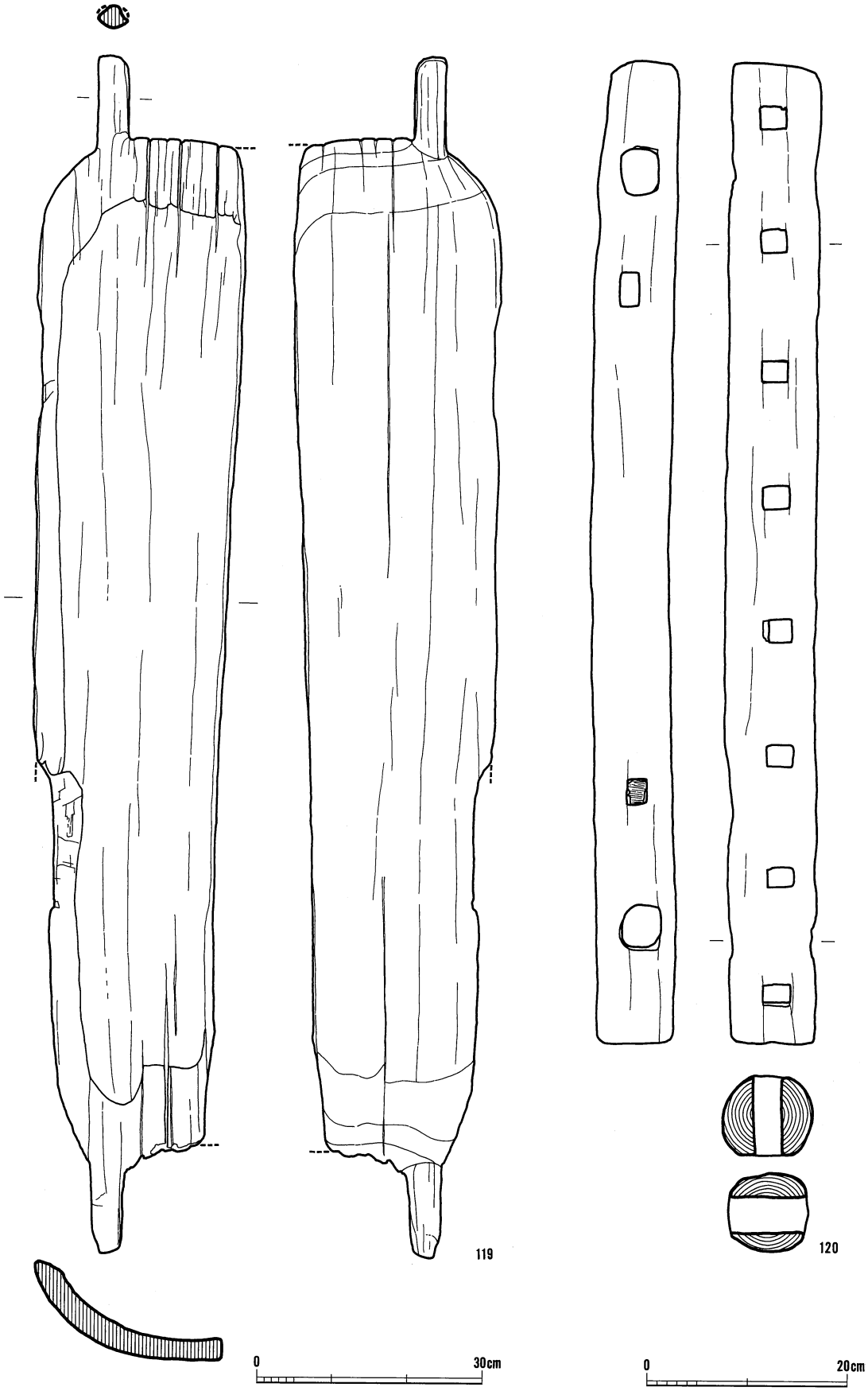
117

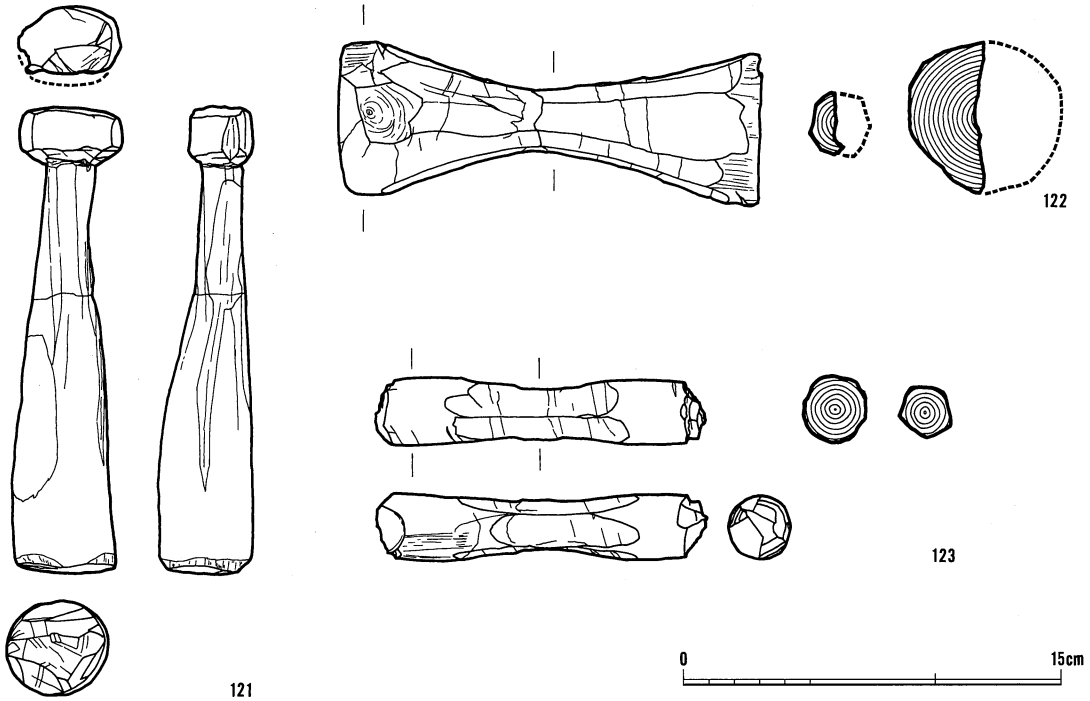


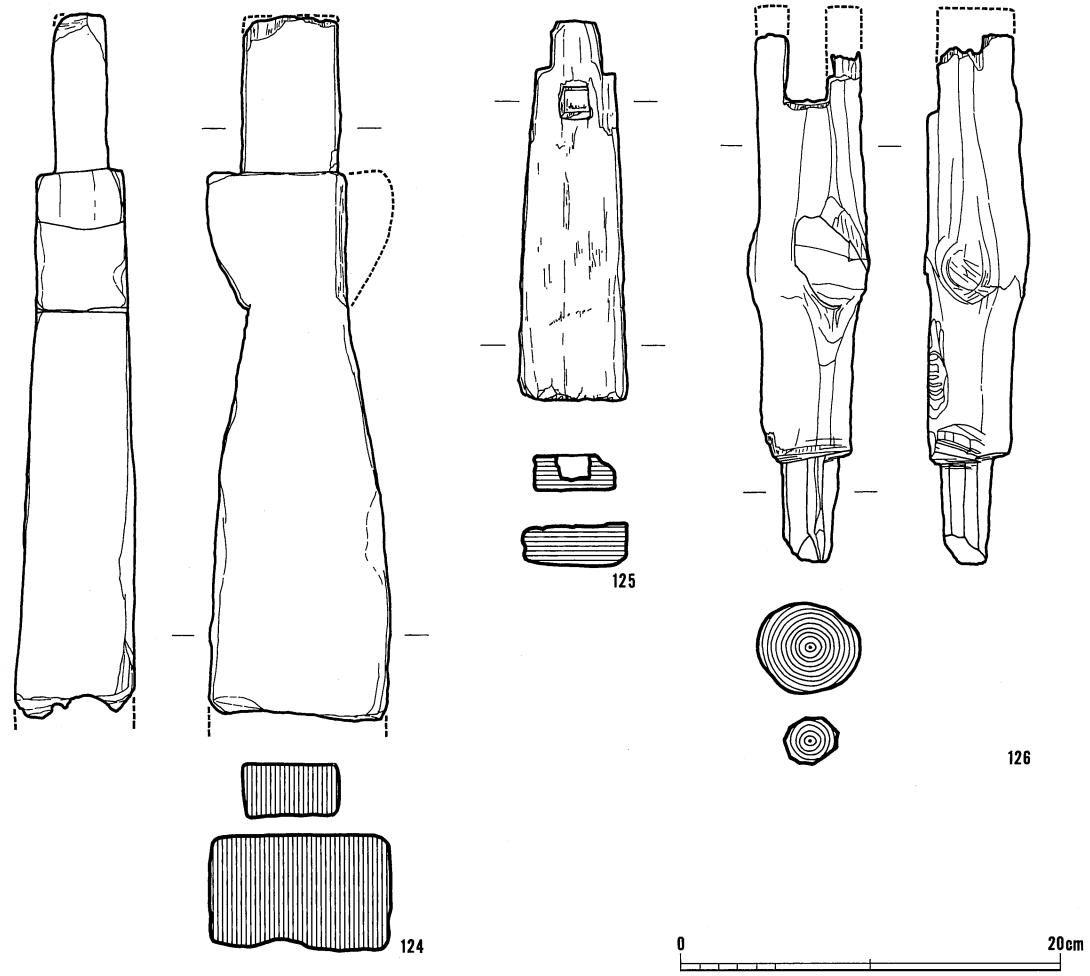
118

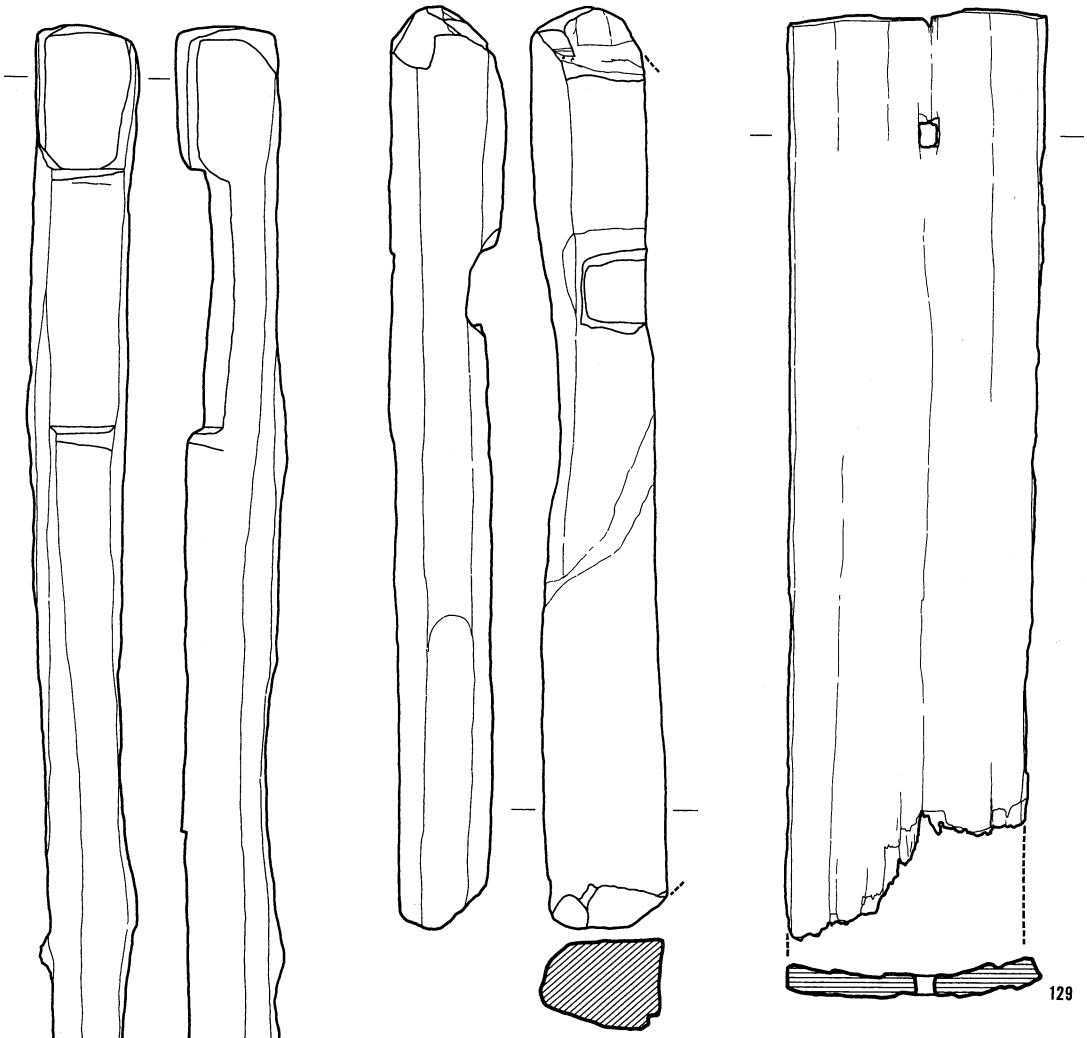


旧河道出土木製品(12)

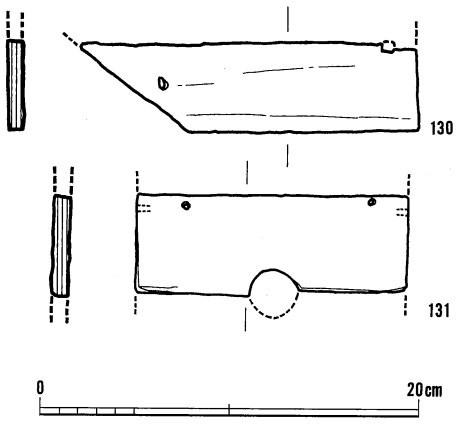



122
123
121
0
15cm

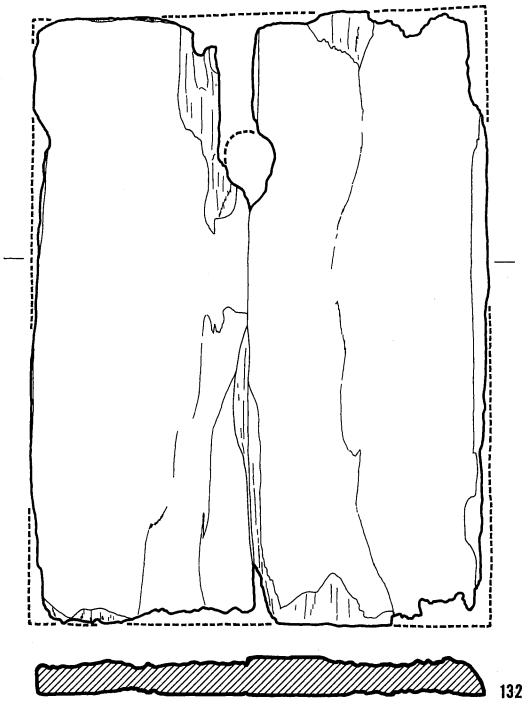

125
126
124
0
20cm

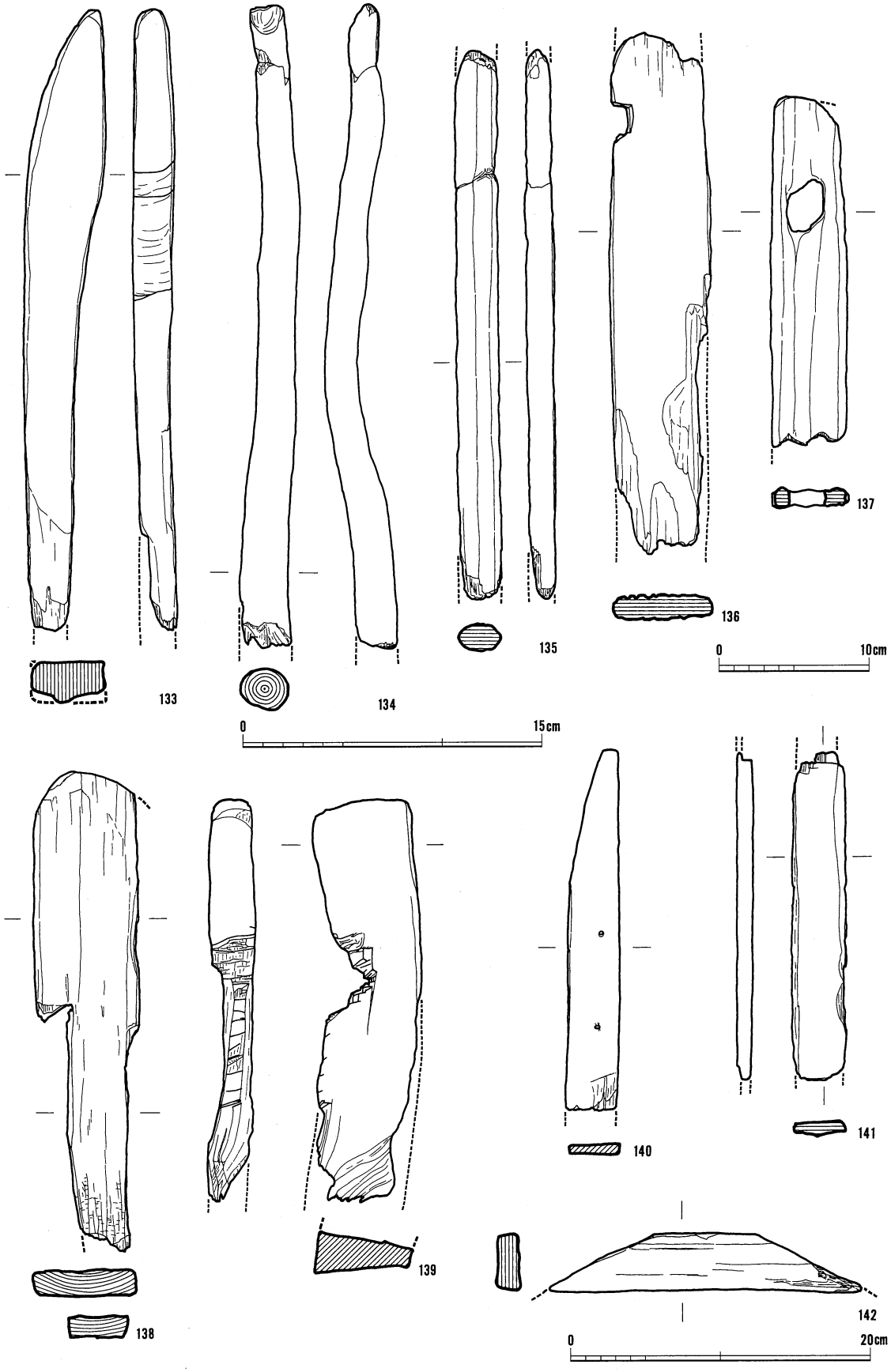

127
129

0
20cm

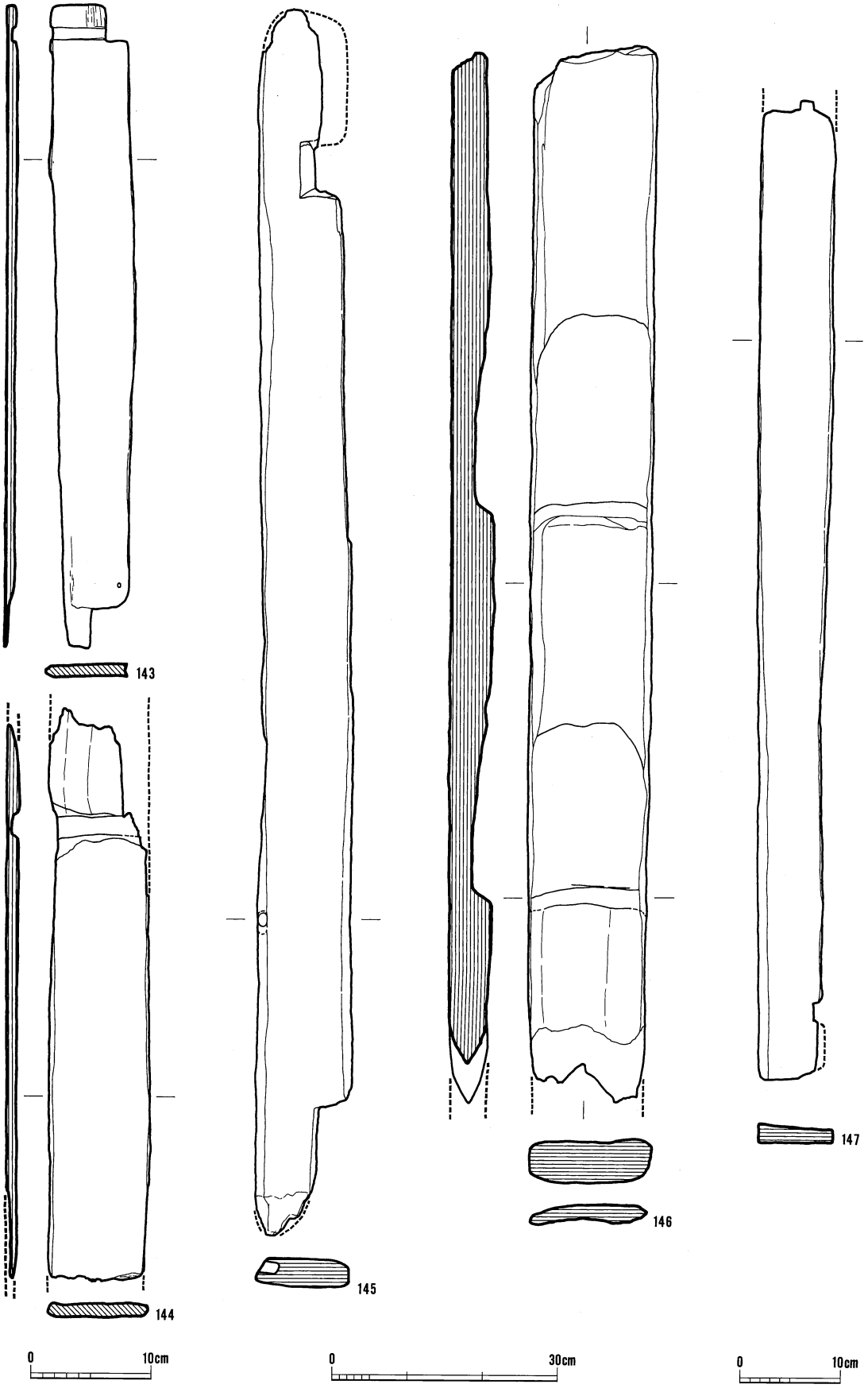

130
131

0
20cm

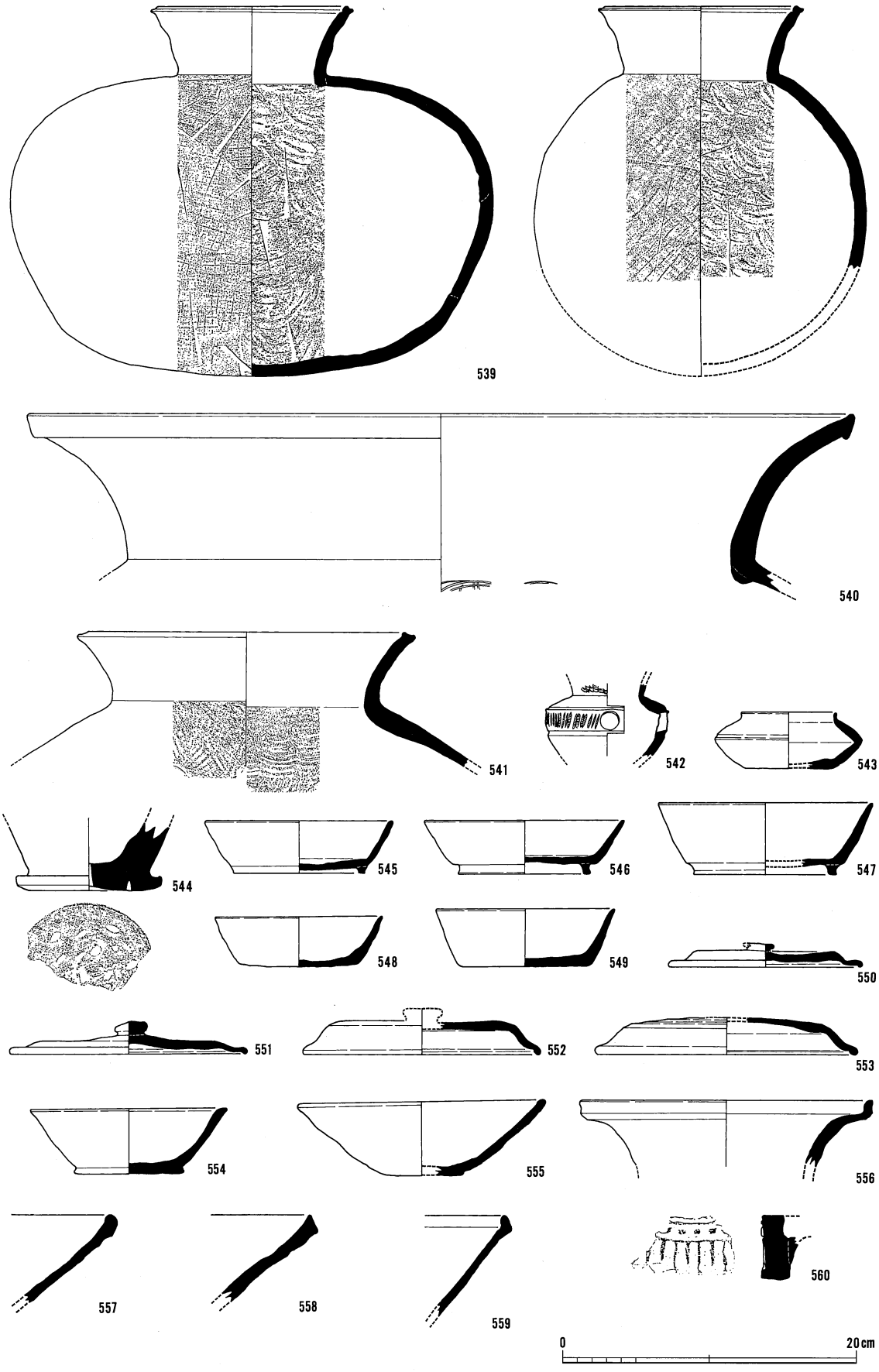

132


133
134
135
136
137
0
10cm
0
15cm
138
139
140
141
142
0
20cm

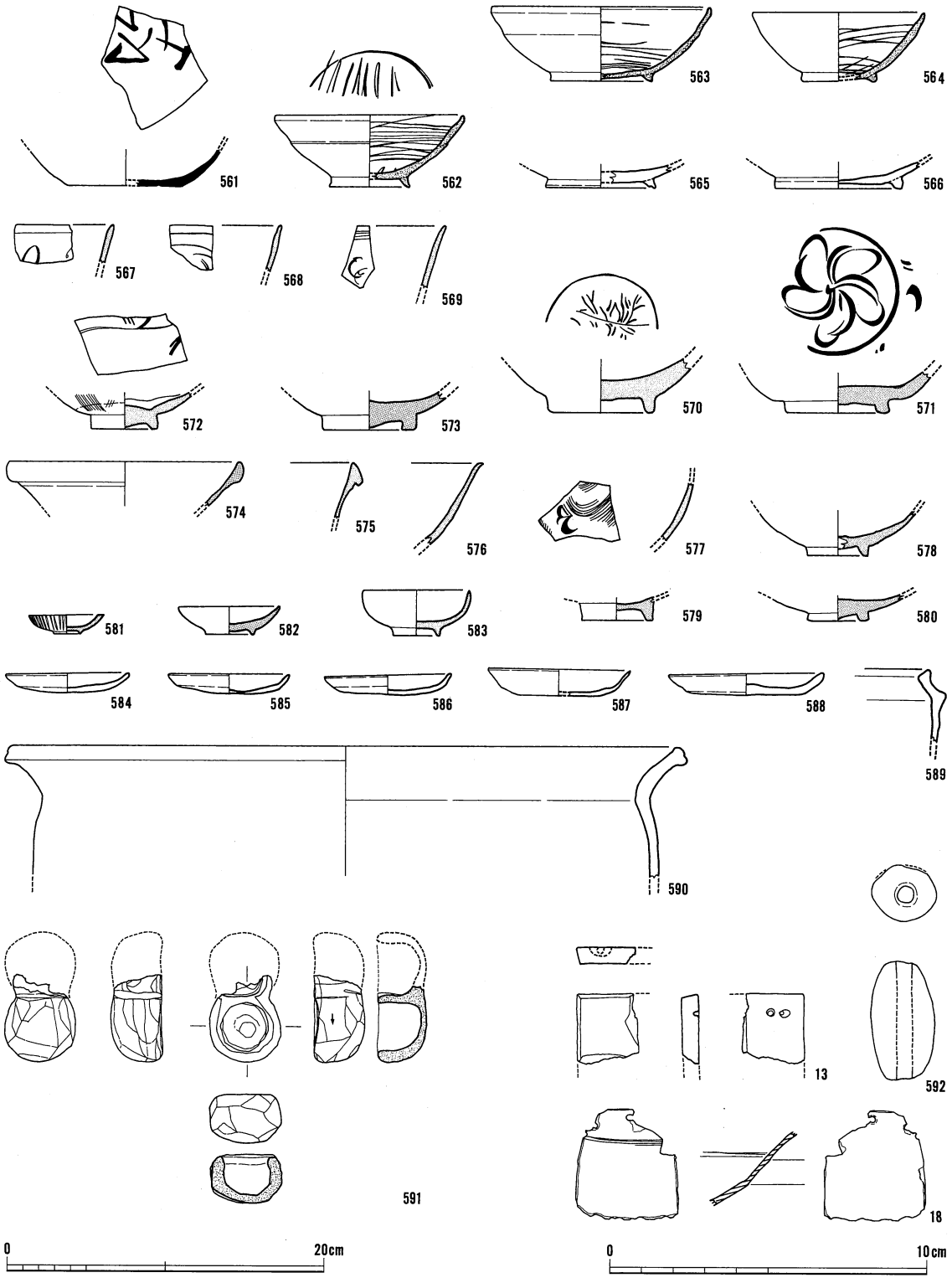
旧河道出土木製品(16)

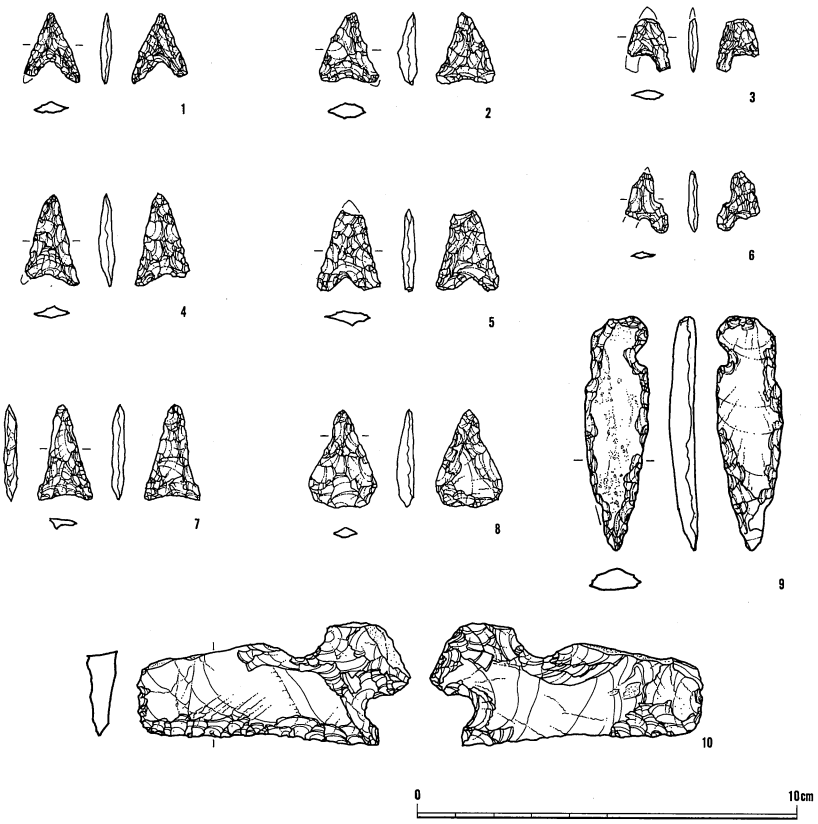


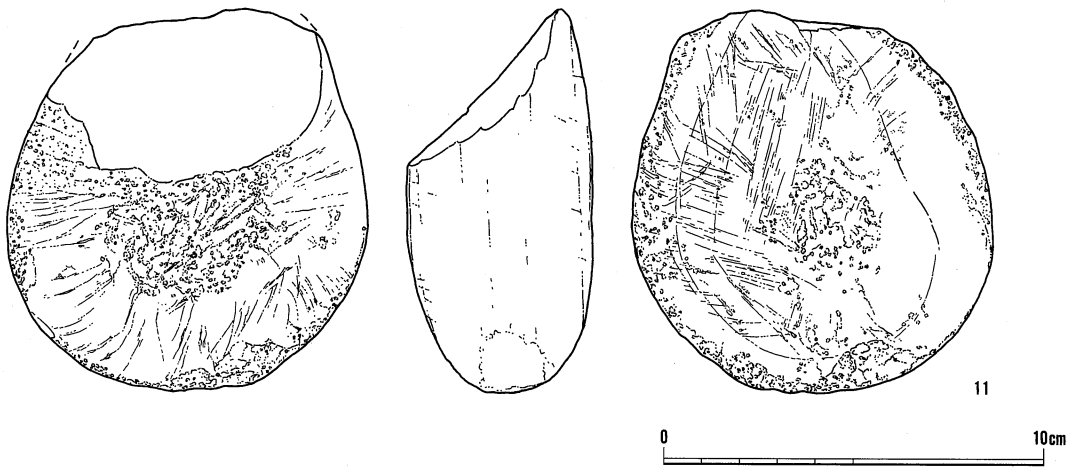
表面採集・出土位置不明の遺物(1)



表面採集・出土位置不明の遺物(2)




1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
0
10cm


11
0
10cm